

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ヒメスギラン</b>	<i>Huperzia miyoshiana</i> (Makino) Ching	神奈川県	1995	希少種
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査では3か所(2調査区、3個の3次メッシュ)から標本が採集され、そのうち1か所から複数個体が発見されたため絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の樹林内の岩上または樹幹に生える多年草</p> <p>【現状】 箱根二子山の低木林内、および過去に記録のあった場所で数個体が確認されている。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州(屋久島まで)</p> <p>【県内分布】 箱根-4●・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園の特別保護地区、立入禁止区域の柵内</p>		

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ミズスギ</b>	<i>Lycopodiella cernua</i> (L.) Pic.Serm.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神RDB06』時に標本採集地が大涌谷の1か所のみであることから、絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では大涌谷の噴火に伴う立ち入り規制のため標本を採集することができなかったものの、引き続き絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湿った裸地または草地に生える多年草</p> <p>【現状】 大涌谷の地熱の高い場所に生育しており、大涌谷の噴火に伴う立ち入りが規制されている。</p>		<p>【国内分布】 本州(伊豆半島、東海以西)、四国、九州、琉球、小笠原</p> <p>【県内分布】 箱根-4◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、火山活動</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園</p>		

ヒカゲノカズラ科

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>アスヒカズラ</b>	<i>Lycopodium complanatum</i> L.	神奈川県	1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 1972年に箱根町下二子山で採集した記録があるが、『神植誌88』の調査以降、確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の日当たりの良い草地や疎林内に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国</p> <p>【県内分布】 箱根-5△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【文献等】 倉田 悟・中池敏之編, 1990. アスヒカズラ. 倉田 悟・中池敏之編, 日本のシダ植物図鑑, 第6巻. pp. 52-56. 東京大学出版会, 東京.</p>		

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧 I A 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>マンネンスギ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Lycopodium obscurum</i> L.</td> </tr> </table>	<b>マンネンスギ</b>	<i>Lycopodium obscurum</i> L.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—
<b>マンネンスギ</b>											
<i>Lycopodium obscurum</i> L.											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類									
	1995	絶滅種 B									
環境省	2020	—									
<p>【判定理由】 1978年以前に箱根と丹沢で確認されたものの、『神植誌88』の調査では見出されなかった。現存する生育地は『神植誌01』の調査で確認された1か所であり、『神植誌18』の調査では確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の樹林内や林縁、稀に岩上に生える多年草</p> <p>【現状】 『神植誌01』調査時は、狭い範囲に10株程度確認されているが、現在は不明である。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 山北-3△・箱根-1△・箱根-4◎・箱根-5△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園</p>										

ヒカゲノカズラ科

絶滅危惧 II 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>スギラン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Phlegmariurus cryptomerinus</i> (Maxim.) Satou</td> </tr> </table>	<b>スギラン</b>	<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i> (Maxim.) Satou	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
<b>スギラン</b>											
<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i> (Maxim.) Satou											
神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類									
	1995	減少種 G									
環境省	2020	絶滅危惧 II 類									
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査における標本の採集地数は5か所(4調査区、4個の3次メッシュ)であるが、標本は採集されていないものの多くの地点で生育が確認されているため、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナやミズナラなどの大木の樹幹または岩上に着生する多年草</p> <p>【現状】 丹沢の溪流沿いや主稜線の樹幹に生育する。世附や玄倉川流域に多く見られる。</p>	<p>【国内分布】 北海道(東部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-2●・津久井-3●・大山◎・山北-1◎・山北-2●・山北-3●・山北-4◎・山北-5◎・山北-6◎・箱根-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 着生木枯死</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園</p>										

ヒカゲノカズラ科

絶滅											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ヒモラン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Phlegmariurus sieboldii</i> (Miq.) Ching</td> </tr> </table>	<b>ヒモラン</b>	<i>Phlegmariurus sieboldii</i> (Miq.) Ching	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 A	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
<b>ヒモラン</b>											
<i>Phlegmariurus sieboldii</i> (Miq.) Ching											
神奈川県	2006	絶滅									
	1995	絶滅種 A									
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類									
<p>【判定理由】 1966年に奥湯河原で採集された記録があるのみで、以後の調査では確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 樹幹または岩上に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(静岡、三重、島根)、九州、奄美諸島、沖縄諸島</p> <p>【県内分布】 湯河原-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 自生分布の東限の記録</p>										

絶滅危惧 I B 類			
<b>エゾノヒメクラマゴケ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
<i>Selaginella helvetica</i> (L.) Spring			1995 希少種
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では4か所(4調査区、4個の3次メッシュ)から標本が採集されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
湿った岩場に生える多年草

【現状】  
尾根の北面や沢筋の湿った岩場に見られる。  
丹沢玄倉川流域や早戸川流域、丹沢山不動の峰、箱根金時山で確認されている。

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
津久井-2●・津久井-4◎・南足柄-1●・山北-3◎・山北-6●・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヒメクラマゴケ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Selaginella heterostachys</i> Baker			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植誌18』の調査での標本採集地は三浦市小網代の1か所のみであるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山野のやや向陽の石垣や林縁の斜面、礫地に生える多年草

【現状】  
三浦市小網代の畑地近くの農道に生育している、大きな株が確認されている。  
『神植誌01』の調査で採集されている箱根町塔ノ沢での生育は確認されていない。

【国内分布】  
本州(伊豆諸島、神奈川県以西)、四国、九州、琉球列島(トカラ列島以北、西表島)

【県内分布】  
三浦●・箱根-5◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

絶滅			
<b>ヒモカズラ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Selaginella shakotanensis</i> (Franch. ex Takeda) Miyabe & Kudô			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』『丹沢目録61』に丹沢で見られた記録があるが、『神植誌88』の調査以降確認されていない。

【生育環境・生態】  
湿った岩場に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
文献記録のみで標本は確認されていないが、『神植誌18』での扱いに従い、ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。

絶滅危惧Ⅱ類

ミズニラ

*Isoetes japonica* A.Braun

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
	1995	減少種 G
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

『神RDB06』では絶滅危惧ⅠB類と判定されたが、『神植誌18』の調査では18調査区で確認された。判定基準では対象外になるが、いずれの調査区でも個体数は少なく、生育基盤が脆弱なため絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】

池、水田、湿地の水底や泥中に生える多年草

【現状】

県内では箱根精進池やお玉ヶ池以外は、丘陵地の谷戸、湧水がある所や新しい休耕田などに見られる。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見△・中○・港南△・保土ヶ谷△・旭●・緑○・青葉●・戸塚●・瀬谷●・宮前●・多摩●・麻生●・相模原-1●・城山●・津久井-4●・津久井-5●・大和○・座間●・厚木-1●・愛川●・藤沢-1●・藤沢-2●・茅ヶ崎-1●・寒川●・平塚-1△・箱根-4○・箱根-5○

【存続を脅かす要因】

土地造成、池沼開発、自然遷移、農薬汚染

ハナヤスリ科

準絶滅危惧

シチトウハナワラビ

*Botrychium atrovirens* (Sahashi) M.Kato

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌01』では2調査区で記録され、『神RDB06』では絶滅危惧Ⅱ類と判定された。『神植誌18』の調査では14調査区で標本が採集されたため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

丘陵から低山地の広葉樹林内に生える常緑性の多年草

【現状】

低山地の林内に生える。横浜市旭区で小群生地が見つかっている。

【国内分布】

本州(伊豆諸島、神奈川県、静岡県)

【県内分布】

旭●・緑●・横須賀-1●・横須賀-4●・横須賀-5●・城山●・津久井-5●・相模湖●・小田原-2●・小田原-4●・南足柄-3●・箱根-1●・箱根-6●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

土地造成、踏みつけ、自然遷移

ハナヤスリ科

絶滅

ヒメハナワラビ

*Botrychium lunaria* (L.) Sw.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

1957年に丹沢で標本が採集されているが、『神植誌88』の調査以降確認されていない。

【生育環境・生態】

高山や亜高山の草地や岩場に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州(中部以北)

【県内分布】

秦野-1△

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

標本:丹沢三ノ峰(三ノ塔のことと思われる) 1959.7. 小島俊郎 YCM-V006549.

ハナヤスリ科

絶滅危惧 I B 類				
<b>ヤマハナワラビ</b>	<i>Botrychium multifidum</i> (Gmel.) Rupr. var. <i>multifidum</i>	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査で初めて確認され、2か所(1調査区、2個の3次メッシュ)で標本が採集されたため絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の広葉樹林下に生える多年草</p> <p>【現状】 箱根に極めて稀に産する。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州中部以北</p> <p>【県内分布】 箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園特別保護地区</p>		

ハナヤスリ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>エゾフユノハナワラビ</b>	<i>Botrychium multifidum</i> (Gmel.) Rupr. var. <i>robustum</i> (Rupr. ex Milde) C.Chr.	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査で初めて確認された。丹沢山の1か所のみで標本が採集されたため絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の林下に生える冬緑の多年草</p> <p>【現状】 丹沢山山頂に生育する。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国</p> <p>【県内分布】 津久井-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵</p> <p>〈📷写真あり: 口絵1〉</p>		

ハナヤスリ科

準絶滅危惧				
<b>ウスイハナワラビ</b>	<i>Botrychium nipponicum</i> Makino var. <i>minus</i> (H.Hara) K.Iwats.	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
			1995	—
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 1932年に箱根で採集され、以後も箱根、丹沢などで確認されており、『神RDB06』では絶滅危惧 II 類と判定された。『神植誌18』の調査では7調査区で標本が採集され、減少が見られないことから準絶滅危惧と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の草地に生える冬緑の多年草</p> <p>【現状】 標高700m以上の山地に見られる。丹沢ではスギ林や、ケヤキ等夏緑広葉樹林の林床、箱根では登山道での生育が確認された。</p>		<p>【国内分布】 本州(東北、関東、中部)</p> <p>【県内分布】 津久井-2●・藤野-1●・秦野-3●・山北-4●・山北-5●・箱根-1●・箱根-4△・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園</p>		

準絶滅危惧

コヒロハハナヤスリ

*Ophioglossum petiolatum* Hook.

神奈川県	2006	準絶滅危惧
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌18』の調査では31調査区で採集され、対象外となるが、生育地は人為的な影響を強く受けるため準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

裸地が混ざるような丈の低い草地に生える多年草

【現状】

裸地が混ざるような草地に生え、人為的に造成された芝地にも見られる。

【国内分布】

本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】

西●・南◎・港南●・保土ヶ谷△・旭◎・磯子◎・金沢○・港北△・緑◎・戸塚●・高津◎・宮前●・多摩●・麻生●・横須賀-2●・鎌倉-1●・逗子◎・相模原-2◎・相模原-3○・相模原-4●・津久井-3●・大和●・海老名●・厚木-1◎・厚木-3●・清川-1●・清川-2●・清川-3●・秦野-2◎・藤沢-2●・藤沢-3●・江ノ島●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-1◎・二宮◎・小田原-2●・小田原-4●・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-4●・山北-5●・山北-6●・山北-7●・山北-8◎・湯河原-1●

【存続を脅かす要因】

土地造成、踏みつけ、管理放棄、自然遷移

マツバラン科

準絶滅危惧

マツバラン

*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

『神植誌01』では3調査区で確認され、『神RDB06』では絶滅危惧Ⅱ類と判定された。『神植誌18』の調査では37か所(26調査区、35個の3次メッシュ)と多くの地点から標本が採集されている。ただし、園芸種の逸出が多く存在しているため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

常緑樹林内の樹幹や岩場に着生する多年草

【現状】

市街地周辺や自然公園などでみられる。古木の樹幹や石垣、岩上などに着生する。県内では、野生個体と園芸の逸出個体の両方が存在し、またそれらの交雑由来と推定される個体も確認されている。

【国内分布】

本州(宮城、石川県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】

西◎・港南●・金沢●・港北◎・高津●・多摩●・横須賀-1●・横須賀-2●・横須賀-4●・鎌倉-1●・鎌倉-2●・相模原-4●・津久井-5●・伊勢原-1◎・秦野-3●・秦野-4●・秦野-5●・藤沢-3●・寒川●・平塚-2●・大磯●・二宮●・小田原-2●・小田原-4●・開成●・箱根-5●・真鶴●・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

森林伐採、土地造成、過剰採取

リュウビンタイ科

絶滅危惧ⅠB類

リュウビンタイ

*Angiopteris lygodiiifolia* Rosenst.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌18』の調査で初めて確認され、2か所(2調査区、2個の3次メッシュ)で標本が採集されたため絶滅危惧ⅠB類と判定した。栽培品からの逸出の可能性は否定できないが、県内では暖地性のシダが大きく生育している例もあるため、本種の自然分布も十分に考えられる。

【生育環境・生態】

多湿の森林の林床に生える常緑の多年草

【現状】

小田原市では森林公園内(いこいの森)で全長30cm程度の幼個体が1個体確認され、湯河原町では植林地の林床で孢子嚢をつけている全長1m程の個体が1個体確認された。

【国内分布】

伊豆諸島、伊豆半島以西の本州、四国、九州、琉球列島

【県内分布】

小田原-2●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
ヤマドリゼンマイ <i>Osmundastrum cinnamomeum</i> (L.) C.Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.) Tagawa			1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1935年に箱根仙石原で発見され、以後の調査でも確認されている。『神RDB95』では絶滅危惧種、『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定された。『神植誌18』の調査では、3か所(1調査区、3個の3次メッシュ)で標本が採集され、引き続き絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の湿地や湿った樹林内に生える夏緑の多年草

【現状】  
箱根仙石原では手入れの行き届いた明るいスギ植林内で、水源涵養林として保護されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
藤野-1○・箱根-1●・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

## コケシノブ科

準絶滅危惧		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
ヒメコケシノブ <i>Hymenophyllum coreanum</i> Nakai			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では絶滅危惧 II 類とされたが、『神植誌18』の調査により13調査区35地点で分布が確認された。選定基準からは対象外とすべきであるものの、急激な評価変更を避けるため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の岩上や樹幹に生える常緑の多年草

【現状】  
県西部の高標高域の岩上や樹幹に安定して生育している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-2●・津久井-3●・津久井-4●・相模湖●・清川-1●・清川-2●・秦野-1●・秦野-3△・南足柄-2●・山北-2◎・山北-3◎・山北-4●・山北-5●・山北-6●・箱根-1●・箱根-2○・箱根-4●・箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
岩場崩壊

【特記事項】  
『神植誌88』ではホソバコケシノブと区別されておらず、『神植誌01』から区別されるようになったが、十分に認識されていなかったと考えられる。  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

## コケシノブ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
キヨスミコケシノブ <i>Hymenophyllum oligosorum</i> Makino			1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
過去に箱根と丹沢の5調査区から記録され、『神植誌18』の調査では南足柄市の1調査区からの記録に留まった。それでも生育地の状況に大きな変化はないこと、他調査区でも現存を期待できることから全体として大きな減少はないと判断して、今回も絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の山地の樹幹や岩上に着生する常緑の多年草

【現状】  
成熟した樹林内の樹幹や岩上に着生している。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州、屋久島

【県内分布】  
南足柄-2●・南足柄-3◎・山北-6◎・箱根-3○・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
森林伐採、過剰採取、着生木枯死

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、社寺林

コケシノブ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>コケシノブ</b></p> <p><i>Hymenophyllum wrightii</i> Bosch</p> <p>【判定理由】 『神RDB06』では準絶滅危惧とされたが、『神植誌18』の調査で5調査区7地点からの分布記録に留まったため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の樹幹や岩上に着生する常緑の多年草</p> <p>【現状】 丹沢と箱根の樹幹や岩上に小群生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-2○・津久井-3●・清川-2○・大山△・南足柄-2●・南足柄-3◎・山北-1●・山北-4◎・山北-6◎・松田○・箱根-1●・箱根-2◎・箱根-3△・箱根-4○・箱根-5●・箱根-6△</p> <p>【存続を脅かす要因】 岩場崩壊</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		準絶滅危惧						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							

コケシノブ科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>ホクリクハイホラゴケ</b></p> <p><i>Vandenboschia hokurikuensis</i> Ebihara</p> <p>【判定理由】 『神植誌01』ではハイホラゴケ類を1種としてアオホラゴケ属に含めて扱ったが、研究の進展によりハイホラゴケ属として扱うこととなり、県内には3種が分布することが明らかになった。本種は横須賀市の1調査区1地点からの記録のため、絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の陰湿な岩上に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 三浦半島の岩上に稀に着生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(新潟県)以南(北陸地方以外では極めて稀)</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 岩場崩壊</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

コケシノブ科

絶滅危惧ⅠB類									
<p><b>ミウラハイホラゴケ</b></p> <p><i>Vandenboschia miuraensis</i> Ebihara</p> <p>【判定理由】 『神植誌01』ではハイホラゴケ類を1種としてアオホラゴケ属に含めて扱ったが、研究の進展によりハイホラゴケ属として扱うこととなり、県内には3種が分布することが明らかになった。本種は三浦半島とその周辺の3調査区3地点からの記録のため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の陰湿な岩上に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 藤沢市から三浦半島にかけての岩上に稀に着生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 神奈川県</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●・鎌倉-2●・藤沢-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 岩場崩壊</p> <p>【特記事項】 今のところ本県のみ分布する日本固有種</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類							

絶滅危惧 I A 類			
<b>イズハイホラゴケ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Vandenboschia orientalis</i> (C.Chr) Ching		環境省	1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植誌01』ではハイホラゴケ類を1種としてアオホラゴケ属に含めて扱ったが、研究の進展によりハイホラゴケ属として扱うこととなり、県内には3種が分布することが明らかにされた。本種は横須賀市の1調査区1地点からの記録のため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カン帯の陰湿な岩上に生える常緑の多年草

【現状】  
三浦半島の岩上に稀に着生している。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、九州、琉球列島(伊豆半島以外では極めて稀)

【県内分布】  
横須賀-1●

【存続を脅かす要因】  
岩場崩壊

デンジソウ科

絶滅危惧 II 類			
<b>デンジソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
<i>Marsilea quadrifolia</i> L.		環境省	1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神RDB06』では、土地造成や除草剤などの影響によって激減したことから絶滅危惧 II 類と判定された。『神植誌18』の調査では5調査区7地点から記録があり、『神RDB06』からはほぼ変化はないことから引き続き絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】  
水田、池沼、溝などの湿地に生える夏緑の多年草

【現状】  
除草剤などの農薬が使われない水田に生育している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
金沢△・川崎△・厚木-4◎・秦野-4●・秦野-5○・藤沢-3△・平塚-1●・小田原-2●・小田原-3●・中井●

【存続を脅かす要因】  
農薬汚染、土地造成、水質汚濁

サンショウモ科

絶滅			
<b>アカウキクサ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Azolla imbricata</i> (Roxb. ex Griff.) Nakai		環境省	1995 —
		環境省	2020 絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
1937年(横浜)の標本記録以降生育が確認されていない。

【生育環境・生態】  
湧水のある水田、池沼、溝などに浮遊する常緑の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
『神RDB06』で本種とされていた近年の標本はオオアカウキクサであった。

絶滅危惧Ⅱ類

オオアカウキクサ

*Azolla japonica* Franch. & Sav.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	減少種 H
環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

【判定理由】

県内の分布地は『神RDB06』と大きく変わらず、判定基準では対象外となるが、生育地となる水田面積が各地で減少しており、生育地が脆弱な状況にあることから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】

湧水のある水田、池沼、溝などに浮遊する常緑の多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州(秋田県以南)、四国、九州

【県内分布】

鶴見△・戸塚○・栄◎・高津◎・麻生○・横須賀-2○・横須賀-4○・横須賀-5○・鎌倉-1●・鎌倉-2△・葉山△・三浦●・相模原-1●・相模原-2●・城山●・津久井-5●・海老名●・厚木-1●・厚木-2◎・愛川◎・清川-3●・伊勢原-3●・秦野-3●・秦野-4◎・秦野-5◎・藤沢-1●・藤沢-2○・藤沢-3●・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-1○・平塚-2●・大磯●・二宮◎・小田原-2●・小田原-3●・南足柄-3○・中井○

【存続を脅かす要因】

土地造成、水質汚濁、農薬汚染

絶滅危惧ⅠA類

サンショウモ

*Salvinia natans* (L.) All.

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	減少種 H
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

今回の調査では2調査区の2個の3次メッシュで確認された。調査区単位でも約85%の減少があり、過去記録地のうち現存が確認できる生育地が大きく減少した。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【生育環境・生態】

水田などに浮遊する夏型一年草

【現状】

除草剤耐性が低く、湧水が豊富などの生育適地が限られていた中、水田の消失に伴って各地で絶滅したとみられる。

【国内分布】

本州(青森県以南)、四国、九州

【県内分布】

鶴見△・中△・保土ヶ谷△・旭△・港北△・緑◎・青葉○・戸塚△・高津○・多摩○・麻生○・横須賀-3△・横須賀-4○・鎌倉-1△・葉山△・三浦◎・相模原-2◎・大和◎・座間○・綾瀬○・海老名●・厚木-1○・厚木-5○・伊勢原-1○・藤沢-2○・藤沢-3◎・寒川●・平塚-1△・小田原-3△

【存続を脅かす要因】

土地造成、水質汚濁、農薬汚染

準絶滅危惧

オオキジノオ

*Plagiogyria euphlebia* (Kunze) Mett.

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌18』の調査では箱根周辺を中心に11調査区15地点から記録があったものの、生育地は植林地が多く、伐採等の環境改変で消失する可能性もあることから準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草

【現状】

箱根周辺のスギ植林地に多いが、県東部では極めて稀である。

【国内分布】

本州(新潟県、宮城県以南)、四国、九州、琉球(奄美以北)

【県内分布】

旭◎・宮前●・逗子△・葉山◎・津久井-5●・伊勢原-1○・秦野-3●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-4●・南足柄-1◎・南足柄-2◎・南足柄-3●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5●・真鶴●・湯河原-1●・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】

森林伐採

【特記事項】

・保護の現状:一部は国立公園、国定公園、県立自然公園

準絶滅危惧		2006		準絶滅危惧
キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i> Nakai var. <i>japonica</i>	神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では箱根周辺を中心に17調査区22地点から記録があったものの、生育地は植林地が多く、伐採等の環境改変で消失する可能性もあることから準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
箱根周辺のスギ植林内に多いが、県東部では極めて稀である。

【国内分布】  
本州(秋田、福島県以南)、四国、九州、琉球(奄美以北)

【県内分布】  
旭△・緑◎・鎌倉-1△・逗子●・三浦●・津久井-5●・秦野-3●・秦野-4●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-4◎・南足柄-1●・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-7●・山北-8●・中井○・箱根-2●・箱根-5●・真鶴●・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

【特記事項】  
・保護の現状:一部は国立公園、国定公園、県立自然公園

絶滅		2006		絶滅
ヤマソテツ	<i>Plagiogyria matsumureana</i> Makino	神奈川県	1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1959年に丹沢の塔ノ岳で採集された標本が残されているが(大谷, 1966)、それ以降の記録は無いため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹林内に生える夏緑の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州(主に日本海側)、四国、屋久島

【県内分布】  
山北-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:山北町塔ヶ岳 1959.7.29 石渡 宏 YCM-V006987

【文献等】  
大谷 茂, 1966. 神奈川県羊歯植物. 横博研報, (12): 31-51.

絶滅危惧 I B 類		2006		絶滅危惧 I B 類
ハマホラシノブ	<i>Odontosoria biflora</i> (Kaulf.) C.Chr.	神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』では真鶴半島と城ヶ島の2調査区の3個の3次メッシュに記録があり、『神RDB06』からほぼ変化はないことから、引き続き絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
海岸の潮風を直接受けるような崖の岩に生える常緑の多年草

【現状】  
各地ともに海に面した岩壁に小群生している。人為的な改変は考えられないが、岩壁の風化や倒木に伴う崖崩れにより失われる可能性はある。

【国内分布】  
本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州、琉球、小笠原

【県内分布】  
中○・三浦◎・城ヶ島●・真鶴●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、岩場崩壊、海岸開発

【特記事項】  
・保護の現状:県立自然公園

コバノイシカグマ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ユノミネシダ</b>		神奈川県	2006
			1995
<i>Histiopteris incisa</i> (Thunb.) J.Sm.		環境省	2020

**【判定理由】**  
県内では 2016年に小田原市で初めて発見された。その後真鶴半島でも発見されている。2 調査区の 2 地点に分布するため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
シイ・カシ帯の日当たりの良い林床や崖に生える常緑性の多年草

**【現状】**  
真鶴半島ではハイキングコース脇に小さい 1 個体が生育している。小田原では水路内に生育しているが、水路掃除されるので大きくなれない。

**【国内分布】**  
本州(神奈川県以西、紀伊半島、伊豆諸島)、四国、九州、琉球、小笠原

**【県内分布】**  
小田原-2●・真鶴●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、水路清掃

**【特記事項】**  
小田原の産地が分布の北限である。

コバノイシカグマ科

絶滅危惧 II 類					
<b>イシカグマ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	
			1995	—	
<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定されたが、『神植誌18』の調査では 5 調査区の 6 地点から記録があった。引き続き分布拡大の可能性があることから、絶滅危惧 II 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
暖地の海岸近くの路傍石垣や山麓の林縁に生える常緑の多年草

**【現状】**  
発見地はいずれも市街地周辺で、環境の変化の可能性が高い場所である。

**【国内分布】**  
本州(関東地方、伊豆諸島以西)、四国、九州、琉球、小笠原

**【県内分布】**  
横須賀-1●・鎌倉-1●・鎌倉-2●・愛川●・小田原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成

コバノイシカグマ科

絶滅危惧 I A 類					
<b>ウスバイシカグマ</b>		神奈川県	2006	—	
			1995	—	
<i>Microlepia substrigosa</i> Tagawa		環境省	2020	準絶滅危惧	

**【判定理由】**  
県内では 2014年に小田原市で初めて発見された。1 調査区 1 地点のみに分布するため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
シイ・カシ帯の溪流そばの樹林下に生える常緑の多年草

**【現状】**  
スギ林下に 1 個体が生育している。

**【国内分布】**  
本州(神奈川県以西、伊豆諸島)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
小田原-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
小田原の産地が分布の北限である。

絶滅危惧 I B 類			
<b>タキミシダ</b>	<i>Antrophyum obovatum</i> Baker	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
過去に湯河原町や葉山町など 4 調査区から記録されているが、『神植誌18』とその後の調査で現存が確認されたのは、小田原市と山北町、葉山町の 3 調査区 4 地点のため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の陰湿な岩上に生える常緑の多年草

【現状】  
小田原市と山北町の個体数は数個体であり、胞子をつけた成熟個体は限られる。葉山町の調査区は胞子のない小さな個体が多数生育している。

【国内分布】  
本州(富山県・千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】  
多摩△・葉山●・小田原-2●・山北-8●・湯河原-1△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取、岩場崩壊

【特記事項】  
『神植誌18』以降の調査により、過去に記録のある葉山での現存が確認された。

【文献等】  
出川洋介, 2004. 入生田からタキミシダを発見. FK, (58): 723-725; 田村 淳・山本幸子, 2006. 丹沢でタキミシダを発見. FK, (62): 764.

〈写真あり: 口絵1〉

準絶滅危惧			
<b>ヒメミズワラビ</b>	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> Brongn. var. <i>vulgaris</i> Masuyama & Watano	神奈川県	2006 準絶滅危惧
			1995 減少種 G
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では 21 調査区の 45 地点から記録された。しかし、生育環境が水田や休耕地であり、必ずしも存続が安定しているわけではないため、『神RDB06』に引き続き準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
水田や湿地に生える夏緑の一年草

【現状】  
イネ刈り後の水田で発見されることが多いものの、同じ場所に安定して出現するわけではない。

【国内分布】  
本州(山形県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
港南○・港北●・緑●・青葉●・都筑●・戸塚●・瀬谷●・葉山●・三浦○・海老名●・厚木-5●・伊勢原-2●・伊勢原-3●・秦野-5●・藤沢-1●・藤沢-2○・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-2●・大磯●・小田原-2●・小田原-3●・南足柄-3●・大井○

【存続を脅かす要因】  
池沼開発、湿地開発、土地造成、水田の畑地化、自然遷移

【特記事項】  
『神RDB95』『神RDB06』では広義ミズワラビとして記載。

絶滅危惧 II 類			
<b>ヒメウラジロ</b>	<i>Cheilanthes argentea</i> (S.G.Gmel.) Kunze	神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 減少種 G
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では 5 調査区の 9 地点から記録された。各地点で個体数が少ないことや、生育環境が道路沿いで改修の可能性もあることから、絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い岩上や石垣などに生える常緑の多年草

【現状】  
道路沿いの岩上や石垣などに生育することが多く、道路の改修などで失われやすい。

【国内分布】  
本州(岩手県、関東地方以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
城山●・相模湖●・藤野-1●・清川-2●・清川-3●・松田○

【存続を脅かす要因】  
道路建設、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

イノモトソウ科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ミヤマウラジロ</div> <p><i>Cheilanthes brandtii</i> Franch. &amp; Sav.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 県内では 2007年に相模原市緑区(旧藤野町)で初めて発見された。1 調査区 1 地点のみに分布するため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の岩上や道路の石垣に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方、中部地方)</p> <p>【県内分布】 藤野-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 道路建設、過剰採取</p>								

イノモトソウ科

絶滅									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">シシラン</div> <p><i>Haplopteris flexuosa</i> (Fée) E.H.Crane</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌58』には丹沢、箱根が産地として記録されているが、『箱根目58』には記載なく、『丹沢目録61』は幽神、丹沢を記録している。しかし、それ以降の記録は無く、標本も採集されていないため絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の樹幹や岩上に着生する常緑の多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(福島県以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 山北-6△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 近隣の伊豆や奥多摩には分布するため、本県にも分布している可能性はあるが、文献上の記録のみで標本は確認されていない。そこで『神植誌18』での扱いに従い、『神RDB06』同様、絶滅とした。</p>								

イノモトソウ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ハチジョウシダ</div> <p><i>Pteris fauriei</i> Hieron.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査では小田原市と南足柄市、横須賀市の 3 調査区の 3 地点から記録された。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 どの自生地もスギ植林かヒノキ植林に 1~数個体が生育している。</p>	<p>【国内分布】 本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●・逗子◎・葉山△・小田原-2●・南足柄-2◎・南足柄-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p> <p>【特記事項】 南足柄の産地が分布の北限である。</p>								

イノモトソウ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ニシノコハチジョウシダ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Pteris kiuschiuensis</i> Hieron.			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —
<p><b>【判定理由】</b> 県内では 1993年に南足柄市で初めて発見された。その後の生育情報はなく、分布の追加記録も無いものの、現地には残存していると考え、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 現状は不明だが、発見当時はスギ・ヒノキ植林に 1 個体が生育していた。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(神奈川県以西の太平洋側)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 南足柄-3◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、森林伐採</p> <p><b>【特記事項】</b> 南足柄の産地が分布の北限、東限である。</p> <p><b>【文献等】</b> 田中一雄, 1994.神奈川県でニシノコハチジョウシダを見つけました. シダ報, 2(97): 10-11; 1995. 箱根外輪山産の北限新産地シダ植物について. FK, (40): 429-431.</p>		

イノモトソウ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>アイコハチジョウシダ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Pteris laurisilvicola</i> Sa.Kurata			1995 —
		環境省	2020 —
<p><b>【判定理由】</b> 2000年 12月に秦野市で本種と思われる株が発見され、『神植誌01』では孢子囊群のない幼株のため決定的な特徴を見出せないことから、判定が保留されていたが、その後本種で間違いないことが確認された。現在までのところ 1 調査区 1 地点からの記録のため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> スギ・ヒノキ植林に 1 個体が生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(神奈川県以西)、四国、九州、屋久島、種子島</p> <p><b>【県内分布】</b> 秦野-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、森林伐採</p> <p><b>【特記事項】</b> 秦野の産地が分布の北限、東限である。</p>		

イノモトソウ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヤワラハチジョウシダ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Pteris natiensis</i> Tagawa			1995 —
		環境省	2020 絶滅危惧 I B 類
<p><b>【判定理由】</b> 県内では 1999年に南足柄市で初めて発見された。その後の生育情報はなく、分布の追加記録も無いものの、現地には残存していると考え、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(神奈川県、紀伊半島)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 南足柄-1◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、森林伐採</p> <p><b>【特記事項】</b> 南足柄の産地が分布の北限、東限である。 日本固有種</p>		

イノモトソウ科

絶滅危惧Ⅱ類																			
<p><b>ハチジョウシダモドキ</b></p> <p><i>Pteris oshimensis</i> Hieron.</p>																			
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査では小田原市や秦野市など6調査区6地点から記録された。『神植誌01』よりも分布地点が増えたことから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 県内では1957年に小田原市で初めて発見され、同地では1987年にその健在が報告され(田中, 1987)、その後群落は拡大していることが報告された(田中, 1996)。『神植誌18』の調査では、逗子市と秦野市、松田町からも見出された。場所によって10~100個体が生育している。</p>	<p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 逗子●・秦野-2●・小田原-1●・小田原-2◎・小田原-3●・南足柄-3●・松田●</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p> <p>【特記事項】 『神RDB95』『神RDB06』では別名のコハチジョウシダとして記載。</p> <p>【文献等】 朝倉修一・飯田和, 1957. 箱根にコハチジョウシダの北限新産地. シダ報, 1(27): 3; 田中一雄, 1987. シダ雑記『コハチジョウシダ』, シダ報, 2(70): 7-8; 1996. コハチジョウシダの新産地が見つかりました. FK, (43): 475-476.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅡB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅡB類	1995	絶滅危惧種D	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅡB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅡB類	1995	絶滅危惧種D	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅡB類																	
	1995	絶滅危惧種D																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅡB類																	
	1995	絶滅危惧種D																	
環境省	2020	—																	

イノモトソウ科

絶滅危惧ⅠB類																			
<p><b>ナチシダ</b></p> <p><i>Pteris wallichiana</i> J.Agardh</p>																			
<p>【判定理由】 県内では1958年に湯河原町と静岡県熱海市の県境部で初めて発見された。『神植誌18』の調査では3調査区の4地点から記録され、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の湿潤な樹林内に生える多年草。暖地では常緑であるが、北限では冬に枯れる。</p> <p>【現状】 1958年に湯河原と泉の境で飯田和により採集された記録がある(大谷, 1960)が、その後しばらくは採集されなかった。『神植誌01』の調査では南足柄市で1株の自生が確認された。さらに『神植誌18』の調査では秦野市、山北町、三浦市からも記録された。 南足柄ではスギ・ヒノキ植林に1個体が生育していた。</p>	<p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 三浦●・秦野-3●・南足柄-3◎・山北-8●</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p> <p>【特記事項】 本種を含むイノモトソウ属はシカの不着好性植物であることから、温暖化も相まって県内で増えることが予想される。</p> <p>【文献等】 大谷茂, 1960. 神奈川県産植物の報告. 横博研報, (5): 27-35; 田中一雄, 1996. ナチシダ. FK, (42): 454.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種A	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種A	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類																	
	1995	絶滅種A																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類																	
	1995	絶滅種A																	
環境省	2020	—																	

ナヨシダ科

絶滅危惧ⅠB類																			
<p><b>ウスヒメワラビ</b></p> <p><i>Acystopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai</p>																			
<p>【判定理由】 県内では丹沢での大谷(1967)の記録はあったが、長い間不明であった。その後、1998年に小田原市で1集団が見出され(田中, 1999)、『神植誌18』の調査では2調査区5地点で分布が確認された。そこで絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 適湿のスギ植林内に数個体が生育している。</p>	<p>【国内分布】 本州(宮城県以南)、四国、九州、屋久島</p> <p>【県内分布】 藤野-1●・小田原-4◎・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、県立自然公園</p> <p>【文献等】 大谷茂, 1967. 神奈川県産の羊歯植物(2). 横博研報, (13): 55-73; 田中一雄, 1999. クルマシダとウスヒメワラビ. FK, (48): 541; 秋山幸也, 2010. 相模原市内でウスヒメワラビを確認. FK, (71): 861-862.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種A	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種A	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類																	
	1995	絶滅種A																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類																	
	1995	絶滅種A																	
環境省	2020	—																	

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメイトラノオ</div> <p><i>Asplenium capillipes</i> Makino</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査では山北町と湯河原町の4調査区5地点から記録された。採集地数による定量的要件からは絶滅危惧ⅠB類に該当するが、『神植誌88』からの増減率は0%であること、小型のシダのため見逃しの可能性があることから、『神RDB06』に続いて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯の湿ったやや暗い岩上に生える常緑の多年草。石灰岩地帯を好む。</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道(釧路・日高)、本州(秋田県以南)、四国、九州(熊本県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2◎・津久井-4◎・清川-2◎・山北-1●・山北-3△・山北-4●・山北-5●・湯河原-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 岩場崩壊</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヤマドリトラノオ</div> <p><i>Asplenium castaneoviride</i> Baker</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	絶滅危惧ⅠA類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	絶滅危惧ⅠA類							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査では相模原市緑区(旧藤野町)の1調査区の1地点のみで記録されたことから、絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の岩のすきまや路傍の石垣などに生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 道路と人家の境の石垣上に10株ほどが生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道(後志)、本州、(関東地方以西)、九州(宮崎県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 藤野-2●・山北-8◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、道路建設、岩場崩壊</p> <p><b>【特記事項】</b> 『神植誌01』より前において、本種はトラノオシダとクモノシダの雑種として扱われることが多かったが、胞子で正常に繁殖する個体群がいくつか知られることから、『神植誌01』では複2倍体の独立種として扱われた。</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヌリトラノオ</div> <p><i>Asplenium normale</i> D.Don</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査では小田原市の1調査区1地点の記録に留まった。この記録を含めて過去に5調査区から分布記録があるものの、個体数に限られることから『神RDB06』に引き続き絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の樹林内や溪側のやや湿った岩上、地上、コケの生えた石垣などに生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 逗子の自生地ではスギと広葉樹の混交林下に5個体が生育していた。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(茨城県以西)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 横須賀-2◎・逗子◎・小田原-1●・南足柄-2◎・南足柄-3◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、岩場崩壊</p>								

絶滅危惧 I A 類

コウザキシダ

*Asplenium ritonse* Hayata

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

県内では 2016年に小田原市で初めて発見された。1 調査区 1 地点の分布記録のため絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の岩上に生える常緑の多年草

【現状】

スギ林下に 1 個体が生育している。

【国内分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球、小笠原

【県内分布】

小田原-1●

【存続を脅かす要因】

産地局限、岩場崩壊

準絶滅危惧

コタニワタリ

*Asplenium scolopendrium* L.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では、安定した産地が 1 地点のため絶滅危惧 I A 類と判定されたが、『神植誌18』の調査では山北町など 6 調査区から分布が記録された。分布地には栽培品からの逸出起源によるものが多いと考えられ、本来の自生と思われるものは限られるため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

山地のやや湿度の高い林床、岩上、石垣などに着生する常緑の多年草

【現状】

本来の分布はブナ帯や日本海側に偏ることから、県内の産地で市街地に近い人為的な環境で記録されたものは、自生というよりは栽培品の逸出起源による可能性がある。1963年に横須賀の自生地では 10 数個体が生育していたが(大谷, 1963)、その後絶滅したと推定されている。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州(熊本県以北)

【県内分布】

保土ヶ谷◎・戸塚●・多摩●・横須賀-1△・鎌倉-1●・山北-4●・松田●・湯河原-1●

【存続を脅かす要因】

過剰採取、温暖化

【文献等】

大谷 茂, 1963. 三浦半島植物雑記(その4). 横博研報, (8): 87-95; 1972. 神奈川県羊歯植物(7). 横博研報, (19): 23-29.

絶滅危惧 II 類

チャセンシダ

*Asplenium trichomanes* L. subsp. *quadrivalens* D.E.Mey.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では、確実な産地が 1 地点だったことから絶滅危惧 I A 類と判定されたが、『神植誌18』の調査では相模原市緑区や愛川町など 6 調査区から記録され、絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】

山麓の岩上や人里近くの石垣など比較的人為的な場所に生える常緑の多年草

【現状】

道路沿いの石垣等で安定して生育しているが、藪になると被圧により衰退する恐れがある。

【国内分布】

北海道、本州(青森県と新潟県・神奈川県以西)、四国、九州

【県内分布】

麻生●・鎌倉-1◎・城山●・津久井-4●・愛川●・南足柄-1◎・箱根-1●・真鶴●

【存続を脅かす要因】

道路建設、過剰採取、自然遷移、岩場崩壊

絶滅危惧Ⅱ類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">イヌチャセンシダ</div> <p><i>Asplenium tripteropus</i> Nakai</p>												
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では、確実な産地が2地点だったことから絶滅危惧ⅠB類と判定されたが、『神植誌18』の調査では山北町や箱根町など5調査区から分布が記録され絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の溪岸の岩上や路傍の石垣などに生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 奥湯河原の産地は滝の側壁の急峻な岩場で、容易には近づけない場所である。付近は水道の取水口があり、水源林としても保護されている。山北、清川の自生地ともに道路沿いの岩壁または石垣に小群生している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(秋田県および神奈川県以西)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 相模原-1△・清川-2●・山北-4●・山北-7●・山北-8△・松田●・箱根-4●・箱根-5○・湯河原-1◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 道路建設、過剰採取、自然遷移、岩場崩壊</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類										
	1995	減少種 G										
環境省	2020	—										

絶滅												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">アオガネシダ</div> <p><i>Asplenium wilfordii</i> Mett. ex Kuhn</p>												
<p><b>【判定理由】</b> 県内では1966年に山北町で初めて記録された。しかし、『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも記録されていないため、絶滅と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 暖地の山林中の岩上や樹幹に着生する常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(埼玉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 山北-8△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> —</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本: 山北町市間 1966.7.31 渡辺次雄 YCM-V008016.</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 A	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅										
	1995	絶滅種 A										
環境省	2020	—										

絶滅危惧ⅠB類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">クルマシダ</div> <p><i>Asplenium wrightii</i> D.C.Eaton ex Hook.</p>												
<p><b>【判定理由】</b> 県内では1997年に南足柄市で初めて記録され、2001年には秦野市でも記録された。『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類に判定された。『神植誌18』では2調査区3地点から記録されたため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯のやや湿った樹林内の斜面や岩上に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 2産地ともにヒノキ植林地またはヒノキとスギの混植林地。小田原ではヒノキ植林地に1個体が生育していた。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(伊豆諸島、神奈川県以西)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 秦野-2●・小田原-4●・南足柄-3◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、森林伐採</p> <p><b>【文献等】</b> 田中一雄, 1999. クルマシダとウスヒメワラビ. FK, (48): 541.</p>			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類										
	1995	絶滅危惧種 D										
環境省	2020	—										

絶滅危惧Ⅱ類

ホウビシダ

*Hymenasplenium hondoense* (N.Murak. & Hatan.) Nakaike

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類と判定されたが、『神植誌18』の調査では逗子市と鎌倉市、小田原市の3調査区10地点から記録された。分布地点が増加したことから、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】

山林中の溪岸などの湿った岩上に生える常緑の多年草

【現状】

各地点ともに安定して生育している。

【国内分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】

鎌倉-2●・逗子●・小田原-1◎・小田原-2●・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】

岩場崩壊

イワヤシダ科

絶滅危惧ⅠA類

イワヤシダ

*Diplaziopsis cavaleriana* (H.Christ) C.Chr.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

県内では2015年に相模原市緑区(旧城山町)で初めて記録された。1調査区の2地点で記録されたが、同一地域内の隣接する3次メッシュであることから絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の湿った樹林下、特にスギ林下に生える夏緑の多年草。

【現状】

1地点では幼株を含めて20個体あまりが生育している。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

城山●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【文献等】

岡 武利, 2016. 神奈川県にイワヤシダ出現. FK, (81): 970.

ヒメシダ科

絶滅危惧ⅠA類

タチヒメワラビ

*Phegopteris bukoensis* (Tagawa) Tagawa

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	—

【判定理由】

県内では1956年に丹沢山地で倉田悟により初めて発見され(『丹沢目録61』; 大谷, 1970 など)、1958年より後の記録はなく、『神RDB06』では絶滅とされたが、2014年に同一地域で56年ぶりに再発見された(田村ほか, 2015)。1調査区1地点の記録のため、絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の疎林や林縁に生える夏緑の多年草

【現状】

ニホンジカから植物を守る植生保護柵内にシロヨメナやテンニンソウと混生して5m四方に25~50個体が生育している。胞子を付けた成熟個体も複数ある。

【国内分布】

本州(中部地方以北)、四国、九州(熊本県)

【県内分布】

津久井-2●・山北-3△

【存続を脅かす要因】

シカ影響、自然遷移

【特記事項】

・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵

【文献等】

大谷 茂, 1970. 神奈川県羊歯植物(5). 横博研報, (16): 44-57; 田村 淳・中西のりこ・指村奈穂子・長澤展子・野辺陽子, 2015. 56年ぶりのタチヒメワラビの発見. FK, (79): 926-927.

絶滅危惧 I A 類			
イブキシダ <i>Thelypteris esquirolii</i> (H.Christ) Ching	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
過去に座間市や小田原市など 6 調査区から記録があるものの、『神植誌18』の調査では箱根町の 1 調査区 1 地点からの記録に留まったため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の川の中や川沿いの岩壁(石垣)など日当たりの良い所に生える常緑の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(栃木県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
座間○・小田原-1○・小田原-4○・南足柄-3○・箱根-5●・湯河原-2△

【存続を脅かす要因】  
河川開発、土地造成、道路建設

絶滅危惧 I B 類			
イワハリガネワラビ <i>Thelypteris musashiensis</i> (Hiyama) Nakato, Sahashi & M.Kato	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌01』ではハリガネワラビの変種として扱われていたためRDBの対象とならなかった。その後、種に組み替えられた。『神植誌18』の調査では丹沢の 2 調査区 2 地点から記録されたことから絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の岩上に生える夏緑の多年草

【現状】  
丹沢の 2 地点ともに森林下の急崖に小集団で生育している。周辺はシカの影響が強いため林床の植物は少ないが、ニホンジカの進入できない急崖は本種や他種の植被が濃い状態である。過去には箱根からも記録があるが、近年報告はない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-2●・秦野-1●・箱根-1○・箱根-2○・箱根-4○

【存続を脅かす要因】  
岩場崩壊、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区、国定公園特別保護地区

【文献等】  
田村 淳, 2007. 丹沢新産のイワハリガネワラビ. FK, (65): 800.

絶滅危惧 I A 類			
メニッコウシダ <i>Thelypteris nipponica</i> (Franch. & Sav.) Ching var. <i>borealis</i> (H.Hara) H.Hara	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	絶滅危惧種 D
	環境省	2020	—

【判定理由】  
過去に相模原市や山北町など 4 調査区から記録があり、『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定された。『神植誌18』の調査では分布が記録されなかったものの、生育地に大きな変化がないことから、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
明るい疎林内や林縁の湿った所に生える夏緑の多年草

【現状】  
相模原の産地は農耕地や市街地に隣接した緑地で造成により失われる可能性がある。

【国内分布】  
北海道、本州(北陸地方、中部地方以北)

【県内分布】  
相模原-2○・相模原-4○・大和○・山北-2○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、道路建設

## 絶滅危惧 I B 類

## ケホシダ

*Thelypteris parasitica* (L.) Tardieu

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内では 2013年に真鶴半島で初めて発見され、その後横須賀市でも見出された。3 調査区の 4 地点に分布することから絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

樹林下や林縁に生える常緑の多年草

## 【現状】

真鶴では道路下に数個体が生育している。  
藪の刈払い等による損傷で失われる可能性がある。

## 【国内分布】

本州(神奈川県以西)、四国、琉球、小笠原

## 【県内分布】

横須賀-1●・横須賀-3●・真鶴●

## 【存続を脅かす要因】

藪の刈払い

## 【特記事項】

横須賀の産地が分布の北限である。

## シシガシラ科

## 準絶滅危惧

## オサシダ

*Blechnum amabile* Makino

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

過去に 16 調査区から分布記録があり『神RDB06』では RDBの対象外であったが、『神植誌18』の調査では南足柄市や箱根町、山北町など 6 調査区 7 地点からの記録に留まった。『神植誌88』との比較で調査区数 30%の減少となったが、生育環境の急激な悪化は考えられず、他の調査区においても変わらず分布していると推定して、準絶滅危惧と判定した。

## 【生育環境・生態】

樹林下の斜面や岩上に生える常緑の多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州(鳥取以東)、四国(高知県)、九州、屋久島

## 【県内分布】

鎌倉-2△・相模湖○・清川-2△・秦野-1◎・南足柄-1●・山北-3●・山北-4◎・山北-5◎・山北-6●・松田◎・箱根-1○・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5○・箱根-6●・湯河原-2○

## 【存続を脅かす要因】

不明

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

## シシガシラ科

## 絶滅危惧 I A 類

## ハチジョウカグマ

*Woodwardia prolifera* Hook. & Arn.

神奈川県	2006	消息不明種
	1995	消息不明種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

県内では 2007年に横須賀市で初めて発見された。1 調査区 1 地点の記録のため絶滅危惧 I A 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

暖温帯の山麓や海岸近くの斜面や崖地に生える常緑の多年草

## 【現状】

駐車場そばに 1 個体が生育している。

## 【国内分布】

本州(千葉県以西、伊豆諸島、紀伊半島まで)、四国、九州、琉球、小笠原

## 【県内分布】

横須賀-2●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

メシダ科

絶滅危惧 I A 類			
ウラボシノコギリシダ <i>Anisocampium shearerii</i> (Baker) Ching	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では 2009年に相模原市緑区(旧城山町)で初めて発見された(酒井・酒井, 2010)。1 調査区の 1 個の 3次メッシュのみに生育。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の山地の樹林下に生える常緑の多年草

【現状】  
木漏れ日の当たるなだらかな斜面に約 10 個体が生育している。

【国内分布】  
本州(千葉県・新潟県以西)、四国、九州

【県内分布】  
城山●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【文献等】  
酒井藤夫・酒井啓子, 2010. 藤木のウラボシノコギリシダ. FK, (69): 836-837.

メシダ科

絶滅危惧 I B 類					
サトメシダ <i>Athyrium deltoidofrons</i> Makino	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類		
		1995	減少種 G		
	環境省	2020	—		

【判定理由】  
『神植誌01』の調査では箱根町など 3 地点で分布が記録され、個体数は各地点ともに 10 個体未満と確認されたため、『神RDB06』では定量的要件Dにより絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では箱根町と山北町の 3 調査区 3 地点から記録されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の湿地に生える夏緑の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
小田原-1◎・南足柄-2○・山北-1●・箱根-1◎・箱根-4●・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区、県立自然公園

メシダ科

絶滅危惧 I B 類					
ミヤコイヌワラビ <i>Athyrium imbricatum</i> H.Christ	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類		
		1995	絶滅種 A		
	環境省	2020	—		

【判定理由】  
県内では大谷(1967)に奥湯河原の古い記録があり、その後の生育状況は不明であったが、『神植誌01』の調査から南足柄市や湯河原町で再発見された(田中, 1996; 勝山, 1997)。『神植誌18』の調査では湯河原町の 2 調査区 2 地点から記録されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の溪流沿いのよく湿ったところに生える夏緑の多年草

【現状】  
南足柄ではスギ・ヒノキ植林に 1 個体が生育。湯河原の 2 地点のうち 1 地点では、放棄されたワサビ田の跡で水が豊富な岩の間に生育している。

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
南足柄-3◎・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、治山工事

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

【文献等】  
大谷 茂, 1967. 神奈川県羊歯植物(2). 横博研報, (13): 55-73; 田中一雄, 1996. ミヤコイヌワラビ. FK, (42): 454-455; 勝山輝男, 1997. 湯河原の植物調査(1). FK, (45): 502-503.

メシダ科

絶滅危惧 I B 類				
<b>トガリバイヌワラビ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Athyrium iseanum</i> Rosenst. var. <i>angustisectum</i> Tagawa		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神植誌01』ではホソバイヌワラビの品種として扱ったため、RDBの対象とはならなかったが、『神植誌18』では海老原(2017)に従い変種として扱った。これまでに相模原市緑区と南足柄市の2調査区3地点からの分布記録があり、『神植誌18』の調査では2調査区3地点から記録されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地や丘陵地のやや湿った樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州、四国、九州、屋久島</p> <p>【県内分布】 城山●・南足柄-3◎・湯河原-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ホソバイヌワラビとの不稔性雑種が形成されることから独立種であることが示唆されている(海老原, 2017)。</p> <p>【文献等】 海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研, 東京.</p>		

メシダ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>コシノサトメシダ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	—
<i>Athyrium neglectum</i> Seriz. subsp. <i>neglectum</i>		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 県内では1998年に丹沢山地でニホンジカから植物を守る植生保護柵内で1個体が見出された(田村, 1998)。その後消失して再発見に至っていないものの、絶滅と判定するには時期尚早と考えて『神RDB06』と同様に絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の山地の湿った樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 発見当時はブナ林下の植生保護柵内にスズダケやシロヨメナと混生して1個体が生育していたが、現在その個体は消失した。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州(福井県以東の主に日本海側)</p> <p>【県内分布】 清川-1◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、シカ影響</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区</p> <p>【文献等】 田村 淳, 1998. 神奈川県産のコシノサトメシダ. FK, (47): 532.</p>		

メシダ科

情報不足				
<b>イワイヌワラビ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	絶滅種 A
<i>Athyrium nikkoense</i> Makino		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 県内では箱根(大谷, 1968)と丹沢(勝山, 1999)からの報告があるが、本種の決定的な特徴が見出されず、ヘビノネゴザの小型のものとも同定できるため、判定を保留し「情報不足」とした。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の山地の溪流沿いや樹林下の湿った岩場に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州(中部地方以北)、四国(高知県)</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2◎・箱根-4◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【文献等】 大谷 茂, 1968. 神奈川県産の羊歯植物(3). 横博研報(14): 62-80; 勝山輝男, 1999. 神奈川県植物誌備忘録(1). FK(48): 549-555.</p>		

メシダ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>サキモリヌワラビ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	—
<i>Athyrium oblitescens</i> Sa.Kurata		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
県内では 2000年に小田原市で初めて発見され、『神RDB 06』で絶滅危惧 I A 類と判定された。その後同一調査区の 3 地点で分布が確認されているものの、各地点ともに個体数は 1～数個体のため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林下に生える常緑の多年草

**【現状】**  
3 地点のうち 1 地点ではスギ人工林内に 1 個体が生育する。シカの採食で葉先が無くなっている。

**【国内分布】**  
本州(秋田県以南)、四国、九州

**【県内分布】**  
小田原-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、森林伐採、シカ影響

**【特記事項】**  
日本固有種

メシダ科

準絶滅危惧				
<b>タニヌワラビ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
			1995	絶滅危惧種 E
<i>Athyrium otophorum</i> (Miq.) Koidz.		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
『神RDB06』では箱根山麓の 8 調査区と丹沢の 1 調査区から記録され、絶滅危惧 II 類と判定された。『神植誌18』の調査では県東部の 2 調査区を含む 8 調査区 14 地点で分布が記録された。各調査区ともに個体数は限られているものの、温暖化に伴い分布拡大している可能性があるため、準絶滅危惧と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地樹林内の湿ったところに生える常緑の多年草

**【現状】**  
分布を拡大しつつある。

**【国内分布】**  
本州(山形県以南)、四国、九州、屋久島

**【県内分布】**  
青葉●・宮前●・秦野-2●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-4◎・南足柄-1○・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-8●・箱根-5○・湯河原-1○

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採

メシダ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>タカネサトメシダ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	—
<i>Athyrium pinetorum</i> Tagawa		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
県内では 2001年に丹沢山地のブナ林下の植生保護柵内の 2 地点(同一調査区)で初めて見出され(田村ほか, 2004)、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定された。その後 1 地点では消息が不明となったが、もう 1 地点では 1 個体が生育していることから、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯からシラビソ帯の樹林内に生える夏緑の多年草

**【現状】**  
ブナ林下の植生保護柵内で回復しつつあるスズダケと混生して 1 個体が生育している。スズダケの被圧で消失する恐れがある。

**【国内分布】**  
北海道、本州(奈良県以東)、四国(徳島県、高知県)

**【県内分布】**  
清川-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、シカ影響、自然遷移

**【特記事項】**  
日本固有種  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵

**【文献等】**  
田村 淳・山根正伸・中山博子, 2004. 神奈川県新産のタカネサトメシダ. 植物地理・分類研究, 52: 83-84.

メシダ科

絶滅危惧 I B 類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">イッポンワラビ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Athyrium crenuloserrulatum</i> Makino</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神RDB95』では絶滅種、『神植誌01』では不明とされたが、2001年に丹沢山地のブナ帯の植生保護柵内で再発見され、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類とされた。その後 2 調査区の 3 地点から記録されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の山地の湿った樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 丹沢では各地点ともに植生保護柵内に 1～数個体が生育する。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州(広島県以東)</p> <p>【県内分布】 津久井-2●・清川-1●・山北-3△・松田△・箱根-1△・湯河原-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 シカ影響</p> <p>【特記事項】 県内では過去に奥湯河原と丹沢での大谷(1967)の記録があり、丹沢の標本は、大室山、檜洞丸、石棚山、鍋割山、塔ノ岳～丹沢山のものがある。そのため、かつては丹沢の主稜線部で広域に生育していたと考えられる。 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵</p> <p>【文献等】 大谷 茂, 1967. 神奈川県羊歯植物(2). 横博研報, (13): 55-73.</p>								

メシダ科

絶滅危惧 II 類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">ムクゲシケシダ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Deparia kiusiana</i> (Koidz.) M.Kato</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 これまでに 16 調査区からの分布記録があるものの、『神植誌18』の調査では相模原市緑区や箱根町などの 6 調査区の 9 地点から分布が記録された。『神植誌88』との比較では減少していないが、再確認された調査区が少なかったため、『神RDB06』と同様に絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 丘陵～山地の樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 各地点に数個体が生育する。</p>	<p>【国内分布】 本州(山形県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見◎・南●・緑◎・逗子○・城山●・津久井-5●・相模湖●・藤野-2◎・小田原-1◎・小田原-2◎・小田原-4◎・南足柄-2◎・南足柄-3◎・松田○・箱根-1●・箱根-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採</p>								

メシダ科

絶滅危惧 I B 類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">ウスゲミヤマシケシダ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Deparia mucilagina</i> (M.Kato) Nakaike</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 県内では 2006年に丹沢山地の標高 1,500m以上のブナ林下で見出され(田村, 2006)、その後隣接する別の調査区においても発見されている。2 調査区 2 地点からの記録のため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 冷涼かつ湿った樹林下に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 2 地点ともに、ニホンジカの採食から保護するために設置された植生保護柵内に、計 50～100 個体が生育する。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州(日本海側に多い)</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・清川-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、シカ影響</p> <p>【特記事項】 日本固有種 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵</p> <p>【文献等】 田村 淳, 2006. 神奈川県新産のウスゲミヤマシケシダ(イワデンダ科). 植物地理・分類研究, 54: 149-150.</p>								

メシダ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>コヒロハシケシダ</b>	神奈川県	2006	—
		1995	—
<i>Deparia pseudoconilii</i> (Seriz.) Seriz. var. <i>subdeltoidofrons</i> (Seriz.) Seriz.	環境省	2020	—
<p>【判定理由】                      これまでに 9 調査区から分布が記録され、『神植誌18』の調査では相模原市緑区(旧津久井町)の 1 調査区 1 地点からの記録に留まった。他の調査区においても生育しているところはあると推察して、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】                      やや日の当たる樹林内や林縁などに生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】                      多摩丘陵ではスギ人工林下や林縁部を通る小道の脇などに見られ、小群生している。</p>	<p>【国内分布】                      本州(青森県～静岡県)、九州(鹿児島県)</p> <p>【県内分布】                      旭◎・緑◎・城山◎・津久井-5●・藤野-1◎・座間◎・南足柄-1◎・南足柄-2◎・南足柄-3◎</p> <p>【存続を脅かす要因】                      産地局限</p> <p>【特記事項】                      日本固有変種</p>		

メシダ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ミヤマシケシダ</b>	神奈川県	2006	—
		1995	—
<i>Deparia pycnosora</i> (H.Christ) M.Kato	環境省	2020	—
<p>【判定理由】                      『神植誌01』でハクモウイノデと同定した標本を再調査したところ、1982年に丹沢で採集された 1 点が本種であった。『神植誌18』の調査では記録されていないものの、現存の可能性を考慮して絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】                      ブナ帯の樹林下に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】                      —</p>	<p>【国内分布】                      北海道、本州、四国</p> <p>【県内分布】                      山北-2〇</p> <p>【存続を脅かす要因】                      産地局限</p> <p>【特記事項】                      ・保護の現状: 国定公園第一種特別地域                      ・標本: 足柄上郡山北町大室山 1982.7.28 勝山輝男 KPM-NA1054580.</p>		

メシダ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>オオヒメワラビモドキ</b>	神奈川県	2006	—
		1995	—
<i>Deparia unifurcata</i> (Baker) M.Kato	環境省	2020	—
<p>【判定理由】                      県内では 2009年に丹沢山地で初めて発見された。1 調査区 1 地点のみの分布記録のため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】                      シイ・カシ帯の山地の樹林内や林縁に生え、稀に崖地にも生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】                      —</p>	<p>【国内分布】                      本州(新潟県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】                      松田●</p> <p>【存続を脅かす要因】                      産地局限、シカ影響</p> <p>【特記事項】                      ・保護の現状: 国定公園</p>		

メシダ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ミドリワラビ</b>		神奈川県	2006 2019
<i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M.Kato		環境省	2020

**【判定理由】**  
『神植誌88』と『神植誌01』では湯河原町からの1地点の分布が記録され、その後相模原市緑区(旧津久井町)と清川村の2調査区2地点からも分布が記録されたことから、『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定された。現状は湯河原を除いて不明なもの大きな変化はないと考え、引き続き絶滅危惧 I B 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の湿った樹林内に生える夏緑の多年草

**【現状】**  
『神RDB06』から変化なし。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-5●・清川-2●・箱根-1△・湯河原-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

メシダ科

絶滅危惧 II 類			
<b>ニセコクモウクジャク</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Diplazium conterminum</i> Christ		環境省	2020

**【判定理由】**  
『神植誌01』の調査では小田原市と南足柄市の3調査区からの分布記録であったが、『神植誌18』の調査において秦野市と松田町からも分布が確認され、計5調査区7地点の分布となり絶滅危惧 II 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
暖地の樹林内に生える常緑の多年草。県内では冬季に地上部が枯れる。

**【現状】**  
間伐された明るいスギ・ヒノキ混植林地に生育している。

**【国内分布】**  
本州(神奈川県から紀伊半島までの太平洋側)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
秦野-2●・小田原-1●・南足柄-2●・南足柄-3●・松田●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、森林伐採

**【特記事項】**  
秦野の産地が分布の北限、東限である。  
『神植誌01』ではコクモウクジャクの変種として扱われたが、それぞれ独立の交雑によって生じた無融合生殖系統と推定されるため、別種として扱われることになった(海老原, 2017)。

**【文献等】**  
海老原淳, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 507pp. 学研, 東京.

メシダ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヒロハノコギリシダ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Diplazium dilatatum</i> Blume var. <i>dilatatum</i>		環境省	2020

**【判定理由】**  
県内では2008年に南足柄市で初めて発見され、分布の北限となった(松岡, 2009)。1調査区1地点の分布記録のため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
シイ・カシ帯の山地の樹林下に生える常緑の多年草

**【現状】**  
スギ林下にイノデ類やオニヒカゲワラビなどとともに生育している。

**【国内分布】**  
本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
南足柄-3●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、森林伐採

**【特記事項】**  
南足柄の産地が分布の北限である。

**【文献等】**  
松岡輝宏, 2009. 南足柄市のヒロハノコギリシダ. シダ報, 4(2): 19.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>シマシロヤマシダ</b>			1995	—
<i>Diplazium doederleinii</i> (Luerss.) Makino		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では 1996年に小田原市で初めて発見され、分布の東限新産地となった(田中, 1997)。現状は不明なもの大きな変化はないと考え、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える常緑または夏緑の多年草。暖地では常緑であるが、神奈川県では冬に枯れる。

【現状】  
スギ・ヒノキ植林内に小群生している。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
小田原-2◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林伐採

【特記事項】  
小田原の産地が分布の東限である。

【文献等】  
田中一雄, 1997. 神奈川県新産と思われるシダおよびその他. FK, (44): 489-490.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	—
<b>ホソバノコギリシダ</b>			1995	—
<i>Diplazium fauriei</i> H.Christ		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では 2014年に真鶴町で初めて発見された。1 調査区 1 地点からの分布記録のため絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
林内に 1 個体が生育している。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
真鶴●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
真鶴の産地が分布の北限である。

【文献等】  
中山博子, 2015. 「西湘シダ勉強会」の紹介と2014年度の活動記録. FK, (79): 931-932.

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	—
<b>オオバミヤマノコギリシダ</b>			1995	—
<i>Diplazium hayatamae</i> N.Ohta & M.Takamiya		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌01』ではミヤマノコギリシダの変化範囲内として扱われていたが、1999年に新種として記載された。『神植誌18』の調査において、過去のミヤマノコギリシダの標本を確認したところ 1996年に採集されたものが本種に該当した。また 2013年には横浜市青葉区でも発見された。2 調査区の 4 個の 3次メッシュで記録され絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の樹林下に生える常緑の多年草

【現状】  
各地点ともにスギ、ヒノキ植林に 1~数個体が生育する。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州

【県内分布】  
青葉●・南足柄-3●

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

【特記事項】  
横浜市青葉区の産地が分布の東限である。

メシダ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ミヤマノコギリシダ</b>		神奈川県	2006 2019 2020
<i>Diplazium mettenianum</i> (Miq.) C.Chr.		環境省	絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧種 D —

**【判定理由】**  
本種の変化範囲として扱われていたオオバミヤマノコギリシダが「種」になり独立した。『神植誌18』の調査では小田原市の1調査区2地点で分布が記録され、絶滅危惧 I B 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林内に生える常緑の多年草

**【現状】**  
スギ植林内に5~6個体生育していた。

**【国内分布】**  
本州(新潟県・関東地方以西)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
小田原-1●・南足柄-3◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、森林伐採

**【文献等】**  
田中一雄, 1986. 神奈川県で初めて?ミヤマノコギリシダを見つけた. シダ報, 2(66): 10-11.

メシダ科

絶滅危惧 II 類			
<b>オニヒカゲワラビ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa		環境省	2020

**【判定理由】**  
『神植誌18』の調査では相模原市緑区や南足柄市などの6調査区の7個の3次メッシュで記録された。記録された3次メッシュ数が少なく、各産地の個体数も少ないので、『神RDB06』に続いて絶滅危惧 II 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
シイ・カシ帯の湿った樹林内に生える常緑の多年草。県内では冬季に枯れる。

**【現状】**  
南足柄市はスギ植林内、湯河原町は谷筋の湿った樹林内に生育する。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州、屋久島

**【県内分布】**  
鎌倉-2◎・津久井-5●・相模湖●・大磯●・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-8●・湯河原-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、シカ影響

メシダ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヒュウガシダ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Diplazium takii</i> Sa.Kurata		環境省	2020

**【判定理由】**  
県内では2016年に小田原市で初めて発見された。1調査区1地点からの分布記録のため絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
暖温帯の山地の樹林下に生える常緑の多年草

**【現状】**  
林内に生育しているが、暗いせいか生育不良である。

**【国内分布】**  
本州(神奈川県以西)、四国、九州、屋久島

**【県内分布】**  
小田原-3●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
小田原の産地が分布の北限、東限である。  
日本固有種

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
コクモウクジャク <i>Diplazium virescens</i> Kunze			1995	絶滅危惧種 D
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌01』の調査では逗子市の1調査区からの分布記録であったが、『神植誌18』の調査では愛川町と小田原市からも記録された。計3調査区の6個の3次メッシュで記録されたことから、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
暖地の樹林内に生える常緑の多年草。県内では冬季に地上部が枯れる。

【現状】  
スギ・ヒノキ植林の湿った林床に一群が生育している。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球、小笠原

【県内分布】  
逗子●・愛川●・小田原-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林伐採

【特記事項】  
愛川の産地が分布の北限である。

【文献等】  
青木清勝, 1990. コクモウクジャクの新北限地. シダ報 2(83-84): 4; 久江信雄, 2010. (ニセ)コクモウクジャク続報. FK, (71): 861.

## オシダ科

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
シノブカグマ <i>Arachniodes mutica</i> (Franch. & Sav.) Ohwi			1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では現存するのが横浜市緑区の2株のため絶滅危惧ⅠA類と判定されたが、『神植誌18』の調査では、2か所(2調査区、2個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯上部からシラビソ帯に生える常緑の多年草であるが、県内の最近の記録はいずれも標高が低い所であった。

【現状】  
北西に向けた樹林内のやや暗い湿った急斜面に見られる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、屋久島

【県内分布】  
緑◎・多摩●・津久井-1△・津久井-5●・大山△・秦野-4◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林伐採、踏みつけ、過剰採取

## オシダ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
ミドリカナワラビ <i>Arachniodes nipponica</i> (Rosenst.) Ohwi			1995	減少種 H
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では、5か所(5調査区、5個の3次メッシュ)で標本が採集された。『神植誌88』との比較では減少はみられないが、いずれの調査区でも産地は少なく個体数も多くはないので、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地のやや湿った樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
丹沢、箱根などの山地に少数分布する。奥湯河原の産地は谷沿いの湿った樹林内で、特に大きな環境の変更は当分はないと考えられる。いずれも湿度の高い環境に見られる。

【国内分布】  
本州(千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】  
藤野-1●・小田原-2◎・南足柄-2◎・南足柄-3●・山北-5○・山北-6●・山北-8◎・箱根-5○・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
森林伐採

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

絶滅危惧 I A 類

オトコシダ

*Arachniodes yoshinagae* (Makino) Ching

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌01』の調査で南足柄市の1調査区で採集された。『神植誌18』の調査では確認されていないが、『神RDB06』と同様に絶滅危惧 I A 類と判定した。

【国内分布】

本州(神奈川県以西の太平洋側)、四国、九州

【県内分布】

南足柄-2◎

【生育環境・生態】

山地樹林内に生える常緑の多年草

【存続を脅かす要因】

産地局限

【現状】

南足柄市のスギ・ヒノキの混植林地でごく少数株が確認されただけである。

【特記事項】

南足柄の産地が分布の東限である。

絶滅危惧 II 類

ヒロハヤブソテツ

*Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定されたが、『神植誌18』の調査では、6か所(3調査区、4個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、絶滅危惧 II 類と判定した。

【国内分布】

本州(新潟県、千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】

横須賀-2◎・厚木-3△・南足柄-1◎・松田○・箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2●

【生育環境・生態】

山地の湿った樹林内に生える常緑の多年草

【存続を脅かす要因】

産地局限

【現状】

箱根町の須雲川付近の産地では数株みられる。湯河原町では沢沿いの山地樹林内で確認された。いずれも湿潤な環境に生育する。

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

絶滅危惧 I A 類

ツクシヤブソテツ

*Cyrtomium tukusicola* Tagawa

神奈川県	2006	情報不足
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では情報不足と判定されたが、『神植誌18』の調査において、山北町で採集された個体が本種と同定された。採集地点数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【国内分布】

本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】

山北-8●

【生育環境・生態】

山地樹林内のやや湿ったところに生える常緑の多年草

【存続を脅かす要因】

産地局限

【現状】

山北町の洒水の滝付近に1株のみ確認された。

絶滅危惧Ⅱ類											
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>ハチジョウベニシダ</b></p> </div> <p><i>Dryopteris caudipinna</i> Nakai</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 G	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類								
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査での採集地点数は 逗子と江ノ島の 2 調査区であるが、特に逗子での個体数が多いため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 沿海地の山地樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 『神植誌88』の調査時から確認されている逗子市神武寺の産地では 1,000 株未満が安定して生育している。藤沢市江ノ島でも 数十株が見られる。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(神奈川県、千葉県、兵庫県、京都府、山口県、島根県)、四国(高知県)、九州(霧島山麓)、伊豆諸島</p> <p><b>【県内分布】</b> 逗子●・江ノ島●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p>										

絶滅危惧ⅠA類											
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>ナチクジャク</b></p> </div> <p><i>Dryopteris decipiens</i> (Hook.) Kuntze</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">ナチクジャク:絶滅種 A イヌナチクジャク:絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	ナチクジャク:絶滅種 A イヌナチクジャク:絶滅危惧種 D	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類								
	1995	ナチクジャク:絶滅種 A イヌナチクジャク:絶滅危惧種 D									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 横浜市帷子川流域の個体は山腹崩壊により消滅したとされているものの、『神植誌18』の調査で新たに生育が確認された。産地は三浦市の 1 か所のみであるため、絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 面積の大きくない常緑樹林の林縁に 1 株のみ見られる。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(関東南部以西のおもに太平洋側)</p> <p><b>【県内分布】</b> 旭△・三浦●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本:横浜市旭区上川井 1958.8.18 出口長男 KPM-NA0078604.</p>										

絶滅危惧Ⅱ類											
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>シラネワラビ</b></p> </div> <p><i>Dryopteris expansa</i> (C.Presl) Fraser-Jenk. &amp; Jermy</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	希少種	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		準絶滅危惧								
	1995	希少種									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査での採集地は 3 か所(3 調査区、3 個の 3 次メッシュ)と少ないものの、標本が採集されていない地点もあるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯～シラビソ帯の樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 箱根・丹沢の産地ではブナ帯に見られる。丹沢ではニホンジカの採食により、林床植生が著しく衰退している。数か所で確認しているが、いずれも植生保護柵内に 1～数個体が生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1○・津久井-2●・山北-1●・山北-2○・山北-3○・山北-5○・箱根-4●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:国立公園・国定公園、植生保護柵</p>										

絶滅危惧 I A 類

イヌナチクジャク

*Dryopteris integripinnula* Ching

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌01』の調査において、南足柄の1調査区のみで記録された個体に基づいて、今回新たに本種を絶滅危惧 I A 類と判定した。『神植誌18』の調査では確認されていない。

【生育環境・生態】

低山地の林床に生える常緑の多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】

南足柄-3◎

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・標本:南足柄市1992.7.24 田中一雄 KPM-NA0103359.

絶滅危惧 I B 類

ワカナシダ

*Dryopteris kuratae* Nakaike ex Hoshiz. & K.A.Wilson

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

1979年に横浜市緑区で採集されたものの、『神植誌88』『神植誌01』では確認できず、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では新たに秦野市でも産地が見つかり、県内では2調査区の2か所で標本が採集されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

湿った山地樹林内に生える常緑の多年草

【現状】

横浜市と秦野市のいずれもスギ林内において数個体程度確認された。

【国内分布】

本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】

緑●・三浦△・秦野-3●・小田原-2△

【存続を脅かす要因】

産地局限、踏みつけ、過剰採取

〈写真あり〉:口絵1

準絶滅危惧

ナンタイシダ

*Dryopteris maximowiczii* (Baker) Kuntze

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

これまで『神RDB95』『神RDB06』での取り扱いがなかったが、『神植誌18』の調査での採集地点数は7か所(4調査区、5個の3次メッシュ)と多くない。ただし、標本が採集されていない地点も存在するため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

温帯林の林床に生える夏緑の多年草

【現状】

丹沢や箱根のブナ帯の岩壁に稀に産する。ニホンジカの採食により、林床にはほとんど見られない。

【国内分布】

本州(宮城県～奈良県)

【県内分布】

津久井-1●・津久井-2●・津久井-4●・大山△・山北-2○・山北-3●・山北-6◎・箱根-4△・箱根-5◎・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】

シカ影響

【特記事項】

・保護の現状:国立公園、国定公園

オシダ科

絶滅危惧 I A 類			
ミヤマベニシダ <i>Dryopteris monticola</i> (Makino) C.Chr.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
これまで『神RDB95』『神RDB06』での取り扱いはなかったが、『神植誌01』の調査では3調査区でしか確認できず、『神植誌18』の調査では確認されていないため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
温帯林の樹陰に群生する夏緑の多年草

【現状】  
丹沢のブナ帯の林床ではニホンジカの採食による個体数減少が懸念される。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州(宮崎)

【県内分布】  
逗子◎・山北-1○・山北-2○・山北-3△・山北-6◎・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園

オシダ科

絶滅危惧 I B 類			
キヨズミオオクジャク <i>Dryopteris namegatae</i> (Sa.Kurata) Sa.Kurata	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』の調査での採集地は2か所(1調査区、1個の3次メッシュ)であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
スギ・ヒノキ植林の林床に十数株程度産する。県内産のキヨズミオオクジャクには、いずれも典型的な形質が見られずやや疑問が残る。

【国内分布】  
本州(群馬県以西)、四国、九州

【県内分布】  
伊勢原-1○・小田原-1◎・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 一部は国立公園

オシダ科

準絶滅危惧			
イヌイワイタチシダ <i>Dryopteris saxifragivaria</i> Nakai	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類と判定されていたが、『神植誌18』の調査では32か所(16調査区、30個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
丘陵～低山の樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
箱根に点在し、横浜市のスギ植林内でわずかに見出されていた。今回の調査で新たに相模原市緑区でも確認された。小田原市では森林公園内(いこいの森)の林道に見られる。

【国内分布】  
本州(東北、関東)

【県内分布】  
鶴見●・旭○・緑◎・城山●・津久井-3●・津久井-4●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・座間◎・秦野-2◎・秦野-4●・小田原-2●・小田原-4●・南足柄-1●・南足柄-2●・山北-4●・箱根-6●・湯河原-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 一部は国立公園、国定公園、県立自然公園

絶滅危惧 I B 類

ホオノカワシダ

*Dryopteris shikokiana* (Makino) C.Chr.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定されていたが、『神植誌18』の調査では2か所(2調査区、2個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の陰湿な林下に生える常緑の多年草

【現状】

箱根に分布。神山山頂近くの深さ3m×幅4m×3mの噴気口跡の壁面に着生しているのが東限の分布となっている。

【国内分布】

本州(神奈川県以西)、四国、九州、屋久島

【県内分布】

箱根-2●・箱根-4●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

『神RDB95』『神RDB06』では別名のホウノカワシダとして記載。

絶滅危惧 I B 類

ナガサキシダ

*Dryopteris sieboldii* (van Houtte ex Mett.) Kuntze

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌18』の調査において、5か所(4調査区、5個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、『神RDB06』と同様、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の湿った樹林内に生える常緑の多年草

【現状】

丹沢と箱根の山麓に稀に産する。

【国内分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】

城山●・小田原-1◎・小田原-2△・山北-8●・松田●・湯河原-1○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

森林伐採、過剰採取、シカ影響

絶滅危惧 I B 類

タニヘゴ

*Dryopteris tokyoensis* (Makino) C.Chr.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定されていたが、『神植誌18』の調査では4か所(1調査区、2個の3次メッシュ)で標本が採集されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

山地の明るい湿原などに生える夏緑の多年草

【現状】

箱根仙石原では湿原内に点々と群生が見られるがそれほど多くはない。葉山町と横浜市緑区および栄区の記録もあるが見つかっていない。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

緑○・栄◎・葉山△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移、産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地区

オシダ科

絶滅危惧 I A 類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ナンカイイタチシダ</p> <p><i>Dryopteris varia</i> (L.) Kuntze</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅(誤認)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A(誤認)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅(誤認)	1995	絶滅種 A(誤認)	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅(誤認)						
	1995	絶滅種 A(誤認)							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では絶滅と判定されていたが、その標本は誤認であった。『神植誌18』の調査では新たに大磯の1か所で標本が採集されたため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 海岸近くのやや乾いた崖地などに生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 大磯の山林に1株のみ確認された。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(関東南部以西)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 大磯●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> 『神RDB06』で引用された標本(小田原市橘町 1958.6.13 西尾和子 KPM-NA0004582など)はオオイタチシダと判明し、それとは別に次の標本が採集された。 ・標本:大磯町 2017.1.23 田中一雄・山本 薫 KPM-NA0221066.</p>								

オシダ科

絶滅危惧 I B 類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ホソイノデ</p> <p><i>Polystichum braunii</i> (Spenn.) Fée</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌01』で初めて南足柄市の山中で記録され、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では、2か所(2調査区、2個の3次メッシュ)で新産地が確認されたため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯からシラビソ帯の樹林内に生える夏緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢では溪畔林内に産する。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北と鳥取県、山口県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 相模原-2●・南足柄-1◎・山北-4●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:国立公園、県立自然公園</p>								

オシダ科

絶滅危惧 I A 類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ヤシャイノデ</p> <p><i>Polystichum neolobatum</i> Nakai</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類							
<p><b>【判定理由】</b> 県内では1958年に初めて西丹沢で発見された。『神RDB06』では2個の3次メッシュに10~50株が生育し、10年間に1/10以下に減少したことから絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では10株未満に減少しており、引き続き絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の樹林内に生える常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢山地にごく稀に見られる。園芸用の採取ならびにニホンジカの過採食により絶滅に瀕している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(長野県、山梨県、神奈川県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 山北-5●・山北-6△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> シカ影響、過剰採取、治山工事</p> <p><b>【特記事項】</b> 植生保護柵での保護、胞子からの株の育成などが行われている。2021年1月に国内希少野生動植物種に指定された。</p> <p>◀写真あり:口絵1</p>								

絶滅									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>シムライノデ</b></p> </div> <p style="margin: 0;"><i>Polystichum shimurae</i> Sa.Kurata ex Seriz.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 A	環境省	2020	絶滅危惧 I A 類
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 A							
環境省	2020	絶滅危惧 I A 類							
<p>【判定理由】 1966年に山北町で標本が採集されているが、『神植誌88』の調査以降確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 低山地のスギ植林地内などに生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(関東、中部)</p> <p>【県内分布】 —</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 山北町 1966.9.27 古瀬 義 T0F0.</p>								

ウラボシ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>アオネカズラ</b></p> </div> <p style="margin: 0;"><i>Goniophlebium niponicum</i> (Mett.) Bedd.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌88』と『神植誌01』の調査では箱根・湯河原の 2 調査区で分布が記録された。『神植誌18』の調査でも同様に 2 調査区 2 地点から記録されたことから、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 暖温帯の山地の樹幹、岩上、岩壁に着生する冬緑の多年草</p> <p>【現状】 溪谷の岩壁に小群生している。</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2△</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取、岩場崩壊</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園</p> <p>〈📷写真あり: 口絵1〉</p>								

ウラボシ科

絶滅									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>ヤノネシダ</b></p> </div> <p style="margin: 0;"><i>Lepidomicrosorium buergerianum</i> (Miq.) Ching &amp; K.H.Shing</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 1957年に湯河原町で採集された標本があるものの、『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも発見されていない。そのため絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山麓近くのやや明るい湿気のある地上や岩上に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 隣接する熱海市泉には現存する。</p>	<p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 湯河原-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 湯河原町奥湯河原 1957.5.25 西尾和子 KPM-NA0006429.</p>								

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ホテイシダ</div> <p><i>Lepisorus annuifrons</i> (Makino) Ching</p> <p>【判定理由】 『神植目33』『神植誌58』に丹沢、箱根の記録があるが、『神植誌88』と『神植誌01』の調査では見出されなかったため、『神RDB06』では絶滅と判定された。『神植誌18』の調査において丹沢で40年ぶりに分布が確認された。2調査区2地点に分布するものの、同一流域の隣接する個体群であることから絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の明るい樹林内の樹幹や岩上に着生する夏緑の多年草</p> <p>【現状】 落葉広葉樹の樹幹に着生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 山北-1●・山北-2△・山北-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、着生木枯死</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園特別地域 ・標本: 山北町水ノ木沢 1962.9.16 西尾和子 KPM-NA0004952; 山北町白石沢 1970.8.10 秋山 守 KPM-NA0120224.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメサジラン</div> <p><i>Loxogramme grammitoides</i> (Baker) C.Chr.</p> <p>【判定理由】 『神植誌01』の調査では相模原市緑区(旧津久井町)と山北町、湯河原町の3調査区からの分布が記録された。これらは現存の可能性があるものの、現状は不明である。『神植誌18』の調査では湯河原町から新たに1調査区1地点の分布が確認されたため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の湿り気のある岩上や岩壁、空中湿度の高い樹林内の樹幹にコケとともに生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 西丹沢では溪谷内の樹幹に着生、湯河原では小溪流中の大きな岩に着生していた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(南部)、本州、四国、九州、屋久島</p> <p>【県内分布】 津久井-4◎・清川-2△・山北-4◎・山北-5◎・山北-6△・箱根-1△・湯河原-1●・湯河原-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別地域、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 II 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">イワヤナギシダ</div> <p><i>Loxogramme salicifolia</i> (Makino) Makino</p> <p>【判定理由】 『神植誌88』と『神植誌01』の調査では湯河原町の1調査区からの分布記録のため、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では相模原市緑区と山北町の4調査区6地点から分布が確認されたため、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の溪谷沿いの樹幹や岩壁に生える常緑の多年草</p> <p>【現状】 溪流岩上に着生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(千葉県以西の太平洋側)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 相模湖●・厚木-4△・山北-5△・山北-6●・山北-8●・湯河原-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別地域、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

ウラボシ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>オオクボシダ</b>		神奈川県	2006
			1995
<i>Micropolypodium okuboi</i> (Yatabe) Hayata		環境省	2020

**【判定理由】**  
過去に箱根と丹沢から分布記録があり、『神植誌18』の調査では箱根から2調査区4地点と丹沢から2調査区2地点の分布が確認された。合わせて4調査区6地点の記録のため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地樹林内のやや湿り気のある樹幹や岩上に生える常緑の多年草

**【現状】**  
丹沢では溪谷沿いの岩上や岩壁のコケの中にロゼット状に葉を広げて混生し、分布域は狭く稀である。箱根では中腹から山頂の空中湿度の高い樹林内の樹幹や岩上にコケ、ヒメノキンノブ、ミヤマノキンノブなどと混生している。

**【国内分布】**  
本州(秋田県以南近畿地方以東)、四国、九州、屋久島

**【県内分布】**  
秦野-1●・山北-3◎・山北-5◎・山北-6●・松田△・箱根-1△・箱根-2◎・箱根-4●・箱根-5●

**【存続を脅かす要因】**  
着生木枯死

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区、国定公園特別地域

◀写真あり: 口絵1▶

ウラボシ科

準絶滅危惧					
<b>カラクサシダ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	
			1995	減少種 G	
<i>Pleurosoriopsis makinoi</i> (Maxim. ex Makino) Fomin		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
『神植誌88』と『神植誌01』の調査では箱根町などの8調査区から記録され、『神植誌18』の調査では相模原市緑区と秦野市、山北町など11調査区から分布が記録された。これは本種が分布拡大しているというよりも調査者の鑑識眼が向上したことによると思われる。確認された調査区数による判定基準では対象外となるが、『神RDB06』からの急激なランクダウンを避けるために準絶滅危惧と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の岩場や樹幹でコケに混じって生える冬緑型の多年草

**【現状】**  
いずれの産地も自然公園内の樹林内や溪谷で安定している。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1●・津久井-2●・津久井-4●・相模湖●・清川-1●・秦野-4●・南足柄-1●・山北-1●・山北-3△・山北-4●・山北-5◎・箱根-4◎・箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
森林伐採、道路建設

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

ウラボシ科

絶滅危惧ⅠA類					
<b>ミヤマウラボシ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	
			1995	絶滅危惧種 E	
<i>Selliguea veitchii</i> (Baker) H.Ohashi & K.Ohashi		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
『神植誌88』と『神植誌01』の調査では合わせて丹沢山地の3調査区で分布が確認されたが、その後は記録が途絶えている。現地を確認できていない状況で絶滅したと断定するには時期尚早と考え、『神RDB06』に続いて絶滅危惧ⅠA類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
深山の樹林内や沢筋の岩壁に着生する夏緑の多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道(大雪山)、本州(山形県以南・奈良県以東)、四国(徳島県・愛媛県)

**【県内分布】**  
山北-3△・山北-5△・山北-6◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区及び特別地域

マツ科

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">シラビソ</div> <p><i>Abies veitchii</i> Lindl.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	絶滅種 A	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	絶滅種 A							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b>                      自生と思われる産地は1か所で1個体のみ。『丹沢目録61』に丹沢の塔ヶ岳に数本が生えていたことが報告され、『神RDB95』では絶滅とされたが、逢沢(2003)が塔ヶ岳のものは植栽された可能性が高いとしたため、『神RDB06』では対象外となった。しかし、2006年に丹沢三ツ峰山稜本間の頭で自然生と思われる若木が発見され、県内の自生が確定した(逢沢, 2006)。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      亜高山帯に生える常緑高木で、丹沢の標高は生育限界ぎりぎりと思われる。</p> <p><b>【現状】</b>                      親木は見つかっておらず、ブナなどの被圧下にあり、シカの採食のおそれもあり、きわめて危険な状況である。</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      本州(福島県～中部地方、紀伊半島)、四国</p> <p><b>【県内分布】</b>                      津久井-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      産地局限、温暖化</p> <p><b>【特記事項】</b>                      稀に植栽木が見られる。                      ・保護の現状: 国定公園特別保護地区</p> <p><b>【文献等】</b>                      逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961): 丹沢山塊の植物調査報告」の標本について. FK (55): 673-683; 逢沢, 2006. 丹沢三ツ峰にシラビソの若木を発見す. FK, (62): 768-769.</p>								

マツ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ハリモミ</div> <p><i>Picea torano</i> (Siebold ex K.Koch) Koehne</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b>                      1960～1970年代の硫黄酸化物による大気汚染で大木の大半が枯死した。『神植誌18』の調査では7調査区で確認されたが、個体群の回復には至っていないため、引き続き絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      ブナ帯に生える常緑高木</p> <p><b>【現状】</b>                      丹沢の1,000m以上に広く分布するが、現在見つかるのは幼木が大部分で、成熟木はきわめて少ない。硫黄酸化物による大気汚染は改善されたが、個体群の回復には至っていない。</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      本州(福島県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b>                      津久井-1●・津久井-2●・清川-1○・清川-2○・秦野-1○・山北-1●・山北-2◎・山北-3●・山北-4●・山北-5●・山北-6●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      大気汚染</p> <p><b>【特記事項】</b>                      ・保護の現状: 国定公園特別保護地区</p>								

マツ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ゴヨウマツ</div> <p><i>Pinus parviflora</i> Siebold &amp; Zucc. var. <i>parviflora</i></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b>                      『神植誌01』では大山のみで採集されたが、その後、津久井町根小屋に10本、神ノ川～地藏尾根～地藏平に20本、袖山北西尾根に2本、清川村塩水に13本、総計35本が確認された(逢沢, 2003)。個体数が少ないため『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類とされたが、3調査区の6個の3次メッシュに安定して生育が見られるため、今回の基準ではランクが下がった。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      おもにシラビソ帯に生える常緑高木</p> <p><b>【現状】</b>                      急峻な支尾根上などに安定して生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b>                      津久井-1●・清川-1△・清川-2●・大山●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      温暖化、マツノザイセンチュウ(によるマツ枯れ)</p> <p><b>【特記事項】</b>                      ・保護の現状: 国定公園</p> <p><b>【文献等】</b>                      逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961): 丹沢山塊の植物調査報告」の標本について. FK, (55): 673-683.</p>								

マツ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>コメツガ</b>		神奈川県	2006 2019
<i>Tsuga diversifolia</i> (Maxim.) Mast.		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 標高の高い所に成熟個体は 50 本未満と推定され、『神 RDB06』では絶滅危惧 I A 類とされた。今回は 2 調査区の 2 か所で現存が確認され、未確認の 1 調査区でも生育地の状況は変化していないので、大きな減少はないと判断され、今回の基準により絶滅危惧 I B 類と判定された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シラビソ帯に生える常緑高木で、丹沢の標高は生育限界ぎりぎりと思われる。</p> <p><b>【現状】</b> 蛭ヶ岳～丹沢山の北面、塔ヶ岳北西面、表尾根の行者岳付近の急峻な小尾根上に生育し、幼木は多いが成熟木は少ない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部地方以北、紀伊半島)、四国、九州(祖母山)</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2●・秦野-1○・山北-3●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 温暖化</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園特別保護地区</p>		

ヒノキ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>イブキ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Juniperus chinensis</i> L. var. <i>chinensis</i>		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 植栽木も多く、自生のものか判断が難しいが、葉山町、江ノ島、城ヶ島、真鶴の 4 調査区: 採集地数 4 (3 次メッシュ数 4) は自生のものだと判断した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 海岸の岩場に生える常緑高木</p> <p><b>【現状】</b> 葉山町の森戸神社裏側の相模湾に面した崖縁には胸高周囲 4m の巨木があり、町の天然記念物に指定されている。江ノ島南面の手の届かない岩場にも 1 本あるのが観察されている。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(岩手県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 鶴見△・鎌倉-1△・葉山●・城ヶ島●・江ノ島●・大磯△・真鶴●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、岩場崩壊</p> <p><b>【特記事項】</b> 植栽木では鎌倉市建長寺や湯河原町城願寺に古木がある。 『神RDB06』では別名のビャクシンとして記載。 ・保護の現状: 天然記念物</p>		

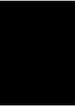
ヒノキ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ハイネズ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Juniperus conferta</i> Parl.		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 1950～1960年代に採集された標本が残されているが、神奈川県植物誌調査では発見できなかった。2019年に横須賀市内の過去に標本が採集された付近で生育が確認された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 海岸の砂地に生える常緑の匍匐性低木。葉の上面の溝は深く、白色の気孔帯は1条で、ネズミサシが海岸に適応したものと考えられている。</p> <p><b>【現状】</b> 公共施設の敷地内の砂地。工事などで失われないように注意が必要。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(伊豆半島と伊豆諸島を除く)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 横須賀-5●・三浦△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本: 三浦市毘沙門 1963.11.21 大場達之 KPM-NA0028272; 横須賀市野比海岸 1953.10.12 田中すき子 YCM-V011012.</p>		

準絶滅危惧									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>ネズミサシ</b></div> <p><i>Juniperus rigida</i> Siebold &amp; Zucc.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では藤野町の1か所に50株未満のため絶滅危惧 I A 類と評価された。『神植誌18』の調査では5調査区で現存が確認され、当面は絶滅の危険は低いと判断された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の乾いた所に生える常緑小高木または低木。葉の上面の溝は深く、溝中の白色気孔帯は1条。</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(岩手県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 中△・栄△・鎌倉-1●・逗子●・津久井-3●・津久井-5○・相模湖△・藤野-1●・藤野-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 森林伐採</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 一部の産地が県立自然公園内</p>								

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>オキナワハイネズ</b></div> <p><i>Juniperus taxifolia</i> Hook. &amp; Arn. var. <i>lutchuensis</i> (Koidz.) Satake</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 1 調査区の1個の3次メッシュのみに産し、50株未満が生育。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 海岸岩場に生える常緑の匍匐性低木。葉の上面の溝は浅く、溝中の白色気孔帯は中央に隆起部があり2条になる。</p> <p><b>【現状】</b> 城ヶ島南岸の風衝地岩上に生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(伊豆諸島、房総半島、三浦半島、伊豆半島、御前崎、渥美半島、紀伊半島)、九州(種子島)、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 城ヶ島●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、岩場崩壊</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 県立城ヶ島公園(都市公園)</p>								

絶滅									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>クロベ</b></div> <p><i>Thuja standishii</i> (Gordon) Carrière</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『丹沢目録61』に「大室山・世附」の記録があり、そのうち世附の証拠標本が見出され(逢沢, 2003)、世附国有林にかつて分布していたことは確認されたが、その後の生育は確認はできない。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯～シラビソ帯の岩の多い斜面に生える常緑高木</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 山北-1△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> —</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本: 丹沢山コモツリ山北面 1955.8 林弥栄 TFA</p> <p><b>【文献等】</b> 逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961): 丹沢山塊の植物調査報告」の標本について. FK, (55): 673-683.</p>								



絶滅		神奈川県	2006	絶滅
ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.	神奈川県	1995	絶滅種 B
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では 1950年代前半の標本を最後に記録はない。

【生育環境・生態】  
池や沼に生える多年草の水草

【現状】  
県内には元々本種の生育適地となる環境が限られている中、農業形態や水環境の変化により生育地を失ったと考えられる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
戸塚△・多摩△・鎌倉-1△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:川崎市多摩区西生田 1952.6.29 大場達之 KPM-NA0016981; 横浜市戸塚区戸塚 1954.9.1 宮代周輔 YCB038339; 鎌倉市山ノ内 1953 宮代周輔 YCB107466~78.

## スイレン科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
コウホネ	<i>Nuphar japonica</i> DC.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
現存するのは 1 調査区の 1 生育地に限られる。近年の海老名市での生育を、100年前から標本記録のある同地での自然状態の系統が維持されているとみなして判定した。

【生育環境・生態】  
水中に生える多年草

【現状】  
栽培は容易であり、他の止水性・半止水性コウホネ属植物とともに栽培品由来と思われるものが山野で見られることがあるため、野生系統の判別には注意が必要である。

【国内分布】  
北海道(西南部)、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・多摩△・鎌倉-1△・座間△・海老名●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本:高座郡海老名村 1906.7.10 中山每吉 ACM-PL30173; 川崎市登戸 1950.3.15 大場達之 KPM-NA0016957; 横浜市鶴見区三池 1964.6.7 宮代周輔 YCB038333; 鎌倉市山ノ内 1954.10.3 宮代周輔 YCB107480; 座間村 1934.8.15 金井茂 SCM021691.

## スイレン科

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
県内の確認できる標本は 1981年の川崎市のものに限られ、同採集地では既に消失していることから、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
水中に生える多年草

【現状】  
栽培は容易であり、他の止水性・半止水性コウホネ属植物とともに栽培品由来と思われるものが山野で見られることがあるため、野生系統の判別には注意が必要である。

【国内分布】  
本州、四国

【県内分布】  
麻生○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
『神RDB95』では海老名市中新田産のコウホネ属植物をヒメコウホネとしたが、『神植誌01』でコウホネに同定が変更された。  
・標本:川崎市黒川 1981.8.14 森 茂弥 KPM-NA1036542.

絶滅			
ヒツジグサ	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では 1950年代前半の標本を最後に記録はない。

【生育環境・生態】  
古い沼やため池に生える多年草

【現状】  
県内には元々本種の生育適地となる環境が限られている中、農業形態や水環境の変化により生育地を失ったと考えられる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△・保土ヶ谷△・多摩△・戸塚△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:川崎市登戸 1951.8.26 山家義人 KPM-NA0016972; 川崎市西生田 1952.6.29 大場達之 KPM-NA0016971; 横浜三ツ沢池(現在の保土ヶ谷区峰沢町) 1912.9.12 R.Hayakawa TI; 横浜市戸塚区戸塚 1954.9.1 宮代周輔 YCB038338, YCB038340.

## ウマノスズクサ科

準絶滅危惧			
ズソウカンアオイ	神奈川県	2006	—
		1995	—
<i>Asarum pseudosavatieri</i> F.Maek.	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
6 調査区の 7 個の 3次メッシュで確認された。分布と生育地が局在する点に脆弱性があり、準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える常緑の多年草。箱根をのぞく県内西部山地にのみ分布し、形態的に類似するオトメアオイとは開花期と分布が異なる。

【現状】  
分布域全体での個体数は少なくないが、生育地が限定されている。

【国内分布】  
神奈川県、静岡県(伊豆半島)

【県内分布】  
秦野-4●・南足柄-1◎・山北-4●・山北-5●・山北-6●・山北-7◎・山北-8●・松田●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園

## ウマノスズクサ科

絶滅危惧 I B 類			
ウスバサイシン	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
		1995	絶滅種 A
<i>Asarum sieboldii</i> Miq.	環境省	2020	—

【判定理由】  
2 調査区の 2 か所で確認された。分布が局在し、個体数が限定的である上、シカによる採食の懸念が継続して存在している点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
県内ではブナ帯の樹林内に稀に生える多年草

【現状】  
丹沢山～蛭ヶ岳間では、スズダケやミヤマクマザサの中に生えていることが多い。ニホンジカの採食圧のあるところでは減少の可能性がある。

【国内分布】  
本州、九州

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2◎・清川-1◎・清川-2○・山北-3●

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
非常に古い記録では須川長之助が箱根で本種を採集したというMaximowicz(1872)による報告がある。  
・保護の現状:国定公園特別保護地区

【文献等】  
Maximowicz, C.J., 1872. Courtes diagnoses des nouvelles plantes du Japon et de la Mandjourie. *Bulletin de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg. St. Petersburg.*, 17: 142-180.

絶滅危惧Ⅱ類

タマノカンアオイ

*Asarum tamaense* Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	減少種 G
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

4 調査区の 7 か所で確認された。分布が局在し、生育地は保全の努力によって維持されている場所がほとんどである点に脆弱性がある。

【国内分布】

関東南西部

【県内分布】

青葉●・都筑○・高津△・宮前●・麻生●・多摩●

【生育環境・生態】

雑木林の林床に生える常緑の多年草

【存続を脅かす要因】

土地造成、過剰採取

【現状】

県内では横浜市北部と、川崎市の丘陵地の二次林下に局在する。生育地では開発による樹林の消失のほか、樹林の積極的管理がなされなくなることによって樹木の成長や大木の枯死に伴う林床の光・水分環境の急激な変化が進み、生育に適した環境は今後も減少傾向にあると考えられる。

クスノキ科

絶滅危惧ⅠA類

バリバリノキ

*Actinodaphne acuminata* (Blume) Meisn.

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	希少種
環境省	2020	—

【判定理由】

1 調査区の 1 個の 3次メッシュで確認された。湯河原町にわずかに生育しているにすぎない。『神RDB06』から状況が変わっておらず、今回も絶滅危惧ⅠA類と判定された。

【国内分布】

本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】

湯河原-1●

【生育環境・生態】

暖地のシイ林やカンシ林にややまれに混生する常緑高木

【存続を脅かす要因】

産地局限

【現状】

『神RDB06』から変化なし。

【特記事項】

・保護の現状: 県立自然公園

クスノキ科

絶滅危惧ⅠB類

カナクギノキ

*Lindera erythrocarpa* Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
	1995	希少種
環境省	2020	—

【判定理由】

1 調査区の 2 個の 3次メッシュで確認された。『神植誌18』では、茅ヶ崎市の丘陵雑木林内でも確認されたが、これは植栽個体の逸出と考えられる。

【国内分布】

本州(神奈川県箱根以西)、四国、九州

【県内分布】

箱根-2●

【生育環境・生態】

山地に生える落葉高木

【存続を脅かす要因】

産地局限

【現状】

『神RDB06』から変化なし。

【特記事項】

静岡県側では林道沿いに点々と分布している  
・保護の現状: 国立公園内

絶滅危惧ⅠA類			
<b>オドリコテンナンショウ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Arisaema aprile</i> J.Murata		神奈川県	1995 —
		環境省	2020 絶滅危惧ⅠA類

【判定理由】  
今回の調査では1調査区の1生育地で確認されたのみ。生育地の環境変化に対する懸念、個体数が限定的な点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える多年草

【現状】  
県内では丹沢と箱根の山地上部に産するが、数は少ない。近年の大型台風や豪雨による地形改変、シカによる採食など林床環境の変化要因もあり、急激な環境変化に伴う生育環境の消失が懸念される。

【国内分布】  
神奈川県、静岡県(伊豆半島)

【県内分布】  
清川-1●・清川-2◎・大山△・山北-4◎・箱根-2○・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園・国定公園、国内希少野生動物種  
〈写真あり: 口絵1〉

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ハウチワテンナンショウ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Arisaema limbatum</i> Nakai & F.Maek. ex F.Maek. var. <i>stenophyllum</i> (Nakai & F.Maek. ex F.Maek.) Seriz.		神奈川県	1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では9調査区で確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で30%以上の減少がある。分布が局在し、個体数が限定的である点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える多年草

【現状】  
県内では丹沢と箱根の山地上部に産する。分布域全体で近年の標本記録が限られており、理由は明らかでないが減少傾向にあるとみられる。

【国内分布】  
神奈川県、静岡県(愛鷹山地)

【県内分布】  
津久井-1○・津久井-2○・津久井-3○・藤野-2●・清川-1●・清川-2△・大山◎・秦野-1◎・南足柄-1○・山北-1◎・山北-2◎・山北-3◎・山北-4●・山北-5●・山北-6●・山北-7●・松田○・箱根-1●・箱根-2○・箱根-4●・箱根-5●・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

絶滅			
<b>ヒンジモ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Lemna trisulca</i> L.		神奈川県	1995 絶滅種 B
		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
県内では1940年に採集された標本を最後に記録がない。

【生育環境・生態】  
低水温の湖沼に産する沈水生の植物

【現状】  
古くは1921年に鎌倉市で採集され、以降同地付近で1940年に採集された標本までは残されている。水環境の変化により絶滅したものと考えられる。

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
鎌倉-1△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 相模(鎌倉～大船) 1923.2.25 M. Honda TI; 相模今泉 1940.3.24 MAK28070; 相模今泉山 1921.3.24 MAK28068; 相模鎌倉 1927.3 牧野富太郎 MAK28069; 鎌倉円覚寺舍利殿裏 1933.7.12 久内清孝 OSA.

情報不足

エダウチゼキシウ

*Tofieldia coccinea* Richards. var. *dibotrya* M.N.Tamura et Fuse

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

山北町で採集された栽培株をもとに、2013年に記載された変種である。記載論文中の引用標本以外に記録がなく、現状不明とした。チャボゼキシウより、個体数をはるかに少ないものと考えられる。

【生育環境・生態】

側枝のある円錐花序をつけるチャボゼキシウの変種

【現状】

—

【国内分布】

本州(神奈川県)

【県内分布】

—

【存続を脅かす要因】

—

【文献等】

Tamura M. N., N. S. Lee, T. Katsuyama & S. Fuse, 2003. Biosystematic Studies on the Family Tofieldiaceae IV. Taxonomy of *Tofieldia coccinea* in Japan and Korea Including a New Variety. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, **64** (1): 29–40.

絶滅危惧Ⅱ類

チャボゼキシウ

*Tofieldia coccinea* Richards. var. *gracilis* (Franch. & Sav.) T.Shimizu

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では2調査区の2個の3次メッシュのみで確認されたが、丹沢玄倉川溪谷では広範囲に多産するため1ランク下げて判定した。全体の個体数は少なくないが、分布に限られ、生育環境の特殊性から生育地に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湿った岩場に生える多年草

【現状】

県内では丹沢山地の玄倉川流域と箱根金時山付近の湿った岸壁にのみ産し、分布が限定された植物である。特に箱根では個体数が少なく、生育地も限られている。

【国内分布】

本州(関東地方以西)

【県内分布】

南足柄-1◎・山北-3△・山北-6●・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園・国定公園

絶滅

サジオモダカ

*Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 B
環境省	2020	—

【判定理由】

県内では1914年に秦野市で採集された標本を最後に記録がない。なお、2002年に綾瀬市で、2016年に海老名市でそれぞれ生育が確認されているが、いずれも人為的な持ち込みの可能性を否定できず、ここでは植栽として扱った。

【生育環境・生態】

池や沼に生える多年草

【現状】

100年以上前に採集された横浜、平塚、秦野の標本が残されているが、以降長らく生育は確認されておらず、県内では絶滅したものとみられる。

【国内分布】

北海道、本州、四国

【県内分布】

秦野-3△

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

・標本: 武蔵横浜1911.9.24 牧野富太郎 MAK17081; Hiraduka Sagami 1895.8.4 牧野富太郎 MAK176080; 秦野市蓑毛 1914.7 池谷新太郎 ACM-PL30121.

絶滅危惧 I A 類			
<b>トウゴクヘラオモダカ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Alisma rariflorum</i> Sam.			1995 減少種 G
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
今回の調査では 2 調査区の 3 か所で確認されたにすぎない。『神植誌01』で記録された横浜市緑区、旭区、川崎市麻生区などの産地が失われたため、判定基準よりも厳しく評価した。分布が局在し、個体数が少ない。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【生育環境・生態】  
湧水のある湿地に生える多年草

【現状】  
古くは箱根や横浜市内の標本が残されている。近年では川崎市と相模原市の丘陵地のみで生育が見られたが、城山（相模原市緑区）の生育地は土砂流出により消失した可能性がある。

【国内分布】  
本州、九州

【県内分布】  
神奈川県△・保土ヶ谷△・旭◎・緑◎・多摩●・麻生◎・城山●・箱根-1△

【存続を脅かす要因】  
土地造成、産地局限

絶滅			
<b>マルバオモダカ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Caldesia parnassiifolia</i> (Bassi ex L.) Parl.			1995 消息不明種
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
1906年に横浜で採集された標本を最後に記録がない。

【生育環境・生態】  
水中に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本：都筑郡都岡村白根大池（現在の横浜市旭区）1906.10.7 中山每吉 ACM-PL30123.

絶滅危惧 I A 類			
<b>アギナシ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Sagittaria aginashi</i> Makino			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では絶滅とされたが、2016年に箱根町の 1 か所で生育が確認されたため、カテゴリーを見直した。ただし、分布、生育地、個体数ともに限定されている点、生育地付近ではイノシシによる植生破壊が生じている点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
湿地、池の縁、水田などに生える多年草

【現状】  
古くは座間市、川崎市多摩区で採集された標本が残されている。1987年の時点で川崎市麻生区でのみ生育が知られていたが、その後同地で消失したため、『神RDB06』では絶滅とされた。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
多摩△・麻生○・座間△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
土地造成、水質汚濁

【特記事項】  
・標本：川崎市麻生区黒川 1987.9.18 小崎昭則 KPM-NA1059173；川崎市多摩区登戸 1951.8.26 大場達之 KPM-NA0015938；座間村 1909.8.21 宮川義治 座間市教育委員会。

## 絶滅危惧 I A 類

## スブタ

*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

## 【判定理由】

『神RDB06』では絶滅とされたが、2006年に小田原市の1か所で生育が確認された。ただし、分布、生育地、個体数ともに限定されている点に脆弱性がある。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

## 【生育環境・生態】

水田やため池などに生える沈水生の一年草

## 【現状】

相模原市および海老名市の1950年代までの標本記録しか知られていなかったため、『神RDB06』では絶滅とされた。

## 【国内分布】

本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

海老名△・小田原-3●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・標本:海老名市 1906.10.12 中山每吉 ACM-PL31116; 高座郡新磯村(神奈川県相模原市新磯 1906.8.5 佐藤金五郎 ACM-PL031115.

## 絶滅危惧 I A 類

## ヤナギスブタ

*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. & Gürke

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

## 【判定理由】

1960年代まで県内の数か所で標本記録が知られており、1980年代の全県調査時に横浜市、川崎市、秦野市で採集された。しかし、1987年に川崎市多摩区で採集されて以降、採集地での生育は確認されていない。30年以上生育が確認されておらず、事実上絶滅状態にあるが、今回は絶滅危惧 I A 類とした。

## 【生育環境・生態】

水田やため池などに生える沈水生の一年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

鶴見△・中△・南△・港南△・磯子△・港北△・青葉○・戸塚△・麻生○・鎌倉-1△・相模原-2△・秦野-3○

## 【存続を脅かす要因】

土地造成、水田の畑地化、農薬汚染

## 絶滅危惧 I A 類

## ミカワスブタ

*Blyxa leiosperma* Koidz.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

## 【判定理由】

1983年に厚木市で採集された標本が残されているが、それ以前にも以降にも同採集地を含む県内で生育の記録がない。30年以上生育が確認されておらず、事実上絶滅状態にあるが、今回は絶滅危惧 I A 類とした。

## 【生育環境・生態】

水田やため池などに生える沈水生の一年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州

## 【県内分布】

厚木-1○

## 【存続を脅かす要因】

土地造成、水田の畑地化、農薬汚染

## 【特記事項】

本種の実体はまだよく解明されていない。  
・標本:厚木市上荻野横林 1983.8.2 諏訪哲夫 KPM-NA1059206, ACM-PL016874.

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヤマトウミヒルモ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Halophila nipponica</i> J.Kuo subsp. <i>nipponica</i>			1995 減少種 G
		環境省	2020 準絶滅危惧 (ウミヒルモとして)
【判定理由】 今回の調査では三浦半島の1調査区の1か所でのみ確認された。既知産地が局限され、記録が少ない。また、生育環境である浅海の砂泥底は一般に、浚渫や埋め立て、堆積状況の変化による消失が想定される。	【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州の太平洋岸	【県内分布】 横須賀-4●・城ヶ島◎	
【生育環境・生態】 浅い海中の砂泥地に生える多年草	【存続を脅かす要因】 産地局限、海洋汚染	【特記事項】 従来ウミヒルモ <i>H. ovalis</i> とされていた県内産の植物は、『神植誌18』に記載された本種に該当する。	
【現状】 横須賀市の産地周辺は海岸域全体で天然記念物として保全されている。城ヶ島は今回は未調査。			

絶滅危惧 I B 類			
<b>クロモ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Hydrilla verticillata</i> (L.f.) Royle			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 —
【判定理由】 今回の調査では箱根芦ノ湖と海老名市の2調査区の3個の3次メッシュで確認された。護岸整備や外来種との競合によって生育環境が限定的である点に脆弱性がある。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 保土ヶ谷○・相模原-1◎・相模原-2△・海老名●・茅ヶ崎-2△・小田原-3◎・箱根-3●	
【生育環境・生態】 止水～流水までの水域環境に生える沈水生の多年草	【存続を脅かす要因】 産地局限、水質汚濁、農薬汚染、池沼開発、帰化競合	【特記事項】 過去の標本記録からは、県内では元々記録が少ない上に、長期間にわたって緩やかに減少しているものと考えられる。近年の減少は、水路の三面護岸化による生育環境の消失、生育環境が類似するオオカナダモ、コカナダモとの競合が主な原因として考えられる。	

絶滅			
<b>トチカガミ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer			1995 絶滅危惧種 F
		環境省	2020 準絶滅危惧
【判定理由】 古くから県内各地の数か所で採集された標本が残されているが、1989年の茅ヶ崎市での標本を最後に、継続した生育地での生育記録は途絶えた。30年以上生育が確認されておらず、事実上絶滅状態にある。2010年に海老名市で、他の過去記録のない水生植物ともに採集されたが、同地のものは移入と判断した。	【国内分布】 本州、四国、九州、琉球	【県内分布】 鶴見△・逗子△・三浦△・座間△・茅ヶ崎-1◎・茅ヶ崎-2△	
【生育環境・生態】 富栄養の湖沼やため池などに生える浮葉生の多年草	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 ・標本: 生見尾(横浜市鶴見区)1913.6.9 宮代周輔 YCB37238; 逗子 s.d. 久内清孝 大阪市立自然史博物館; 茅ヶ崎 1951.9.8 宮代周輔 YCB108240; 座間村 1934.8.15 金井茂 津久井郷土資料館; 有馬村社家(現在は海老名市) 1906.8. 岡村 ACM-PL31114; 茅ヶ崎市堤 1983.5.31 三輪徳子 HCM033931、同 1989.9.27 CCM001894。	
【現状】 —			

## 絶滅

## ムサシモ

*Najas ancistrocarpa* A.Braun ex Magnas

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

## 【判定理由】

県内の記録は、1870年に記載された本種の基準標本産地（横浜）の記録に限られる。

## 【国内分布】

本州、四国

## 【県内分布】

—

## 【生育環境・生態】

水田などに生える沈水生の一年草

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【現状】

—

## 準絶滅危惧

## サガミトリゲモ

*Najas chinensis* N.Z.Wang

神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

## 【判定理由】

『神RDB06』では記録された産地が 10 地点以下であったことから絶滅危惧 II 類と判定されたが、今回の調査では 14 調査区の 24 個の 3 次メッシュで記録されたため準絶滅危惧と判定した。

1980年代の記録が最も古く、近年になって認識された分類群と考えられる。県内の生育地は水田であり、水田環境の減少が本種の生育に対する脆弱性である。

## 【国内分布】

本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

緑●・泉●・葉山●・相模原-2◎・城山●・大和◎・座間●・海老名●・厚木-5●・伊勢原-2●・藤沢-2●・寒川●・平塚-2●・二宮◎・小田原-2●・小田原-3●・大井●

## 【存続を脅かす要因】

水田の畑地化、土地造成、農薬汚染

## 【生育環境・生態】

水田などに生える沈水生の一年草

## 【現状】

—

## 絶滅危惧 I A 類

## ホッサモ

*Najas graminea* Delile

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では 2 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認されたにすぎない。元々分布が点在していた上に、現在の生育地は限定的で生育環境の変化に対して脆弱な状況にあるため、判定基準よりも厳しく絶滅危惧 I A 類とした。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

中△・戸塚△・多摩△・麻生○・座間●・厚木-1◎・寒川○・小田原-3●

## 【生育環境・生態】

水田などに生える沈水生の一年草

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、水田の畑地化、土地造成、水質汚濁、農薬汚染

## 【現状】

1920年代から県内各地の平地～丘陵地での記録がある。2000年頃までは川崎市、厚木市でも記録されたが、過去 10 年ほどは座間市と小田原市からのみで記録される状況となり、緩やかに減少傾向にある。

準絶滅危惧			
イトトリゲモ <i>Najas japonica</i> Nakai	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	減少種 H
	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では調査区単位で37%減少したことから絶滅危惧Ⅱ類と判定されたが、今回の調査では19調査区で確認されたため準絶滅危惧と判定した。1980年代の記録が最も古く、近年になって認識された分類群と考えられる。県内の生育地は水田であり、水田環境の減少が本種の生育に対する脆弱性である。

【生育環境・生態】  
水田などに生える沈水生の一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
青葉○・多摩△・麻生●・葉山●・相模原-2○・城山●・相模湖●・座間●・海老名●・厚木-1●・厚木-5●・愛川●・伊勢原-1●・秦野-1●・秦野-3●・秦野-5●・藤沢-2○・寒川●・平塚-1●・小田原-2●・小田原-3●・南足柄-3●・開成●・箱根-3○

【存続を脅かす要因】  
水田の畑地化、土地造成、水質汚濁、農薬汚染

絶滅危惧ⅠA類			
イバラモ <i>Najas marina</i> L.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
		1995	絶滅危惧種 D
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では芦ノ湖が唯一の産地であり、1800年代から標本記録がある。分布が限られており、記録も少ない点で生育環境の脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
湖、池、沼、水路などに生える沈水生の一年草

【現状】  
生育環境は変化なし。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
箱根-3●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧ⅠA類			
トリゲモ <i>Najas minor</i> All.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
		1995	絶滅危惧種 D
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
1912年以降、県内数か所の低地で標本記録があるが、1983年の平塚市での記録を最後に生育は確認されていない。30年以上生育が確認されておらず、事実上絶滅状態にあるが、今回は絶滅危惧ⅠA類とした。

【生育環境・生態】  
池、沼、水田などに生える沈水生の一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
鎌倉-1△・茅ヶ崎-2△・平塚-2○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、水田の畑地化、農薬汚染、水質汚濁

## 絶滅危惧 I A 類

## イトイバラモ

*Najas yezoensis* Miyabe

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

## 【判定理由】

県内では芦ノ湖が唯一の産地であり、1950年代から標本記録がある。分布が限られており、記録も少ない点で生育環境の脆弱性がある。

## 【国内分布】

北海道、本州(青森県、神奈川県)

## 【県内分布】

箱根-3●

## 【生育環境・生態】

湖、池、沼、水路などに生える沈水生の一年草

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【現状】

生育環境は変化なし。

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園

## 絶滅危惧 II 類

## ミズオオバコ

*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 H
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

## 【判定理由】

『神RDB06』では調査区単位で 50%減少したことから絶滅危惧 I B 類と判定されたが、今回の調査では 12 調査区で確認され、絶滅危惧 II 類にランクを下げた。県内の生育地は水田やその周辺の水域であり、水田環境の減少が本種の生育に対する脆弱性である。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

鶴見△・南△・金沢◎・戸塚●・栄○・麻生○・鎌倉-1◎・葉山△・三浦◎・座間●・海老名●・厚木-1●・厚木-5●・伊勢原-2●・秦野-3◎・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-1●・平塚-2○・小田原-3●・中井○・大井●

## 【生育環境・生態】

水田、水路、ため池などに生える沈水生の一年草

## 【存続を脅かす要因】

土地造成、農薬汚染

## 【現状】

県内では沖積低地と周辺の丘陵地に分布が見られる。多くの生育地で継続して生育が確認されているが、鎌倉市など近年の記録がない過去産地もある。

## 絶滅危惧 I B 類

## セキシヨウモ

*Vallisneria asiatica* Miki

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

## 【判定理由】

古くは 1909年の平塚市の記録をはじめとして、県内各地の低地と芦ノ湖で採集された標本が残されている。芦ノ湖以外では 1980年の横浜市の標本を最後に記録されておらず絶滅したと考えられる。現存するのは芦ノ湖 1 か所であるが、安定して生育しているので絶滅危惧 I B 類と判定した。分布と生育地が限られている点で脆弱性がある。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

鶴見○・神奈川△・栄△・箱根-3●

## 【生育環境・生態】

湖沼、河川、水路などに生える多年草

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、池沼開発、水質汚濁

## 【現状】

芦ノ湖では安定して生育している。

絶滅危惧 I A 類			
<b>コウガイモ</b>	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —

【判定理由】  
現存するのは川崎市登戸付近の多摩川のみ。分布が限られており、生育数も少ないと考えられる点で生育環境の脆弱性がある。

【国内分布】  
本州、九州

【県内分布】  
多摩◎

【生育環境・生態】  
湖沼、河川、水路などに生える沈水生の多年草

【存続を脅かす要因】  
産地局限、河川開発、水質汚濁

【現状】  
県内では 1980年に川崎市で採集されたものが最も古い記録である。現在も同地一帯に継続して生育が見られる。

## シバナ科

絶滅			
<b>シバナ</b>	<i>Triglochin asiatica</i> (Kitag.) A. & D. Löve	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
横浜市平沼付近に生育していた記録があるが、同地付近は埋め立てられ 1920年の標本記録を最後に生育は確認されていない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
西△

【生育環境・生態】  
河口や内湾などの塩湿地に生える多年草

【存続を脅かす要因】  
—

【現状】  
河口や内湾などの塩湿地に生育する植物で、海流などによる種子供給があれば定着する可能性があるが、現在の県内には生育に適した環境がほぼ存在しない。

【特記事項】  
・標本:横浜市平沼 1920.8.10 K.Hisauchi TL.

## アマモ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>エビアマモ</b>	<i>Phyllospadix japonicus</i> Makino	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
鎌倉市の小動岬から稲村ヶ崎にかけて、2 調査区の 3 か所で現存が確認された。過去数十年で明確な原因が不明なまま分布地が明らかな減少傾向にある上、残された分布地においても生育面積も限られている点で生育環境の脆弱性がある。県内の海草類のうちで、最も絶滅が危惧される種である。

【国内分布】  
本州(茨城県北部)、佐渡島以南

【県内分布】  
鎌倉-1●・鎌倉-2●・逗子△・城ヶ島△

【生育環境・生態】  
岩礁潮間帯から潮下帯に生える海草

【存続を脅かす要因】  
海岸開発

【現状】  
1950～1960年代には三浦市、逗子市など相模湾側の三浦半島西岸一帯からの標本記録が残されている。現在は鎌倉市の一部にのみ生育する。『神RDB06』によると七里ヶ浜の汀線から 20mほど沖合に広がる岩礁上に幅100m、長さ1kmにわたって 1,000単位のパッチがあると推定されている。

【特記事項】  
・標本:鎌倉市名越～逗子市小坪 1966.11.23 小林純子 MAK; 三浦市城ヶ島 1950.5.30 古沢潔夫 TL.

アマモ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">タチアマモ</div> <p><i>Zostera caulescens</i> Miki</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では3調査区の6地点で確認された。三浦半島の横須賀市、三浦市一帯の浅海中に分布する。局所的には浚渫や覆砂、台風などの影響で一時的に生育環境が破壊される懸念があるが、近隣の比較的広い範囲に生育地が分布することから、比較的安定した生育状況にあると考えられる。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 長さ5mになる海草</p> <p><b>【現状】</b> 三浦半島沿岸の水深3～10mに生育。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部～北部)</p> <p><b>【県内分布】</b> 横須賀-1◎・横須賀-2◎・横須賀-4●・横須賀-5●・三浦●・平塚-3◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 海岸開発、海洋汚染</p>								

アマモ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">コアマモ</div> <p><i>Zostera japonica</i> Asch. &amp; Graebn.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では3調査区の6個の3次メッシュで確認された。生育に適した環境が著しく減少し、生育環境が限られている点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 河口や干潟などの浅海に生える海草</p> <p><b>【現状】</b> 横浜市の東京湾沿岸から三浦半島を経て平塚市までの河口付近の干潟や浅い海中に分布する。近年の記録に限られていることから、河川整備や海岸整備による生育環境の顕著な減少が懸念される。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 神奈川△・金沢◎・横須賀-1◎・横須賀-4●・横須賀-5◎・鎌倉-1△・鎌倉-2●・三浦●・藤沢-3◎・茅ヶ崎-2◎・平塚-3◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 海岸開発、海洋汚染</p>								

ヒルムシロ科

絶滅危惧ⅠB類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">イトモ</div> <p><i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 F</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	絶滅危惧種 F	環境省	2020	準絶滅危惧
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	絶滅危惧種 F							
環境省	2020	準絶滅危惧							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区の4か所で確認された。分布が局在し、個体数が限定的である点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 池、沼、水路などに生える沈水生の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 古くは川崎市、横浜市から記録があるが、1980年代以降は相模川流域(厚木市、清川村、寒川町、茅ヶ崎市)と藤沢市、箱根町で採集されている。しかし、2000年以降の記録は厚木市のみであり、生育地が減少傾向にある可能性がある。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 鶴見△・多摩△・厚木-1●・厚木-2◎・厚木-5◎・清川-2◎・清川-3◎・藤沢-2◎・茅ヶ崎-2△・寒川○・箱根-1◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、池沼開発</p>								

絶滅			
<b>ガシヤモク</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Potamogeton dentatus</i> Hagstr.		環境省	2020
			絶滅 — 絶滅危惧 I A 類

**【判定理由】**  
県内の記録は、1862年に横浜で採集された本種の基準標本に限られる。

**【生育環境・生態】**  
沈水生の多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州、九州

**【県内分布】**  
—

**【存続を脅かす要因】**  
—

絶滅危惧 I A 類			
<b>フトヒルムシロ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Potamogeton fryeri</i> A.Benn.		環境省	2020
			絶滅危惧 I A 類 希少種 —

**【判定理由】**  
生育地は仙石原湿原の1生育地のみ。唯一の生育地が狭い湿地である点に脆弱性がある。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

**【生育環境・生態】**  
古い安定した池沼や湿地の開放水面に生える浮葉生の多年草

**【現状】**  
県内では1957年に箱根町で記録されて以降、同地で継続して生育が確認されてきた。『神植誌88』以後の生育地は仙石原湿原天然記念物指定地に近い深さ1mほどの水たまりであったが、2019～2020年には発生が見られず、消滅が危惧される。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区

準絶滅危惧			
<b>センニンモ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Potamogeton maackianus</i> A.Benn.		環境省	2020
			絶滅危惧 II 類 減少種 G —

**【判定理由】**  
今回の調査では9調査区で確認され、調査区単位の減少も見られないことから準絶滅危惧と判定した。近年も比較的広域で採集されているが、局所的な生育環境が脆弱であることが想像され、今後も河川改修などで消失する懸念がある。

**【生育環境・生態】**  
湖沼や河川に生える沈水生の常緑の多年草

**【現状】**  
芦ノ湖、相模川水系(厚木市、海老名市、茅ヶ崎市、愛川町、寒川町)、金目川水系(伊勢原市、平塚市)で生育が見られる。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
海老名●・厚木-1◎・厚木-2●・愛川●・伊勢原-2●・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-1●・平塚-3●・箱根-3●

**【存続を脅かす要因】**  
河川開発、水質汚濁

ヒルムシロ科

絶滅危惧 I A 類			
ササエビモ <i>Potamogeton nipponicus</i> Makino	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
1 調査区の 1 か所(箱根芦ノ湖)にのみ生育する。分布が限られており、記録も少ない点で生育環境の脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
冷涼地の湖沼や河川に生える沈水生の多年草

【現状】  
県内では芦ノ湖が唯一の産地であり、1800年代から標本記録がある。

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
箱根-3●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
基準産地の1つは芦ノ湖  
・保護の現状: 国立公園

ヒルムシロ科

絶滅危惧 I B 類			
ホソバミズヒキモ <i>Potamogeton octandrus</i> Poir.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では 2 調査区の 2 か所で確認された。局所的な生育状況から生育環境が脆弱であることが想像され、今後も河川改修などで消失する懸念がある。

【生育環境・生態】  
ため池や水路に生える沈水生の多年草。県内では流水型と呼ばれる浮葉のない型のみが見られる。

【現状】  
1979年の茅ヶ崎市での記録以降、川崎市、相模原市、愛川町での標本記録がある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
多摩◎・相模原-1●・愛川◎・茅ヶ崎-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、河川開発、水質汚濁

ヒルムシロ科

絶滅危惧 I A 類			
ヒロハノエビモ <i>Potamogeton perfoliatus</i> L.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅種 A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では1調査区の 1 か所(箱根芦ノ湖)にのみ生育する。分布が限られており、記録も少ない点で生育環境の脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
自然度の高い湖沼などに生える沈水生の多年草

【現状】  
県内では芦ノ湖のみに産する。1926年の標本記録以降、長らく採集されていなかったが、1996年に再確認され、以降継続して生育が確認されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
箱根-3●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧 I B 類			
ツツイトモ	神奈川県	2006	—
		1995	—
<i>Potamogeton pusillus</i> L.	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
今回の調査では 1 調査区の 2 か所で確認された。分布が局地的な点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
ため池や水路に生える沈水生の多年草

【現状】  
川崎市や県央地域を中心に古くから各地で記録がある。近年は県内各地の公園の池などでも見つかっている。小規模な池の場合には水質の変化などから短期間に消失する可能性がある。また、現状確認されている生育地が少ないことから既知産地での安定的な存続には懸念がある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
厚木-1◎・厚木-3◎・清川-2●・平塚-1○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、河川開発、水質汚濁

準絶滅危惧			
ササバモ	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
		1995	減少種 H
<i>Potamogeton wrightii</i> Morong	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では 8 調査区で確認され、調査区単位では減少がないことから、準絶滅危惧に判定した。河川における局所的な生育状況から生育環境が脆弱であることが想像され、今後も河川改修などで消失する懸念がある。

【生育環境・生態】  
ため池や水路に生える浮葉または沈水生の多年草

【現状】  
多摩川水系(川崎市)、相模川水系(厚木市、海老名市、茅ヶ崎市、寒川町)、金目川水系(平塚市)、酒匂川水系(小田原市)の中下流域で生育が見られる。近年も比較的広域で採集されているが、局所的な生育環境が脆弱であることが想像され、今後も河川改修などで消失する懸念がある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見△・港北△・瀬谷◎・中原●・多摩●・座間△・海老名●・厚木-2△・厚木-5●・茅ヶ崎-2◎・寒川●・平塚-2◎・平塚-3●・大磯◎・小田原-2●・小田原-3●・箱根-3◎

【存続を脅かす要因】  
河川開発、暗渠化

絶滅危惧 II 類			
リュウノヒゲモ	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	減少種 G
<i>Stuckenia pectinata</i> (L.) Börner	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
県内各地で古くから記録がある。今回の調査では 7 調査区で確認され、調査区単位の顕著な減少は見られないが、産地は相模川と酒匂川の下流域に集中することから絶滅危惧 II 類と判定した。小規模な池の場合には水質の変化などから短期間に消失する可能性がある。

【生育環境・生態】  
沿海地の湖沼、河川、水路などに生える沈水生の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
瀬谷◎・横須賀-3○・座間○・海老名●・厚木-2△・厚木-5●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-3○・小田原-3●・大井●・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
河川開発、暗渠化、水質汚濁

## 絶滅

## イトクズモ

*Zannichellia palustris* L.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

1968年に採集された標本を最後に確認されていない。

## 【生育環境・生態】

河口や内湾などの塩湿地に生える沈水生の多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

三浦△

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

・標本:三浦市南下浦町松輪江奈 1968.4.21 小板橋八千代 YCM-V007767

## カワツルモ科

## 絶滅

## カワツルモ

*Ruppia maritima* L.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 B
環境省	2020	準絶滅危惧

## 【判定理由】

横浜市と川崎市の古い時期の標本が残されているが、1914年の横浜市の記録を最後に確認されていない。

## 【生育環境・生態】

沿海地の塩分の混じる止水に生える沈水生の多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

鶴見△・南△・川崎△

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

・標本:武州川崎大師河原 1881.5.27 TI; 生麦 1914.6.28 牧野富太郎 MAK226849; 久良岐郡大岡村田中(現在は横浜市南区) 1907.8. 横山秀雄 ACM-PL31437

## キンコウカ科

## 絶滅危惧ⅠA類

## ネバリノギラン

*Aletris foliata* (Maxim.) Bureau & Franch.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では1調査区の1か所のみで確認された。生育面積が限定的な点、県内の高標高地にのみ分布することから気候変動の影響を受けやすい点に脆弱性がある。

## 【生育環境・生態】

県内では丹沢や箱根の山上の風衝草地や岩上に点在して分布する。

## 【現状】

判定理由に述べたとおりの脆弱性があるが、生育環境はシカによる採食の影響を受けにくい立地であり、その他にも差し迫った危機の状態にはないものと考えられる。

## 【国内分布】

北海道(南西部)、本州

## 【県内分布】

津久井-1○・津久井-2○・伊勢原-1△・大山◎・秦野-1◎・秦野-3●・箱根-1○・箱根-5○

## 【存続を脅かす要因】

自然遷移

## 【特記事項】

・保護の現状:国立公園、国定公園

絶滅危惧 I A 類							
<p><b>ソクシンラン</b></p> <p><i>Aletris spicata</i> (Thunb.) Franch.</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td>減少種 G</td> </tr> </table>	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G
2006	絶滅危惧 I A 類						
1995	減少種 G						
		環境省	2020				

**【判定理由】**  
今回の調査では1調査区の1か所のみで確認された。分布が局在し、個体数が限定的である点、生育環境がかろうじて維持されている点に脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
県内では沿海地や低山地の草地に生える多年草

**【現状】**  
おそらく分布の北限に近いため、元々稀な植物である。生育に適した草地環境の著しい減少により存続が危ぶまれる。

**【国内分布】**  
本州(関東以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
金沢●・三浦○・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成、自然遷移、産地局限

ヒナノシャクジョウ科

絶滅							
<p><b>ヒナノシャクジョウ</b></p> <p><i>Burmanna championii</i> Thwaites</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td>絶滅危惧種 E</td> </tr> </table>	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E
2006	絶滅						
1995	絶滅危惧種 E						
		環境省	2020				

**【判定理由】**  
古くは文献に箱根の記述もあるが、県内では1990年に川崎市で確認されたものが唯一の確実な記録である。この生育地では失われたことが確認されている。

**【生育環境・生態】**  
常緑広葉樹林の落葉の中に生える多年生の腐生植物

**【現状】**  
丈が低く目につきにくい植物である他、本県は分布の北限付近に当たり、本種の生育環境に適した腐植質が多く空中湿度の高い林床も限られているため、偶発的に生じたものの一部が記録されていると考えられる。

**【国内分布】**  
本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
多摩◎

**【特記事項】**  
・標本:川崎市多摩区榎形 1990.7.2 吉田三夫 KMM-SP002424

ホンゴウソウ科

絶滅							
<p><b>ホンゴウソウ</b></p> <p><i>Sciaphila nana</i> Blume</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	2006	絶滅	1995	—
2006	絶滅						
1995	—						
		環境省	2020				

**【判定理由】**  
県内では1993年に横須賀市で、2009年に横浜市で確認された2件の記録があるのみである。いずれの産地も1~2年で消滅したことが確認されている。

**【生育環境・生態】**  
樹林内に生える多年生の腐生植物

**【現状】**  
丈が低く目につきにくい植物であるほか、本種の生育環境に適した腐植質が多く空中湿度の高い林床も限られているため、偶発的に生じたものの一部が記録されていると考えられる。

**【国内分布】**  
本州(関東以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
青葉●・横須賀-5◎

**【特記事項】**  
・標本:横浜市青葉区鴨志田町鴨志田公園 2009.9.21 増永貴美子 KPM-NA0164130; 横須賀市長沢 1993.9.28 山内好孝 KPM-NX0001185.

絶滅危惧ⅠA類

クルマバツクバナソウ

*Paris verticillata* M.Bieb.

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では丹沢の1調査区内の複数の植生保護柵内で確認されているが、個体数が少ない(50株未満)ため絶滅危惧ⅠA類と判定した。  
分布が局在し、個体数が限定的である点、シカによる採食の影響の懸念がある点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

ブナ帯の林内に生える多年草

【現状】

箱根、丹沢山地のブナ帯を中心に古くから知られているが、数は少ない。ただし、丹沢山地では植生保護柵に出現したものが観察された例があり、ニホンジカの被食により影響を受けている。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

相模原-3○・津久井-1◎・津久井-2●・清川-1△・山北-3△・箱根-1△・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】

産地局限、シカ影響

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、国定公園、植生保護柵

絶滅危惧Ⅱ類

ミヤマエンレイソウ

*Trillium tschonoskii* Maxim.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では4調査区の11個の3次メッシュで記録された。判定基準からははずれるが、調査区単位で『神植誌88』との比較で約40%減少が見られることから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

分布が局在し、個体数が長期的に減少傾向にある点、シカによる採食の影響の懸念がある点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

ブナ帯の林内に生える多年草

【現状】

古くから丹沢山地一帯のブナ帯で見られる。現状でも広範囲での存続が見られるが、丹沢山地のブナ帯の林床は過去数十年にわたりシカによる採食の影響を継続して受け続けており、本種もボトルネック等、長期的な生残に関連する何らかの影響を受けている懸念がある。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

津久井-1○・津久井-2●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2◎・秦野-1○・山北-1◎・山北-2○・山北-3○・山北-4●

【存続を脅かす要因】

シカ影響

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、国定公園

絶滅危惧Ⅱ類

シュロソウ

*Veratrum maackii* Regel var. *reymondianum* (O.Loes.) H.Hara

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では6調査区で確認され、調査区単位で『神植誌88』との比較で約50%減少が見られた。  
生育に適した環境の顕著な減少、保全活動によって維持されている点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

丹沢、箱根の山地上部では草地に、横浜市から相模原市の丘陵地では明るい雑木林内で見られる。

【現状】

低山地丘陵地では生育に適した草地環境の著しい減少により存続が危ぶまれる。特に、丹沢、箱根では近年の記録が限られており、継続して減少傾向にあると考えられる。記録のある低山地丘陵付近では保全活動によって維持されていると考えられる場合もある。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

保土ケ谷◎・旭●・緑●・相模原-1○・相模原-2◎・相模原-3◎・相模原-4●・津久井-1○・津久井-2△・相模湖●・藤野-1●・清川-1△・秦野-3○・秦野-5◎・小田原-2◎・山北-2○・山北-3●・箱根-1○

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移

ユリ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
<b>カタクリ</b>	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.	神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では5調査区で記録され、生育地の約60%が減少したことから絶滅危惧ⅠB類と判定された。今回の調査では再発見と新産地をあわせて7調査区で確認されたため、1ランク下げた。  
生育地が少なく、いずれの生育地でも個体数が限られていること、保全活動によって維持されている生育地が複数ある点が主な脆弱性である。

【生育環境・生態】  
県北部の丘陵地から低山地の明るい樹林内に群生する多年草

【現状】  
古くに記録のある川崎市、横浜市北東部一帯では生育が見られなくなって久しい。

【国内分布】  
北海道(南千島、南部)、本州、四国

【県内分布】  
緑●・相模原-4●・津久井-5●・藤野-1●・藤野-2●・厚木-1●・愛川●

【存続を脅かす要因】  
土地造成、管理放棄、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状:藤野町馬本の自生地は県指定の天然記念物

ユリ科

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>キバナノアマナ</b>	<i>Gagea nakaiana</i> Kitag.	神奈川県	1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内の記録は、1986年に相模原市のスギ林下で採集された標本に限られる。同地では1994年までに伐採によって樹林が消失し、以降の生育も確認されていない。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
津久井-5○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:津久井町稲生 1986.4.6 高橋秀男 KPM-NA1069529.

ユリ科

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
<b>クルマユリ</b>	<i>Lilium medeoloides</i> A.Gray	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
3調査区の3か所で確認され、今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB類になった。分布が局在し、個体数が限定的である点、植生保護柵で維持されている点、遺伝的なボトルネックがかかったことが懸念される点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
シラビソ帯の草原に生える多年草。標高の低い丹沢ではブナ帯の林床に生える。

【現状】  
シカによる採食の影響によって、1980年代以降はほとんど見られないまでに減少した。近年では植生保護柵内を中心に確認される。箱根では1930年の標本が残されているが、以降の生育は確認されていない。

【国内分布】  
北海道、本州(近畿以北)、四国

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2●・清川-1●・山北-2○・山北-3○・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
シカ影響、温暖化

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園の特別保護地区、植生保護柵  
・標本:早雲山 1930.7.13 澤田武太郎 KPM-NA0138294.

ユリ科

絶滅危惧 I A 類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ホソバナアマナ</div> <p><i>Lloydia triflora</i> (Ledeb.) Baker</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	
		1995	絶滅危惧種 D	
	環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
 今回の調査では箱根の 1 調査区の 1 か所で確認されたのみ。生育地が局在し、個体数も少ないことから、わずかな環境の変化で消失する可能性がある。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

**【生育環境・生態】**  
 草地や疎林内に生える多年草

**【現状】**  
 丹沢、箱根の山地上部で限られた記録がある。

**【国内分布】**  
 北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
 秦野-1◎・箱根-4●

**【存続を脅かす要因】**  
 産地局限

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国立公園、国定公園

ユリ科

絶滅危惧 I B 類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ヤマジノホトトギス</div> <p><i>Tricyrtis affinis</i> Makino</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	
		1995	—	
	環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
 1 調査区の 4 か所で記録され、今回の判定基準では絶滅危惧 I B 類と判定された。  
 県内では 1982年に相模原市で標本が記録されて以降、同地で継続して記録がある。県内に産する植物としては他にはない分布である。分布が局在する点に脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
 樹林内や草地に生える多年草

**【現状】**  
 —

**【国内分布】**  
 北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
 藤野-1●

**【存続を脅かす要因】**  
 産地局限

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 県立自然公園

ユリ科

絶滅危惧 I B 類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">サガミジョウロウホトトギス</div> <p><i>Tricyrtis ishiana</i> (Kitag. &amp; T.Koyama) Ohwi &amp; Okuyama</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	
		1995	希少種	
	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類	

**【判定理由】**  
 3 調査区に生育するが、生育範囲は 2~3 個の 3次メッシュ内である。分布が局在し、生育地が限定的な点に脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
 岩場に生える多年草

**【現状】**  
 1957年に丹沢で採集された標本をもとに記載された。高所の岸壁に分布が局在する植物で生育地も限られている。ただし、生育環境は安定しており、近年の個体数の減少も見られない。

**【国内分布】**  
 神奈川県、静岡県(変種スルガジョウロウホトトギス)

**【県内分布】**  
 清川-1●・秦野-1●・秦野-2◎・秦野-3●

**【存続を脅かす要因】**  
 過剰採取、治山工事、産地局限

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国定公園、国内希少野生動植物種

◀写真あり: 口絵1▶

準絶滅危惧			
タマガワホトトギス <i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では丹沢の4調査区7か所で確認され、判定基準では絶滅危惧Ⅱ類となるが、丹沢の1,000m以上では十分な調査が行えなかったことを考慮して準絶滅危惧と判定した。  
生育地ごとの個体数は少なくないが、生育はやや稀である。局所的に集中して生育しているため、森林環境の変化などにより影響を受ける懸念がある。

【生育環境・生態】  
県内では丹沢山地一帯に分布し、ブナ帯の沢沿いや湿った斜面にまとまって生育が見られる。主稜線の登山道沿いでもよく見かける。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1◎・津久井-2●・清川-1●・山北-1◎・山北-2●・山北-3●・山北-6◎

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園

準絶滅危惧			
アマナ <i>Tulipa edulis</i> (Miq.) Baker	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	減少種 H
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では31調査区の約40%の12調査区で失われたことから絶滅危惧Ⅱ類と判定された。今回の調査では36調査区で確認されたため準絶滅危惧に判定した。  
広範囲に分布するが、生育地内では点在して生育し、個体数は多くない点、多くの生育地で保全活動によって維持されていると考えられる点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
県内では沖積地周辺の丘陵地に広く分布し、農耕地周辺や明るい林内に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
中●・南●・港南●・旭●・金沢◎・港北○・緑◎・青葉●・都筑○・戸塚●・栄●・麻生●・横須賀-1●・横須賀-2○・三浦●・相模原-1●・相模原-3●・相模原-4●・城山●・津久井-4○・津久井-5●・相模湖●・藤野-2●・大和●・綾瀬◎・厚木-1●・厚木-3●・厚木-4●・愛川●・清川-3●・伊勢原-1●・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4●・秦野-5●・藤沢-1●・藤沢-2●・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・平塚-1◎・大磯◎・二宮●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-3◎・中井●・箱根-1△

【存続を脅かす要因】  
土地造成

準絶滅危惧			
シラン <i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rchb.f.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
		1995	絶滅危惧種 E
	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では、『神植誌01』で記録された7メッシュのうち2メッシュで1995年以降の確認がなく、減少率が29%となり絶滅危惧ⅠB類とされたが、今回は12調査区で確認された。しかし本種は栽培が盛んであるため、逸出由来を疑わざるを得ない。これは生息条件が悪化していることに相当し、準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
日当たりの良いやや湿った草地や斜面に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(福島県以西)、四国、九州、琉球; 朝鮮(南部)

【県内分布】  
鶴見△・神奈川△・港南●・金沢◎・港北●・戸塚○・栄●・鎌倉-1●・鎌倉-2●・相模原-4●・大和●・厚木-1○・伊勢原-1●・伊勢原-2●・藤沢-3△・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2△・平塚-1◎・平塚-2●・大磯◎・二宮●・箱根-5○

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、土地造成

【特記事項】  
園芸目的の栽培が普及しており、条件が良ければ特段の手入れをしなくても増殖するため、今回確認、採集された地点についても栽培由来である可能性が否めない。自然分布かどうかの判別が難しい状況にあることは生物多様性の観点から重大な懸念であると言える。

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ムギラン</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.			1995 減少種 G
		環境省	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
『神RDB06』では着生木を単位とすると2本のみとして絶滅危惧 I A 類とされたが、今回は3調査区で現存が確認されたため絶滅危惧 I B 類となった。ただし各調査区の個体数は少ない。

**【生育環境・生態】**  
常緑広葉樹林の樹幹や岩上に着生する常緑の多年草

**【現状】**  
着生する株内の個体は多いものの、着生木の本数が極めて少ない。

**【国内分布】**  
本州(茨城県以西)、四国、九州、小笠原

**【県内分布】**  
鎌倉-1●・南足柄-2●・山北-8●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
着生ランであるため、着生木に生育を依存しており、その本数が少ないことは生育環境が不安定な状況と言える。

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
<b>キソエビネ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Calanthe alpina</i> Hook f. ex Lindl.			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 絶滅危惧 I A 類

**【判定理由】**  
標本は1994年の箱根の1調査区のみで、2016年には写真が撮影されている。個体数は極めて少ない。丹沢では古い記録があるものの、現在は確認できない。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯～針葉樹林帯の樹林内に生える常緑の多年草

**【現状】**  
箱根では個体はやや小さくなっているが、毎年開花している。

**【国内分布】**  
本州(岩手県以南～中部地方)、四国

**【県内分布】**  
山北-3△・箱根-4◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、過剰採取

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園  
・標本: 山北町桧洞丸 1962.7.3 大場達之 KPM-NA0020371

ラン科

準絶滅危惧			
<b>エビネ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
<i>Calanthe discolor</i> Lindl.			1995 減少種 H
		環境省	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
確認された調査区は多く(64調査区)、顕著な減少傾向は見られないが、園芸目的の採取が後を絶たず、積極的な保護策を講じていない生育地では採取による消滅の危険が高い。また、生育環境である明るい雑木林が、管理放棄による環境の悪化や宅地造成等により消滅する危険が高い。

**【生育環境・生態】**  
主に落葉広葉樹林など比較的明るい樹林の林床に生える常緑性の多年草。手入れされたスギ植林地にも多い。

**【現状】**  
最近の10年間に限ると、以前ほどの急速な減少はみられないが、相変わらず見つかったと採取されやすい。

**【国内分布】**  
北海道(西南部以南)、本州、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
鶴見○・神奈川○・西◎・南○・港南●・保土ヶ谷●・旭●・磯子●・金沢◎・港北●・緑●・青葉●・都筑●・戸塚◎・栄●・瀬谷●・高津●・宮前●・多摩●・麻生●・横須賀-1●・横須賀-2○・横須賀-3○・横須賀-4○・横須賀-5●・鎌倉-1●・鎌倉-2●・逗子◎・葉山●・三浦●・相模原-1●・相模原-2○・相模原-3○・相模原-4●・城山●・津久井-3●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・大和●・座間○・綾瀬◎・海老名●・厚木-1●・厚木-2◎・厚木-3●・厚木-4●・愛川●・清川-2●・清川-3●・伊勢原-1●・伊勢原-2●・伊勢原-3●・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4●・秦野-5●・藤沢-1●・藤沢-2●・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2◎・寒川◎・平塚-1◎・平塚-2○・大磯●・二宮●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-3◎・小田原-4◎・南足柄-1◎・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-5○・山北-7○・山北-8●・中井●・大井●・松田●・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5●・箱根-6●・真鶴●・湯河原-1●・湯河原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
過剰採取、土地造成

絶滅危惧 I A 類			
キンセイラン <i>Calanthe nipponica</i> Makino	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
2011年に北丹沢の1調査区で県内新産として発見された。その後新たな記録は無い。

【生育環境・生態】  
深山の林地に生える常緑の多年草。

【現状】  
個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
北海道～九州

【県内分布】  
津久井-3●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園

〈写真あり: 口絵2〉

絶滅危惧 I B 類			
ナツエビネ <i>Calanthe puberula</i> Lindl.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅危惧種 E
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
古い文献記録では丹沢、箱根、三浦、小仏山地などに分布していたが(『神植目33』『神植誌58』『箱根目58』)、現在は丹沢および小仏山地の2調査区のみ確認された。『神RDB06』から1調査区増えたためランクが下がったものの、個体数は極めて少ない。

【生育環境・生態】  
やや湿った落葉樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
確認調査区における個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
北海道(南部)、本州、四国、九州

【県内分布】  
戸塚△・津久井-3△・藤野-1●・清川-1△・山北-4●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

準絶滅危惧			
キンラン <i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
近年、里山の環境管理の成果として休眠株が復活したり、個体数が増加したりする事例が多く、確認調査区数が増加傾向(72調査区)にある。しかし、園芸目的の採取の危険にさらされている状況は引き続きあり、今後の個体数変化の振幅も大きいことが推測されることから準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
山地や丘陵の疎林内や林縁に生える夏緑性の多年草

【現状】  
手入れの行き届いた雑木林内や林縁に好んで生える。一時期、雑木林の管理放棄によって著しく減少したが、里山環境の再現などにより各地で増加傾向にある。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見●・神奈川◎・西◎・南●・港南●・保土ヶ谷●・旭●・金沢●・港北●・緑●・青葉●・都筑●・戸塚●・栄●・瀬谷●・川崎●・幸●・高津○・宮前●・多摩●・麻生●・横須賀-1●・横須賀-2○・横須賀-3△・横須賀-5●・鎌倉-1●・鎌倉-2●・逗子●・葉山●・三浦●・相模原-1◎・相模原-2◎・相模原-3●・相模原-4●・城山●・津久井-3○・津久井-5●・相模湖○・藤野-1●・藤野-2●・大和●・座間●・綾瀬◎・海老名●・厚木-1●・厚木-2●・厚木-3●・厚木-4◎・厚木-5●・愛川●・清川-2●・清川-3●・伊勢原-1●・伊勢原-2●・伊勢原-3●・秦野-1○・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4●・秦野-5●・藤沢-1●・藤沢-2●・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2◎・寒川●・平塚-1●・平塚-2●・平塚-3●・大磯●・二宮●・小田原-1●・小田原-2●・小田原-3○・南足柄-1●・南足柄-2●・南足柄-3●・山北-4◎・山北-5●・山北-6●・山北-8●・中井●・大井●・箱根-1●・箱根-2●・箱根-5◎・箱根-6●・真鶴○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、自然遷移、管理放棄、土地造成

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ユウシュンラン</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 絶滅危惧種 D
<i>Cephalanthera subaphylla</i> Miyabe & Kudō		<b>環境省</b>	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
箱根や三浦、丹沢のごく限られた場所に少数が生育している。今回、確認されたのは 4 調査区の 5 か所に増えたが、新たに確認された場所では開発による生育環境の悪化が懸念されている。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯上部～ブナ帯のやや湿った腐植土の多い林床に生える夏緑性の多年草

【現状】  
確認された各調査区では複数の個体が確認されているが少ない。また、林道整備などによりかく乱を受けやすい場所に生育することが多く、生育立地の安定性は低い。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
多摩△・葉山●・津久井-3●・津久井-5●・清川-3○・大山△・箱根-5●・箱根-6◎

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

ラン科

絶滅危惧 II 類			
<b>ナギラン</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Cymbidium nagifolium</i> Masam.		<b>環境省</b>	2020 絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神RDB06』では 2 調査区に 50 株未満であったことから絶滅危惧 I A 類とされた。今回は三浦半島と真鶴半島の 5 調査区で確認されたため、ランクが下がったものの、それぞれの個体数は少なく、園芸目的の採取の危険が常にあるため絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】  
比較的海岸に近い常緑広葉樹林の林床に生える常緑性の多年草

【現状】  
三浦半島、真鶴岬ともに、生育する森の環境に変化はないが、見つかるとすぐに採取されてしまう状況は変わらない。

【国内分布】  
本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
多摩△・横須賀-1●・横須賀-2◎・横須賀-4△・横須賀-5●・逗子●・三浦●・真鶴●

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 真鶴は県立自然公園

ラン科

準絶滅危惧			
<b>サガミラン</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧 II 類
			1995 —
<i>Cymbidium nipponicum</i> (Franch. & Sav.) Rolfe		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
近年増加傾向にあり、今回は 14 調査区で確認されたことから判定外となるが、菌従属栄養植物であることから増減の振幅が大きいものと推測されるため、準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
常緑広葉樹林内に生える菌従属栄養植物であるが、葉緑素を持ち、光合成も行う。

【現状】  
近年低地の林内でも確認例が増え、増加傾向にあるが、これが一時的なものか、持続的なものかは今のところ判断がつかない。

【国内分布】  
本州(関東)

【県内分布】  
緑●・多摩●・横須賀-2◎・横須賀-5●・鎌倉-1◎・逗子●・三浦△・大和●・座間●・海老名●・厚木-2○・伊勢原-3●・秦野-3△・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・平塚-1●・大磯◎・二宮●・小田原-1◎・南足柄-3●・箱根-6●・真鶴◎

【存続を脅かす要因】  
不明

絶滅危惧ⅠB類			
<b>コアツモリソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
<i>Cypripedium debile</i> Rchb.f.			1995 減少種 G
		環境省	2020 準絶滅危惧
<b>【判定理由】</b>	今回、1 調査区 1 地点の確認であったが、『神植誌01』調査時に採集された産地での調査が不十分だったので、『神RDB06』と同様に絶滅危惧ⅠB類と判定した。個体数は極めて少ない。『箱根目58』には金時山の記録があるものの、『神植誌88』以降、箱根では確認できていない。	<b>【国内分布】</b>	北海道(渡島半島)、本州、四国、九州
<b>【生育環境・生態】</b>	山地の樹陰に生える夏緑性の多年草。モミ林や40年生以上の管理の良いスギ植林下で見つかることが多い。	<b>【県内分布】</b>	津久井-1△・清川-1●・清川-2△・山北-3△・山北-4◎・山北-5◎・山北-6◎
<b>【現状】</b>	スギ植林の手入れが悪いところが多く、場所によってはシカの採食が追い討ちをかけ、林床植生がまったくないところもある。	<b>【存続を脅かす要因】</b>	過剰採取、シカ影響
		<b>【特記事項】</b>	・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園
			◀写真あり: 口絵2▶

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>クマガイソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.			1995 減少種 H
		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類
<b>【判定理由】</b>	『神RDB06』では記録のある 27 調査区のうち 17 調査区(63%)で失われたため絶滅危惧ⅠB類とされた。今回、15 調査区で確認され、絶滅危惧Ⅱ類にランクを下げた。個体数も比較的多いが、スギ植林地や雑木林などの生育環境が管理放棄などによって悪化したり、園芸目的の採取の危険に常にさらされており、現在残っているのは里山として保全された私有地などに限定される。	<b>【国内分布】</b>	北海道、本州、四国、九州
<b>【生育環境・生態】</b>	シイ・カシ帯～ブナ帯の沖積地～山地の樹陰や竹林などに生える夏緑性の多年草	<b>【県内分布】</b>	鶴見△・南●・保土ヶ谷○・旭●・磯子●・金沢○・港北△・緑●・都筑◎・戸塚●・栄△・瀬谷◎・横須賀-1△・横須賀-4○・鎌倉-1△・逗子●・葉山◎・城山△・津久井-2△・津久井-5○・相模湖●・藤野-2◎・大和○・綾瀬◎・厚木-1●・厚木-4◎・愛川◎・清川-1●・清川-2△・清川-3●・伊勢原-1○・秦野-2○・秦野-3○・秦野-5△・藤沢-1◎・藤沢-3◎・茅ヶ崎-1●・平塚-1○・大磯●・小田原-1◎・小田原-3△・南足柄-2◎・南足柄-3○・山北-8●・中井○・大井●・箱根-1△・箱根-4△・箱根-6●・真鶴○
<b>【現状】</b>	残った生育地では開花数は比較的多いが、見つかるとうすぐに採取されてしまう状況は変わらない。	<b>【存続を脅かす要因】</b>	過剰採取、自然遷移、土地造成

絶滅			
<b>アツモリソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Cypripedium macranthos</i> Sw. var. <i>speciosum</i> (Rolfe) Koidz.			1995 絶滅種 B
		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類
<b>【判定理由】</b>	1960年代までに箱根と丹沢で採集された標本が多数残っているほか、『神植目33』『神植誌58』などの古い文献では比較的広い山域に分布することが示されている。しかし、『神植誌88』以降は記録が途絶え、絶滅したものと考えられる。	<b>【国内分布】</b>	北海道、本州(中部以北)
<b>【生育環境・生態】</b>	山地の草原や疎林内に生える夏緑性の多年草	<b>【県内分布】</b>	津久井-1△・津久井-2△・秦野-4△・山北-4△・松田△・箱根-1△・箱根-4△・箱根-6△
<b>【現状】</b>	—	<b>【存続を脅かす要因】</b>	—
		<b>【特記事項】</b>	・標本: 箱根神山 1948.5.30 伊達健夫 TNS80241; 松田町鍋割山 1960.6.5 西尾和子 KPM-NA0000101など。

ラン科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
アオチドリ <i>Dactylorhiza viride</i> (L.) R.M.Bateman, Pridgeon & M.W.Chase		神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
過去に丹沢のブナ帯で記録があるものの少なく、1984年以降は確認できていない。まだ再発見の可能性があるので絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の湿地気味のところに生える夏緑性の多年草

【現状】  
近年の生育状況は不明。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)、四国(剣山、東赤石山)

【県内分布】  
清川-1△・秦野-1○・箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区

ラン科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
イチヨウラン <i>Dactylostalix ringens</i> Rchb.f.		神奈川県	1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根で採集された古い標本と『神植目33』『神植誌58』は箱根、『箱根目58』は神山、双子山の記録がある。『神植誌88』の調査では見つからず、『神RDB95』では絶滅として扱われた。その後、『神植誌01』では丹沢のブナ帯の樹林内に生えているのが1か所で発見された。今回は2006年に北丹沢の1か所で確認された記録のみである。

【生育環境・生態】  
ブナ帯～針葉樹林帯の樹林内に生える夏緑性の多年草

【現状】  
丹沢の高標高域では稜線の高木が枯死し、生育環境が悪化している。

【国内分布】  
北海道、本州(近畿以北)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-2●・清川-1◎・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林衰退、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 箱根町大涌谷 1930.5.29 澤田武太郎 KPM-NA0081405.

ラン科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
セッコク <i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.		神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では丹沢、箱根の山地、山麓のスギ、モミ、カヤ、アカガシなどの大木に着生し、所によっては大株も見られるが少なく。今回は3調査区の3か所で確認された。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い樹幹や岩上に着生する常緑性の多年草

【現状】  
目立つ場所の個体は園芸用に採取されることが多く、現存する株の多くは人目に付きにくい沢筋の高木上が多いと考えられる。

【国内分布】  
本州(岩手県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見△・小田原-3△・南足柄-2●・山北-4◎・山北-6●・箱根-2●・箱根-6△

【存続を脅かす要因】  
過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

ラン科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ハコネラン</div> <p><i>Ephippianthus sawadanus</i> (F.Maek.) Ohwi ex Masam. &amp; Satomi</p> <p><b>【判定理由】</b> 丹沢のブナ帯のアセビやスズダケの生えている環境を好んで自生し、丹沢では広く点在するが個体数は少ない。さらにシカによるスズダケなどの採食圧によって生育環境が変化し、存続基盤が失われる可能性がある。今回は丹沢の2調査区の2か所で確認された。箱根では古い採集記録があるものの、近年は標本が作成されていなかったが、2020年に1株の目撃情報がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯の落葉広葉樹林の林床に生える夏緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 落葉広葉樹林内の登山道沿いのスズダケを刈り払ったところによく見られるが、シカの採食によりスズダケが枯死したことと、上層の高木層が衰退したことにより環境が著しく変わり、生存が危ぶまれる。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 本州(埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、奈良県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2●・清川-1●・山北-2◎・山北-3◎・山北-5○・箱根-4△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 森林衰退、過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							

ラン科

絶滅危惧 II 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">エゾスズラン</div> <p><i>Epipactis helleborine</i> (L.) Crantz</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神植誌01』では、エゾスズランの海岸生のものをハマカキランとしてエゾスズランの変種として区別したが、両者は萼片や唇弁のわずかな色の差以外に顕著な形態の差はなく、DNA 情報からもエゾスズランと区別できないとされた。『神RDB06』ではエゾスズランが絶滅危惧 I A 類、ハマカキランが絶滅危惧 II 類とされた。今回は両変種を統合し、8調査区 11 か所で、調査区単位の顕著な減少はないが、丹沢の高所と湘南海岸に2分して分布することを考慮して絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯～シラビソ帯の樹林内に生える夏緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢のブナ帯の樹林内に生えるが稀。生育地では上層植生がシカの採食圧により貧弱化し、存続基盤が失われる可能性がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類 (ハマカキランとして)</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 戸塚△・栄△・鎌倉-1◎・津久井-1◎・津久井-2●・津久井-4●・清川-1◎・藤沢-1◎・藤沢-2●・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・平塚-3●・大磯◎・山北-2◎・山北-3●・山北-4◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 森林衰退、過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 丹沢は国定公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 II 類 (ハマカキランとして)
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類 (ハマカキランとして)							

ラン科

絶滅危惧 II 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">カキラン</div> <p><i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray</p> <p><b>【判定理由】</b> 6 調査区で確認され、調査区単位の減少は 25%程度であった。箱根の仙石原以外では植生遷移などにより生育環境が悪化しつつあり、減少傾向にあると言えるため絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯～ブナ帯の日当たりの良い湿地や草原に生える夏緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 箱根仙石原湿原内には比較的安定して生育するが、他の草地は遷移が進み、本種の生育環境としては適さなくなりつつある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 鶴見△・青葉○・戸塚△・多摩△・横須賀-2△・横須賀-5△・津久井-1○・津久井-2○・厚木-4△・清川-2△・清川-3△・秦野-1○・秦野-3△・藤沢-2●・小田原-1△・南足柄-2◎・山北-2○・山北-6△・松田△・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1◎・湯河原-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 箱根は国立公園、丹沢は国定公園</p> <p>〈📷写真あり: 口絵2〉</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	減少種 H							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅危惧ⅠA類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">カモメラン</p> <p style="text-align: center;"><i>Galearis cyclochila</i> (Franch. &amp; Sav.) Soó</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種 B	環境省	2020	準絶滅危惧
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	準絶滅危惧							
<p><b>【判定理由】</b> 県内では、『神植目33』『神植誌58』では箱根、矢倉沢、玄倉が産地として記録されているが、『箱根目58』には記載がなく、『丹沢目録61』は塔ノ岳～丹沢山、蛭ヶ岳～桧洞丸～犬越路、風巻、玄倉で記録している。しかし、『神植誌88』とその後の調査では見つからず、1998年に丹沢で43年振りに再発見され、2004年にも確認されたが、近年の記録はこれのみである。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地ブナ帯の湿気の多い疎林内や林縁に生える夏緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 確認調査区における個体数は極めて少ない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北、紀伊半島)、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2●・清川-1◎・山北-3△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園特別保護地区</p>								

ラン科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">オノエラン</p> <p style="text-align: center;"><i>Galearis fauriei</i> (Finet) P.F.Hunt</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	希少種	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	希少種							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回は丹沢と箱根の4調査区の5か所で確認されているが、高標高地の草地や急峻な岩場など標本の採集が困難な場所に生育するため、実際の生育個体数はこれより多いと考えられることから、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯の湿原、草原、風衝地、岩場などの日当たりの良いところに生える夏緑性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢の高標高地は高木が枯れ、シカの採食による林床植生の後退が起きているが、本種は明るいところを好むのと、シカの入り込めないような急峻な風衝地などに生えるため減少の兆候は見られない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部以北、紀伊半島)</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1●・津久井-2◎・清川-1◎・南足柄-1◎・山北-2○・山北-3●・山北-5△・箱根-4●・箱根-5●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>								

ラン科

絶滅危惧ⅠA類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">カシノキラン</p> <p style="text-align: center;"><i>Gastrochilus japonicus</i> (Makino) Schltr.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	消息不明種	1995	消息不明種	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		消息不明種						
	1995	消息不明種							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><b>【判定理由】</b> これまで『神植目33』『神植誌58』に箱根を記録しているものの標本は確認できていなかったため、『神RDB06』では消息不明種とされた。しかし、2013年に箱根で標本が採集された。現存の分布は1調査区の1か所で、株数も少数と推測されることから絶滅危惧ⅠA類とした。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 暖温帯～亜熱帯の常緑広葉樹林の樹幹に着生する常緑性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 1か所での生育で、株数もごく少数と推測される。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 箱根-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園</p>								

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
マツラン <i>Gastrochilus matsuran</i> (Makino) Schltr.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅危惧種 E
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』では鎌倉が産地として記録されているが、現在は標本が残る東丹沢と箱根に少数が現存すると考えられるものの、近年の確認は無いことから絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
常緑広葉樹林や針葉樹林内の樹幹に着生する常緑性の多年草

【現状】  
近年の生育状況は不明。

【国内分布】  
本州(宮城県以南の太平洋側)、四国、九州

【県内分布】  
清川-2△・南足柄-2○

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本:清川村塩水 1960.5.1 秋山 守 KPM-NA0120227;  
南足柄市道了尊 1979.2.25 山内好孝 KPM-NA1105227.

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
シロテンマ <i>Gastrodia elata</i> Blume var. <i>pallens</i> Kitag.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧 I A 類

【判定理由】  
『神RDB06』では 1995年の西丹沢の記録から絶滅危惧 I A 類とされた。今回、丹沢と箱根の 4 調査区の 4 か所で確認されたため絶滅危惧 I B 類としたが、菌従属栄養植物であり、増減の振幅が大きいことが推測される。

【生育環境・生態】  
ナラタケ菌と共生していると推定される菌従属栄養植物

【現状】  
確認調査区における個体数は少なく、発生は突発的。

【国内分布】  
本州(宮城県、群馬県、栃木県、茨城県、千葉県、神奈川県、富山県、滋賀県)

【県内分布】  
津久井-2●・津久井-3●・山北-2◎・山北-6●・箱根-1△・箱根-4●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園、国定公園

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
ナヨテンマ <i>Gastrodia gracilis</i> Blume	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
『丹沢目録61』は北丹沢長者舎を記録しているが標本は確認していない。その後、2011年になって横浜市金沢区で自生地が発見された。また、1992年6月に横浜市戸塚区柏尾町で確認され、写真が撮影された(田中, 2010)。単発的な記録のみであり、現状では 1 調査区での確認であることから絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
温暖帯の常緑広葉樹林や、スギやヒノキ植林の林床に生える菌従属栄養植物

【現状】  
近年の生育状況は不明。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
金沢●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【文献等】  
田中伸幸, 2010. 横浜市内でのナヨテンマの記録. FK, (70): 852.

ラン科

準絶滅危惧											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ベニシュスラン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.</td> </tr> </table>	<b>ベニシュスラン</b>	<i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
<b>ベニシュスラン</b>											
<i>Goodyera biflora</i> (Lindl.) Hook.f.											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類									
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 丹沢や箱根の山地など 11 調査区で確認され絶滅の危険性が低いと評価したが、各生育地の個体数は多くなく、園芸目的の過剰採取による減少の可能性もあるため準絶滅危惧とした。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯～ブナ帯の山地樹林内の林床や岩上に生える常緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 山麓の水の滴る岩壁や林縁、山頂の尾根筋に生え、生育環境は比較的安定しているが、台風などによる崩落で生育立地が失われる可能性もある。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(青森県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 鎌倉-1△・城山●・津久井-3●・津久井-4◎・津久井-5●・愛川●・清川-2●・清川-3●・秦野-4●・小田原-1○・山北-2◎・山北-4●・山北-5◎・山北-6●・山北-7●・山北-8◎・箱根-5◎・箱根-6●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>										

ラン科

絶滅危惧 II 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>アケボノシュスラン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Goodyera foliosa</i> (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. <i>laevis</i> Finet</td> </tr> </table>	<b>アケボノシュスラン</b>	<i>Goodyera foliosa</i> (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. <i>laevis</i> Finet	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
<b>アケボノシュスラン</b>											
<i>Goodyera foliosa</i> (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. <i>laevis</i> Finet											
神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類									
	1995	絶滅危惧種 E									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 箱根山麓と三浦半島の樹林内に点在するが少なく、今回は 6 調査区で確認された。調査区単位の減少は見られないが、各産地ともに個体数は少ないので絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯の山地樹林内に生える常緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> 湿った常緑広葉樹林内で見られることが多く、今のところ生育環境は安定している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 都筑●・逗子●・葉山●・真鶴●・湯河原-1●・湯河原-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 湯河原や真鶴は県立自然公園</p>										

ラン科

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ハチジョウシュスラン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Goodyera hachijoensis</i> Yatabe var. <i>hachijoensis</i></td> </tr> </table>	<b>ハチジョウシュスラン</b>	<i>Goodyera hachijoensis</i> Yatabe var. <i>hachijoensis</i>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	—
<b>ハチジョウシュスラン</b>											
<i>Goodyera hachijoensis</i> Yatabe var. <i>hachijoensis</i>											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類									
	1995	—									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 2005年9月に横須賀市内で初めて発見された、今回 3 調査区で確認されたことから絶滅危惧 I B 類とした。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草</p> <p><b>【現状】</b> スダジイ林内に生育し、比較的安定している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(千葉県・神奈川県)、伊豆諸島</p> <p><b>【県内分布】</b> 横須賀-4●・横須賀-5●・葉山●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、産地局限、土地造成</p> <p><b>【文献等】</b> 三浦ブロック会員・三浦半島植物友の会, 2006. 横須賀市南部, 武山の植物相調査の概要. FK, (61): 756-757.</p>										

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ツリシュスラン</b>			1995	希少種
<i>Goodyera pendula</i> Maxim.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神RDB06』では5調査区に250株未満と推定し、絶滅危惧 I B 類とされた。今回、丹沢の1調査区の1か所で確認されているが、採集不可能な位置にも生育していると考えられるため、前回同様の判定とした。稜線上の高木の枯死などで生育環境が悪化している。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の空中湿度の高い森林内の樹幹や岩上に着生する常緑性多年草</p> <p>【現状】 丹沢の主稜線部では大気汚染の影響でブナやカエデ類などの落葉広葉樹の高木が枯死し、着生植物にも影響が出ている。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1△・清川-1○・山北-1○・山北-2○・山北-3○・山北-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 着生木枯死、過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園</p>		

絶滅危惧 II 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>シュスラン</b>			1995	減少種 G
<i>Goodyera velutina</i> Maxim.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神RDB06』では1調査区に50株未満から絶滅危惧 I A 類とされたが、今回は6調査区で確認された。しかし、各産地ともに個体数が少ないことから、絶滅危惧 II 類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草</p> <p>【現状】 シイ、タブノキ、マテバシイなどの樹林内に生育している。</p>		<p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●・横須賀-2●・横須賀-3○・横須賀-5○・逗子○・葉山●・小田原-1●・南足柄-1○・箱根-2●・湯河原-1●・湯河原-2○</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取、産地局限、土地造成</p>		

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>ダイサギソウ</b>			1995	絶滅種 B
<i>Habenaria dentata</i> (Sw.) Schltr.		環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
<p>【判定理由】 古い標本と『神植目33』『神植誌58』は横浜、丹沢山、煤ヶ谷、『丹沢目録61』は丹沢山を記録しているが、『神植誌88』以降見つからず、『神RDB06』絶滅と判断され、その後も記録は無い。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い湿原や草原に生える夏緑性多年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州(千葉県以西の太平洋側)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 清川-3△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 清川村煤ヶ谷1912.5 石田光次郎 ACM-PL31073.</p>		

ラン科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ミズトンボ</div> <p><i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.</p> <p>【判定理由】 箱根仙石原の保護区域内の 1 調査区のみで確認され、『神RDB06』と状況は変わらないので、前回同様に絶滅危惧 I B 類と判定した。個体数は多くない。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い湿地に生える夏緑性多年草</p> <p>【現状】 仙石原湿原の天然記念物指定地や湿生花園の実験区など、ヨシや灌木が侵入していない、日当たりの良い湿地に生育している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、自然遷移</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園特別保護地区、天然記念物指定地</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							

ラン科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ムカゴソウ</div> <p><i>Herminium lanceum</i> (Thunb. ex Sw.) Vujik</p> <p>【判定理由】 『神植目33』『神植誌58』は大山、箱根、『箱根目58』は仙石原、『丹沢目録61』は大山で記録している。『神植誌88』以降しばらく記録が途絶えたが、1993年9月に箱根で確認された。その後、同じ調査区内で標本が採集された。1調査区の1個の3次メッシュのみに現存する。</p> <p>【生育環境・生態】 湿った草地や林縁に生える夏緑性多年草</p> <p>【現状】 近年は箱根の1調査区のみで確認され、個体数は少ない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(西南部)、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 厚木-5△・愛川△・清川-1△・伊勢原-1△・秦野-3△・山北-3△・箱根-1●・箱根-4△・箱根-5△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園 ・標本: 清川村丹沢山 1966.9.7 大場達之 KPM-NA0023000; 箱根町神山 1928.9.13 澤田武太郎 KPM-NA0081415; 中津(愛川町)八菅山 1912.8 茅 誠司 ACM-PL031068; 伊勢原市大山 1952.8.12 出口長男 KPM-NA0080401.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 B	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 B							
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類							

ラン科

絶滅危惧 II 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメノヤガラ</div> <p><i>Hetaeria shikokiana</i> (Makino &amp; F.Maek.) Tuyama</p> <p>【判定理由】 菌従属栄養植物であり、発生は散発的で個体数増減の振幅が大きい。『神植誌88』以前の記録は無く、今回は7調査区で確認され増加傾向にあると見られるものの、いずれの産地も個体数は少なく、安定的な生育状況ではないため絶滅危惧 II 類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 やや明るい常緑広葉樹林等の林床に生える腐生植物</p> <p>【現状】 葉山町は常緑広葉樹林内、清川村はモミ林内に生育するが、菌従属栄養植物であるため発生数の増減が激しい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(岩手県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 葉山●・清川-2●・秦野-4●・平塚-1●・大磯●・箱根-5●・湯河原-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 不明</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>オオハクウンラン</b>			1995	減少種 G
<i>Kuhlhasseltia fissa</i> (F.Maek.) T.Yukawa, comb. nud.		環境省	2020	絶滅危惧 II 類
【判定理由】 かつて丹沢や箱根、三浦のシイ・カシ帯～ブナ帯下部の混交林内で記録はあるものの、1988年以降は箱根の1調査区の1か所にとどまる。ただしこの標本は形態的にはハクウンランと中間的であり、ハクウンランと異なるとされる染色体数の検討は行われていない。過去の標本も含めて県内における本種の分布については再検討が必要であろう。	【国内分布】 伊豆七島を中心に千葉県、神奈川県、静岡県	【県内分布】 逗子○・厚木-4○・清川-2○・平塚-1○・箱根-4○・箱根-5●・湯河原-1△	【存続を脅かす要因】 土地造成、過剰採取	【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園
【生育環境・生態】 シイ・カシ帯～ブナ帯下部の混交林内に生える常緑性の多年草				
【現状】 近年の調査では確認されていない。				

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
<b>ハクウンラン</b>			1995	減少種 G
<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i> (F.Maek.) Ormerod		環境省	2020	—
【判定理由】 『神RDB06』では絶滅危惧 II 類とされたが、今回、2調査区の2か所での確認にとどまり、減少傾向が強いことから絶滅危惧 I B 類とした。	【国内分布】 本州、四国、九州	【県内分布】 伊勢原-1○・大山○・秦野-3○・南足柄-1○・南足柄-2●・山北-3○・箱根-1○・箱根-2○・箱根-5○・湯河原-2●	【存続を脅かす要因】 過剰採取	【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園
【生育環境・生態】 常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林内のコケの中などに生える常緑性の多年草				
【現状】 確認した各調査区での個体数は数株ずつで極めて少ない。				

絶滅危惧 II 類		神奈川県	2006	—
<b>ムヨウラン</b>			1995	消息不明種
<i>Lecanorchis japonica</i> Blume var. <i>japonica</i>		環境省	2020	—
【判定理由】 古くから三浦地区南部には分布しており、近年、相模原市や愛川町からも報告された。4調査区の5個の3次メッシュで確認された。同様の分布拡大傾向を示すほかの暖地性のランのように、今後、他地域で見出される可能性があることから1ランク下げて絶滅危惧 II 類に判定した。	【国内分布】 本州(岩手県以南)、四国、九州、琉球	【県内分布】 横須賀-2●・三浦○・城山●・津久井-5●・愛川●	【存続を脅かす要因】 不明	【文献等】 秋山幸也, 2014. 相模原市緑区でムヨウランを確認. FK, (78): 923-924.
【生育環境・生態】 照葉樹林の林床に生える菌従属栄養植物				
【現状】 確認された各調査区での個体数は比較的多く、特に相模原市緑区の確認地点では多い。ただし、菌従属栄養植物であることから、発生数は年ごとに変動が大きいものと考えられる。				

ラン科

準絶滅危惧				
<b>トサノクロムヨウラン</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
			1995	—
<i>Lecanorchis nigricans</i> Honda var. <i>patipetala</i> Y.Suwa		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
1985年に横浜市青葉区の雑木林内で初めて採集された、その後、川崎、三浦、横須賀からも見出されているが少ない。『神RDB06』ではクロムヨウランとして絶滅危惧Ⅱ類とされたが、県内で見出されるものはすべて開花するタイプであることから、『神植誌18』ではトサノクロムヨウランとされ、今回もそれに従った。9 調査区で確認され、増加傾向にあることから準絶滅危惧として見守ることにした。

**【生育環境・生態】**  
照葉樹林の林床に生える菌従属栄養植物

**【現状】**  
確認された各調査区での個体数は比較的多いが、菌従属栄養植物であることから、発生数は年ごとに変動が大きいものと考えられる。

**【国内分布】**  
本州(茨城県以西)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
青葉●・多摩○・麻生●・横須賀-1○・横須賀-2○・横須賀-4●・横須賀-5●・逗子●・葉山●・三浦●・城山●・大磯●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【文献等】**  
高橋秀男, 1986. クロムヨウランについて. 神自資, (7): 85-88.

ラン科

絶滅				
<b>ギボウシラン</b>		神奈川県	2006	絶滅
			1995	絶滅危惧種 D
<i>Liparis auriculata</i> Blume ex Miq.		環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

**【判定理由】**  
真鶴の常緑広葉樹林内に生育していたが、1982年以降確認されておらず、『神RDB06』で絶滅とされた。

**【生育環境・生態】**  
常緑樹林のやや湿った林床に生える多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道(西南部)、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
真鶴○

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本: 足柄下郡真鶴町真鶴岬 1982.8.18 高橋秀男 KPM-NA1072855.

ラン科

絶滅危惧ⅠB類				
<b>フガクスズムシ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	絶滅危惧種 D
<i>Liparis fujisanensis</i> F.Maek. ex F. Konta & S. Matsumoto		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
西丹沢のブナ帯の湿気をまともに受けるブナ、ミズナラ、イタヤカエデの樹幹などに生え、丹沢のブナの枯死などの影響により『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回、2 調査区の 2 か所で確認され現状が概ね維持されていることから絶滅危惧ⅠB類とした。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の樹幹に着生する多年草

**【現状】**  
丹沢の高標高域の稜線上ではブナなどの落葉広葉樹の高木は大気汚染の影響で枯死するものが見られ、着生植物にも影響がある。

**【国内分布】**  
本州(青森県下北半島以南～奈良県大台ヶ原)、四国、九州(大分県、宮崎県)

**【県内分布】**  
山北-1○・山北-2●・山北-4●

**【存続を脅かす要因】**  
着生木枯死、過剰採取

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>セイタカズムシソウ</b>			1995	絶滅危惧種 D
<i>Liparis japonica</i> (Miq.) Maxim.		環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢、箱根のブナ帯の樹林内や草地で古い記録があるものの、2000年以降確認されていない。

【生育環境・生態】  
山地ブナ帯の樹林内や草地に生える多年草

【現状】  
丹沢の高標高域では稜線の高木が枯れ、林床はシカの採食圧により衰退している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1○・山北-2△・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ジガバチソウ</b>			1995	減少種 G
<i>Liparis krameri</i> Franch. & Sav.		環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢、箱根のブナ帯の樹林内に生えるが少なく、『神RDB06』では 8 調査区のうち 4 調査区 (50%) が失われたことから絶滅危惧 I B 類とされた。しかし、今回は 1 調査区の 1 か所でしか確認されず、減少が著しいことから絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地のブナ帯の林床や岩上に生える多年草

【現状】  
個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
北海道、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1◎・大山◎・秦野-1●・山北-1○・山北-2○・山北-3○・山北-5◎・山北-6◎・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ズムシソウ</b>			1995	減少種 G
<i>Liparis makinoana</i> Schltr.		環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢、箱根のブナ帯の疎林内やスギ植林内に生えるが稀で、今回は 4 調査区の 4 か所で確認された。

【生育環境・生態】  
山地の疎林の林床に生える多年草

【現状】  
各調査区の個体数は少ない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
秦野-1○・秦野-4◎・南足柄-1●・南足柄-2◎・山北-1●・山北-4●・箱根-1◎・箱根-2●・箱根-4○・箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

## 絶滅危惧 I A 類

## ホザキイチヨウラン

*Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

## 【判定理由】

古くは箱根で採集された標本と『神植目33』『神植誌58』には箱根が産地として記録があり、1986年に丹沢で採集された標本がある。その後1992年に丹沢で写真撮影され、2001年には箱根で本種と思われる1葉が確認された。現在は、箱根や丹沢のブナ帯に生えるが稀で、『神RDB95』では減少種、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類とされたが、今回は確認できた調査区は無い。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯上部～針葉樹林帯下部のやや湿った林床に生える夏緑性多年草

## 【現状】

現状は不明

## 【国内分布】

北海道、本州(近畿以北)、四国(剣山・石鎚山)

## 【県内分布】

山北-2〇・山北-3△・箱根-4△

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、過剰採取

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園  
・標本: 箱根町神山 1928.7.27 澤田武太郎 KPM-NA0081428; 足柄上郡山北町加入道山 1986.9.24 勝山輝男 KPM-NA1072895.

## 【文献等】

勝山輝男・木場英久・田中徳久・高橋秀男, 1996. レッドデータ植物図鑑. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 追われる生き物たち. pp. 12-32. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

## 絶滅危惧 I A 類

## アリドオシラン

*Myrmecichis japonica* (Rchb.f.) Rolfe

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅種 B
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神植目33』『神植誌58』では箱根、丹沢山、塔ノ岳。『箱根目58』には双子山、台ヶ岳。『丹沢目録61』は塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳が産地として記録されている。しかし、『神植誌88』とその後の調査では見つからず、『神RDB95』では絶滅とされたが、その後、箱根では現存することが確認され、『神RDB06』で絶滅危惧 I A 類とされた。今回も同じ調査区の1か所で現状が維持されていることがわかった。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯やシラビソ帯の樹林内のコケの間などに生える常緑性多年草

## 【現状】

『神RDB06』から変化なし。

## 【国内分布】

本州(近畿以北)、四国

## 【県内分布】

箱根-4●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地

## 【文献等】

勝山輝男, 1996. 絶滅したと思ったら・・・再発見されたラン科植物 その2. FK, (41): 439-441.

## 絶滅危惧 I A 類

## ノビネチドリ

*Neolindleya camtschatica* (Cham.) Nevski

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神植目33』『神植誌58』は丹沢山、『丹沢目録61』では丹沢山～蛭ヶ岳で記録している。『神植誌88』『神植誌01』の調査では見つからず、『神RDB95』では絶滅とされた。その後、2002年丹沢の植生保護柵内で発見され、2016年にも同所の柵外で発見され写真が撮影された。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯～針葉樹林帯の湿り気のある草原、林縁、溪谷沿いに生える夏緑性多年草

## 【現状】

丹沢の高標高域では高木が枯れ、シカの採食により林床植生が著しく後退している。

## 【国内分布】

北海道、本州(中部以北)、四国

## 【県内分布】

清川-1△・山北-3△

## 【存続を脅かす要因】

シカ影響、過剰採取、森林衰退

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 山北町丹沢 1957.6.4 城川四郎 KPM-NA0096639.

## 【文献等】

田村 淳, 2016. ラン2種が健在ーフジチドリとノビネチドリー FK, (82): 979-980.

📷写真あり: 口絵2)

絶滅			
ヒメムヨウラン <i>Neottia acuminata</i> Schltr.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅危惧種 E
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』には海老名、中郡(鷹取山)が産地として記録され、東京都立大学牧野標本館(MAK)には横浜産の標本がある。『神RDB95』では絶滅危惧種とされたが、引用された1985年秦野市菩提(KPM-NA1073058)の標本が誤同定と分かり、『神RDB06』では絶滅とされた。今回も確認されなかった。

【生育環境・生態】  
ブナ帯～針葉樹林帯の樹林内の腐植土に富んだ林床に生える腐生植物

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:武蔵横浜 1915 牧野富太郎 MAK26105.

【文献等】  
勝山輝男, 2006. 神奈川県のヒメムヨウラン. FK, (63): 780.

絶滅危惧ⅠA類			
コフタバラン <i>Neottia cordata</i> (L.) Rich.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植目33』は箱根、『箱根目58』は姥子、『丹沢目録61』は蛭ヶ岳～桧洞丸で記録している。しかし、『神植誌88』とその後も見出されず『神RDB95』では絶滅とされたが、箱根には以前からの産地に現存することが明らかになった。確認できたのはこの1調査区のみであるため、絶滅危惧ⅠA類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯～シラビソ帯の樹林内に生える夏緑性の多年草

【現状】  
個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)、四国

【県内分布】  
箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園特別保護地区  
・標本:箱根町大涌谷 1936.5.25 澤田武太郎 KPM-NA0081426; 箱根町神山 1963.6.27 大場達之 KPM-NA0011573; 箱根町大涌谷 1995.7.9 勝山輝男 KPM-NA1107168.

【文献等】  
勝山輝男, 1996. 絶滅したと思ったら・・・再発見されたラン科植物 その2. FK, (41): 439-441.

絶滅危惧ⅠB類			
タンザワサカネラン <i>Neottia inagakii</i> Yagame, Katsuy. & T.Yukawa	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

【判定理由】  
はじめ丹沢三ツ峰で見出され、勝山・稲垣により和名が新称され、2008年に新種として記載された。その後、過去にヒメノヤガラおよびサカネランと同定されていた標本の中からもタンザワサカネランが2点確認された。確認調査区は少ないものの、個体数は比較的あり、現存するのは1調査区の2～5か所と思われる絶滅危惧ⅠB類とした。

【生育環境・生態】  
丹沢の標高1,000m前後のモミ林内に生える菌従属栄養植物

【現状】  
発見当時と変化なし。

【国内分布】  
東北地方南部～関東地方

【県内分布】  
清川-2●・山北-3◎・山北-4◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園、県立自然公園

【文献等】  
勝山輝男・稲垣精秋, 2007. ラン科サカネラン属の未知の種タンザワサカネラン(仮称). FK, (64): 796.

📷写真あり:口絵2)

ラン科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center;"><b>ヒメフタバラン</b></p> <p><i>Neottia japonica</i> (Blume) Szlach.</p> <p>【判定理由】 1953年に箱根神山中で採集された標本があり、三増峠の記録が知られていたが、『神RDB95』『神RDB06』ともに絶滅とされた。しかし2000年代になって箱根や三増峠で再発見され、さらに丹沢でも発見され、6 調査区で確認されたことから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑広樹林の林床に生える多年草</p> <p>【現状】 確認された各調査区での個体数は比較的多く、安定している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 津久井-4●・津久井-5●・愛川●・清川-1●・箱根-4●・箱根-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・標本:箱根町神山 1953.5.3 大場達之 KPM-NA003147.</p> <p>【文献等】 勝山輝男. 2006. ヒメフタバランが健在. FK, (62): 770-771; 山口勇一, 2008. 三増のヒメフタバラン. FK, (67): 820; 久江信雄, 2012. 丹沢にもヒメフタバランが分布する. FK, (74): 891.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅危惧ⅠB類									
<p style="text-align: center;"><b>アオフタバラン</b></p> <p><i>Neottia makinoana</i> (Ohwi) Szlach.</p> <p>【判定理由】 丹沢、箱根、湯河原町のブナ、モミ、スギ植林などの林床に生えるが少なく、『神RDB95』では減少種、『神RDB06』では絶滅危惧Ⅱ類とされたが、今回、4 調査区の 5 か所での確認にとどまり、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の杉林などの林床に好んで生える多年草</p> <p>【現状】 各調査区の個体数は極めて少なく、減少傾向にある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1△・津久井-3●・清川-1◎・大山◎・山北-1●・山北-4◎・山北-6△・松田●・箱根-2◎・箱根-5○・箱根-6●・湯河原-1◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 不明</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center;"><b>サカネラン</b></p> <p><i>Neottia papilligera</i> Schltr.</p> <p>【判定理由】 丹沢、箱根のやや湿った樹林の林床に生えるが稀で、今回は 3 調査区で確認され、採集地数が 6 地点であったため、絶滅危惧Ⅱ類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の落葉樹林内の腐植土に富んだ林床に生える菌従属栄養植物</p> <p>【現状】 『神RDB06』から変化なし。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州(中部以北)、四国、九州(高隈山)</p> <p>【県内分布】 津久井-1△・津久井-3●・清川-2●・大山△・秦野-1○・南足柄-2◎・山北-1●・山北-4◎・山北-5◎・箱根-5△</p> <p>【存続を脅かす要因】 不明</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
ミヤマモジズリ	<i>Neottianthe cucullata</i> (L.) Schltr.	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅種 B
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』では箱根、『箱根目58』は台ヶ岳、神山で記録されている。『丹沢目録61』には記載がない。1964年に津久井町原小屋沢で採集された以後、『神植誌88』とその後の調査では見つからず、『神RDB95』では絶滅とされた。1995年南丹沢で再発見され、北丹沢からも発見されたが、その後は見出されていない。

【生育環境・生態】  
山地のやや湿り気のある樹林内の岩場や林縁に生える夏緑性多年草

【現状】  
近年の記録が無く、現状は不明である。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)、四国

【県内分布】  
津久井-1◎・津久井-2△・秦野-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園  
・標本: 津久井町原小屋沢 1964.7.15 城川四郎 KPM-NA0096618.

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
フジチドリ	<i>Neottianthe fujisanensis</i> (Sugim.) F.Maek., comb. nud.	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
『丹沢目録61』は塔ノ岳～幽神、大室山を産地として記録している。『神植誌88』とその後の調査では見つからず、『神RDB95』『神RDB06』では絶滅とされた。今回、北丹沢1調査区の1か所で枯死木の樹幹に着生しているのが確認された。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹幹や樹枝上にコケとともに生える夏緑性多年草

【現状】  
枯死木に着生した不安定な生育状況であり、個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
本州(青森県、秋田県、岩手県、神奈川県、山梨県、静岡県)

【県内分布】  
津久井-1△・津久井-2●・山北-2△・山北-3△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 犬越路～大室山 1966.7.13 大場達之 KPM-NA018510; 山北町塔ヶ岳 1953.8.16 出口長男 KPM-NA0080405; 山北町大筭 1964.7.12 城川四郎 KPM-NA0096629.

【文献等】  
田村 淳, 2016. ラン2種が健在—フジチドリとノビネチドリ—. FK, (82): 979–980.

〈写真あり: 口絵2〉

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i> Makino	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
1990年に三浦半島のマテバシイ林内で初めて見出されたが、その集団は数年で消滅し、『神RDB06』では絶滅とされた。その後、小田原と相模原の2調査区2か所でも確認されたことから絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
常緑広葉樹林内に生える多年草

【現状】  
散発的な記録のみで、各調査区での個体数は極めて少ない。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国(高知県)、九州、琉球

【県内分布】  
横須賀-5◎・津久井-5●・小田原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【文献等】  
星 寛治・勝山輝男, 1992. 三浦半島産ムカゴサイシンについて. 神自資, (13): 89–92.

ラン科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>ヨウラクラン</b></p> <p><i>Oberonia japonica</i> (Maxim.) Makino</p> <p>【判定理由】 今回は4調査区の5か所で確認されたが、県西部の産地では生育環境や生育状況に大きな変化はないことから、前回同様に絶滅危惧Ⅱ類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 樹幹や岩上に着生する常緑性多年草</p> <p>【現状】 県西部の産地では生育環境や生育状況に大きな変化はない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 南△・栄◎・横須賀-1△・横須賀-4△・鎌倉-1△・葉山◎・相模原-2○・愛川●・清川●・大山△・南足柄-2◎・南足柄-3●・山北-4◎・山北-7◎・山北-8△・箱根-4●・箱根-6△</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取、森林伐採</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:一部は国立公園や県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	減少種 H							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>コケイラン</b></p> <p><i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.</p> <p>【判定理由】 ブナ帯の溪谷沿いの湿潤な斜面や腐植質に富んだ林床を適地として生えるが、近年急速に減少しており、今回は1調査区の1か所のみでの確認となったため、絶滅危惧ⅠA類とした。『神植誌88』との比較でも調査区単位の減少が著しい。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の湿った落葉樹林内に生える常緑性の多年草</p> <p>【現状】 かつては丹沢山地西部の沢筋の、湿潤な樹陰やスギ植林内などに見られたが、現在はほとんど見られなくなった。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 葉山○・秦野-1○・秦野-2○・山北-1◎・山北-2○・山北-3◎・山北-4●・山北-5◎・箱根-1◎・箱根-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:国定公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅									
<p><b>ムカゴトンボ</b></p> <p><i>Peristylus flagellifer</i> (Makino) Ohwi ex K.Y.Lang</p> <p>【判定理由】 Maximowicz が横浜で採集(1862.8.26-9)した標本がレニングラード(現サンクトペテルブルク)に残されているが、その後の調査では確認されていないため、『神RDB06』以降、絶滅とした。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い湿ったところに生える夏緑性多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 —</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【文献等】 小山鐵夫監修, 2000. 牧野富太郎とマキシモヴィッチ展図録. 183 pp. 高知県立牧野植物園, 高知.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類							

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
ジンバイソウ <i>Platanthera florenti</i> Franch. & Sav.	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢と箱根の尾根沿いに分布。今回は丹沢と箱根の 3 調査区、4 地点のみでの確認であったため絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹林内の湿った林床に生える夏緑性の多年草

【現状】  
丹沢では稜線の高木の枯死などが影響し、林床が乾燥化することで本種の生育にも影響が出ている可能性がある。

【国内分布】  
北海道(南部)、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1●・清川-1●・山北-3◎・箱根-2●

【存続を脅かす要因】  
森林衰退

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

ラン科

絶滅危惧 I B 類			
ミズチドリ <i>Platanthera hologlottis</i> Maxim.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
古い記録では丹沢と箱根に記録があるものの、丹沢では 1957 年以降記録が無い。現在は箱根仙石原湿原の 1 調査区のみで確認されている。保護地域内にあり個体数は維持されていることから絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の低層湿原～湿草地に生える夏緑性の多年草

【現状】  
仙石原湿原の天然記念物周辺のヨシが刈られるなど、本種の生育条件が保たれ、個体数は維持されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1△・山北-3△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区、天然記念物指定地  
・標本: 山北町丹沢 1957.7.25 城川四郎 KPM-NA0096636; 津久井町蛭ヶ岳 1953.8.24 城川四郎 KPM-NA0096622.

ラン科

絶滅危惧 I A 類			
オオバナオオヤマサギソウ <i>Platanthera hondoensis</i> (Ohwi) K.Inoue	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧 I A 類

【判定理由】  
丹沢のブナ帯の樹林内で確認されているが、極めて稀で個体数も少なく、確認できたのも 1 調査区の 1 か所であったため絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹林内や草原に生える夏緑性の多年草

【現状】  
丹沢の高標高域では高木が枯れ、シカの採食圧により林床植生が衰退していることから生育環境が悪化している。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1△・津久井-2●・清川-1◎・山北-3△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林衰退、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区

ラン科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">イヌマムカゴ</div> <p><i>Platanthera inumae</i> (Makino) Makino</p> <p>【判定理由】 古くは箱根で採集された標本と『神植目33』『神植誌58』は箱根、『箱根目58』は箱根姥子の記録はあるが、その後、箱根では見出されていない。『神植誌88』では西丹沢のブナ帯の樹林内で発見されたが、『神植誌01』では丹沢から見出すことができなかった。『神RDB95』では絶滅危惧種、『神RDB06』では絶滅とされた。 今回、相模原市緑区(旧津久井町)の北丹沢で新産地が発見されたが、記録はこの1か所のみであるため絶滅危惧 I A 類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の樹林内に生える夏緑性の多年草</p> <p>【現状】 個体数は極めて少ない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-3●・山北-2○・山北-3△・山北-6△・松田△・箱根-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園 ・標本: 箱根町乙女峠 1936.7.14 澤田武太郎 KPM-NA0081455.</p> <p>【文献等】 久江信雄, 2013. イヌマムカゴの再発見. FK, (75): 895-896.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類							

ラン科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ツレサギソウ</div> <p><i>Platanthera japonica</i> (Thunb.) Lindl.</p> <p>【判定理由】 古くは箱根金時山で採集された標本と『神植目33』では丹沢山、横浜、『神植誌58』は丹沢、箱根を産地として記録している。『神植誌88』は丹沢、『神植誌01』は愛川町で記録した。今回、横浜、箱根、相模原市緑区の3調査区の4か所で発見され、絶滅危惧 I B 類とした。丹沢では見出されなかった。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の湿り気のある明るい疎林内や草地に生える夏緑性の多年草</p> <p>【現状】 丹沢では近年の記録が無く、比較的低標高地の山地林内や丘陵地の里山で確認されているが、個体数は少ない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 青葉●・津久井-1○・津久井-3△・相模湖●・愛川◎・箱根-1△・箱根-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">マイサギソウ</div> <p><i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb.f. var. <i>macrocentron</i> (Franch &amp; Sav.) Ohwi</p> <p>【判定理由】 県内ではもともと個体数が少なく、『神植誌88』『神植誌01』に箱根鷹巣山の写真記録があるものの、それ以降の記録が無く、絶滅と判断した。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い草地に生える夏緑性の多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根-5◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【文献等】 井上香世子・中村和義・高橋 勉, 1991. 須雲川流域の植物相. 箱根線. No. 391~No. 447 地域環境事前調査報告書, 41-125. 東京電力, 東京.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 I B 類			
<b>ヤマサギソウ</b> <i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb.f. var. <i>oreades</i> (Franch & Sav.) Koidz.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植目33』は箱根、横浜、『神植誌58』は丹沢、箱根、『箱根目58』は仙石原、『丹沢目録61』は丹沢山～蛭ヶ岳、『横植誌68』は横浜市瀬谷区、旭区を産地として記録していた。しかし、『神植誌88』『神植誌01』では見つからず、『神RDB95』では絶滅とされた。今回、川崎と相模原市緑区の2調査区の2か所で確認されたことから絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い草原、疎林、ときに湿地に生える夏緑性の多年草

【現状】  
確認された調査区ではいずれも植生遷移などにより不安定な立地に生育している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・青葉△・麻生●・相模湖●・大磯◎・松田△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

絶滅			
<b>コバノトンボソウ</b> <i>Platanthera nipponica</i> Makino	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根と横須賀で採集された標本が残されているが、『神植誌88』『神植誌01』とその後の記録はなく絶滅と判断した。

【生育環境・生態】  
高層湿原～沖積地の日当たりの良い湿った草原に生える夏緑性の多年草

【現状】  
近年の調査では確認されていない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-2△・箱根-1△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:箱根町仙石原 1930.8.4 澤田武太郎 KPM-NA0081445;横須賀市大津 1951.7.2 山田友久 YCM-V001087

絶滅危惧 I A 類			
<b>ナガバノキソチドリ</b> <i>Platanthera ophrydioides</i> F.Schmidt var. <i>australis</i> Ohwi	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌01』では主に西丹沢で見出されていたが減少著しく、1999年以降記録が途絶えていることから、絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
山地ブナ帯の樹林内に生える夏緑性の多年草

【現状】  
丹沢の高標高域の稜線ではブナなどの高木が枯死し、シカの採食圧により林床植生が後退したことから急激に減少し、近年の記録が途絶えている。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1◎・清川-1△・秦野-2○・山北-2◎・山北-3◎

【存続を脅かす要因】  
森林衰退、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園  
・標本:足柄上郡山北町塔ノ岳西面 1998.8.24 勝山輝男 KPM-NA0109547.

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
キソチドリ			1995	絶滅種 A
		環境省		2020
<p><i>Platanthera ophrydioides</i> F.Schmidt var. <i>monophylla</i> Honda</p>				
<p>【判定理由】 西丹沢のブナ帯で1959年に採集された標本があるほか、『丹沢目録61』は大山、丹沢山を産地として記録している。しかし、『神植誌88』『神植誌01』とその後の記録はなく、絶滅と判断した。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州(中部以北)</p>		
<p>【生育環境・生態】 ブナ帯～針葉樹林帯の樹林内に生える夏緑性の多年草</p>		<p>【県内分布】 山北-2△</p>		
<p>【現状】 —</p>		<p>【存続を脅かす要因】 —</p>		
		<p>【特記事項】 ・標本:山北町西丹沢 1959.8.21 秋山 守 KPM-NA0120225.</p>		

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
オオヤマサギソウ			1995	減少種 G
		環境省		2020
<p><i>Platanthera sachalinensis</i> F.Schmidt</p>				
<p>【判定理由】 古くは箱根で採集された標本があり、『神植目33』『神植誌58』は箱根を産地として記録しているが、その後、見出されていない。『神植誌88』『神植誌01』の調査では丹沢で記録され、今回も丹沢の2調査区の3か所で確認されたことから、絶滅危惧 I B 類とした。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p>		
<p>【生育環境・生態】 ブナ帯の山地樹林内や林縁に生える夏緑性の多年草</p>		<p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・清川-2◎・山北-1○・山北-2◎・山北-3△・箱根-2△</p>		
<p>【現状】 丹沢のブナ帯でごく少数の個体が確認されているが、スズダケの衰退などにより生育環境の悪化は続いている。</p>		<p>【存続を脅かす要因】 シカ影響、過剰採取</p>		
		<p>【特記事項】 ・保護の現状:国定公園 ・標本:深良～三国林道 1930.8.12 澤田武太郎 KPM-NA0081446.</p>		

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
トキソウ			1995	絶滅危惧種 D
		環境省		2020
<p><i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.</p>				
<p>【判定理由】 箱根の1調査区の1か所のみで確認され、個体数は極めて少ない。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p>		
<p>【生育環境・生態】 日当たりの良い酸性湿原に生える夏緑性の多年草</p>		<p>【県内分布】 箱根-1●</p>		
<p>【現状】 『神植誌88』の調査時には見当たらず、絶滅したものと思われていたが、仙石原湿原の天然記念物指定地域周辺のヨシを刈り取ったところ復活し、開花株も見られるようになった。</p>		<p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、産地局限</p>		
		<p>【特記事項】 ・保護の現状:国立公園特別保護地区、天然記念物指定地</p>		

ラン科

<b>絶滅危惧 I A 類</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ヤマトキソウ</b>			1995	絶滅危惧種 E
<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
箱根、湯河原の山地の草原に生えるが極めて稀。近年の確認が途絶えており、危機的状況にある。

**【生育環境・生態】**  
山地の草原に生える夏緑性の多年草

**【現状】**  
箱根や湯河原の草地は定期的な草刈が行われなくなると、ハコネダケの密生地になり、本種も消滅してしまう。いずれの草地でも草刈の行われる回数が減り、生育に適した草地の面積が狭くなっており、近年の生育状況は不明である。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
多摩△・津久井-1△・箱根-1△・箱根-4△・箱根-5◎・湯河原-1△・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
自然遷移、過剰採取

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

ラン科

<b>絶滅危惧 I A 類</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ヒナチドリ</b>			1995	絶滅種 A
<i>Ponerorchis chidori</i> (Makino) Ohwi		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

**【判定理由】**  
1954年に塔ノ岳、幽神にて採集されたのが初記録であるが、その後は見出すことができず、『神RDB95』では絶滅とされた。1995年に西丹沢のブナ帯でイタヤカエデの古木に100個体ほど着生しているのを発見した。近年では2016年8月に西丹沢で樹幹に着生しているのを発見し、写真で記録にとどめた。現状ではこの1調査地点のみの確認である。

**【生育環境・生態】**  
山地の冷涼で空中湿度が高くコケむした樹上や岩壁に生える夏緑性の多年草

**【現状】**  
着生を発見しにくいこともあるが、現状では西丹沢の1か所のみの確認である。

**【国内分布】**  
北海道(日高地方)、本州、四国

**【県内分布】**  
山北-1◎・山北-6△

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、過剰採取

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園  
・標本: 丹沢山幽神 1954.7.13 林 弥栄 TNS110763

**【文献等】**  
勝山輝男, 1996. 絶滅したと思ったら・・・再発見されたラン科植物 その2. FK, (41): 439-441.

ラン科

<b>絶滅危惧 I A 類</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ウチョウラン</b>			1995	減少種 G
<i>Ponerorchis graminifolia</i> Rchb.f.		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

**【判定理由】**  
『神植誌88』では箱根から見出すことはできなかったが、『神植誌01』で箱根からも見出された。しかし、今回の調査では西丹沢の1調査区の1か所で確認されたのみである。

**【生育環境・生態】**  
山地のやや湿った岩場に生える夏緑性の多年草

**【現状】**  
最近の10年間で生育環境に変化はないが、登山道から見えるところには見られなくなった。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
清川-2◎・秦野-4△・南足柄-1◎・山北-3◎・山北-6●・松田△

**【存続を脅かす要因】**  
過剰採取

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

◀写真あり: 口絵2▶

ラン科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>クモラン</b></div> <p><i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神植目33』『神植誌58』が鎌倉、登戸、『箱根目58』が小田原、仙石原、東京薬科大学植物研究部(1983 津久井城山及び三増の植物)が愛川町三増を記録し、鎌倉産の標本が残されている。しかし、最近では山北と南足柄で記録されたのみで個体数も極めて少ない。今回の調査では1調査区1か所の確認のため、絶滅危惧 I A 類とした。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> サクラやウメの古木の樹幹に着生する常緑性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 確認された調査区ではいずれも個体数は少ない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 本州(福島県以南)、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 鎌倉-1△・南足柄-3●・山北-8◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本:鎌倉市北鎌倉 1961.3.18 大谷 茂 KPM-NA1001095.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

ラン科

準絶滅危惧									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>カヤラン</b></div> <p><i>Thrixspermum japonicum</i> (Miq.) Rchb.f.</p> <p><b>【判定理由】</b> 社寺林や庭園の古木に大きな群落が現存するが、それ以外では個体数は少なく、園芸用の採取による消失の危険も大きい。このため、18 調査区で確認されたが準絶滅危惧とした。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯～ブナ帯下部のスギ、カヤなどの針葉樹からサクラ、ウメなどの落葉樹の樹幹や樹枝に着生する常緑性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 空中湿度の高い樹林内に生育する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 本州(岩手県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 鎌倉-1◎・城山●・津久井-3●・相模湖●・愛川●・清川-2●・清川-3●・大山△・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4●・茅ヶ崎-2△・南足柄-1●・南足柄-2◎・南足柄-3●・山北-4◎・山北-5●・山北-6●・山北-7●・山北-8◎・松田●・箱根-4●・箱根-5△・箱根-6●・湯河原-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、森林伐採</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:一部は国立公園、国定公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類						
	1995	減少種 H							
環境省	2020	—							

ラン科

絶滅危惧 II 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>ヒトツボクロ</b></div> <p><i>Tipularia japonica</i> Matsum.</p> <p><b>【判定理由】</b> 西丹沢、箱根のシイ・カシ帯上部～ブナ帯のモミ林やスギ林内で見かけるが稀で、今回は7 調査区で確認された。調査区単位での顕著な減少は見られないが、各調査地点の個体数も少ないため、前回同様に絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> シイ・カシ帯上部～ブナ帯のモミ林内やスギ林内に生える常緑性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 確認された調査区ではいずれも個体数は少ない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 本州(日本海側は青森県以南、太平洋側は茨城県以西)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1●・津久井-3●・津久井-5●・清川-1●・南足柄-2●・山北-2◎・山北-3◎・山北-4◎・箱根-4○・箱根-5●・箱根-6◎・湯河原-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:国立公園、国定公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 I B 類			
<b>フウラン</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Vanda falcata</i> (Thunb.) Beer			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類
<p>【判定理由】 横浜、鎌倉、逗子、葉山、南足柄が産地として知られ、ところによってはイヌマキ、クスノキに数百株の着生も見られたが、現在では乱獲によって激減し、消滅したところも多い。『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類とされ、今回も 2 調査区の 2 か所の確認にとどまっている。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑広葉樹林内の樹幹や樹枝に着生する常緑性多年草</p> <p>【現状】 目立つ場所の個体は園芸用に採取されることが多く、現存する株はわずかとなっている。</p>		<p>【国内分布】 本州(茨城県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 金沢●・鎌倉-1●・鎌倉-2◎・葉山○</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取、産地局限</p>	

絶滅危惧 II 類			
<b>カゲロウラン</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
<i>Zeuxine agyokuana</i> Fukuy.			1995 —
		環境省	2020 準絶滅危惧
<p>【判定理由】 1994年三浦半島で見出されたのが初記録で、同地域ではその後も複数の地点で散発的に記録されている。今回は 5 調査区で確認されたが、県内の他地域では今のところ記録はないため、前回同様に絶滅危惧 II 類と判定した。同様の分布拡大傾向を示すほかの暖地性のランのように、今後、他地域で見出される可能性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 常緑広葉樹林の林床に生える常緑性多年草</p> <p>【現状】 個体数は多くないが、散発的に複数の地点で確認されている。</p>		<p>【国内分布】 本州(東京都、千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県)、四国(愛媛県、高知県)、九州(宮崎県、鹿児島県)、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-3●・横須賀-4●・横須賀-5●・逗子●・葉山●</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取、土地造成</p> <p>【文献等】 星 寛治, 1997. 三浦半島で発見されたカゲロウラン. FK, (44): 491-492; 青木清勝・平野 素・秋山 守, 2004. カゲロウラン葉山町二子山に産す. FK, (57): 708-709.</p>	

絶滅			
<b>コキンバイザサ</b>		神奈川県	2006 消息不明種
<i>Hypoxis aurea</i> Lour.			1995 消息不明種
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 1935年に横浜市で採集された標本 1 点が残されているが、以降の生育の確認はされていない。</p> <p>【生育環境・生態】 海岸や沿海地の丘陵地から低山地の疎林や草地に見られる。</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 神奈川県△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 横浜神奈川県区浦島 1935 山崎 敬 TI.</p>	

アヤメ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>ヒオウギ</b></p> <p><i>Iris domestica</i> (L.) Goldblatt &amp; Mabb.</p> <p>【判定理由】 15 調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位 20%ほどの減少がある。比較的広い範囲に分布するが、生育地の個体数は多くない点で脆弱性があることを考慮して、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の草地や岩場の周辺などの明るい場所に自生する。</p> <p>【現状】 古くから栽培もされるため、市街地付近のものは栽培由来の可能性もある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 保土ヶ谷○・逗子◎・葉山●・三浦◎・城山○・津久井-5●・相模湖●・藤野-2●・厚木-1○・厚木-4●・愛川●・清川-2◎・清川-3◎・伊勢原-1○・伊勢原-3●・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4●・秦野-5●・茅ヶ崎-2●・平塚-1◎・大磯○・小田原-1●・小田原-3○・南足柄-1○・山北-4●・山北-7◎・中井○・大井●・松田◎・湯河原-1●・湯河原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、草地開発</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

アヤメ科

絶滅危惧ⅠB類									
<p><b>ノハナシヨウブ</b></p> <p><i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai ex Makino &amp; Nemoto</p> <p>【判定理由】 今回の調査では 2 調査区の 3 か所で確認されたのみ。調査区単位でも『神植誌88』との比較で約 70%の減少がある。分布が局在し、個体数が限定的である点、生育環境が保護管理下で維持されている点、長期的に減少傾向にある点に脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 山野の湿草原に生える多年草</p> <p>【現状】 丹沢や箱根の他、横浜市や川崎市の丘陵地などにもみられる。箱根仙石原以外では生育地の規模や個体数が限られており、生育環境の変化にも脆弱な状況にある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・保土ヶ谷○・旭△・多摩△・麻生●・鎌倉-2△・相模原-1○・津久井-4○・清川-2○・山北-1○・箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、草地開発</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:箱根仙石原の一部の産地は国立公園特別保護地区および天然記念物指定地</p> <p>〈📷写真あり:口絵2〉</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	減少種 H							
環境省	2020	—							

アヤメ科

絶滅危惧ⅠB類									
<p><b>ヒメシヤガ</b></p> <p><i>Iris gracilipes</i> A.Gray</p> <p>【判定理由】 分布が限定的で、生育地の規模や個体数が限られていることから、生育環境の変化に対し脆弱な状況にある。今回の調査では 1 調査区の 1 か所のみの確認であったが、南足柄市では標本は作成されていないが、安定して生育が確認されているため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の岩場や疎林内に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(西南部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 大磯△・南足柄-1◎・山北-5○・山北-6●・箱根-1○</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:国立公園、国定公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 G	環境省	2020	準絶滅危惧
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	準絶滅危惧							

絶滅			
カキツバタ <i>Iris laevigata</i> Fisch.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
県内の記録は1940年に川崎市で採集された標本が残されているが、以降の生育の確認はされていない。近年、横浜市、川崎市、秦野市で標本が採集されているが、大型で目に付きやすい植物にも関わらず、いずれも過去に記録が無いことから栽培由来の逸出と考えられるため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
池・沼畔や湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
多摩△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本：川崎市多摩区登戸 1940.7.20 大場達之 KPM-NA0031481

絶滅			
アヤメ <i>Iris sanguinea</i> Hornem.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』などの文献記録はあるが、標本が確認されていない。1980年代以降に県内各地で標本が採集されているが、これらも対応する古い時代の記録がなく、いずれも栽培品かそれに由来するものと考えられるため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
山間の草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
大型で目に付きやすいにも関わらず、県内では古い時期の文献記録のみで、標本の記録がなく、そもそも県内に自生していたか疑問が残るが、『神植誌18』の扱いに従い、『神RDB06』同様、絶滅とした。

絶滅危惧 I B 類			
ヒメニラ <i>Allium monanthum</i> Maxim.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
		1995	絶滅危惧種 D
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では3調査区の5か所で確認された。分布が局在し、個体数が限定的である点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
落葉広葉樹林内や明るいスギ植林内に生える小型の多年草

【現状】  
県内では1986年に相模原市で記録されて以降、同市内で複数の生育地が発見された。落葉樹林下に生育し、生育環境に特殊性はないように思われるが、分布が限られる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国

【県内分布】  
相模原-3●・相模原-4●・津久井-5●・藤野-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

## 絶滅危惧 I B 類

## タマムラサキ

*Allium pseudojaponicum* Makino

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では1調査区の2か所で確認された。分布が局在し、生育地でも個体数はそれほど多くはない点で脆弱性がある。

## 【生育環境・生態】

県内では三浦半島南部の海岸風衝草に生育する。

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州、四国、九州、対馬、奄美

## 【県内分布】

逗子△・三浦●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、踏みつけ、海岸開発

## 絶滅危惧 I A 類

## イズアサツキ

*Allium schoenoprasum* L. var. *idzuense* (H.Hara) H.Hara

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

## 【判定理由】

今回の調査では1調査区の1か所のみで確認された。分布が局在し、個体数も少ない点、生育地周辺の踏みつけで裸地化が生じている点で脆弱な状況にある。県内の海岸風衝草に生育する植物のうちでは最も絶滅が危惧される種である。

## 【生育環境・生態】

三浦半島南部の限られた海岸風衝草に生える多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

伊豆半島と三浦半島の固有変種

## 【県内分布】

三浦●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、踏みつけ、海岸開発

☒写真あり: 口絵2)

## 絶滅危惧 I B 類

## ハマオモト

*Crinum asiaticum* L. var. *japonicum* Baker

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

3調査区の4か所で確認された。生育可能な砂浜環境が限定的である点、個体数が限られる点で脆弱性がある。

## 【生育環境・生態】

砂浜海岸に生える大型の多年草

## 【現状】

横須賀市佐島の天神島を北限とする。天神島のほか、三浦市内や葉山町、鎌倉市、小田原市などでも記録されている。海流散布で種子が漂着し、県内の砂浜では定着可能性があるが、過剰な海岸整備によって砂浜海岸の植生が壊滅的であるため生育は限定的である。

## 【国内分布】

本州(関東南部以西)、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

横須賀-1○・横須賀-2○・横須賀-4●・鎌倉-1○・三浦●・城ヶ島●・小田原-3◎

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 横須賀市天神島の自生地は1953年に県の天然記念物に指定されている。

☒写真あり: 口絵3)

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>オオキツネノカミソリ</b>			1995	絶滅種 A
<i>Lycoris sanguinea</i> Maxim. var. <i>kiushiana</i> Makino ex T.Koyama		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 今回の調査では3調査区の5か所で確認された。分布が局在しているため、森林伐採などの生育環境の変化に対して脆弱性がある。	<b>【国内分布】</b> 本州(関東以西)、九州	<b>【県内分布】</b> 相模湖●・藤野-1●・綾瀬○・山北-4●	<b>【存続を脅かす要因】</b> 不明	<b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 県立自然公園
<b>【生育環境・生態】</b> 山野に生える多年草				
<b>【現状】</b> 本県は分布北限付近に位置し、生育は稀である。主に丹沢周辺の低山地で記録がある。				

## キジカクシ科(クサスギカズラ科)

絶滅危惧 II 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>キジカクシ</b>			1995	減少種 G
<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では5調査区に250株未満から絶滅危惧 I B 類と判定された。今回の調査でも5調査区の8か所で確認されたため、ランクを下げ絶滅危惧 II 類と判定した。生育適地が限定的である点と個体数が少ない点に脆弱性がある。	<b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州	<b>【県内分布】</b> 旭△・緑◎・横須賀-5○・津久井-4◎・津久井-5●・相模湖●・秦野-2◎・秦野-4◎・藤沢-3●・小田原-1●・山北-6●	<b>【存続を脅かす要因】</b> 管理放棄、土地造成	
<b>【生育環境・生態】</b> 県内では沖積地周辺の低山地や丘陵に分布し、草地や明るい林内に生える多年草				
<b>【現状】</b> 比較的広範囲に分布するが、いずれの生育地も個体数が限られる。				

## キジカクシ科(クサスギカズラ科)

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>キヨスミギボウシ</b>			1995	絶滅危惧種 E
<i>Hosta kiyosumiensis</i> F.Maek.		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 本県は分布の東限に近く、元々生育に適した環境が限定的と考えられる。1993年に箱根町で1点の標本記録があるのみで、以降は生育が確認されていない。	<b>【国内分布】</b> 本州(関東南部、東海、近畿)	<b>【県内分布】</b> 箱根-5◎	<b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限	
<b>【生育環境・生態】</b> 本来は安定した樹林内に生育する多年草であるが、県内では早川の溪岸に生育していた。				
<b>【現状】</b> —				

キジカクシ科(クサスギカズラ科)

準絶滅危惧

ユキザサ

*Maianthemum japonicum* (A.Gray) LaFrankie

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では8調査区で確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で約30%減少しているが、丹沢の高標高域では植生保護柵内での標本採集が十分ではなかったことを考慮して、準絶滅危惧にとどめた。生育地では群生することが多いが、分布が局在する点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】

県内では丹沢山地や丘陵地の湿り気のあるブナ林や落葉樹林内に見られる。

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

緑○・相模原-4○・城山●・津久井-1●・津久井-2●・津久井-3○・津久井-4○・津久井-5●・大和●・厚木-5○・愛川○・清川-1●・清川-3○・秦野-1○・山北-1○・山北-2●・山北-3●・山北-4○・山北-6△

【存続を脅かす要因】

シカ影響

【特記事項】

・保護の現状:一部は国定公園、植生保護柵

キジカクシ科(クサスギカズラ科)

絶滅危惧 I B 類

ハルナユキザサ

*Maianthemum robustum* (Makino & Honda) LaFrankie

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では4調査区の5個の3次メッシュで確認された。分布が局在する点、シカによる採食から保護が必要である点、遺伝的なボトルネックがかかったことが懸念される点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

ブナ帯の樹林内に生える多年草

【現状】

丹沢のブナ帯では、おそらくシカによる採食の影響を最も受けやすい植物の一つで、以前から稀な植物であった。近年は植生保護柵内に生育が確認されている。

【国内分布】

本州(関東、中部)

【県内分布】

津久井-1●・津久井-2●・清川-1●・山北-3●

【存続を脅かす要因】

シカ影響

【特記事項】

・保護の現状:国定公園の特別保護地区、植生保護柵

〈写真あり:口絵3〉

キジカクシ科(クサスギカズラ科)

絶滅

ヒメイズイ

*Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim.

神奈川県	2006	消息不明種
	1995	消息不明種
環境省	2020	—

【判定理由】

1923年に横浜で採集された標本が残されているが、産地詳細は不明。以降の生育は確認されていない。

【生育環境・生態】

草原や海岸などに生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州(滋賀県以北)

【県内分布】

—

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

・標本:横浜 1923.5.15 久内清孝 s.n. TI

準絶滅危惧			
<b>ヤマアマドコロ</b> <i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>thunbergii</i> (C.Morren & Decne.) H.Hara	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では4調査区の5か所のみで採集され、『神植誌88』との比較で調査区単位90%減少した。1980年代には広く採集されていたが、近年の記録が著しく少なく、減少傾向にあることが懸念されている。  
ただし、生育地が重複する他種で同様の分布の減少傾向が見られず、本種について近年の調査が不十分な可能性も考えられ、準絶滅危惧として見守ることとした。

**【生育環境・生態】**  
県内では沖積地と周辺の丘陵地に分布する。アマドコロとは葉の下面に毛状の細突起があることで区別する。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
神奈川県○・西○・中○・南◎・港南○・保土ヶ谷○・旭○・港北○・緑○・栄◎・瀬谷○・中原○・麻生○・鎌倉-2△・津久井-3○・津久井-5●・相模湖○・藤野-2○・大和○・座間○・綾瀬◎・厚木-5○・愛川○・清川-3◎・伊勢原-2○・伊勢原-3○・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4●・秦野-5◎・藤沢-1○・藤沢-2○・藤沢-3○・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2◎・寒川○・平塚-1○・平塚-3○・大磯○・小田原-3◎・山北-7△・山北-8◎・中井◎・大井●・松田○・箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
不明

ミズアオイ科

絶滅			
<b>ミズアオイ</b> <i>Monochoria korsakowii</i> Regel & Maack	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	準絶滅危惧

**【判定理由】**  
古くから沿海地を中心に数か所の記録がある。標本として残されているのは1960年の鎌倉市、1970年の平塚市のものが最後である。『神植誌88』には1979年に平塚市で一時的に発生したことが報告されている。

**【生育環境・生態】**  
水田付近に生える一年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見△・鎌倉-1△・平塚-2△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本:Sagami 1866-1874 Savatier-1216 P02172335(田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県の絶滅植物. 神自誌, (36): 11-20); 武蔵鶴見 1926.9.26 久内清孝 T1; 鎌倉市大船 1940.10.10 宮代周輔 YCB112176; 鎌倉市山ノ内 1960.9.25 宮代周輔 YCB122310; 平塚市四之宮神明前 1970.9.15 守矢淳一 HCM061838.

ガマ科

準絶滅危惧			
<b>ミクリ</b> <i>Sparganium erectum</i> L.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	減少種 H
	環境省	2020	準絶滅危惧

**【判定理由】**  
今回の調査では11調査区で確認された。生育環境が局地的な点で脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
湖沼、ため池、河川などに生える多年草

**【現状】**  
県内では相模川流域以東に分布し、多摩川水系、鶴見川水系、境川水系などにまれに見られる。いずれも流域全体に分布するのではなく、局地的である。多くの生育地では継続して確認されているが、平塚市や横浜市のいくつかの既知産地では近年の記録がない。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見◎・都筑●・戸塚◎・栄●・幸◎・宮前●・多摩●・横須賀-2●・相模原-1●・座間●・海老名○・厚木-1●・厚木-2●・厚木-5●・寒川●・平塚-2◎・平塚-3◎・箱根-1○

**【存続を脅かす要因】**  
池沼開発、河川開発

絶滅危惧 I A 類

ヤマトミクリ

*Sparganium fallax* Graebn.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

箱根町の 1 調査区の 1 か所で記録がある。いずれの生育地も現状は安定していると考えられるが、今回の調査で確認したのは 1 か所である。分布が局地的で生育環境に限られる点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湖沼、ため池、河川などに生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

箱根-1◎・箱根-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限、土地造成

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧 I B 類

ナガエミクリ

*Sparganium japonicum* Rothert

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

今回の調査では大和市と平塚市の 2 調査区の 2 か所で確認された。箱根町仙石原の生育地では 5 年ほど前から発見できなくなっている。分布が局地的で生育環境に限られる点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湖沼、ため池、河川などに生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

保土ヶ谷△・多摩△・大和●・愛川△・平塚-2●・箱根-1◎・箱根-4△

【存続を脅かす要因】

産地局限、河川開発

【特記事項】

・標本: 川崎市多摩区西生田 1951.11.18 大場達之 KPM-NA0049820~1; 横浜市三ツ沢池 1933.10.15 久内 TI; 愛甲郡中津 1907.8 ACM-PL31413.

絶滅危惧 I A 類

ヒメミクリ

*Sparganium subglobosum* Morong

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】

箱根町で 1990 年代に継続して生育が確認されていたが、1999 年以降は標本が作成されていない。古くは、横浜市、川崎市、三浦市で記録があるが、これらの地域では 40 年以上にわたって生育は確認されていない。分布が限られ、生育環境が局地的な点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湖沼、ため池、河川などに生える多年草

【現状】

箱根町では仙石原の樹林内を流れる湧水中に生育し、沈水形でめったに花序が上がらない。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

旭△・多摩△・三浦△・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】

産地局限、池沼開発、水質汚濁

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園  
・標本: 川崎市多摩区西生田 1952.6.29 大場達之 KPM-NA0049836; 横浜市旭区桐ヶ作 1952.8.25 出口長男 KPM-NA0080177; 三浦市小松ヶ池 1973.10.29 高橋秀男 KPM-NA0057788.

絶滅危惧 I B 類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">イトイヌノヒゲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Eriocaulon decemflorum</i> Maxim.</div>											
<p><b>【判定理由】</b>                      県内の現存は、相模原市、箱根町の一部に限られ、2 調査区の 2 か所で確認された。1970年代以前は川崎市や横浜市に広く分布していたことが標本や文献からうかがえる。分布が局地的で生育環境に限られる点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      山地の水辺や湿地に生える一年草</p> <p><b>【現状】</b>                      —</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b>                      鶴見△・港南△・旭○・緑◎・戸塚△・多摩△・麻生◎・津久井-4△・津久井-5●・厚木-1△・箱根-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      土地造成、水田の畑地化</p> <p><b>【特記事項】</b>                      ・保護の現状:箱根は国立公園</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	—	環境省	2020	—	
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類									
	1995	—									
環境省	2020	—									

絶滅危惧 I A 類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">イヌノヒゲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Eriocaulon miquelianum</i> Körn</div>											
<p><b>【判定理由】</b>                      県内の現存は、箱根町仙石原の 1 調査区 1 か所のみである。1950年代に横浜市での記録があるが同地では以降確認されていない。分布が局地的で生育環境に限られ、確認できる個体数も少ない点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      水辺や湿地、水田に生える一年草</p> <p><b>【現状】</b>                      —</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b>                      旭△・箱根-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b>                      ・保護の現状:国立公園特別保護地区                      ・標本:横浜市旭区二俣川大池 1952.8.25 出口長男 KPM-NA0080172.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—	
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類									
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									

準絶滅危惧											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒロハノイヌノヒゲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Eriocaulon robustius</i> (Maxim.) Makino var. <i>robustus</i></div>											
<p><b>【判定理由】</b>                      6 調査区で確認され、調査区単位での減少は見られないが、分布が局在し、生育地が顕著に減少した点、現存する生育地の水田環境も存続が危ぶまれる点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b>                      水辺や湿地、水田に生える一年草</p> <p><b>【現状】</b>                      水田環境の急速な減少とともに、近年は確認される地点も大幅に減少した。かつては横浜市内各地での標本記録があったが、2000年以降では、川崎市、相模原市の一部と、小田原市、南足柄市、箱根町でしか記録されていない。残された水田環境も事業的な規模で耕作はされておらず、生育環境の存続が危ぶまれる。</p>	<p><b>【国内分布】</b>                      北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b>                      鶴見△・港南△・旭○・港北△・緑◎・多摩△・麻生●・三浦△・城山◎・津久井-3●・小田原-2●・南足柄-1●・南足柄-3●・山北-7△・箱根-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b>                      土地造成、水田の畑地化</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—	
神奈川県	2006	—									
	1995	—									
環境省	2020	—									

絶滅危惧 I A 類

クロヒロハノイヌノヒゲ

*Eriocaulon robustius* (Maxim.) Makino var. *nigrum* Satake

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

県内では箱根町の精進池と仙石原で記録されているが、今回の調査では仙石原の 1 調査区 1 か所で見つかっていない。精進池では生育期に水位が高く、今回の調査期間中には確認されていない。分布が局地的で生育環境が限られ、確認できる個体数も限定的である点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湿地や池の減水裸地に生える一年草

【現状】

—

【国内分布】

本州(東北地方、関東地方)

【県内分布】

箱根-1●・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧 I B 類

ニッポンイヌノヒゲ

*Eriocaulon taquetii* Lecomte

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	—

【判定理由】

県内の現存は、箱根町と愛川町の 2 調査区の 2 か所に限られる。1950年代に川崎市での記録があるが同地では以降確認されていない。分布が局地的で生育環境が限られる点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

水田や沼地に生える一年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

多摩△・愛川●・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 箱根は国立公園

・標本: 川崎市多摩区登戸向ヶ丘 1953.9.6 大場達之 KPM-NA0016001.

絶滅危惧 II 類

ヒメコウガイゼキショウ

*Juncus bufonius* L.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では川崎区と寒川町の 2 調査区に 50 株未満であったことから絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では 6 調査区で確認されたため、絶滅危惧 II 類にランクを下げた。生育地が攪乱環境で限定的な点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】

河川敷や空き地など降雨時に滞水するような砂泥質の攪乱環境に発生する一年草

【現状】

相模川水系や境川水系の中下流部の氾濫原に分布する植物。古くは 1970年代から茅ヶ崎市に生育が知られていたが、現在では同地のほか、横浜市、座間市、海老名市、寒川町でも生育が確認されている。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

戸塚●・泉●・川崎◎・相模原-2●・座間●・海老名●・茅ヶ崎-2○・寒川●

【存続を脅かす要因】

湿地開発

絶滅			
<b>イヌイ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Juncus fouriei</i> H.Lév. & Vaniot			1995 絶滅種A
		環境省	2020 —
【判定理由】 記載時の標本産地は横須賀付近、1929年の藤沢市、1957年の鎌倉市での標本記録が知られているが、以降県内で生育は確認されていない。	【国内分布】 北海道、本州	【県内分布】 鎌倉-2△・藤沢-3△	
【生育環境・生態】 沿海域の湿った砂地、砂泥地などに生える多年草	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 ・標本：藤沢市鶴沼 1929.6.9 榎山泰一 TI; 鎌倉市材木座 1957.7 宮代周輔 YCB108036.	
【現状】 —			

絶滅			
<b>ドロイ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Juncus gracillimus</i> (Buchenau) V.I.Krecz. & Gontsch.			1995 絶滅種A
		環境省	2020 —
【判定理由】 1915年の川崎市付近で採集された標本 1 点が残されている。以降に生育は確認されていない。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 川崎△	
【生育環境・生態】 沿海域の湿生地に生える多年草	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 ・標本：川崎付近 1915.6.27 牧野富太郎 MAK116631.	
【現状】 —			

絶滅危惧 I A 類			
<b>ニッコウコウガイゼキショウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Juncus nikkoensis</i> Satake			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —
【判定理由】 古くから箱根での文献記録のみ知られていたが、1992年に箱根町で 1 点の標本が記録された。以降は採集確認がされていない。生育地が限定的な点で脆弱性がある。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 箱根-5◎	
【生育環境・生態】 ブナ帯の池沼の岸などに生える多年草	【存続を脅かす要因】 産地局限	【特記事項】 ・保護の現状：国立公園	
【現状】 減水時に生じた陸地に発生するが、近年は生育に適した時期に満水のことが多く、生育が確認できていない。			

イグサ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>アサギスズメノヒエ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Luzula lutescens</i> (Koidz.) Kirschner & Miyam.		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 今回の調査では2調査区の2か所で確認された。丹沢山地の東部にあたる相模原市と清川村からのみ記録されており、分布が限定的である。ただし、本種はヤマズメノヒエの変種から2001年に独立種として整理された植物で、ヤマズメノヒエとの識別を踏まえた十分な調査がなされていない可能性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 草地や林縁に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州、四国</p> <p>【県内分布】 津久井-2○・津久井-3●・清川-1○・清川-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園</p>		

イグサ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>オカズズメノヒエ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Luzula pallidula</i> Kirschner		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 1998年に相模原市で採集された1点の標本のみが記録されている。以降記録がなく現状は不明。生育地が限定的な点で脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の草地、林縁などに生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 藤野-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・標本: 相模原市藤野町奥牧野 1998.7.5 酒井藤夫 KPM-NA0110372.</p>		

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>イセウキヤガラ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F.Schmidt) T.V.Egorova		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 今回の調査では多摩川河口の1調査区の2か所で確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 河口付近の浅水中に生える多年草。コウキヤガラに似るが、苞や葉身の断面が三角形でその稜は平滑。</p> <p>【現状】 多摩川の河口、三浦半島南端の内湾、鶴見川河口川敷で記録されているが、鶴見川では消滅した。多摩川河口付近はもっとも海水の影響の強い所に生える。三浦半島南部では内湾干潟に生える。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 都筑◎・川崎●・三浦◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 河口浚渫</p>		

絶滅危惧 I B 類			
<b>イトテンツキ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 —
<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz. var. <i>capitata</i> (Miq.) Ohwi		環境省	2020 準絶滅危惧
<p>【判定理由】 2 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では、1995 年以後未確認であったため、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、今回、箱根町と開成町で新産地が見つかった。</p> <p>【生育環境・生態】 芝地に生える一年草。イトハナビテンツキの変種で、花序は頭状で枝を出さない。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(福島県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 相模原-2○・藤沢-3◎・開成●・箱根-1○・箱根-6●・湯河原-2○</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 箱根は国立公園、湯河原は県立自然公園</p>		

絶滅			
<b>トダスゲ</b>		神奈川県	2006 消息不明種
			1995 消息不明種
<i>Carex aequialta</i> Kükenth.		環境省	2020 絶滅危惧 I A 類
<p>【判定理由】 『神RDB06』では、消息不明種とされたが、標本が確認されたため絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方～近畿地方)、九州</p> <p>【県内分布】 横須賀-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 『神植誌58』や『宮代目録』には「箱根」の記録があったが、標本は確認されていなかった。産地は異なるが、田中(2021)により、下の標本が報告された。 ・標本: Ohgusu-yama, Kanagawa Pref. May.5.1933 Chojii Suzuki TUS169646.</p> <p>【文献等】 田中徳久, 2021. 2018-2020 年に見出した神奈川県地域植物相の重要な記録となる標本. 神自資, (42): 143-147.</p>		

準絶滅危惧			
<b>クロカワズスゲ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
			1995 減少種 G
<i>Carex arenicola</i> F.Schmidt		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神RDB06』では総個体数 1,000 株未満と推定され絶滅危惧 II 類とされた。今回の調査では 8 調査区で確認され、調査区単位の減少もなく、判定基準では選外となるが、記録された産地は市街地周辺の不安定な立地なので、準絶滅危惧に残した。</p> <p>【生育環境・生態】 砂質の湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 箱根では精進池畔の砂地に安定して生育している。藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市には点々と生育地があるが、これらはいずれも市街地周辺の空地で、いつ失われても不思議ではない。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・港南●・多摩●・横須賀-5○・逗子△・藤沢-2●・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・寒川○・平塚-1△・平塚-3◎・大磯○・箱根-1●・箱根-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 箱根は国立公園</p>		

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>マツバスゲ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧ⅠB類
<i>Carex biwensis</i> Franch.			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
『神RDB06』では調査区単位で75%の減少と推定されたため絶滅危惧ⅠB類と判定された。今回の調査では2調査区で再発見、2調査区で新産地の計5調査区で確認できた。しかし、これらの産地は市街地周辺の不安定な立地なのでランクダウンしたが、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
湿地に生える多年草

**【現状】**  
多摩丘陵などの谷戸の休耕田に多く見られたが、最近では谷戸田が埋められる傾向があり、かつての産地は急速に減少した。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
旭◎・緑○・青葉○・戸塚●・多摩●・麻生◎・鎌倉-1△・三浦●・相模原-1◎・城山●・厚木-1◎・箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
湿地開発、自然遷移、土地造成

**【特記事項】**  
・保護の現状:箱根は国立公園

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ハリガネスゲ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
<i>Carex capillacea</i> Boott			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
3調査区の4個の3次メッシュで確認された。今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB類になるが、箱根ではいずれの産地も個体数が多いことから1ランク下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
湿地に生える多年草。草姿はヒカゲハリスゲに似るが、花穂直下の茎が滑らかで、果胞には太い脈がある。

**【現状】**  
横須賀市では確認できず、失われた可能性が高い。

**【国内分布】**  
北海道、本州、九州

**【県内分布】**  
横須賀-4○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5◎

**【存続を脅かす要因】**  
湿地開発、自然遷移

**【特記事項】**  
・保護の現状:国立公園

カヤツリグサ科

絶滅危惧ⅠB類				
<b>ジョウロウスゲ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧ⅠA類
<i>Carex capricornis</i> Meinsh. ex Maxim.			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	絶滅危惧Ⅱ類

**【判定理由】**  
『神植誌01』の調査時に川崎市多摩区多摩川河川敷で数株が見つかり、100年振りの再発見が報告された。『神RDB06』では消滅した可能性があることから絶滅危惧ⅠA類と判定された。今回の調査では同じ多摩川の河川敷ではあるが、2調査区の2個の3次メッシュで確認された。

**【生育環境・生態】**  
湖沼や河川の水辺に生える多年草

**【現状】**  
生育地は不安定な立地で常に消滅の危険にさらされている。海老名市に古い記録があるが、相模川水系ではその後の調査でも発見されていない。

**【国内分布】**  
北海道、本州(中部以北)

**【県内分布】**  
川崎●・多摩●・海老名△

**【存続を脅かす要因】**  
河川開発、産地局限

**【特記事項】**  
・標本:高座郡海老名村(現在の海老名市) 1907.6.16 中山 每吉 ACM-PL30138.

絶滅危惧 I A 類																			
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ミヤマジュズスゲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Carex dissitiflora</i> Franch.</div>																			
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区の1個の3次メッシュのみで確認された。県内では他に2調査区の記録があるが、再確認できず、引き続き危険な状況と考えられる。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 湿った林内に生える多年草。花穂はすべて雄雌性で、果胞の口部から枝を出し、その先に花穂をつけることがある。</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 南足柄-1●・山北-4○・山北-7◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 山北-4の産地は県立自然公園</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	希少種	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	希少種	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類																	
	1995	希少種																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類																	
	1995	希少種																	
環境省	2020	—																	

絶滅危惧 I B 類																			
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">コタヌキラン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Carex doenitzii</i> Boeckeler</div>																			
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では2調査区の2個の3次メッシュのみで確認された。『神RDB06』では箱根に1,000株未満が生育すると推定され絶滅危惧 II 類と判定されたが、今回の判定基準では確認調査区数が少ないことから絶滅危惧 I B 類と判定された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地ブナ帯～高山帯の岩上や砂礫地に生える多年草。富士山では高山帯の砂礫地に多産する。</p> <p><b>【現状】</b> 箱根ではハコネコメツツジが生える風衝地岩上に生育している。丹沢では2017年に檜洞丸山頂付近で写真撮影されている。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(近畿地方以北)、屋久島</p> <p><b>【県内分布】</b> 山北-3●・箱根-4●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園および国定公園</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	—	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	

絶滅危惧 II 類																			
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">オクノカンスゲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><i>Carex foliosissima</i> F.Schmidt</div>																			
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌18』の調査では2調査区のみ確認であったが、箱根や湯河原では『神植誌01』の5調査区の産地はいずれも健在である。一方、丹沢の5調査区では失われた可能性があり、少なくとも30%以上の調査区減少と推定され、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 湿った樹林内に群生する常緑の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢の高標高域ではシカの影響により、ほとんど見られなくなった。箱根では今のところ減少は見られないが、今後のシカの増加が懸念されている。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州(北部)</p> <p><b>【県内分布】</b> 清川-2◎・小田原-4●・山北-1○・山北-3○・山北-4◎・山北-5◎・箱根-4◎・箱根-5●・湯河原-1◎・湯河原-2◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006	—																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	
神奈川県	2006	—																	
	1995	—																	
環境省	2020	—																	

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類				
<b>サナギスゲ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<i>Carex grallatoria</i> Maxim. var. <i>heteroclita</i> (Franch.) Kük.		環境省	1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では箱根冠岳の一角に 50 株未満と推定され、絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では箱根二子山や丹沢桧洞丸で新産地が見つかり、2 調査区の 2 か所で確認されランクが下がった。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の岩上のコケの中などに生える。茎頂に雄雌性花穂を 1 個つける。

【現状】  
箱根の大涌谷周辺の産地は噴火の影響が懸念されるが調査ができず現状は不明。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
山北-3●・箱根-4◎・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 箱根は国立公園特別保護地区、丹沢では国立公園特別保護地区

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類				
<b>コハリスゲ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<i>Carex hakonensis</i> Franch. & Sav.		環境省	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
3 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では箱根駒ヶ岳と神山の鞍部に 50 株未満が生育するにすぎないことから絶滅危惧 I A 類と判定された。今回、新たな産地が見つかり、絶滅危惧 I B 類にランクが下がった。

【生育環境・生態】  
おもにシラビソ帯の樹林内に生える多年草。近いところでは富士山に多産する。

【現状】  
駒ヶ岳と神山の鞍部、精進池、芦之湯周辺、海の平など、風衝草地や樹林内に見られる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
箱根-2●・箱根-4●・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

カヤツリグサ科

絶滅				
<b>ウマスゲ</b>		神奈川県	2006	絶滅
<i>Carex idzuroei</i> Franch. & Sav.		環境省	1995	絶滅種 B
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1979年に川崎市宮前区で採集されたが、その後、再確認されず、『神RDB95』以来絶滅と判断されている。

【生育環境・生態】  
河川の氾濫原や池畔などの湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
宮前○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 川崎市高津区平 1979.5.25 黒沢一之 KPM-NA107410.

絶滅危惧ⅠA類			
<b>クジュウツリスゲ</b>		神奈川県	2006 — 1995 —
<i>Carex kujuzana</i> Ohwi		環境省	2020 準絶滅危惧
<p>【判定理由】 『神植誌18』の調査で神奈川県新産となった。1 調査区の 1 個の 3次メッシュのみで記録された。</p> <p>【生育環境・生態】 やや乾いた樹林内や林縁に生える多年草。匍枝を伸ばし、基部の鞘は赤紫色、雄花穂は長い柄があり、雌花穂は疎らに果胞をつけ、長い柄があり垂れ下がる。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(中部以北)、九州(北部)</p> <p>【県内分布】 旭●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 東京近郊では府中市浅間山に知られている。 ・保護の現状:市民の森</p> <p>【文献等】 佐々木シゲ子・和田良子・野津信子, 2017. 横浜市旭区に神奈川県新産のクジュウツリスゲ(カルイザワツリスゲ). FK, (84): 1003Times New Roman1004.</p>		

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ヤガミスゲ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類 1995 絶滅危惧種 E
<i>Carex maackii</i> Maxim.		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神RDB06』では各産地の個体数は 10 株未満または 50 株未満で、総計 250 株未満と推定し、絶滅危惧ⅠB類と判定された。今回、4 調査区の 8 個の 3次メッシュで確認され、判定基準の改訂により 1ランク下がった判定となった。</p> <p>【生育環境・生態】 河川敷などの湿った草地に生える多年草。無柄の雌雄性花穂を円柱状に密生し、苞は葉身がほとんど発達しない。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、九州</p> <p>【県内分布】 金沢◎・幸●・多摩●・津久井-5●・相模湖●・藤野-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、河川開発</p>		

絶滅			
<b>タチスゲ</b>		神奈川県	2006 絶滅 1995 絶滅種A
<i>Carex maculata</i> Boott		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神植目33』および『神植誌58』に横浜の記録があり、川崎市登戸と相模大野で採集された標本が残されているが、その後の調査では再発見されない。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える多年草。葉は下面が粉白、果胞は乳頭状突起が密生し乾くと赤褐色に変色する。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 多摩△・相模原-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本:武蔵登戸 1953.4.15 大場達之 KPM-NA0012577; 相模大野 1957.6.9 桐生 亮 SCM000887.</p>		

絶滅危惧 I B 類

アワボスゲ

*Carex nipposinica* Ohwi

神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

2 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では 5 調査区のうち、2 調査区の減少(40%減少)から絶滅危惧 II 類と判定された。今回の調査でもその傾向は変わらず、判定基準の改訂により 1 ランク厳しい判定となった。

【生育環境・生態】

湿った草地に生える多年草

【現状】

箱根仙石原湿原内に安定した産地がある。三浦市は海岸近くの草地に 50 株未満が生育する。多摩丘陵では点々と産地があったが土地造成で失われた可能性が高い。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

青葉◎・多摩△・麻生◎・三浦●・座間◎・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

自然遷移、土地造成

【特記事項】

・保護の現状:箱根は国立公園

絶滅危惧 II 類

ヒカゲハリスゲ

*Carex onoei* Franch. & Sav.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

山北町の 3 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧 I B 類になるが、丹沢の沢筋の調査は不十分で、『神植誌 01』で確認された調査区では現存の可能性が高い。また、箱根では『神植誌 01』で婁子を記録したが、これも大涌谷の噴火の影響で調査ができず、現存する可能性が高い。これらを考慮して、1 ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】

山地の水がしみ出るような斜面に生える多年草

【現状】

小型の植物でシカの影響は少ないと考えられる。

【国内分布】

北海道、本州(中部以北、紀伊半島)

【県内分布】

津久井-3○・山北-1●・山北-2●・山北-3○・山北-4○・山北-5●・山北-7○・松田◎・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事

【特記事項】

・保護の現状:丹沢は国定公園および県立自然公園、箱根は国立公園

絶滅危惧 II 類

オタルスゲ

*Carex otaruensis* Franch.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

4 調査区の 6 か所で確認された。

【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

【現状】

横浜市や川崎市の丘陵谷戸の湿地に見られたが、宅地造成や湿地の上層の樹木が成長して暗くなり、今回の調査ではほとんど再確認されていない。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

保土ケ谷◎・緑◎・青葉○・多摩◎・鎌倉-1△・城山●・津久井-5●・相模湖●・箱根-1◎・箱根-5●

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移

【特記事項】

・保護の現状:箱根は国立公園、他は市民の森や都市公園など

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ヒメスゲ</b>	<i>Carex oxyandra</i> (Franch. & Sav.) Kudô	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根の2調査区の2個の3次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類に相当するが、大涌谷の火山荒原や外輪山南半部に多産するので、1ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
芝地、草地、岩礫地、河原などに生える多年草

【現状】  
箱根の火山荒原や風衝草地に見られる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鎌倉-1△・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5◎・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧ⅠB類				
<b>アオバスゲ</b>	<i>Carex papillatoculmis</i> Ohwi	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では1調査区の1個の3次メッシュのみで確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠA類となるが、丹沢の高標高地の調査が不十分のため、今回は1ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹林内に生える常緑の多年草

【現状】  
丹沢ではシカの影響で植生保護柵外ではほとんど見られなくなった。箱根では外輪山の根府川側で新たな産地が見つかったが、標本記録のある乙女峠では、静岡県側で確認され、神奈川県側では未発見。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
清川-2△・小田原-4●・山北-2○・山北-3◎・箱根-1△・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 丹沢は国定公園

絶滅危惧ⅠB類				
<b>ヒメモエギスゲ</b>	<i>Carex pocilliformis</i> Boott	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
2調査区の2個の3次メッシュで確認された。『神植誌01』の調査で県内で初めて確認され、今回、横浜市鶴見区で新たな産地が見つかった。

【生育環境・生態】  
乾いた樹林内や草地に生える多年草。雄花穂は細く、幅0.5~0.7mm、雄鱗片の基部が合着して筒状になる。

【現状】  
相模原市緑区(旧城山町)ではアカマツの生える小尾根の林床に点々と生えていたが、その後の状況は不明。

【国内分布】  
本州(関東地方南部以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見●・城山●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 横浜市鶴見区は市民の森

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
アイノコシラスゲ <i>Carex pseudoaphanolepis</i> Ohwi	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』の標本調査で県内の3調査区の分布が確認された。もっとも新しい標本は1996年に採集されたもので、県内からの消滅が危惧されるため絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
河川の高水敷などに生える多年草。エナシヒゴクサに似るが、葉は幅広く、下面は乳頭状突起が密生して白色。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国

【県内分布】  
横須賀-4◎・三浦◎・寒川○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

【特記事項】  
・標本:横須賀市芦名 1996.7.12 長谷研次 KPM-NA0158494; 三浦市毘沙門 1988.6.19 酒井藤夫 KPM-NA1101027; 三浦市諸磯 1985.6.15 鈴木一喜 YCM-V067167; 寒川町岡田 1982.5.16 三輪徳子 HCM033835, 037660.

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
マメスゲ <i>Carex pudica</i> Honda	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
1992年に箱根仙石原で発見され、神奈川県新産となったが、その場所は1994年ごろに造成工事で失われたため、『神RDB95』『神RDB06』ともに絶滅と判定された。2019年に箱根仙石原湿原内で再発見された。

【生育環境・生態】  
湿地周辺の草地や湿った樹林内に生える多年草。有花茎が葉に隠れているため発見しにくい。

【現状】  
箱根仙石原湿原の低木林内に100株以上が生育している。

【国内分布】  
本州(宮城県以南～近畿地方)

【県内分布】  
箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園特別保護地区

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
オオタマツリスゲ <i>Carex rouyana</i> Franch. & Sav.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
1986年に横浜市長津田の雑木林内で採集されたが、その場所は斎場の建設により失われ、『神RDB95』および『神RDB06』では絶滅種とされた。今回、川崎市多摩区の1調査区の1個の3次メッシュで新たに生育が確認された。

【生育環境・生態】  
湿った樹林内に生える多年草。タマツリスゲに似るが、雄花穂は長い柄があり突出し、基部の鞘の赤褐色の部分は少ない。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州(宮崎県)

【県内分布】  
緑○・多摩●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

【特記事項】  
・標本:横浜市緑区長津田 1986.4.27 勝山輝男 KPM-NA1073968; 相州大山 1884.6. 採集者不明 TI.

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>クサスゲ</b>	<i>Carex rugata</i> Ohwi	神奈川県	2006 —
			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
3 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧 I B 類となるが、箱根仙石原とその周辺には多産するので 1 ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
湿った草地や明るい落葉広葉樹林内に生える多年草。果胞と果実の稜にくびれがあり、乾くと全体が暗緑色に変わる。

【現状】  
相模原市や横浜市の産地では個体数が少ない。綾瀬市ではその後の状況は不明。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△・都筑●・相模原-1●・相模原-2◎・綾瀬◎・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 箱根では国立公園特別保護地区

カヤツリグサ科

絶滅			
<b>オオクグ</b>	<i>Carex rugulosa</i> Kük.	神奈川県	2006 絶滅
			1995 —
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
1907～1914年の間に横浜西戸部や川崎で採集された標本が国立科学博物館や東京都立大学に残されているが、その後の調査では発見されない。

【生育環境・生態】  
河口や入江の塩湿地、沿海地の淡水湿地などに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
西△・川崎△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 横浜西戸部 1907 松野重太郎 TNS57510; 横浜平沼 1911 牧野富太郎 MAK218285, 218286; 武蔵川崎 1914.6.2 MAK217828.

カヤツリグサ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>サドスゲ</b>	<i>Carex sadoensis</i> Franch.	神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —

【判定理由】  
1985年以後、再確認に行っていないが、生育の可能性はあるため絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の湿地や流水縁などに生える多年草。花柱が長く宿存し、花穂が赤褐色に見えるのが良い特徴である。

【現状】  
箱根町二の平の須沢に作られた堰堤の上の湿地に数株が見られた。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北の日本海側、伯耆大山)

【県内分布】  
箱根-6○

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園  
・標本: 箱根須沢 1982.5.17 畔上能力 KPM-NA1104720、1985.5.30 勝山輝男 KPM-NA0107529.

カヤツリグサ科

準絶滅危惧									
<p><b>シオクグ</b></p> <p><i>Carex scabrifolia</i> Steud.</p> <p>【判定理由】 4 調査区の 11 個の 3 次メッシュで確認され、判定基準では選外となるが、現存する調査区数が少なく、準絶滅危惧として見守る必要がある。</p> <p>【生育環境・生態】 河口や内湾などの塩湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 東京湾沿岸の開発により産地が急速に減少したが、最近の10年間でほとんど減少が見られず、一定の個体数が維持されている。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 鶴見△・金沢●・川崎●・横須賀-1●・横須賀-3○・横須賀-4○・鎌倉-1△・三浦●</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発</p>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		準絶滅危惧						
	1995	—							
環境省	2020	—							

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>センダイスゲ</b></p> <p><i>Carex sendaica</i> Franch.</p> <p>【判定理由】 『神RDB06』では個体数が 1,000 株未満と推定され、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。『神植誌18』では三浦のほか秦野-5で新産地が見つかり、2 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。鎌倉や金沢区でも現存する可能性が高く、全体として減少していないと考えられ絶滅危惧Ⅱ類を維持することにした。</p> <p>【生育環境・生態】 沿海地の疎林内や海岸芝地に生える多年草。ナキリスゲに比べて小型で、匍匐根茎を伸ばす。</p> <p>【現状】 三浦市黒崎は海岸の風衝草地に生える。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(岩手県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 金沢○・瀬谷○・横須賀-4○・鎌倉-2○・三浦●・秦野-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、海岸開発、自然遷移</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>ツルミヤマカンスゲ</b></p> <p><i>Carex sikokiana</i> Franch. &amp; Sav.</p> <p>【判定理由】 4 調査区の 5 個の 3 次メッシュで記録された。判定基準では絶滅危惧ⅠB 類になるが、『神植誌01』の調査で記録した産地の中には、今回再度採集されなかった所があること、個体数が多いことから 1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 やや明るい落葉広葉樹林内やササ群落内に生える多年草。匍枝で繁殖し、暗い樹林内ではあまり開花しない。</p> <p>【現状】 箱根外輪山の南～西半分の樹林内に分布する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(箱根以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根-1●・箱根-2○・箱根-4●・箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2○</p> <p>【存続を脅かす要因】 森林伐採、治山工事</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、県立自然公園</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

絶滅									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">オニナルコスゲ</p> <p style="font-style: italic;"><i>Carex vesicaria</i> L.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	消息不明種	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	消息不明種							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 帝国女子医学薬学専門学校(1932)に登戸付近の文献記録があり、相模原市大沼で採集された古い標本が残されているが、その後の調査では発見されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、九州</p> <p>【県内分布】 相模原-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 相模原市大沼 1657.6.9 桐生 亮 SCM00814</p> <p>【文献等】 帝国女子医学薬学専門学校, 1932. 武蔵登戸附近植物目録. 63+17 pp. 帝国女子医学薬学専門学校, 東京.</p>								

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ヒトモトススキ</p> <p style="font-style: italic;"><i>Cladium chinense</i> Nees</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 今回の調査では4調査区の4か所で確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類になるが、三浦、横須賀4、横須賀5にはそれぞれ複数の産地があり、4調査区に6か所以上の産地があると推定され、1ランク下げて判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 海岸の湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 三浦半島南半部の海岸には点々と産地がある。</p>	<p>【国内分布】 本州(関東中部以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-1△・横須賀-4●・横須賀-5●・鎌倉-2△・三浦●・江ノ島●</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ヒメアオガヤツリ</p> <p style="font-style: italic;"><i>Cyperus extremiorientalis</i> Ohwi</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 2000年に三浦半島の小松ヶ池の浚渫時に発生したが、翌年には池は満水になり、今は見られない。今回の調査では新たな産地が記録され、1調査区1か所の確認があった。</p> <p>【生育環境・生態】 池や湖の減水裸地に生える一年草</p> <p>【現状】 現在、三浦市の小松ヶ池は水が張られ、ヒメアオガヤツリは見られないが、水が涸れれば発生する可能性が高い。相模原市緑区(旧城山町)は1株のみの偶発的な発生と思われる。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 三浦◎・城山●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 『神植誌18』の引用標本「相模原市相模湖町沼本 KPM-NA0163611」は「城山町新道 KPM-NA0168256」の誤りである。 ・保護の現状: 小松ヶ池は公園として存続している。</p>								

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ツルナシコアゼガヤツリ</b>		神奈川県	2006
			1995
<i>Cyperus haspan</i> L. var. <i>microhaspan</i> Makino		環境省	2020

**【判定理由】**  
今回の調査では3調査区の4か所で確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、『神植誌01』で採集された4調査区でも生育している可能性が高いため、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
陽の当たる湿った裸地に生える一年草または短命な多年草。しばしばヒメガヤツリに誤認されるが、鱗片は長さ1～1.2mmあり、その先端は尖る。

**【現状】**  
県内では湿った宅地造成地、畑、水田などの不安定な立地に発生している。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
保土ヶ谷○・緑◎・瀬谷●・相模原-2◎・相模原-3△・相模原-4◎・大和◎・座間●・厚木-1○・藤沢-3△・平塚-3●

**【存続を脅かす要因】**  
水田の畑地化、市街化

カヤツリグサ科

絶滅危惧ⅠB類					
<b>カンエンガヤツリ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	
			1995	減少種 G	
<i>Cyperus iwasakii</i> Makino		環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類	

**【判定理由】**  
今回の調査では3調査区の4個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』と状況は変化していない。

**【生育環境・生態】**  
川岸などの湿地や池に生える短命な多年草。高さ50～150cmになる。

**【現状】**  
多摩川、相模川、鶴見川に分布。台風や大雨の影響で河川敷が荒れ、減少傾向にある。短命な多年草で生育場所は一定していないので、河川敷を自然状態で維持していれば、再び発生すると思われる。

**【国内分布】**  
本州

**【県内分布】**  
港北◎・都筑●・高津◎・多摩●・厚木-3●

**【存続を脅かす要因】**  
河川敷利用

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類					
<b>タチヒメクゲ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	
			1995	—	
<i>Cyperus kamtschaticus</i> (Meinsh.) Yonek.		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
『神RDB06』では箱根お玉ヶ池にのみ生育し、50株未満と推定されたため絶滅危惧ⅠA類と判定された。今回の調査では相模原市北西部で新産地が発見され、4調査区の6個の3次メッシュで確認されランクが下がった。

**【生育環境・生態】**  
夏緑性の一年草。アイダクグに似ているが、一年草で根茎は細く短い。

**【現状】**  
箱根お玉ヶ池では水位が下がった際の減水裸地に生える。夏から秋に水量が多い年には水没して見られない。

**【国内分布】**  
北海道、本州(関東地方以北)

**【県内分布】**  
相模原-3△・城山●・津久井-5●・相模湖●・箱根-5●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>シロガヤツリ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Cyperus pacificus</i> (Ohwi) Ohwi		環境省	2020
			絶滅危惧ⅠB類 — —

【判定理由】  
今回の調査では5調査区の7個の3次メッシュで確認された。新たな産地が記録されたため、ランクが下がったが、状況が改善されたとはいえないため、絶滅危惧Ⅱ類に判定した。

【生育環境・生態】  
河川や池の周辺の湿地に生える一年草。アオガヤツリとは果実の稜に狭い膜状の翼があることで区別し、ヒメアオガヤツリとは実体顕微鏡下で鱗片の竜骨が平滑なことで区別する。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州(近畿地方以東)

【県内分布】  
鶴見○・城ヶ島●・城山●・津久井-5●・相模湖●・海老名△・愛川○・平塚-2○・小田原-3●

【存続を脅かす要因】  
河川開発、池沼開発

絶滅			
<b>オニガヤツリ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Cyperus pilosus</i> Vahl		環境省	2020
			絶滅 絶滅種A —

【判定理由】  
『神植誌58』に「三浦で採集した記録がある」と記述されるが、その後の調査では確認されていない。

【生育環境・生態】  
湿地や水田に生える多年草。小穂のつく軸に刺毛があるのでミズガヤツリに似るが、柱頭は3岐し、果実は3稜形。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(東海地方以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
文献記録のみで標本は確認されておらず、『神植誌18』では参考種とされたが、ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。

絶滅危惧ⅠB類			
<b>ヒメガヤツリ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.		環境省	2020
			絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧種E —

【判定理由】  
1983年以後の確認ができなかったが、今回の調査で2調査区の3個の3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
湿地や水田に生える多年草。鱗片は長さ0.6~1mmで先端は切形で先は反曲する。鱗片と鱗片の間に透き間が空くことで果実が見える。

【現状】  
かつて記録のあった南足柄市で再発見され、相模原市緑区(相模湖)で新たな産地が見つかった。

【国内分布】  
本州(福島県以南)、四国、九州

【県内分布】  
相模湖●・愛川△・南足柄-3●

【存続を脅かす要因】  
水田の畑地化、土地造成

【特記事項】  
『神RDB95』『神RDB06』では別名のみズハナビとして記載。

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>セイタカハリイ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. & Sav.) Palla		環境省	2020 —

【判定理由】  
7 調査区の 9 個の 3 次メッシュで確認された。『神植誌88』との比較で約 15%、『神植誌01』との比較では約 60%の調査区で減少している。県東部の市街化の著しい地域に分布するので、やや厳しく考え絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
水田や湿地に生える多年草。茎は高さ 30~50cm ほど、柱基は幅と長さと同じか横長で、果実と同幅~3/4 くらい。

【現状】  
水田の減少に伴い減少が著しい。

【国内分布】  
本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見△・磯子○・金沢◎・青葉●・都筑◎・戸塚◎・栄◎・泉●・多摩△・麻生●・横須賀-1●・横須賀-3○・横須賀-4●・横須賀-5○・逗子◎・葉山●・三浦●・大磯○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

カヤツリグサ科

絶滅			
<b>イヌクログワイ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種A
<i>Eleocharis dulcis</i> (Burm.f.) Trin. ex Hensch.		環境省	2020 —

【判定理由】  
横須賀市で採集された古い標本が残されているが、その後の調査では見つかっていない。

【生育環境・生態】  
ため池や水田等に生える多年草。小穂の鱗片は先が円く、白緑色で熟しても色が変わらない。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方、近畿地方以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
横須賀-2△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:横須賀市吉井 1959.11.10 大谷 茂 YCM-V011330.

【文献等】  
大谷 茂・小山鐵夫, 1961. 三浦半島のシログワイの記録. 横博研報, (6): 30-31.

カヤツリグサ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>スジヌマハリイ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種A
<i>Eleocharis equisetiformis</i> (Meinsh.) B.Fedtsch.		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
1951年に川崎市多摩区、1988年に横浜市都筑区で採集されたが、いずれも今はない。今回、相模原市緑区(津久井-5)の 1 か所で採集された。

【生育環境・生態】  
湖岸や河畔などの砂混じりの土質の湿地に生える多年草。茎は灰緑色でやや細く硬く、標本にしても丸みが残る。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(東北地方~中部地方)、九州(北部)

【県内分布】  
都筑◎・多摩△・津久井-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本:川崎市多摩区登戸 1951.5.6 大場達之 KPM-NA0031558; 横浜市都筑区牛久保町 1988.8.14 小崎昭則 KPM-NA1100609.

カヤツリグサ科

絶滅危惧Ⅱ類			
ハリイ <i>Eleocharis japonica</i> Miq.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では9調査区の12個の3次メッシュで確認された。調査区単位で30%以上の減少があり、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。

【生育環境・生態】  
水田に生える一年草または短命な多年草。高さ5~20cm、刺針状花被片は柱基と等高。

【現状】  
水田の減少に伴い減少が著しい。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見△・神奈川△・南△・港南△・保土ヶ谷△・旭◎・港北△・緑◎・青葉●・都筑◎・戸塚●・栄△・高津△・宮前○・麻生◎・横須賀-5△・鎌倉-1◎・逗子△・三浦△・相模原-2△・相模原-3△・城山●・相模湖●・座間○・厚木-1●・愛川●・藤沢-1◎・藤沢-3◎・南足柄-1●・箱根-1●・箱根-4○・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
水田の畑地化、市街化

カヤツリグサ科

絶滅			
ヒメハリイ <i>Eleocharis kamtschatica</i> (C.A.Mey.) Kom.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
横浜市や三浦半島で採集された古い標本が残されているが、その後の調査では発見されていない。

【生育環境・生態】  
沿海地の湿地に生える多年草で匍匐枝がある。柱基は大きく果実と同幅同長。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
金沢△・港北△・三浦△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:三浦半島下宮田 1929.6.16 初山泰一 TI; 横浜市金沢区泥亀新田 1955.6.10 村上司郎 TKB62441; 横浜市港北区 1967.5.8 宮代周輔 YCB038705.

カヤツリグサ科

絶滅			
ヤリハリイ <i>Eleocharis nipponica</i> Makino	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根芦ノ湖を基準産地の1つとしてMakino(1904)により記載されたが、その後の調査では発見されていない。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
原記載からハリイ類の種間雑種と推定されるが、東京大学総合研究博物館(TI)や東京都立大学牧野標本館(MAK)で調査を行ったが、基準標本は確認出来なかった。

【文献等】  
Makino, T., 1904. Observations on the Flora of Japan. *Botanical magazine, Tokyo*, 18: 103-115.

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>コツブヌマハリイ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Eleocharis parvinox</i> Ohwi		環境省	2020
		絶滅危惧 I A 類	減少種 G
		絶滅危惧 II 類	

**【判定理由】**  
箱根お玉ヶ池、横浜市都筑区落合橋付近の鶴見川、大和市泉の森の水源池の3か所で採集されている。鶴見川では2001年頃からヨシが繁茂して見つからず、泉の森でも1995年以後は確認できない。最近、秦野市でも見つかったが詳細は不明。現存する確実な産地はお玉ヶ池に限られ、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
河川氾濫原や池畦の湿地に生える多年草

**【現状】**  
お玉ヶ池では安定して生育している。

**【国内分布】**  
本州(東北地方、関東地方)

**【県内分布】**  
都筑◎・大和◎・秦野-4●・箱根-5◎

**【存続を脅かす要因】**  
河川開発、産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状:箱根では国立公園

カヤツリグサ科

準絶滅危惧			
<b>オオハリイ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Eleocharis pellucida</i> J.Presl & C.Presl. form. <i>elata</i> H.Hara		環境省	2020
		—	—
		—	—

**【判定理由】**  
5調査区の9個の3次メッシュで確認された。ハリイと同じような状況であるが、『神植誌88』との調査区単位の減少は少なく、準絶滅危惧と判定された。

**【生育環境・生態】**  
水田に生える多年草または一年草。植物体の各部分の大きさがハリイより大きく、刺針状花被片は柱基より明らかに高い。

**【現状】**  
水田の減少に伴い減少が著しい。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
多摩△・麻生●・大和○・厚木-1●・厚木-2○・愛川●・藤沢-1◎・藤沢-2●・茅ヶ崎-1●・大磯◎

**【存続を脅かす要因】**  
水田の畑地化、市街化

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ミツカドシカクイ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Eleocharis petasata</i> (Maxim.) Zinserl.		環境省	2020
		絶滅危惧 II 類	—
		—	—

**【判定理由】**  
箱根仙石原の1調査区の2か所で確認された。

**【生育環境・生態】**  
ミズゴケ類が生えるような安定した湿地やその周辺に生える多年草。シカクイの生えるような休耕田などの攪乱によって生じた水湿地は好まない。稈の断面が3角形なのでシカクイと区別される。

**【現状】**  
仙石原では湿生花園の湿原復元実験区や天然記念物指定地周辺に多い。早川対岸のぬく湯周辺の湿地にも少ないながらも生育が見られる。

**【国内分布】**  
北海道、本州、九州

**【県内分布】**  
多摩△・箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
自然遷移、湿地開発

**【特記事項】**  
・保護の現状:国立公園、一部は天然記念物指定地  
・標本:川崎市多摩区西生田 1952.6.29 大場達之 KPM-NA0031623, 0031629.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県		2006	絶滅危惧 I B 類
<b>オオヌマハリイ</b>				1995	希少種
<i>Eleocharis ussuriensis</i> Zinserl.		環境省		2020	—

【判定理由】  
現存する産地は箱根仙石原湿原に限られ、今回の調査では1調査区の1個の3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草。稈は鮮緑色で太く柔らかく、標本にすると容易に平たくつぶれる。

【現状】  
箱根仙石原では天然記念物指定地周辺や湿生花園湿原復元実験区とその周辺に生育するが個体数は少ない。かつては早川対岸のぬく湯周辺の湿地にも見られたが、最近はやブに被われて見出せない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
海老名△・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、湿地開発

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区  
・標本: 高座郡海老名村 1907.6.16 中山每吉 ACM-PL30139.

準絶滅危惧		神奈川県		2006	—
<b>シカクイ</b>				1995	—
<i>Eleocharis wichurae</i> Boeck.		環境省		2020	—

【判定理由】  
10調査区の14個の3次メッシュで確認された。絶滅危惧種にはならないが、平地や丘陵地、特に県東部の丘陵地での減少が著しく、生育状況に注視する必要がある。

【生育環境・生態】  
湿地や水田畦などに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
南△・港南○・保土ヶ谷△・旭◎・港北△・緑◎・青葉◎・戸塚●・瀬谷○・多摩△・麻生●・逗子△・相模原-1◎・城山●・津久井-4●・津久井-5●・相模湖●・藤野-2●・海老名△・厚木-1●・平塚-3○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-5○

【存続を脅かす要因】  
水田の畑地化、市街化

【特記事項】  
・保護の現状: 箱根は国立公園

絶滅危惧 I A 類		神奈川県		2006	絶滅危惧 I A 類
<b>サギスゲ</b>				1995	絶滅危惧種 D
<i>Eriophorum gracile</i> W.D.J.Koch ex Roth		環境省		2020	—

【判定理由】  
1調査区の1か所(箱根仙石原湿原)にのみ生育が確認された。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯〜ブナ帯の湿地に生える多年草

【現状】  
1989年に天然記念物指定地周辺で再発見され、ヨシ刈りを行ったところ一時的に個体数が増加したが、その後、確認できなくなった。現在は湿生花園の湿原復元実験区外周の管理上草刈りがされる所のみ生育している。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区

絶滅危惧 I B 類

コアゼテンツキ

*Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では相模原市鹿沼台(相模原-3)に50株未満と推定され、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、今回の調査では4調査区の5か所で新たな産地が確認されたため、1ランク判定が下がった。

【生育環境・生態】

湿地や水田畦などに生える一年草。メアゼテンツキに似るが、花柱基部に下向きの長毛がない。

【現状】

—

【国内分布】

本州

【県内分布】

相模原-3◎・城山●・津久井-5●・山北-5●・山北-6●

【存続を脅かす要因】

産地局限、土地造成

絶滅危惧 I A 類

オオアゼテンツキ

*Fimbristylis bisumbellata* (Forssk.) Bubani

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

2006年に神奈川県新産となった。1調査区の1か所でのみ確認された。

【生育環境・生態】

湿地や水田畦などに生える一年草。植物体はコアゼテンツキに似ているが、果実の表面には格子状の紋がある。

【現状】

引地川の低地に作られた遊水地に発生した。水鳥に種子が運ばれたか、攪乱により埋土種子が発芽したものと思われる。

【国内分布】

本州、琉球

【県内分布】

藤沢-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

【特記事項】

・保護の現状:遊水地内

絶滅危惧 I A 類

ノテンツキ

*Fimbristylis complanata* (Retz.) Link

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植誌88』では横浜市保土ヶ谷区、『神植誌01』では箱根仙石原で採集されたのみ。保土ヶ谷区は1990年代前半までに消滅。現存する可能性のある産地は箱根仙石原だけであるが、1991年以後発見されていない。

【生育環境・生態】

日当たりの良い湿った草地に生える多年草。ヒメヒラテンツキに似ているが、全体に大きく、小穂は長さ5~7mm、鱗片は長さ約3mmある。

【現状】

仙石原周辺は1991年当時と大きく環境が変わっていない。

【国内分布】

本州、四国、九州、琉球

【県内分布】

保土ヶ谷○・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移、土地造成

【特記事項】

・保護の現状:国立公園

絶滅危惧 I B 類			
<b>クグテンツキ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 —
			1995 —
<i>Fimbristylis diphylla</i> (Retz.) Vahl var. <i>floribunda</i> Miq.		<b>環境省</b>	2020 —

**【判定理由】**  
三浦半島南部の2調査区の3個の3次メッシュで確認された。

**【生育環境・生態】**  
海岸の岩の割れ目や湿った風衝芝地に生える多年草。三浦半島のものは全体に小型で花序の枝が短く、花序が密集する傾向があり、西日本や琉球のものとは形態的に少し異なっている。

**【現状】**  
三浦半島南部や城ヶ島にかけての海岸岩場や風衝地に点々と見られるが個体数は少ない。

**【国内分布】**  
本州(関東以西)、四国、九州、琉球

**【県内分布】**  
青葉○・戸塚△・横須賀-5○・三浦●・城ヶ島●・小田原-3△

**【存続を脅かす要因】**  
海岸開発

絶滅危惧 I B 類					
<b>ナガボテンツキ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	<b>絶滅危惧 I A 類</b>	
			1995	<b>絶滅危惧種 E</b>	
<i>Fimbristylis longispica</i> Steud.		<b>環境省</b>	2020	—	

**【判定理由】**  
『神RDB06』では三浦半島南部に50株未満と推定され、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、今回の調査では3調査区の5個の3次メッシュで確認されたため1ランク下げて判定された。

**【生育環境・生態】**  
海岸湿地に生える多年草。イソヤマテンツキに似るが、果実の表面には格子状の紋がある。

**【現状】**  
三浦半島南部の毘沙門海岸、小網代、諸磯などの小規模な塩湿地に点々と見られるが個体数は少ない。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見△・西△・横須賀-4●・三浦●・城ヶ島●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、海岸開発

絶滅危惧 I A 類					
<b>ヤリテンツキ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	<b>絶滅危惧 I A 類</b>	
			1995	<b>絶滅危惧種 D</b>	
<i>Fimbristylis ovata</i> (Burm.f.) J.Kern		<b>環境省</b>	2020	<b>準絶滅危惧</b>	

**【判定理由】**  
三浦半島の1調査区の1個の3次メッシュに50株未満が生育する。

**【生育環境・生態】**  
海岸付近の湿った芝地などに生える多年草。小穂に鱗片が2列に配列する。

**【現状】**  
三浦市黒崎の隣接する2か所(同一3次メッシュ)に小群が見られるが、そのうちの1か所は海岸利用者が休息する場所で、踏圧が強くなると裸地化する可能性がある。

**【国内分布】**  
本州(千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県、山口県)、九州、琉球

**【県内分布】**  
三浦●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、踏みつけ

**【特記事項】**  
千葉県には数か所の記録があるが現在確認されず(堀内1996)、三浦市黒崎が日本における分布の北東限となっている。

**【文献等】**  
堀内 洋, 1996. 千葉県に未記録のヤリテンツキの標本を確認する. 千葉県植物誌資料, (7): 41.

絶滅危惧 I B 類

ビロードテンツキ

*Fimbristylis sericea* (Poir.) R.Br.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では50%以上の減少があったと推定し絶滅危惧 I B 類と判定した。今回の調査でも湘南海岸の3調査区の3個の3次メッシュで確認され、同じランクの判定となった。

【生育環境・生態】

海岸の砂浜に生え多年草。全体にビロード状の毛がある。

【現状】

西湘バイパスにより海浜植物の生える環境は著しく狭くなっていて、最近では河川からの砂の供給が減り、砂浜がやせ細ったこと、海岸の過利用による踏みつけにより、海浜植物の衰退が著しい。

【国内分布】

本州(茨城県・新潟県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】

横須賀-5○・鎌倉-1△・藤沢-3●・茅ヶ崎-2●・平塚-3△・大磯●・二宮△

【存続を脅かす要因】

海岸浸食、踏みつけ

絶滅危惧 II 類

アゼテンツキ

*Fimbristylis squarrosa* Vahl

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

6調査区の10個の3次メッシュで確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位で約40%減少している。

【生育環境・生態】

湿地や水田畦などに生える一年草。小穂の鱗片の先は反曲する芒になる。

【現状】

丘陵地では水田そのものが減少し、本種の生える環境が減少している

【国内分布】

本州

【県内分布】

鶴見○・神奈川●・旭△・港北△・緑◎・都筑○・戸塚△・高津○・鎌倉-1△・鎌倉-2△・相模原-4△・城山●・津久井-5●・相模湖●・綾瀬◎・海老名◎・厚木-5○・伊勢原-2○・伊勢原-3○・藤沢-1●・藤沢-2◎・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2○・寒川○

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移

絶滅危惧 II 類

メアゼテンツキ

*Fimbristylis velata* R.Br.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

5調査区の5個の3次メッシュで確認された。『神植誌88』との比較で調査区単位で約70%減少しているが、『神植誌01』で確認された調査区で健在と仮定すると約35%の減少に留まることを考慮し、絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】

湿地や水田畦などに生える一年草。小穂の鱗片の先は短い芒があるが反曲しない。

【現状】

丘陵地では水田そのものが減少し、本種の生える環境が減少している。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見○・神奈川○・中◎・保土ヶ谷◎・緑◎・戸塚◎・栄○・川崎◎・高津○・鎌倉-1○・葉山●・三浦◎・相模原-3◎・大和◎・座間○・綾瀬◎・海老名◎・秦野-5○・藤沢-1●・藤沢-2◎・藤沢-3◎・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2●・寒川○・平塚-2○・平塚-3○・山北-5●・山北-6●・箱根-1◎

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>アオテンツキ</b>		神奈川県	1995	絶滅種 A
		<i>Fimbristylis verrucifera</i> (Maxim.) Makino		
		環境省	2020	—

【判定理由】  
2000年9月に三浦半島の小松ヶ池の浚渫時に干上がった水底一面に発生した。その後、池は再び満水状態になり、アオテンツキも発生していない。しかし、埋土種子を多量につくり休眠し、条件が整うと大発生することが多いので、池の水位が下がれば、再び発生する可能性が高い。

【生育環境・生態】  
湖沼などの砂質の減水裸地に生える小型の夏緑性一年草

【現状】  
小松ヶ池の周囲は公園として整備され、池も含めて保存されている。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
三浦◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>コイヌノハナヒゲ</b>		神奈川県	1995	絶滅危惧種 D
		<i>Rhynchospora fujiana</i> Makino		
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では箱根仙石原と湯河原町南郷山の2か所に50株未満と推定され、絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では箱根仙石原の1調査区の1個の3次メッシュのみで確認された。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草

【現状】  
仙石原は天然記念物指定地周辺の湿地に安定して生育する。仙石原の早川沿いの別荘造成地に一時的に発生したことがあるが、これらは造成完了とともに失われた。南郷山の小湿地は周囲の草や灌木が繁茂し、今回の調査では再確認できなかった。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
箱根-1●・湯河原-2◎

【存続を脅かす要因】  
自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園の特別保護地区

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ハタバカンガレイ</b>		神奈川県	1995	絶滅危惧種 D
		<i>Schoenoplectiella gemmifera</i> (C.Sato, T.Maeda & Uchino) Hayas.		
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神RDB06』では生育地が箱根仙石原湿原内の1か所で、個体数は数株に限られるため絶滅危惧 I A 類と判定された。2004年以後、確認することができず絶滅が危惧される。

【生育環境・生態】  
山間の湧水地やその周辺の湿地などに生える多年草。カンガレイに似るが、茎は軟らかく、柱頭は2岐し、花序から芽生して栄養繁殖を行う。

【現状】  
仙石原湿原内の小流に沿って数株が生育していたが、2004年に写真撮影しているが、それ以後の確認ができない。

【国内分布】  
本州(栃木県以西)、四国、九州

【県内分布】  
箱根-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ヒメホタルイ</b>		神奈川県	2006 準絶滅危惧
<i>Schoenoplectiella lineolata</i> (Franch. & Sav.) J.Jung & H.K.Choi			1995 減少種 G
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 箱根芦ノ湖、精進池、お玉が池の水底に 1,000 株以上があり、減少の兆候も見られないことから『神RDB06』では準絶滅危惧と判定した。今回の調査では標本が採集されていないが、3 か所の湖と池の水底に健在が確認されており、3 調査区 3 か所で確認として判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖や池の浅水中に生える多年草</p> <p>【現状】 箱根芦ノ湖、精進池、お玉が池のいずれの産地ともに安定して生育しているが、減水したときのみ出穂する。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 保土ヶ谷△・箱根-3●・箱根-4●・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 基準産地は横須賀付近で、最近、その基準標本が確認された(田中ほか, 2015)。 ・保護の現状: 国立公園 ・標本: Yokoska Savatier-1392, P00070627; 武蔵神奈川の奥三ツ澤 1911.9.24 牧野富太郎 MAK228250.</p> <p>【文献等】 田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2015. フランシエとサヴァチェが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (44): 23-48.</p>		

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>タタラカンガレイ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Schoenoplectiella mucronata</i> (L.) J.Jung & H.K.Choi var. <i>tatarana</i> (Honda) Yashiro			1995 —
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神植誌01』の調査では 3 調査区で採集されているが、今回の調査ではいずれも再確認できなかった。再発見の可能性があり、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 池、沼、湖の畔や河川敷などに生える多年草。カンガレイに似るが、茎の稜には逆三角形の小さな翼状体がある。</p> <p>【現状】 1990年代に鶴見川の河川敷や休耕田等で採集されたが、河川敷はヨシなどが繁茂して消滅し、休耕田の多くは造成により失われた。</p>	<p>【国内分布】 本州(宮城県～関東地方)</p> <p>【県内分布】 緑◎・青葉◎・都筑◎・多摩△</p> <p>【存続を脅かす要因】 河川敷利用、自然遷移、土地造成</p>		

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>タイワンヤマイ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Schoenoplectiella wallichii</i> (Nees) Lye			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神植誌88』では山北町谷ヶ、『神植誌01』では相模湖町(現相模原市緑区)で採集されたが、いずれの産地でもその後確認できない。再発見の可能性があるので絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 水田畦や湿地に生える多年草。ホタルイに似るが、小穂の鱗片は先が尖り、刺針状花被片は果実の 2 倍の長さがある。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 相模湖◎・山北-7○</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、農薬汚染</p> <p>【特記事項】 ・標本: 山北町谷ヶ1984.9.15 勝山輝男 KPM-NA1076840; 相模湖町道志 1999.8.8 酒井藤夫 KPM-NA0111221.</p>		

カヤツリグサ科

絶滅			
シズイ <i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
1933年に横浜三ツ沢池(保土ヶ谷区峰沢町にあった池で現在は消滅)、1905年に横浜市旭区白根で採集され、原(1936)が川崎市生田緑地付近を記録しているが、いずれもその後の確認はできない。

【生育環境・生態】  
池沼の浅い止水中に生える多年草。サンカクイに似るが、長く伸びた葉身がある。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
保土ヶ谷△・旭△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:Mitsuzawa Yokohama 1933.10.15 K.Hisauchi TI; 武蔵都筑郡白根 1905.8. MAK228335.

【文献等】  
久内清孝, 1934. しづみ横浜市ニ産ス. 植研, 10: 181-183; 原 松次, 1936. 武州向丘村植物誌. 45+5 pp. 山本浩然館, 東京.

カヤツリグサ科

絶滅			
ノグサ <i>Schoenus apogon</i> Roem. & Schult.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
1867年に横須賀で採集されたが、その後、県内では確認されていない。

【生育環境・生態】  
湿地や湿った草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
異名の *Chaetospora albescens* Franch. & Sav. の基準産地は横須賀で、最近、その基準標本が確認された(田中ほか, 2015)。  
・標本:Yokoska 1867.4 Savatier-1396 P00076944.

【文献等】  
田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2015. フランシェとサヴァチェが記載した神奈川県産シダ植物と単子葉植物の基準標本. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (44): 23-48.

カヤツリグサ科

絶滅危惧 I B 類			
コマツカサススキ <i>Scirpus fuirenooides</i> Maxim.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅危惧種 E
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では横浜市旭区上白根と川崎市多摩区の2か所に50株未満と推定され絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では3調査区の4個の3次メッシュで確認され、1ランク下げて判定された。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草。マツカサススキが攪乱後間もない湿地を好むのに対し、本種は遷移途中でもより自然な湿地を好む。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見○・旭○・瀬谷●・多摩●・三浦○・津久井-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、土地造成

絶滅危惧 I B 類

コシンジュガヤ

*Scleria parvula* Steud.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では箱根仙石原 1 か所に 50 株未満と推定され絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では南仙石原でも採集され、1 調査区の 2 か所での確認となり、1ランク下げた判定となった。

【生育環境・生態】

湿地に生える多年草。花は単性で雄雌同株、果実は径約 2mm の球形で、光沢のある白色で格子紋がある。

【現状】

仙石原湿原には安定して見られる。以前は横浜の上白根大池にもあったが、池そのものが埋め立てられて失われた。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

旭△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

産地局限、土地造成

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地区  
・標本: 横浜市旭区上白根町 1952.9.21 出口長男 KPM-NA0081248.

イネ科

絶滅危惧 II 類

ヒロハノハネガヤ

*Achnatherum coreanum* (Honda) Ohwi

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	希少種
環境省	2020	—

【判定理由】

4 調査区の 6 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では 3 調査区で 50 株未満が生育と推定され絶滅危惧 I A 類と判定されたが、箱根や湯河原で新たな産地が見つかったため、ランクを下げた。

【生育環境・生態】

山地の草地や明るい樹林内に生える多年草。円錐花序は 1~2 個の枝を直立して出し、全体が疎らな円柱状。

【現状】

箱根や湯河原では落葉広葉樹林内に生育する。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

南足柄-2○・山北-4○・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5●・湯河原-1○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園および県立自然公園

イネ科

絶滅危惧 I B 類

ハネガヤ

*Achnatherum pekinense* (Hance) Ohwi

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

5 調査区の 10 個の 3 次メッシュで確認されたが、『神植誌 88』との比較で調査区単位で 50% 減少しており、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

丘陵から低山地の湿った草地に生える多年草。円錐花序は 3~6 個の枝を斜上して出し、全体が円錐状。

【現状】

多摩丘陵、相模原台地、県北の山地に点々と見られたが、多摩丘陵や相模原台地周辺ではほとんどの産地が失われた。

【国内分布】

北海道、本州

【県内分布】

緑○・相模原-1○・相模原-3○・相模原-4●・城山●・津久井-3○・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2○・大和○・厚木-1○・清川-3○・湯河原-1○

【存続を脅かす要因】

土地造成、自然遷移

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">コミヤマヌカボ</div> <p><i>Agrostis mertensii</i> Trin.</p>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	
		1995	希少種	
	環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
『神RDB06』では丹沢・箱根に健在で個体数も多いことから準絶滅危惧と判定されたが、今回の調査では2調査区の2個の3次メッシュのみ確認され、判定基準では絶滅危惧ⅠB類に該当する。ただし、丹沢の高標高域での調査が不十分のため、見逃されたと考え、絶滅危惧Ⅱ類にランクを下げて判定した。

**【生育環境・生態】**  
風衝草地に生える繊細な多年草

**【現状】**  
風衝草地の岩の間など、草丈の特に低い部分に生え、ハコネコメツツジ、コイワザクラ、ヒメノガリヤスなどと混生している。

**【国内分布】**  
北海道、本州

**【県内分布】**  
津久井-2●・山北-3○・箱根-4●・箱根-5○

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、自然遷移

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園および国定公園の特別保護地区

イネ科

絶滅危惧ⅠA類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメコヌカグサ</div> <p><i>Agrostis valvata</i> Steud.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	
		1995	減少種 G	
	環境省	2020	準絶滅危惧	

**【判定理由】**  
2005年に箱根仙石原湿原の1か所で10株ほどが確認された。その後、2021年に周辺の湿生林内でも見つかった。

**【生育環境・生態】**  
湿地に生える繊細な多年草。小花が大きく、包穎と同長かやや長い。

**【現状】**  
仙石原湿原のやや湿った草地や湿生林内に生える。

**【国内分布】**  
本州(関東以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、自然遷移

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区

イネ科

絶滅危惧ⅠA類				
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">タカネコウボウ</div> <p><i>Anthoxanthum horsfieldii</i> (Kunth &amp; Benn.) Mez ex Reeder var. <i>japonicum</i> (Maxim.) Veldkamp</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	
		1995	希少種	
	環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
今回の調査では丹沢主稜線北面の1調査区の1個の3次メッシュで確認されたのみ。1982年に西丹沢甲相国境尾根の孤釣山で採集されたが、その後、孤釣山では再発見されていない。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える多年草。ハルガヤ属であるが、花序は円錐形に枝が散開する。

**【現状】**  
早戸川源流の白馬尾根標高1,400m付近のミヤマクマザサ・ヤマアワ草原に、シロヨメナやヒメノガリヤスとともに生育している。

**【国内分布】**  
本州(奈良県以北)

**【県内分布】**  
津久井-2●・山北-1○

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区

イネ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>コウヤザサ</b>		神奈川県	2006 2006 2006
			絶滅危惧 I A 類 希少種 絶滅危惧 I A 類
<i>Brachyelytrum japonicum</i> (Hack.) Hack.ex Honda		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
『神RDB06』では現存する産地は箱根三国山のみで、50株未満と推定され、絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では箱根明神ヶ岳や相模原市で新たな産地が見つかり、3調査区の4か所で確認され、ランクが下がった。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林内に生える多年草

**【現状】**  
箱根三国山では登山道に沿って少数が生育し、草刈りによって刈られることはあるが、安定して生育している。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
相模原-1◎・相模原-4●・南足柄-2●・箱根-2●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、土地造成、踏みつけ

**【特記事項】**  
・保護の現状:箱根三国山は国立公園

イネ科

準絶滅危惧			
<b>ホスガヤ</b>		神奈川県	2006 1995
			— —
<i>Calamagrostis pseudophragmites</i> (Haller f.) Koeler		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
今回の調査では7調査区の9個の3次メッシュで確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で20%ほどの減少が見られた。判定基準では絶滅危惧にはならないが、全体的に減少が見られるため準絶滅危惧と判定した。

**【生育環境・生態】**  
河原や湿った砂地に生え、ときに造成地などにも出現する。小花よりも著しく長い銀白色の基毛が目立つ。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州(近畿地方以北)

**【県内分布】**  
保土ヶ谷○・港北◎・青葉◎・都筑◎・相模原-1◎・相模原-2●・城山◎・津久井-3●・相模湖◎・藤野-1◎・大和◎・厚木-3◎・厚木-4◎・愛川◎・清川-2◎・秦野-2○・秦野-4◎・藤沢-2●・藤沢-3●・小田原-3●・南足柄-1△・山北-1◎・山北-5◎・山北-6●・山北-7◎・中井●・松田○・箱根-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成、自然遷移

イネ科

絶滅			
<b>ヒナザサ</b>		神奈川県	2006 1995
			絶滅 絶滅種 B
<i>Coelachne japonica</i> Hack.		環境省	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
『神植目33』『神植誌58』に横浜・箱根の記録があり、標本も残されているが、その後の調査では発見されない。

**【生育環境・生態】**  
池の縁などの湿った場所に生える一年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州(関東以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
神奈川県△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本: 神奈川県三ツ沢 1911.9.24 牧野富太郎 MAK8114; 箱根 1886.9.15 牧野富太郎 MAK158690.

イネ科

準絶滅危惧				
<b>キタメヒシバ</b>	<i>Digitaria ischaemum</i> (Schreb.) Schreb. ex Muhl.	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌18』の調査で県内分布が明らかになり、3 調査区の 3 か所で確認された。今回の判定基準では絶滅危惧に該当するが、『神植誌01』調査時に採集された標本が 4 調査区で見出され、アキメヒシバを精査すれば産地が増える可能性もあり、準絶滅危惧として扱うことにした。

【生育環境・生態】  
荒地に生える一年草。アキメヒシバに似るが、小穂がやや大きく(長さ 2~2.5mm)、稈の基部で分岐して新しい花序を出す。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
神奈川県◎・南●・旭◎・金沢◎・青葉◎・瀬谷●・相模原-3●

【存続を脅かす要因】  
土地造成

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>スズメガヤ</b>	<i>Eragrostis cilianensis</i> (All.) Vignolo ex Janch.	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では 2 調査区の 2 か所で確認された。今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB 類に該当するが、『神植誌01』では 9 調査区で採集されていること、不安定な立地に生える目立たない植物のため、見逃されている可能性があることから、1ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
路傍、畑地、草地、空地、川原などに生える一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
西◎・中◎・保土ヶ谷◎・磯子◎・戸塚△・瀬谷●・横須賀-1◎・横須賀-3△・横須賀-5◎・相模原-2●・相模原-4◎・大和◎・座間◎・綾瀬◎・秦野-3◎・秦野-5◎・大磯◎・二宮◎

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

イネ科

絶滅危惧ⅠA 類				
<b>コゴメカゼクサ</b>	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	神奈川県	2006	絶滅
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1957年に小田原市、1983年に大井町で記録されているが、その後の発見がなく、絶滅とされてきたが、今回の調査で秦野市の 1 調査区 1 か所で確認された。

【生育環境・生態】  
湿地や水田に生える一年草

【現状】  
畑地に沿った路傍に発生したもので、安定して生育し続けるとは思われない。

【国内分布】  
本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
秦野-5●・小田原-3△・大井◎

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

【特記事項】  
・標本：小田原市橋町 1957.11.6 西尾和子 KPM-NA0000542; 大井町高尾 1983.10.27 山口育子 KPM-NA1062163, HCM17449.

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ウシノケグサ</b>		神奈川県	2006
<i>Festuca ovina</i> L. subsp. <i>ovina</i>			—
		環境省	2020
			—

**【判定理由】**  
今回の調査時に3調査区の4か所で採集された標本が本種と同定された。そのうち、蛭ヶ岳で採集されたものは自然分布によるものと判断された。今後、丹沢の高標高域で見出される可能性を考慮して、ランクを下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
亜高山や高山の乾いた草原や岩場などに生える多年草。稈の上部は無毛または短刺針があり、護穎の芒は長さ2mm。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-2●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
標高の低い所のものは砂防や緑化によるものと考えられる。  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 丹沢山地蛭ヶ岳 2015.8.27 田村 淳・中西のりこ・長澤展子・野辺陽子 KPM-NA0280369.

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>アオウシノケグサ</b>		神奈川県	2006
<i>Festuca ovina</i> L. subsp. <i>coreana</i> (St.Yves) E.B.Alexeev			—
		環境省	2020
			—

**【判定理由】**  
『神植誌01』の調査時に蛭ヶ岳の津久井側および山北側調査区で採集された標本2点、今回の調査では蛭ヶ岳の山北側の調査区で採集された標本が本種と同定された。今後、丹沢の高標高域で見出される可能性を考慮して、ランクを下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える多年草。ウシノケグサに似るが、稈は高さ20~50cmになり、上部に上向きの毛が密に生え、護穎の芒が短い(長さ1mm以下)。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1◎・山北-3●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 丹沢山地蛭ヶ岳(津久井-1) 1998.7.4 城川四郎 KPM-NA0112629; 丹沢山地蛭ヶ岳(山北-3) 1998.7.14 城川四郎 KPM-NA0112628; 丹沢山地蛭ヶ岳(山北-3) 2004.6.16 高橋秀男 YCB434404.

イネ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>ヒメウキガヤ</b>		神奈川県	2006
<i>Glyceria depauperata</i> Ohwi var. <i>depauperata</i>			絶滅危惧ⅠB類
			絶滅危惧種 E
		環境省	2020
			—

**【判定理由】**  
『神RDB06』では6調査区のうち3調査区が失われたため、調査区単位で50%減少から絶滅危惧ⅠB類とされた。今回の調査では1調査区の1か所でしか確認できず、状況は悪化していると判断され、絶滅危惧ⅠA類にランクアップした。

**【生育環境・生態】**  
低地の水辺に生える多年草。ウキガヤの変種で、護穎が小さく長さ3mm前後。稈の基部は水中にあり、上部の葉は水面に浮く。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州

**【県内分布】**  
金沢◎・栄●・相模原-1◎・相模原-2◎・大和○・座間◎

**【存続を脅かす要因】**  
池沼開発

準絶滅危惧			
ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	神奈川県	2006 絶滅危惧Ⅱ類
			1995 減少種 G
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神RDB06』では6調査区のうち2調査区が失われたため、調査区単位で33%減少から絶滅危惧Ⅱ類とされた。今回の調査では新たな産地も含めて5調査区の8個の3次メッシュで確認でき、調査区単位で増加したため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
湿地や水田に群生する多年草。チゴザサに似るが、稈は発根しながら長く這って分枝する。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
麻生●・横須賀-5●・相模原-1◎・城山●・津久井-5●・厚木-1○・愛川●

【存続を脅かす要因】  
湿地開発、自然遷移

絶滅危惧Ⅱ類			
ケカモノハシ	<i>Ischaemum antheploroides</i> (Steud.) Miq.	神奈川県	2006 —
			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
相模湾沿岸の砂浜海岸に広く分布し、8調査区の10個の3次メッシュで確認された。しかし、海浜植物の生育空間は狭まっており、3次メッシュ単位で50%近い生育地が減少していることから絶滅危惧Ⅱ類に判定した。

【生育環境・生態】  
海岸の砂地や草地に生える多年草。稀に内陸でも見られる。ケカモノハシに似るが、稈の節は有毛、小穂の芒は長く伸び出る。

【現状】  
踏み付けや砂の供給量の減少などで、海浜植物が生える空間は狭くなっている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-2△・横須賀-4○・横須賀-5△・鎌倉-1△・鎌倉-2◎・葉山◎・三浦●・相模原-1○・藤沢-3●・江ノ島△・茅ヶ崎-1△・茅ヶ崎-2●・平塚-3●・大磯●・小田原-2●・小田原-3●・小田原-4●・真鶴△

【存続を脅かす要因】  
海岸浸食、踏みつけ

絶滅危惧ⅠB類			
カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> L. var. <i>crassipes</i> (Steud.) Yonek.	神奈川県	2006 —
			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
三浦半島の2調査区の2個の3次メッシュで確認されたのみ。

【生育環境・生態】  
海岸の砂地や草地に生える多年草。稀に内陸でも見られる。ケカモノハシに似るが、稈の節は無毛に近く、小穂の芒は短く、小穂からほとんど出ない。

【現状】  
踏み付けや砂の供給量の減少などで、海浜植物が生える空間は狭くなっている。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
保土ヶ谷◎・旭△・緑△・横須賀-4●・横須賀-5○・三浦●

【存続を脅かす要因】  
海岸浸食、踏みつけ

イネ科

絶滅危惧 I A 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ミノボロ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Koeleria macrantha</i> (Ledeb.) Schult. &amp; Schult.f.</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 川崎市麻生区の1調査区の2個の3次メッシュで確認された。『神植誌88』との比較でも調査区単位で80%の減少が見られるため、ランクを上げて絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 草地や芝生に生える多年草。稈の上部に短毛を密生し、円錐花序は円柱状に密生。</p> <p>【現状】 里山の芝地や丈の低い草地の減少は著しい。</p>	<b>ミノボロ</b>	<i>Koeleria macrantha</i> (Ledeb.) Schult. & Schult.f.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 15%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 75%; text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 保土ヶ谷△・旭△・緑○・都筑◎・高津○・多摩○・麻生●・相模原-3◎・相模原-4△・秦野-5○・平塚-1△・湯河原-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 草地開発、自然遷移</p> <p>【特記事項】 市街地に生えるものは帰化植物の可能性はある。</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
<b>ミノボロ</b>											
<i>Koeleria macrantha</i> (Ledeb.) Schult. & Schult.f.											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類									
	1995	減少種 H									
環境省	2020	—									

イネ科

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ミヤマササガヤ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Leptatherum nudum</i> (Trin.) C.H.Chen, Kuoh &amp; Veldkamp</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 1957年に箱根で採集された標本が発見され、2010年には奥湯河原の1か所の現存が確認された。ササガヤとの区別が難しいため発見しにくく、今後、産地が増える可能性があり、1ランクを下げて絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 林縁や草地に生える繊細な一年草。総に長柄小穂と無柄小穂が対になり、稈の節には微細な毛が密生することで近縁のササガヤから区別する。</p> <p>【現状】 奥湯河原の林道の路傍に10数mにわたって生育している。</p>	<b>ミヤマササガヤ</b>	<i>Leptatherum nudum</i> (Trin.) C.H.Chen, Kuoh & Veldkamp	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 15%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 75%; text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 湯河原-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園 ・標本: 足柄下郡箱根町 1957.11.17 西尾和子 KPM-NA0000466.</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
<b>ミヤマササガヤ</b>											
<i>Leptatherum nudum</i> (Trin.) C.H.Chen, Kuoh & Veldkamp											
神奈川県	2006	—									
	1995	—									
環境省	2020	—									

イネ科

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>イトアゼガヤ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Leptochloa panicea</i> (Retz.) Ohwi</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 『神植誌18』の調査で県内の分布が明らかになった。3調査区の3か所で確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 畑地や路傍に生える一年草。アゼガヤに似るが、葉鞘に長毛が疎らにあり、小穂は小さく、1~3小花からなる。</p> <p>【現状】 路傍に発生したため、安定した産地とは思われない。</p>	<b>イトアゼガヤ</b>	<i>Leptochloa panicea</i> (Retz.) Ohwi	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 15%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 75%; text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 西●・厚木-1●・厚木-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
<b>イトアゼガヤ</b>											
<i>Leptochloa panicea</i> (Retz.) Ohwi											
神奈川県	2006	—									
	1995	—									
環境省	2020	—									

イネ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>コメガヤ</b>	<i>Melica nutans</i> L.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では山北町と秦野市の2調査区に50株未満と推定されたことから絶滅危惧 I A 類と判定された。今回の調査では山北町の同一調査区の別の場所でも生育が確認され、2調査区の3か所での確認となった。今回の判定基準では1ランク判定が下がり、絶滅危惧 I B 類と判定された。

【生育環境・生態】  
林縁や草地に生える多年草。花序は総状で小穂は楕円形。

【現状】  
山北町は谷峨駅前の土手の草地に生え、定期的な草刈により維持されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
秦野-3●・山北-7●

【存続を脅かす要因】  
管理放棄、草地開発、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 秦野市蓑毛は自然観察の森として保護されている。

イネ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>ミチシバ</b>	<i>Melica onoei</i> Franch. & Sav.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では1調査区の2個の3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
明るい林内に生える多年草。花序は大型の円錐花序で小穂は披針形。

【現状】  
『神植誌88』調査時には山北町世附の甲相国境の4か所で採集されているが、これらの産地ではその後発見できない。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
藤野-1●・山北-1○・山北-4○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

イネ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>イブキヌカボ</b>	<i>Milium effusum</i> L.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
秦野市と山北町の3調査区の5個の3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
明るい林内や草原に生える多年草。円錐花序は枝が輪生し、疎らに卵球形の小穂をつける。

【現状】  
県内では秦野市と山北町世附の2地域に分布している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
秦野-2●・秦野-3○・秦野-4●・秦野-5○・山北-1●・山北-4○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 山北町は県立自然公園

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>カリヤスモドキ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
<i>Miscanthus oligostachyus</i> Stapf			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
 今回の調査では8調査区で確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で約50%減少している。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、丹沢山地の高標高域では調査が不十分であったので、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
 山地の草原に生える多年草。花序は2~3本の総が掌状につく。

**【現状】**  
 県内では県西の山地に広く分布するが、草原の減少に伴い、生育地が減っている。

**【国内分布】**  
 本州、四国、九州

**【県内分布】**  
 城山●・津久井-1●・津久井-2◎・津久井-4○・愛川●・清川-1◎・大山◎・秦野-1●・秦野-2○・秦野-4△・茅ヶ崎-2○・南足柄-2○・山北-1◎・山北-2●・山北-3●・山北-4○・山北-6●・松田○・箱根-6●

**【存続を脅かす要因】**  
 草地開発、自然遷移、シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状:箱根は国立公園、丹沢は国定公園や県立自然公園

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類					
<b>キダチノネズミガヤ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧ⅠB類	
<i>Muhlenbergia ramosa</i> (Hack.) Makino			1995	減少種 H	
		<b>環境省</b>	2020	—	

**【判定理由】**  
 今回の調査では4調査区の6個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』では調査区単位で50%減少したため絶滅危惧ⅠB類とされたが、今回は4調査区で新たな産地が見つかりランクが下がった。

**【生育環境・生態】**  
 山林内に生える多年草。鱗片に被われた根茎があり、花序は狭い円錐形。

**【現状】**  
 —

**【国内分布】**  
 本州(中部以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
 旭◎・緑○・逗子●・葉山◎・城山●・津久井-5●・相模湖△・大和△・厚木-1○・伊勢原-1●・秦野-4○・小田原-4○・南足柄-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
 土地造成、河川開発、治山工事

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧ⅠB類					
<b>アリマコスズ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧Ⅱ類	
<i>Neosamorpha kagamiana</i> (Makino & Uchida) Koidz. subsp. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) Sad.Suzuki			1995	(カガミナンプスズとして) —	
		<b>環境省</b>	2020	—	

**【判定理由】**  
 2調査区の3個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』ではカガミナンプスズとして相模原市緑区(旧相模湖町:相模湖)の2か所に1,000株未満から絶滅危惧Ⅱ類とされたが、今回の判定基準ではランクが上がり絶滅危惧ⅠB類となった。

**【生育環境・生態】**  
 樹林内に生えるやや小型のササ類。

**【現状】**  
 旧相模湖町ではスギ植林地の林縁に散発的に生える。今回、旧津久井町(津久井-5)に新たな産地も見つかった。

**【国内分布】**  
 本州(西南部の太平洋側)、四国

**【県内分布】**  
 津久井-5●・相模湖●

**【存続を脅かす要因】**  
 産地局限

**【特記事項】**  
 『神植誌01』では相模湖の標本を基準変種のカガミナンプスズとしたが、葉の大きさや全形が小型なことから、変種のアリマコスズに同定変更された。  
 ・保護の現状:県立自然公園

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>チトセザサ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類 (タキザワザサとして)
<i>Neosasamorpha lasioclada</i> (Makino & Nakai) Tatew.			1995	—
		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
4 調査区の 6 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』ではタキザワザサとして相模原市緑区(旧相模湖町:相模湖・藤野町:藤野-2)の 3 か所に 1,000 株未満から絶滅危惧Ⅱ類とされたが、今回の調査では相模原市緑区の 2 調査区(津久井-5、相模原-1)で新たな産地が見つかった。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林内に生えるササ類。

**【現状】**  
相模湖や藤野-2 ではスギ植林地の林縁に散発的に生える。

**【国内分布】**  
北海道、本州(太平洋側)、四国

**【県内分布】**  
相模原-1●・津久井-5●・相模湖●・藤野-2●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
『神植誌01』では相模湖や藤野-2の標本をタキザワザサ、藤野-2や相模原-1の標本をオモエザサとしたが、葉鞘に細毛が密生することから本種に同定が変更された。  
・保護の現状:一部の産地は県立自然公園

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧ⅠB類				
<b>オオシダザサ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Neosasamorpha oshidensis</i> (Makino & Uchida) Tatew.			1995	—
		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
3 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では湯河原町大石ヶ原に 1,000 株未満から絶滅危惧Ⅱ類とされたが、今回の判定基準ではランクが上がり絶滅危惧ⅠB類となった。

**【生育環境・生態】**  
山地に生えるササ類。葉身下面は無毛、稈鞘は有毛。

**【現状】**  
湯河原町大石ヶ原では雑木林の林床、林縁にまとまった群落を作っている。今回、小田原市石橋(小田原-4)や箱根町(箱根-5)で新たな産地が見つかった。

**【国内分布】**  
本州(太平洋側)

**【県内分布】**  
小田原-4●・箱根-5●・湯河原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状:箱根は国立公園、湯河原町の一部の産地は県立自然公園

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ハコネナンブスズ</b>		神奈川県	2006	—
<i>Neosasamorpha shimidzuana</i> (Makino) Koidz. subsp. <i>shimidzuana</i>			1995	—
		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
4 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、『神植誌01』で採集された産地での再記録が十分に行われていなかったと考えられるため 1ランク下げて判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林内や林縁に生えるササ類。葉身下面は有毛、稈鞘は有毛。

**【現状】**  
県内では主に箱根に産する。

**【国内分布】**  
本州(太平洋側)、四国、九州

**【県内分布】**  
小田原-4●・南足柄-1●・箱根-1●・箱根-2◎・箱根-4◎・箱根-5◎・箱根-6●・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
自然災害、シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状:箱根は国立公園

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>イナコスズ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Neosamorpha tsukubensis</i> (Nakai) Sad.Suzuki subsp. <i>pubifolia</i> (Koidz.) Sad.Suzuki</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 今回の調査では2調査区の2個の3次メッシュのみで確認された。『神RDB06』では3調査区の4か所に比較的広範囲に分布し、当面は絶滅の心配がないことから準絶滅危惧とされたが、今回の判定基準では絶滅危惧 I B 類と判定された。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生えるササ類。葉身の下面は有毛、稈鞘は無毛。</p> <p>【現状】 —</p>	<b>イナコスズ</b>	<i>Neosamorpha tsukubensis</i> (Nakai) Sad.Suzuki subsp. <i>pubifolia</i> (Koidz.) Sad.Suzuki	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 藤野-1◎・藤野-2●・清川-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区、県立自然公園、自然環境保全地域</p>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	—	環境省	2020	—
<b>イナコスズ</b>											
<i>Neosamorpha tsukubensis</i> (Nakai) Sad.Suzuki subsp. <i>pubifolia</i> (Koidz.) Sad.Suzuki											
神奈川県	2006	準絶滅危惧									
	1995	—									
環境省	2020	—									

イネ科

絶滅危惧 II 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>アイアシ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Phacelurus latifolius</i> (Steud.) Ohwi</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 4調査区の11個の3次メッシュで確認された。確認された3次メッシュが判定基準を上回るが、『神植誌88』との比較では調査区単位で40%ほど減少しているため、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 河口や海辺の塩湿地に生える大型の多年草。</p> <p>【現状】 三浦半島の入江や東京湾沿岸の塩湿地に生える。川崎市多摩川河口ではヨシ原の堤防側に生育している。</p>	<b>アイアシ</b>	<i>Phacelurus latifolius</i> (Steud.) Ohwi	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 鶴見△・金沢◎・川崎●・横須賀-1●・横須賀-2○・横須賀-4○・鎌倉-1○・三浦●・城ヶ島●</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
<b>アイアシ</b>											
<i>Phacelurus latifolius</i> (Steud.) Ohwi											
神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類									
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									

イネ科

絶滅											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>アワガエリ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Phleum paniculatum</i> Huds.</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 1989年に逗子市で採集されたが、その場所は造成により失われ、その後、県内では確認することができない。</p> <p>【生育環境・生態】 草地に生える一年草</p> <p>【現状】 造成地は宅地になっているため、同所にあったと思われるアワガエリも消滅した。但し草地生の植物(タコノアシ、カセンソウ)は一部に生育環境を残し保全している。</p>	<b>アワガエリ</b>	<i>Phleum paniculatum</i> Huds.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 逗子◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 逗子市逗子 1989.5.19 宮崎 卓 KPM-NA1106937.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	—
<b>アワガエリ</b>											
<i>Phleum paniculatum</i> Huds.											
神奈川県	2006	絶滅									
	1995	—									
環境省	2020	—									

準絶滅危惧			
セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.	神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 『神植誌88』では採集されず、『神植誌01』の調査で7調査区で記録された。生育地は市街地周辺のため、安定して生育し続けることが困難と考えられ、『神RDB06』では絶滅危惧 I B 類とされた。 しかし、『神植誌18』調査では10調査区の14個の3次メッシュで確認され、判定基準では選外となるが、産地はこれまで同様に市街地周辺の失われやすい環境なので、準絶滅危惧として見守ることになった。</p> <p>【生育環境・生態】 河畔などの湿地に生える大型の多年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 中◎・南◎・保土ヶ谷◎・栄◎・横須賀-1●・横須賀-5●・鎌倉-1●・三浦●・藤沢-2●・藤沢-3●・江ノ島●・茅ヶ崎-2●・寒川●・中井●</p> <p>【存続を脅かす要因】 河川開発、道路建設</p> <p>【特記事項】 『神RDB95』『神RDB06』では別名のセイコノヨシとして記載。</p>	

## イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧 I B 類			
ヨコハマダケ	<i>Pleiolobatus matsunoii</i> (Makino) Makino & Nemoto	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 減少種 G
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 9調査区の12個の3次メッシュで確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で50%の減少があり、絶滅危惧 I B 類と判定された。『神RDB06』では基準産地である横浜市西区西戸部に点々と小集団があるのみと考えられていたが、標本の再検討により、県内の低地～丘陵地にずっと広く分布していることが明らかになった。</p> <p>【生育環境・生態】 丘陵に生えるササ類</p> <p>【現状】 生育地は市街地周辺のため、標本が採集された産地のかなりが失われた可能性がある。</p>		<p>【国内分布】 神奈川県、千葉県の沿海地</p> <p>【県内分布】 鶴見○・西◎・南●・港北●・緑△・都筑●・戸塚○・栄○・泉●・高津◎・横須賀-2●・横須賀-4●・鎌倉-1△・逗子○・葉山○・三浦●・座間○・綾瀬○・厚木-3○・厚木-5○・清川-3○・伊勢原-3●・秦野-2◎・秦野-4○・秦野-5◎・藤沢-2◎・藤沢-3●・平塚-1◎・大磯◎・小田原-3○・中井○</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、市街化</p>	

## イネ科

絶滅危惧 II 類			
ハマヒエガエリ	<i>Polypogon monspeliensis</i> (L.) Desf.	神奈川県	2006 —
			1995 —
		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 2調査区の2か所で確認された。判定基準では絶滅危惧 I B 類になるが、『神植誌01』で採集された産地の再確認が不十分なので、1ランク下げ絶滅危惧 II 類に判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 海浜、湿地、川原、路傍などに生える一年草。ヒエガエリより花序は密で、円柱状に見え、包穎の芒は穎の2~3倍の長さがある。</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 神奈川△・中◎・南△・港南△・金沢○・多摩△・横須賀-1◎・三浦○・城ヶ島●・相模原-1●・相模原-2◎・綾瀬◎・厚木-3◎・小田原-3○</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発、河川開発、道路建設、市街化</p>	

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ワセオバナ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧ⅠB類
<i>Saccharum spontaneum</i> L. var. <i>arenicola</i> (Ohwi) Ohwi			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

【判定理由】  
4 調査区の 7 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では 4 調査区に総個体数 250 株未満から絶滅危惧ⅠB類とされたが、調査区単位での減少はなく、今回の判定基準ではランクが下がった。

【生育環境・生態】  
海岸付近に生える大型の多年草

【現状】  
湘南海岸は市街化が進んでおり、生育地がコンクリートで固められたり、駐車場になったりして、失われるケースがある。

【国内分布】  
本州(太平洋岸)

【県内分布】  
横須賀-5●・葉山●・藤沢-3●・茅ヶ崎-2●・平塚-3○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、海岸開発

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧ⅠA類					
<b>ケマキヤマザサ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	※一部がマキヤマザサとして、準絶滅危惧とされた。	
<i>Sasa maculata</i> Nakai var. <i>abei</i> Sad.Suzuki			1995	—	
		<b>環境省</b>	2020	—	

【判定理由】  
1 調査区の 1 か所のみで確認された。マキヤマザサとされていた標本のうち相模原市緑区(旧相模湖町)で採集された標本のみが確実に本種と同定された。

【生育環境・生態】  
山地に生えるササ類。マキヤマザサ(葉鞘無毛)の変種で葉鞘には逆向の短細毛が密生し、粗長毛が混じる。

【現状】  
—

【国内分布】  
マキヤマザサは本州(宮城県以南)、四国、九州に分布するが、本変種の分布は不明

【県内分布】  
相模湖●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園  
・標本: 相模原市緑区(旧相模湖町)底沢 2005.2.12 酒井藤夫・酒井啓子 KPM-NA0152583.

イネ科(タケ亜科)

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>アポイザサ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
<i>Sasa samaniana</i> Nakai			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

【判定理由】  
4 調査区の 9 個の 3 次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
山地に生えるササ類。『神植誌18』で県内分布が明らかになった。ミヤコザサやセンダイザサから同定変更されたものが多かった。

【現状】  
県内では陣馬山系に多く、東丹沢の仏果山～経ヶ岳を結ぶ尾根から土山峠方面斜面にある。

【国内分布】  
北海道、本州(太平洋側)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・愛川◎・松田◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I B 類				
<b>ミヤギザサ</b>	<i>Sasaella hidaensis</i> (Makino) Makino var. <i>muraii</i> (Makino & Uchida) Sad.Suzuki	神奈川県	2006	準絶滅危惧
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
3 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。同定が変更されたこと、今回の判定基準の適用でランクが上がった。

【生育環境・生態】  
山地に生えるササ類。葉身下面は有毛、葉鞘や稈鞘には短毛のみがある。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(東北地方、関東地方)

【県内分布】  
麻生●・座間○・清川-2●・茅ヶ崎-2●・真鶴△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I B 類				
<b>ヤマキタダケ</b>	<i>Sasaella yamakitensis</i> (Makino) M.Kobay.	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
			1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
5 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。いずれの産地も個多数が少ないので 1 ランク厳しく判定した。

【生育環境・生態】  
山地に生えるササ類。葉身は両面ともに無毛、葉鞘に短毛または長毛があり、稈鞘には長毛のみがある。

【現状】  
—

【国内分布】  
箱根付近

【県内分布】  
小田原-1●・小田原-4●・南足柄-1●・南足柄-2●・山北-4○・箱根-1○・箱根-4△・箱根-6○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神RDB95』では別名のヒメズダケとして記載。  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧 I A 類				
<b>ケスズ</b>	<i>Sasamorpha mollis</i> Nakai	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区の 1 か所でのみ現存が確認されている。『神植誌18』の標本調査で県内産標本が見出された。

【生育環境・生態】  
山地に生えるササ類。スズダケに似るが、葉身の下面に密に長毛がある。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(太平洋側)、四国

【県内分布】  
葉山○・相模原-1●・秦野-4△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本: 秦野市渋沢 1953.10.9 大場達之 KPM-NA0044095; 葉山町葉山 1993.6.17 西山清治 YCM-V050893; 相模原市緑区(旧相模湖町)底沢 2005.8.1 三樹和博 KPM-NA0138733.

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>スナシバ</b></p> <p><i>Zoysia × hondana</i> Ohwi</p> <p>【判定理由】 3 調査区の 10 個の 3 次メッシュで確認された。『神植誌 18』では雑種として扱われたが、『神RDB06』と同様に評価対象とした。</p> <p>【生育環境・生態】 砂浜に生える多年草</p> <p>【現状】 サイクリングロードの整備、海浜の浸食、人の踏みつけにより生育地は狭められている。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(福島、千葉、神奈川)</p> <p>【県内分布】 三浦●・茅ヶ崎-2●・平塚-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、踏みつけ、海岸開発</p> <p>【特記事項】 シバとオニシバの雑種とされてきたが、結実することから、シバに近い種または変種の可能性もあり、今後の詳細な研究が待たれる。基準産地は平塚。</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							

イネ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>オニシバ</b></p> <p><i>Zoysia macrostachya</i> Franch. &amp; Sav.</p> <p>【判定理由】 4 調査区の 10 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』の評価時と状況は大きく変わっていない。</p> <p>【生育環境・生態】 海岸の砂浜に生える多年草。花序の一部が葉鞘中に残るのが良い特徴。</p> <p>【現状】 湘南海岸や三浦半島の砂浜に生えるが、道路建設や踏み付けにより、海浜植物の生育地は狭まっている。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道(西南部)、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 川崎◎・横須賀-1△・横須賀-2○・横須賀-4●・三浦●・城ヶ島○・茅ヶ崎-2●・藤沢-3●・平塚-3◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発、踏みつけ</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

イネ科

絶滅危惧ⅠB類									
<p><b>ナガミノオニシバ</b></p> <p><i>Zoysia sinica</i> Hance var. <i>nipponica</i> Ohwi</p> <p>【判定理由】 三浦半島の 3 調査区の 3 か所で確認された。『神RDB06』では横須賀市の 1 調査区に 50 株未満と推定され絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回の調査では城ヶ島や三浦市でも現存が確認されランクが下がった。</p> <p>【生育環境・生態】 海岸の湿地に生える多年草。花序は葉鞘の外に出る。</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 横須賀-2○・横須賀-4●・三浦●・城ヶ島●・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2○・平塚-3○</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発、踏みつけ</p> <p>【特記事項】 『神植誌18』には茅ヶ崎市や平塚市に 1979~1987 の分布点が打たれているが、『神植誌88』や『神植誌01』に分布点はなく、標本を再確認する必要がある。</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 I B 類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">マツモ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <i>Ceratophyllum demersum</i> L.                 </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類								
	1995	絶滅危惧種 E									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では現存する産地が 4 か所であることから絶滅危惧 I B 類とされた。今回の調査では 7 調査区で確認されたが、新産地のものは人為的に持ち込まれた可能性があり、不明な部分があるため前回同様の判定とした。安定した生育環境が限定的である点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 池沼、貯め池、水路などに生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県内の沖積地とその周辺の水域から広範囲に記録がある。ただし、キンギョモとして流通する水草でもあるため、近年になって発見された場所や半人工的な池などの記録は自生か判断が付きかねる。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 鶴見●・多摩●・麻生◎・座間△・綾瀬◎・海老名△・厚木-5●・茅ヶ崎-2△・寒川●・大磯●・小田原-3●・湯河原-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、池沼開発、池沼清掃</p>									

準絶滅危惧											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヤマエングサク</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <i>Corydalis lineariloba</i> Siebold &amp; Zucc.                 </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		—								
	1995	—									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 8 調査区で確認され、新たな生育地が見出されていることもあり、減少率も判定基準外であるが、失われた生育地もあること、良好な生育適地が減少しているため、準絶滅危惧と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 雑木林の林床や林縁に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 生育適地が消失している。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 本州、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 港南◎・港北△・緑○・青葉●・栄●・相模原-3●・相模原-4●・津久井-5●・相模湖◎・藤野-1○・大和●・清川-2○・秦野-3●・藤沢-3●・山北-7◎</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、土地造成</p>									

絶滅危惧 II 類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヤマブキソウ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <i>Hylomecon japonica</i> (Thunb.) Prantl &amp; Kündig                 </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類								
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 8 調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるために減少率も判定基準外であるが、失われた生育地もあり、現存が保全活動の成果であることから、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 落葉広葉樹林内や林縁に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 生育地の消失や盗掘の被害がある。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 本州(宮城県以南)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 相模原-3◎・相模原-4●・城山●・津久井-4●・津久井-5●・藤野-1●・大和●・厚木-4◎・愛川●・清川-2◎・大磯●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、自然遷移、土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:一部は国定公園や県立自然公園</p>									

## 絶滅危惧ⅠA類

## ハスノハカズラ

*Stephania japonica* (Thunb.) Miers

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

1 調査区の2個の3次メッシュで確認されたが、隣接した2個の3次メッシュでの確認であり、採集地は1か所である。『神植目33』『神植誌58』では相模原市緑区の文献記録があるが、標本は確認されていない。

## 【生育環境・生態】

海岸近くに生える常緑のつる性木本

## 【現状】

道路と東海道線の間斜面にツルを伸ばして繁茂している。

## 【国内分布】

本州(神奈川県以西)、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

小田原-4●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

『神植誌18』では川崎市内でも採集されているが、人為的影響で生じた可能性が高いことから今回の集計からは除いた。

## メギ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## ルイヨウボタン

*Caulophyllum robustum* Maxim.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

## 【判定理由】

5 調査区の9個の3次メッシュで確認された。2007年以降に本種が確認されるまでは、1960年代に丹沢で採集された標本があるのみで『神RDB06』では絶滅と判定された。ニホンジカが増えた地域で急に目立つようになったことから、一時的な増加の可能性があるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

山地の樹林内に生える多年草

## 【現状】

ニホンジカの採食圧が高い地域で開花個体が見られるため、不嗜好植物の可能性もある(神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012)。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

津久井-1△・津久井-3●・津久井-4●・津久井-5●・藤野-1●・山北-1●・山北-3△

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園

## 【文献等】

神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—. 51 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木.

## キンボウゲ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## カワチブシ

*Aconitum grossesdentatum* (Nakai) Nakai

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。2 調査区の5か所で確認された。標高1,400m以上に生育するトリカブト類のおよそ半分は本種といわれ、近年の標本記録が限られているのは、調査が不十分な可能性があり、1ランク下げて判定した。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯～シラビソ帯の林床に生える多年草。花柄が無毛なことでヤマトリカブトと区別する。

## 【現状】

丹沢山地の標高1,100m以上を中心に分布し、分布が限定的である。本種の生育地周辺では、ブナなどの高木が枯れ、ミヤマクマザサの草原化が継続しており、本種の生育に対する脅威となっている。

## 【国内分布】

本州(関東地方西部～紀伊半島の太平洋側)、四国

## 【県内分布】

津久井-1○・津久井-2●・清川-1○・山北-1●・山北-2○・箱根-1○

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、国定公園の特別保護地区

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>イヌハコネトリカブト</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Aconitum parahakonense</i> Nakai		環境省	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では2調査区の2か所で確認された。近年の標本記録に限られているのは、調査が不十分な可能性がある。そのため1ランク上げて判定した。実際に減少傾向にあるのか、また減少傾向にある場合の原因は不明。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える多年草。ヤマトリカブトとセンウズモドキの雑種起源と推定されている植物で、花柄には粗面屈毛、滑面開出毛、腺毛が混じって生える。

**【現状】**  
箱根・丹沢山地一帯で広く記録があるが、数の限られる植物。

**【国内分布】**  
富士山、箱根、丹沢周辺の山地

**【県内分布】**  
大山◎・小田原-4○・山北-4●・山北-7○・山北-8◎・箱根-2●・箱根-4△・湯河原-1◎・湯河原-2△

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

絶滅危惧ⅠB類					
<b>アズマレイジンソウ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	
			1995	希少種	
<i>Aconitum pterocaulis</i> Koidz.		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
今回の調査では2調査区の4か所で確認された。分布が局在する点、個体数が限定的な点で脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える多年草

**【現状】**  
本州中北部に分布する種で、県内では相模原市北部にのみ見られる。生育地では継続して確認されているが、大規模な群落を作るわけではなく、点在する。

**【国内分布】**  
本州(中北部の主として日本海側)

**【県内分布】**  
相模湖●・藤野-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧ⅠA類					
<b>ルイヨウショウマ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	
			1995	希少種	
<i>Actaea asiatica</i> H.Hara		環境省	2020	—	

**【判定理由】**  
1999年の西丹沢以後、採集されていない。西丹沢一帯での調査密度は低く、再発見される可能性が高いため絶滅危惧ⅠA類とした。分布が局在している点、個体数が限定的な点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
山地の樹林内に生える多年草

**【現状】**  
県内では丹沢山地の高標高地に発達するブナ林内のみ分布がある。ただし分布域内でも生育は稀で個体数も少ない。本種の生育地周辺では、ササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主要因とする林床環境の変化が継続しており、本種の生育に対する脅威となっている。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1○・津久井-2△・山北-1◎・山北-5△

**【存続を脅かす要因】**  
シカ影響、森林衰退

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

キンボウゲ科

絶滅危惧Ⅱ類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">フクジュソウ</div> <p><i>Adonis ramosa</i> Franch.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—			
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類									
	1995	絶滅危惧種 E										
環境省	2020	—										
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では4調査区の7か所で確認された。3次メッシュで分布が局在している点、生育環境が保全努力によって維持されている点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 明るい落葉広葉樹林内や土手の草地に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県内では相模原市北部を中心に現存する。過去には清川村でも記録があるが現状は不明。 本県には元々分布が限定的な上に、おそらく生育環境であった農耕地周辺の落葉樹林の管理形態の変化に伴って生育適地が消失したことが本種の減少要因と考えられる。現状でも継続して同様の脆弱性がある。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 藤野-2●・清川-2○・相模湖●・城山△・津久井-3●・津久井-5●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、管理放棄</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 県立自然公園</p>											

キンボウゲ科

準絶滅危惧												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">アズマイチゲ</div> <p><i>Anemone raddeana</i> Regel</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	準絶滅危惧	1995	減少種 G	環境省	2020	—			
神奈川県	2006		準絶滅危惧									
	1995	減少種 G										
環境省	2020	—										
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では8調査区で確認され、調査区単位の減少も見られないが、分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点、保全努力によって維持されている点、開発によって生育地が消失する懸念がある点に脆弱性があり、準絶滅危惧と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 落葉樹林の林縁や林床に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県央から県北にかけての台地や丘陵地と低山地に分布する。生育環境は明るい落葉樹林の林床で、生育環境であった農耕地周辺の落葉樹林の管理形態の変化に伴って生育適地が消失したことが本種の減少要因と考えられる。同様の懸念のほか、生育地の樹林が開発などによって消失する懸念もある。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(近畿以北)</p> <p><b>【県内分布】</b> 緑●・相模原-3●・相模原-4●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・海老名●・愛川△・清川-1○・清川-3○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 一部は県立自然公園</p>											

キンボウゲ科

絶滅危惧ⅠB類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">レンゲショウマ</div> <p><i>Anemonopsis macrophylla</i> Siebold &amp; Zucc.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	—	環境省	2020	—			
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類									
	1995	—										
環境省	2020	—										
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では3調査区の7か所で確認されたが、いずれも個体数が少ないため、絶滅危惧ⅠB類に判定した。分布が局在している点、個体数が限定的な点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の樹林内に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢山地と小仏山地のブナ帯の林床に生育する。本種の生育地周辺では、ササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主な要因とする林床環境の変化が継続しており、本種の生育に対する脅威となっている。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(福島県～奈良県)の主として太平洋側</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1○・津久井-2●・藤野-1●・清川-1△・清川-2△・山北-1○・山北-2●・山北-3○・山北-5○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> シカ影響、森林衰退</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園、植生保護柵</p>											

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県		2006		絶滅危惧ⅠB類	
リュウキンカ <i>Caltha palustris</i> L. var. <i>nipponica</i> H.Hara		環境省		2019		希少種	
		環境省		2020		—	

【判定理由】  
1990年頃に箱根芦ノ湖畔で採集され、『神RDB06』では絶滅危惧ⅠB類とされた。本県における自生は疑わしいとする意見もあるが、『神植誌18』の扱いに従い、『神RDB06』の判定を踏襲し絶滅危惧ⅠB類とした。

【生育環境・生態】  
沼や池などの水中や湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、九州

【県内分布】  
箱根-5◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
古くは箱根町芦之湯の1958年以前の文献記録があるが、芦之湯で採集された標本は見つかっていない。野外で目につきやすい植物にもかかわらず、標本記録は1990年以降に限られる。  
本種が県内には元々無かったか、かなり以前に野生絶滅し、栽培由来のものが観察された可能性などは否定できず、本県における自生は疑わしいとする意見もある。

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県		2006		—	
オオバショウマ <i>Cimicifuga japonica</i> (Thunb.) Spreng. var. <i>macrophylla</i> (Koidz.) H.Hara		環境省		2019		—	
		環境省		2020		—	

【判定理由】  
今回の調査では8調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位約30%減少した。分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
丹沢山地と小仏山地のブナ帯の林床に生える多年草

【現状】  
丹沢山地の本種の生育地周辺では、ササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主な要因とする林床環境の変化が継続しており、本種の生育に対する脅威となっている。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-5○・城山◎・津久井-1●・津久井-2●・相模湖○・藤野-1●・藤野-2●・清川-1●・伊勢原-1●・大山△・秦野-1○・秦野-2●・秦野-3●・山北-1○・山北-2◎・山北-3△・山北-4◎・山北-6△

【存続を脅かす要因】  
シカ影響、森林衰退

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園、植生保護柵

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県		2006		—	
フジセンニンソウ <i>Clematis fujisanensis</i> Hisauti & H.Hara		環境省		2019		—	
		環境省		2020		—	

【判定理由】  
分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。今回の調査では2調査区の2か所で確認されたが、近年の標本記録に限られていることについては、調査が十分でない可能性があることから、ランクを下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
丹沢山地のブナ帯に生えるつる植物

【現状】  
丹沢山地の高標高地に分布し、分布が限定的である。本種の生育地周辺では、ササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主な要因とする林床環境の変化が継続しており、低木にもたれかかって成長する本種の生育に対する脅威となっている。

【国内分布】  
本州(関東地方南部～東海地方、岡山県)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-4●・厚木-4◎・愛川◎・清川-2◎・伊勢原-1◎・秦野-2◎・秦野-3●・山北-4◎・山北-5○・松田○・箱根-1○・箱根-5◎

【存続を脅かす要因】  
シカ影響、森林衰退

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

キンボウゲ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>カザグルマ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Clematis patens</i> C.Morren & Decne.		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では5調査区に250株未満から絶滅危惧ⅠB類とされた。今回は7調査区で確認され、調査区単位の減少はないが、分布が限定的な点、個体数が限られる点、保全努力によって維持されている点に脆弱性があり、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
林縁に生える草本状の木本性つる植物

【現状】  
相模原市の一部と横浜市に継続して生育が確認されている。林縁に生育し、適度な攪乱が必要であり、花が大型で人目に付きやすいことから、生育地では保全の配慮がなされている。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・保土ヶ谷●・相模原-1●・相模原-2●・相模原-3●・相模原-4●・津久井-5●・相模湖◎・藤野-2●

【存続を脅かす要因】  
過剰採取、土地造成

〈写真あり：口絵3〉

キンボウゲ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>コバノボタンヅル</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 —
<i>Clematis pierotii</i> Miq.		環境省	2020 —

【判定理由】  
1999年に大磯町と平塚市の境界付近で発見されて以降、同地では継続して確認されている。生育地は2調査区にわたっているが、隣接した1か所と考えられる。

【生育環境・生態】  
樹林内や林縁に生える草本状の木本性つる植物

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(神奈川県)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
平塚-1◎・大磯●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
本種は四国、九州、琉球に分布する植物であり、神奈川県産地は自然分布とは考えにくいとの意見があるが、『神植誌18』の扱いに従った。

キンボウゲ科

絶滅危惧ⅠB類			
<b>トリガタハンショウヅル</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Clematis tosaensis</i> Makino form. <i>tosaensis</i>		環境省	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では1調査区の2か所で確認された。分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。丹沢山地において近年の標本記録が限られていることについては、調査が十分でない可能性がある。

【生育環境・生態】  
林縁に生える草本状の木本性つる植物。丹沢山地の高標高地と箱根周辺の山地に分布する。

【現状】  
丹沢山地に分布するものは、生育地周辺でササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主な要因とする林床環境の変化が継続しており、低木にもたれかかって成長する本種の生育に対する脅威となっている。

【国内分布】  
本州、四国

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2◎・秦野-1○・山北-1○・山北-3○・山北-4○・山北-6◎・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状：国立公園、国定公園

キンポウゲ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ムラサキアズマハンショウヅル</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Clematis tosaensis</i> Makino form. <i>purpureofusca</i> (Hisauti) Yonek.		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区1か所のみで確認された。トリガタハンショウヅルと同所的に分布するが、本品種のほうが稀である。分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。丹沢山地において近年の標本記録が限られていることについては、調査が十分でない可能性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 丹沢山地の高標高地と箱根周辺の山地に分布する。トリガタハンショウヅルの変種で萼片が紫褐色(学名は品種ランクであるが、ここでは変種として扱った。)</p> <p><b>【現状】</b> 丹沢山地に分布するものは、生育地周辺でササ群落の退行、シカによる採食や登山道とその周辺の利用過多を主な要因とする林床環境の変化が継続しており、低木にもたれかかって成長する本種の生育に対する脅威となっている。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1○・南足柄-1●・山北-3○・山北-6○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園特別保護地区、国定公園</p>	

キンポウゲ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>バイカオウレン</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Coptis quinquefolia</i> Miq.		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区1か所のみで確認された。分布が局在している点、シカの採食による生育環境の変化が懸念される点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯～シラビソ帯の林床や林縁に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 箱根で確認されている。限られた範囲にのみ分布している点に脆弱性がある。箱根一帯では、近年急速にシカによる採食の影響が拡大しており、本種のような数の限られた林床植物に対して致命的な被害をもたらす恐れがある。古い文献では丹沢の記述もあるが、生育や標本は確認されていない。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 本州(福島県以南)と四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 箱根-4◎・箱根-5●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園特別保護地区および天然記念物</p>	

キンポウゲ科

準絶滅危惧			
<b>ハコネシロカネソウ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Dichocarpum hakonense</i> (F.Maek. & Tuyama ex Ohwi) W.T.Wang & P.K.Hsiao		環境省	2020
<p><b>【判定理由】</b> 6調査区で確認され、調査区単位の減少はないが、分布が局在している点、シカの採食による生育環境の変化が懸念される点に脆弱性があり、準絶滅危惧と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 林床や林縁に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 箱根では広範囲に分布し、生育地では小規模な群落を形成して安定した生育が見られるが、限られた範囲にのみ分布している点に脆弱性がある。箱根一帯では、近年急速にシカによる採食の影響が拡大しており、本種のような林床植物に対して大きな被害をもたらす恐れがある。</p>		<p><b>【国内分布】</b> 本州(神奈川県と静岡県)</p> <p><b>【県内分布】</b> 小田原-4●・箱根-1◎・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1◎・湯河原-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園</p>	

キンポウゲ科

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>スハマソウ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>nipponica</i> Nakai</td> </tr> </table>	<b>スハマソウ</b>	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>nipponica</i> Nakai	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 H	環境省	2020	—
<b>スハマソウ</b>											
<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>nipponica</i> Nakai											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類									
	1995	減少種 H									
環境省	2020	—									
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では4調査区の4か所で確認され、前回同様の判定となった。分布が局在している点、生育地付近の個体数が限定的な点、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 樹林内に生える常緑の多年草。</p> <p><b>【現状】</b> 県東部の横浜市、鎌倉市、逗子市と、近年南足柄市に生育が確認された。いずれも稀であり、生育地付近の個体数も限定的な点に脆弱性がある。特に県東部では生育地付近の樹林の積極的管理が久しくなされておらず、樹木の成長や大木の枯死に伴う林床の光・水分環境の変化が進行している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(東北の太平洋側から関東南部)</p> <p><b>【県内分布】</b> 栄●・鎌倉-1●・鎌倉-2○・逗子●・南足柄-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、土地造成</p>										

キンポウゲ科

絶滅危惧 I B 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>オキナグサ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. ex J.Presl</td> </tr> </table>	<b>オキナグサ</b>	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. ex J.Presl	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 F</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 F	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
<b>オキナグサ</b>											
<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. ex J.Presl											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類									
	1995	絶滅危惧種 F									
環境省	2020	絶滅危惧 II 類									
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では5調査区のうち3調査区で失われ、現存する個体数が50株未満から絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では5調査区で確認されたが、各産地ともに個体数が少ないため絶滅危惧 I B 類と判定した。生育に適した草地環境の消失と鑑賞・園芸目的での採取が現在も継続して存在する減少要因である。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 明るい草原や砂礫地に生える多年草で、放牧地などでもよく見られる。</p> <p><b>【現状】</b> 県内では古くから丹沢、箱根の周辺や県央・県東部の台地上や丘陵地に点々と記録がある。近年では相模原市、厚木市、愛川町、箱根町にのみ生育が確認されているが、いずれも限定的である。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 中△・旭△・鎌倉-1△・相模原-4●・津久井-5○・相模湖●・藤野-2●・厚木-3●・伊勢原-2△・秦野-1○・山北-1○・山北-3○・山北-8△・箱根-1●・箱根-4△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、過剰採取</p> <p>📷写真あり: 口絵3</p>										

キンポウゲ科

絶滅危惧 I A 類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>コキツネノボタン</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Ranunculus chinensis</i> Bunge</td> </tr> </table>	<b>コキツネノボタン</b>	<i>Ranunculus chinensis</i> Bunge	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅種 B	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
<b>コキツネノボタン</b>											
<i>Ranunculus chinensis</i> Bunge											
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類									
	1995	絶滅種 B									
環境省	2020	絶滅危惧 II 類									
<p><b>【判定理由】</b> 文献記録に茅ヶ崎市と横浜市が挙げられているが、標本と生育が確認されているのは箱根町の1か所だけである。その生育地も1996年以降は採集確認がされていない。生育地が限定的な点で脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 湿地に稀に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 減水時に生じた陸地に発生するが、近年は生育に適した時期に満水のことが多く、生育が確認できていない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道(南部)、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 箱根-5○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園</p>										

情報不足				
<b>イチョウバイカモ</b>	<i>Ranunculus nipponicus</i> Nakai var. <i>nipponicus</i>	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1926年に芦ノ湖で採集された標本について、本種と同定されているが、識別形質の浮葉が失われている。以降の記録はない。

【生育環境・生態】  
湧水の流れに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道(千歳川)、長野県(上高地、軽井沢)、静岡県(駿東郡清水町柿田川)

【県内分布】  
箱根-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:箱根芦ノ湖 1926.8.21 KPM-NA0052256.

絶滅危惧 I A 類					
<b>バイカモ</b>	<i>Ranunculus nipponicus</i> Nakai var. <i>submersus</i> H.Hara	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	
			1995	絶滅危惧種 D	
		環境省	2020	—	

【判定理由】  
過去に小田原市で生育していたが 1985年の標本以降は同地では確認されていない。2001年に箱根芦ノ湖で打ち上げられた流れ藻の状態で採集された。以降は確認されておらず、生育状況も不明である。分布・生育地が限定的な点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
湧水の流れに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
厚木-2△・小田原-2○・箱根-3●

【存続を脅かす要因】  
水質汚濁、池沼開発

【特記事項】  
・保護の現状:芦ノ湖は国立公園  
・標本:小田原市 1985.5.17 一寸木肇 KPM-NA1037954;  
箱根町湖尻芦ノ湖 2001.8.11 荻部治紀 KPM-NA0122244.

絶滅危惧 I A 類					
<b>ヒキノカサ</b>	<i>Ranunculus ternatus</i> Thunb.	神奈川県	2006	絶滅	
			1995	絶滅種 B	
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類	

【判定理由】  
県内では 1950~60年代の横浜市の標本が残されているが現地で消失して久しく、長らく絶滅種とされた。2010年に葉山町で発見された。分布と生育環境に限られる点、個体数がわずかな点、生育環境の維持に管理が必要な点、開発によって生育環境が失われる可能性がある点为本種の脆弱性である。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東以西)~琉球

【県内分布】  
港北△・葉山●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本:横浜市港北区樽 1957.4.5 宮代周輔 YCB010857ほか

キンボウゲ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>シギンカラマツ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
			1995 減少種 G
<i>Thalictrum actaeifolium</i> Siebold & Zucc.		環境省	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では3調査区の11か所で確認されている。調査区数が少ないこと、調査区単位で25%の減少が見られることから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が局在している点、生育環境の減少が継続している点が脆弱性である。

【国内分布】  
本州(関東南部以西)、四国、九州

【生育環境・生態】  
山野の草地に生える多年草

【県内分布】  
相模原-2◎・城山●・津久井-5●・相模湖●・厚木-4○・清川-3△

【現状】  
相模原市北部に生育が確認されている。厚木市や清川村、相模原市南部の標本記録もあるが近年では確認されていない。元々分布の東限に近く、県内の分布地が限られていた上に、生育環境である草地が消滅したことが現在も継続する減少要因と考えられる。

【存続を脅かす要因】  
産地局限

キンボウゲ科

絶滅危惧ⅠB類			
<b>イワカラマツ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 —
<i>Thalictrum sekimotoanum</i> Honda		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
『神RDB06』では道志川溪谷に個体数が50株未満から絶滅危惧ⅠA類とされた。今回の調査では生育範囲は変わらないが、個体数は150株以上が確認された。両岸2調査区となるため、今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB類となる。分布が限定的で生育環境が特殊であることから限られた場所に集中的に生育している点が脆弱性がある。

【国内分布】  
本州(栃木、長野、秋田)

【生育環境・生態】  
溪岸の岩上に生える多年草

【県内分布】  
津久井-3●・藤野-2●・愛川◎

【現状】  
現在は相模原市の道志川のみ確認される。かつては愛川町(中津溪谷)にもみられたが、宮ヶ瀬ダムの建設によって失われた。

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・標本:愛川町中津溪谷石小屋 1989.6.4 勝山輝男 KPM-NA0100119.

キンボウゲ科

絶滅			
<b>ノカラマツ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
<i>Thalictrum simplex</i> L. var. <i>brevipes</i> H.Hara		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
1940~60年代の横浜市と鎌倉市の標本が残されているが、以降の生育は確認されていない。文献記録には1960年代以前の丹沢山地での記録も挙げられているが、標本は確認されていない。

【国内分布】  
本州(東北南部以南)、九州

【生育環境・生態】  
攪乱のある山野の草地に生える多年草

【県内分布】  
港北△・鎌倉-1△

【現状】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:神奈川県付近 1904.7.27 小泉秋雄 MAK4140; 横浜市港北区榎 1953.7.12 宮代周輔 YCB010929; 鎌倉(大船) 1949.8.3 宮代周輔 YCB106961.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>モミジカラマツ</b>			1995	—
<i>Trautvetteria carolinensis</i> (Walter) Vail var. <i>japonica</i> (Siebold & Zucc.) T. Shimizu		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区の 1 個の 3 次メッシュ範囲に生育する。分布と生育環境が限られ、個体数も少ない点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
シラビソ帯の林縁や草地に生える多年草。標高の低い丹沢では北面の日の当たらない湿った岩場に生える。

【現状】  
丹沢山地の高標高地にのみ生育するが稀である。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
津久井-1○・津久井-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、温暖化

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 丹沢檜洞丸 1979.7.22 城川四郎 KPM-NA1038147.

◀写真あり: 口絵3

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ベニバナヤマシャクヤク</b>			1995	絶滅危惧種 D
<i>Paeonia obovata</i> Maxim.		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類と判定されたが、2 調査区で確認され、採集地数が 4 か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
落葉樹林の林床や林縁に生える多年草

【現状】  
丹沢ではニホンジカが採食せず、生育地では個体数が増えている。箱根で採集された古い標本が残されているが、その後の再発見はない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
相模湖●・清川-2●・山北-1△・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
過剰採取

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園  
・標本: 箱根町箱根山 1930 久内清孝 YCB601257; 箱根町 1938.4.19 澤田武太郎 KPM-NA0143690.

情報不足		神奈川県	2006	—
<b>スルガヒメユズリハ</b>			1995	—
<i>Daphniphyllum teijsmannii</i> Zoll. ex Kurz var. <i>hisautii</i> Hurus.		環境省	2020	—

【判定理由】  
分類上の位置づけが定まっていないこと、ヒメユズリハとの区別が困難なこと、分布情報が不十分なことから情報不足とした。

【生育環境・生態】  
沿海地に生える常緑高木。ヒメユズリハに似て果序が下垂するが、果実のないものでは区別が困難。ヒメユズリハとユズリハの中間的なところもあり、両者の雑種起源とも考えられる。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(神奈川県、静岡県、伊豆大島、和歌山県)、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-2○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 横須賀市観音崎 1982.11.28 浜中義治 YCM-V012650.

スグリ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ヤシヤビシヤク</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧Ⅱ類
			1995 減少種 G
<i>Ribes ambiguum</i> Maxim. var. <i>ambiguum</i>		<b>環境省</b>	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
7 調査区で確認され、調査区単位の減少もなく、『神RDB06』と状況に変化はないため、前回同様に絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布と生育環境に限られる点が脆弱性である。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の樹幹に着生する落葉低木

**【現状】**  
本県では丹沢山地の高標高地に確認されている。古い文献では箱根も産地として挙げられているが、標本と近年の生育は確認されていない。生育地付近にも元々低密度に分布する植物であり、着生するブナが安定して生育する樹林を必要とする。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1●・津久井-2○・清川-1●・大山◎・秦野-1●・秦野-3●・山北-1●・山北-2●・山北-3◎・山北-4●・山北-5△・山北-6◎

**【存続を脅かす要因】**  
着生木枯死

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区

スグリ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ヤブサンザシ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Ribes fasciculatum</i> Siebold & Zucc.		<b>環境省</b>	2020 —

**【判定理由】**  
『神RDB06』では2 調査区に50 株未満から絶滅危惧ⅠA類とされた。今回の調査では5 調査区で確認されたため絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布と個体数が限定的な点が本種の脆弱性である。

**【生育環境・生態】**  
落葉樹林の明るい林床や林縁にまれにみられる低木。

**【現状】**  
県内では県央、県南の沖積地の周辺で標本が採集されている。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
栄△・城山●・厚木-5●・秦野-3○・秦野-5●・藤沢-1●・藤沢-3●

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成、産地局限

**【特記事項】**  
1960年以前の標本は2 点に限られ、古い文献には記録が見当たらず、庭木とされることから、植栽由来の可能性も提起されている。

スグリ科

絶滅危惧ⅠB類			
<b>ザリコミ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧ⅠB類
			1995 希少種
<i>Ribes maximowiczianum</i> Kom.		<b>環境省</b>	2020 —

**【判定理由】**  
山北町の1 調査区の2 か所で確認された。生育地付近には点在するが、分布が局在し、生育地と個体数が限定的な点が本種の脆弱性である。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の林床にまれに生える落葉低木。

**【現状】**  
県内では丹沢山地の一部でのみ現存が確認されている。

**【国内分布】**  
本州(関東、中部、滋賀県、中国地方)、四国(高知県)

**【県内分布】**  
津久井-3◎・山北-1●・山北-4○・箱根-1△

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>トリアシショウマ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
<i>Astilbe thunbergii</i> (Siebold & Zucc.) Miq. var. <i>congesta</i> H.Boissieu			1995	—
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神RDB06』では2調査区に50株未満から絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回の調査では4調査区の10か所で確認され、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。分布と生育地の個体数が限られる点为本種の脆弱性である。</p> <p>【生育環境・生態】 湿り気のある落葉樹林の林縁などに生える多年草</p> <p>【現状】 県内では相模原市北部からのみ現存が確認される。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州(おもに中部以北)</p> <p>【県内分布】 城山◎・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園</p>			

絶滅危惧ⅠB類				
<b>イワネコノメソウ</b>		神奈川県	2006	—
<i>Chrysosplenium echinus</i> Maxim.			1995	—
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では2調査区の2か所で確認された。生育環境が限られ、個体数が少ない点、生育地が出水や土砂の崩落で消失する懸念があることが本種の脆弱性である。</p> <p>【生育環境・生態】 県内では丹沢山地の比較的高標高地の沢沿いの日陰などに生育する。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方～東海地方)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1○・清川-1●・秦野-1◎・山北-3●・山北-4◎・山北-6○・箱根-4△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、自然災害</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園</p>			

絶滅危惧ⅠB類				
<b>コガネネコノメソウ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Chrysosplenium pilosum</i> Maxim. var. <i>sphaerospermum</i> (Maxim.) H.Hara			1995	希少種
		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では3調査区の4か所で確認された。分布が点在し、生育地内でも個体数が限られる点、生育地が出水や土砂の崩落、治山整備などで消失する懸念があることが本種の脆弱性である。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の湿った樹林内に生える多年草。県内では山北町南半から南足柄市北部の沢沿いに見られ、最近、秦野市でも見つかった。</p> <p>【現状】 山北町世附(山北-4)の産地は大規模な崩壊で失われた可能性がある。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 秦野-3●・南足柄-1◎・山北-4●・山北-7◎・山北-8●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、自然災害</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 一部は国定公園、県立自然公園</p>			

ユキノシタ科

準絶滅危惧			
<b>ヤグルマソウ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 —
<i>Rodgersia podophylla</i> A.Gray			1995 —
		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では5調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位で30%減少には至らなかったため準絶滅危惧とした。分布が局在している点、生育環境の変化が継続している点、シカ採食の影響を受ける懸念がある点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の湿り気のある立地に生える大型の多年草

【現状】  
県内では丹沢と箱根のブナ帯付近に分布する。丹沢では過去にシカによる採食により生育地と個体数を減少させ、シカによる採食の影響の少ない立地に残存している。箱根では元々分布が限られ、近年急激に増加しているシカによる採食の影響が懸念される。

【国内分布】  
北海道(西南部)、本州

【県内分布】  
津久井-1◎・津久井-2●・津久井-3●・津久井-4●・清川-1△・秦野-1○・南足柄-1◎・山北-1◎・山北-2○・山北-3○・山北-6△・箱根-1●・箱根-5◎・箱根-6●

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

ユキノシタ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ジンジソウ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 —
<i>Saxifraga cortusifolia</i> Siebold & Zucc.			1995 —
		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
丹沢山地の一部に分布することが2016年に発見され、1調査区の2か所の沢で標本が記録された。分布が局在し、生育地内でも個体数が限られる点が本種の脆弱性である。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の湿り気のある岩上などに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
山北-4●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園  
〈写真あり: 口絵3〉

ユキノシタ科

絶滅			
<b>イズノシマダイモンジソウ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅
<i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>jotanii</i> (Honda) Wakab.			1995 —
		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
1920年に逗子市で採集された標本があるが、以降は県内で見つかっていない。

【生育環境・生態】  
湿った岩場や崖地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
伊豆諸島、伊豆半島、房総半島

【県内分布】  
逗子△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 相模逗子 1920.10.31 小倉 謙 TL.

絶滅危惧 I B 類			
イワユキノシタ <i>Tanakaea radicans</i> Franch. & Sav.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅危惧種 D
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査期間には2調査区の2か所で確認された。分布が限られ、いずれの生育地でも個体数が少ない点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
岩場に生える多年草

【現状】  
山北町、箱根町、湯河原町の溪岸の岩上で記録がある。箱根町の生育地付近では近年は確認されていないが、地形や植生に変化がないため、現存する可能性が高い。

【国内分布】  
本州(神奈川県、静岡県、山梨県)、四国(高知県)

【県内分布】  
山北-4●・箱根-5○・湯河原-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園、県立自然公園

絶滅			
ズダヤクシュ <i>Tiarella polyphylla</i> D.Don	神奈川県	2006	消息不明種
		1995	消息不明種
	環境省	2020	—

【判定理由】  
文献記録のほか、1939年に箱根で採集された標本が残されているが、以降は県内で生育が確認されていない。

【生育環境・生態】  
山地帯上部からシラビソ帯の湿った林床に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州(近畿以東)、四国

【県内分布】  
箱根-1△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:箱根金時山 1939 府川勝蔵 HCM099278.

絶滅危惧 I A 類			
ベンケイソウ <i>Hylotelephium erythrostictum</i> (Miq.) H.Ohba	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根仙石原湿原の1調査区の1か所にのみ生育。『神植誌18』の調査で県内分布が確認された。

【生育環境・生態】  
ススキ草原に生える多年草。葉はすべて互生し、花卉は淡紅色～淡紅紫色。

【現状】  
箱根仙石原湿原の防火帯に沿ってススキに埋もれて約30株がある。2020年にはシカに茎頂を食われていたが、9月には数株が開花していた。

【国内分布】  
本州(関東地方、中部地方)、九州

【県内分布】  
箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園特別保護地区

ベンケイソウ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ミツバベンケイソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H.Ohba var. <i>verticillatum</i>		環境省	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では相模原市緑区(旧藤野町)の1か所で確認されたのみ。『神RDB06』では逗子市・葉山町の森戸川に1,000株未満と推定し、絶滅危惧 II 類にされた。今回、森戸川からの報告はなかったが、絶えてはいないと考え絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
岩場、川原、林縁などに生える多年草。葉は3輪生し、ほとんど無柄。

【現状】  
逗子市や葉山町の森戸川では溪流沿いのやや湿り気のある岩上に生えていた。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
逗子◎・葉山◎・藤野-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神植誌01』や『神RDB06』で報告されている箱根仙石原のものはベンケイソウに同定変更された。

ベンケイソウ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ショウドシマベンケイソウ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H.Ohba var. <i>lithophilos</i> H.Ohba		環境省	2020 —

【判定理由】  
2調査区の2か所で確認された。『神植誌18』の調査で県内分布が確認された。

【生育環境・生態】  
岩場に生える多年草。ミツバベンケイソウの変種で、葉は対生し、短い柄があり、ときに葉腋にむかごをつける。

【現状】  
溪流沿いの岩場に生えていた。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国

【県内分布】  
相模湖●・山北-7●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
1991年に小豆島や岡山県のものに基づいてミツバベンケイソウの新変種として記載された。

ベンケイソウ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>アオベンケイ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 希少種
<i>Hylotelephium viride</i> (Makino) H.Ohba		環境省	2020 —

【判定理由】  
丹沢の高標高域の4調査区で記録があるが、『神植誌18』の調査では確認されなかった。現存の可能性は高いので絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹幹に着生する多年草。葉は対生し、明らかな柄があり、下面は緑色。

【現状】  
丹沢の主稜線ではブナなどの高木が枯死し、本種の生育環境は悪化している。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1◎・清川-1◎・山北-3◎・山北-4△

【存続を脅かす要因】  
着生木枯死

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区

〈📷写真あり: 口絵3〉

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ツメレンゲ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
<i>Orostachys japonica</i> (Maxim.) A. Berger			1995 希少種
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
5調査区の6個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』では愛川町と道志川溪谷をあわせて50株未満から絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回の調査では新たな産地も見つかり、今回の判定基準では絶滅危惧Ⅱ類となった。

【生育環境・生態】  
岩礫地に生える多肉の多年草。顕著なロゼットを作り、秋に花穂を出す。葉の先端は小刺になる。

【現状】  
道志川溪谷の岩場には点々と生育する。相模原市緑区(旧藤野町)では人里の石垣にもみられる。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
城山●・津久井-3◎・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・愛川●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

☑写真あり:口絵3)

絶滅			
<b>イワレンゲ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Orostachys malacophylla</i> (Pall.) Fisch. var. <i>iwarenge</i> (Makino) H. Ohba			1995 絶滅種 B
		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』『宮代目録』には津久井の山地に分布と記し、『神植誌58』や『横植誌68』は横浜市内の藁葺屋上に生えることを記録しているが、『神植誌88』の調査では採集できず、その後も確認できない。

【生育環境・生態】  
岩上や茅葺屋根上などに生える多肉の多年草。ツメレンゲに似るが、葉の先端は刺にならない。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東以西)、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

絶滅			
<b>ホソバノキリンソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Phedimus aizoon</i> (L.) 't Hart var. <i>aizoon</i>			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 —

【判定理由】  
1950年代や1960年代に丹沢で採集された標本が残されているが、その後の調査では確認されていない。

【生育環境・生態】  
山地草原や岩場などに生える多肉の多年草。キリンソウの基本変種で、葉は菱状狭楕円形で基部を除き下半部にも鋸歯がある。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
秦野-1△・山北-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:丹沢山塊表尾根大日岳~塔ノ岳1952.8.12 金井弘夫TI; Mt. Tanzawa (Fudakake-tougatake-Shibusawa) 1955.7.28-29 Y.Asai TI; 丹沢蛭ヶ岳~熊木沢~西沢, 1962.9.24, 小粥康治YCM-V010208.

ベンケイソウ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>メノマンネグサ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Sedum japonicum</i> Siebold ex Miq. subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
『神RDB06』では真鶴岬と小田原市に 10 株未満から絶滅危惧 I A 類とされたが、今回の調査では 4 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認されたため、ランクが下がった。

**【生育環境・生態】**  
海岸の岩場や沿海地の石垣などに生える多肉の多年草。有花茎の葉は互生し、長さ 5～10mm で鈍頭。

**【現状】**  
判定には海岸以外の分布も含まれており、実際にはもう少し厳しい状況かもしれない。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
緑●・栄●・逗子●・江ノ島●・小田原-3◎・真鶴◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
海岸以外の記録(横浜市緑区、栄区、逗子市沼間)は自然分布ではないかもしれない。

ベンケイソウ科

絶滅危惧 II 類			
<b>アズマツメクサ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Tillaea aquatica</i> L.			1995 減少種 G
		環境省	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
『神RDB06』では箱根お玉ヶ池以外の産地では現存が確認できず絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では 7 調査区の 8 か所で確認され、判定基準では選定外になるが、減水裸地という不安定な立地に生える植物の一時的な増加とも考えられ、絶滅危惧 II 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
泥田や湿地などの減水裸地に生える小型の一年草

**【現状】**  
箱根お玉ヶ池では水量が減った際に見られる。

**【国内分布】**  
北海道、本州

**【県内分布】**  
都筑●・麻生●・相模原-2●・座間●・綾瀬◎・藤沢-1●・茅ヶ崎-2◎・寒川●・小田原-2◎・箱根-5●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、土地造成

**【特記事項】**  
・保護の現状: 一部の産地は国立公園内

アリトウグサ科

絶滅			
<b>タチモ</b>		神奈川県	2006 絶滅
<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.			1995 絶滅種 C
		環境省	2020 準絶滅危惧

**【判定理由】**  
『神植誌58』に横浜、茅ヶ崎、国府、箱根の記録があるが、標本は確認されていない。最近の調査でも報告がなく、『神RDB06』では絶滅とされた。

**【生育環境・生態】**  
貧栄養の湖沼やため池などの浅水中に生える多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道(南部)、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
—

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
文献記録のみで標本は確認されておらず、『神植誌18』では参考種とされたが、ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i> L.		1995	絶滅種 C
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌58』には三浦の記録があるが、『神植誌88』とその後の植物誌調査では確認されていない。『神RDB06』では絶滅とされた。その後も、標本は確認されていないため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
池沼に生える沈水生の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
フサモとされた数点の標本があるが、いずれも花序のない標本で、ホザキノフサモとの識別ができず、確実にフサモと同一とされる標本は確認されていないが、『神植誌18』での扱いに従い、ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。

## ハマビシ科

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i> L.		1995	—
		環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』『宮代目録』に久里浜、三崎、横浜の記述がある。横須賀市、三浦市の海岸における1940-1950年代の標本記録があり、これらの生育地で本種が失われたことについて絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
海辺の砂地に生育する植物で、埋め立て地などの攪乱環境に一時的に出現することもある。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(千葉県・福井県以西)、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-3△・横須賀-4△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:横須賀市久里浜 1916.5.1 久内清孝 YCB600644;  
横須賀市久里浜 1953.9.2 大谷 茂 YCM-V012461; 三浦半島長井 1954.8.29 府川勝蔵 HCM099342.

## マメ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i> (Thunb.) DC.		1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区の 2 個の 3次メッシュで確認されたが、隣接した 2 個の 3次メッシュでの確認であり、採集地としては 1 か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
海岸砂浜に生えるつる性の多年草

【現状】  
以前と大きな変化はない。

【国内分布】  
本州(中南部)、四国、九州、琉球、小笠原

【県内分布】  
三浦●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、踏みつけ、海岸開発

〈写真あり:口絵4〉

マメ科

絶滅											
<p><b>ユクノキ</b></p> <p><i>Cladrastis shikokiana</i> (Makino) Makino</p> <p>【判定理由】 大山で採集された標本が森林総合研究所多摩森林科学園で発見された(逢沢, 2003)が、その後の記録もなく、絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える落葉高木</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東・北陸以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 大山△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 『神RDB06』では絶滅とされたが、『神植誌18』では漏れている。 ・標本: 神奈川県大山 1953.5 林 弥栄 TFA</p> <p>【文献等】 逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961): 丹沢山塊の植物調査報告」の標本について, FK, (55): 673-683.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅								
	1995	—									
環境省	2020	—									

マメ科

絶滅危惧 I A 類											
<p><b>タヌキマメ</b></p> <p><i>Crotalaria sessiliflora</i> L.</p> <p>【判定理由】 1 調査区の 1 個の 3次メッシュで確認された。県内では 1985年と 1998年に横浜で確認されていたが、ともに失われ『神RDB06』では絶滅と判定された。その後、2010年に大磯で確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 草地や路傍に生える一年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 青葉○・栄◎・大磯●</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、草地開発</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		絶滅								
	1995	—									
環境省	2020	—									

マメ科

絶滅危惧 II 類											
<p><b>ノアズキ</b></p> <p><i>Dunbaria villosa</i> (Thunb.) Makino</p> <p>【判定理由】 4 調査区の 5 個の 3次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧 I B 類となるが、『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』を通して 12 調査区で記録されているので、『神植誌88』との比較で調査区単位で約 30%の減少を優先し、絶滅危惧 II 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い草地や土堤、林縁に生えるつる性の多年草</p> <p>【現状】 2000年代以降、減少が著しい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・保土ヶ谷△・麻生●・横須賀-1◎・鎌倉-1△・葉山◎・相模原-4△・座間○・厚木-1○・秦野-3◎・藤沢-3●・茅ヶ崎-1△・茅ヶ崎-2●・平塚-1◎・平塚-3○・大磯●・二宮○</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、草地開発</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—		
神奈川県	2006		—								
	1995	—									
環境省	2020	—									

マメ科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i> Hook.f. ex Regel	神奈川県	1995	絶滅危惧種 D
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区の 1 個の 3 次メッシュで確認された。1987年に小田原市で採集された。その後、再確認がなく絶滅が心配されたが、『神植誌18』の調査で生育が確認された。

【国内分布】  
本州(茨城県以西)、四国、九州

【生育環境・生態】  
暖地の林床に生える常緑小低木

【県内分布】  
小田原-2●

【現状】  
スギ人工林下に数本生育している(10本未満)。

【存続を脅かす要因】  
産地局限

マメ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
イタチササゲ	<i>Lathyrus davidii</i> Hance	神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
2 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。県内では丹沢東部山麓の一部に分布するのみ。

【国内分布】  
北海道、本州、九州

【生育環境・生態】  
山地の明るい林内に生える多年草

【県内分布】  
清川-1△・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4○・秦野-5○・大磯○・松田△

【現状】  
秦野市の産地では林縁に数個体が生育している(神奈川県環境保全センター研究連携課, 2016)。

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【文献等】  
神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2016. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—改訂増補第1版. 57 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木.

マメ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
レンリソウ	<i>Lathyrus quinquenervius</i> (Miq.) Litv.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
2 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認された。多摩丘陵～高座丘陵にかけて見られるが、稀である。1980年代までは平野部でも見られたが、現在ではほとんど見つかっていない。

【国内分布】  
本州、九州

【生育環境・生態】  
川岸や田の畦のような湿った草地に生える多年草

【県内分布】  
鶴見△・旭○・緑○・青葉△・戸塚△・幸●・横須賀-4△・鎌倉-1△・相模原-2△・大和●・厚木-1○・藤沢-1○・藤沢-2△・茅ヶ崎-1○

【現状】  
—

【存続を脅かす要因】  
池沼開発、河川開発、土地造成

マメ科

絶滅			
<b>サガミメドハギ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Lespedeza hisauchii</i> T.Nemoto & H.Ohashi		環境省	2020
【判定理由】 1933年に葉山町で採集されて以来記録がない。	【国内分布】 東京都蒲田から三浦半島をへて平塚市にかけての海岸		
【生育環境・生態】 沿海地に生える落葉小低木	【県内分布】 —		
【現状】 —	【存続を脅かす要因】 —		
	【特記事項】 基準産地は相州平塚 ・標本: Hiratsuka 1930.9.12 K.Hisauchi TI; Hayama 1933.9.7 K.Hisauchi TAI.		

マメ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>イヌハギ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Siebold ex Maxim.		環境省	2020
【判定理由】 7 調査区の 9 個の 3 次メッシュで確認された。相模川沿いに分布し、『神植誌88』および『神植誌01』の調査では 11 調査区で採集された。調査区が 30% 減少したため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。	【国内分布】 本州、四国、九州、琉球		
【生育環境・生態】 海岸近くや川原の砂地に生える半低木状の多年草	【県内分布】 横須賀-4△・横須賀-5△・鎌倉-1△・相模原-2○・相模原-4○・城山△・大和●・座間○・海老名○・厚木-2○・秦野-4○・秦野-5△・藤沢-1●・藤沢-2○・藤沢-3●・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・平塚-3△・二宮●・山北-6△・開成●		
【現状】 湘南地域では、砂質の草地や河原などの不安定な立地に見られた。	【存続を脅かす要因】 土地造成、河川開発、海岸開発		
	【特記事項】 二宮●の標本記録は 3 次メッシュ不正のため、『神植誌 18』では分布点が○で打たれている。		

マメ科

絶滅			
<b>ミソナオシ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Ohwia caudate</i> (Thumb.) H.Ohashi		環境省	2020
【判定理由】 『神植誌58』等に記載され、『横植誌68』には「恩田の内田の丘陵樹林側および疎林下に 10 株」と具体的な産地が記されている。伊豆半島や房総半島に分布するので、県内に分布の可能性もあるが、近年の調査では確認されておらず、標本の所在も明らかでない。	【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州、琉球		
【生育環境・生態】 林縁や疎林内に生える小低木	【県内分布】 —		
【現状】 —	【存続を脅かす要因】 —		
	【特記事項】 文献記録のみで標本は確認されておらず、『神植誌18』では参考種とされたが、ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。		

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>ミヤマタニワタシ</b></div> <p><i>Vicia bifolia</i> Nakai</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 4 調査区の 15 個の 3 次メッシュで確認された。調査区数が 50% 減少したが、採集地数が比較的多いため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の林縁や草原に生える多年草</p> <p>【現状】 丹沢と小仏山地に稀に見られる。2000 年以降、丹沢周辺での確認数が減少している。</p>	<p>【国内分布】 本州(中部)</p> <p>【県内分布】 津久井-2◎・津久井-3◎・相模湖●・藤野-1●・清川-2◎・伊勢原-1◎・大山◎・秦野-1○・秦野-2●・秦野-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 草地減少</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園・県立自然公園</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>ヨツバハギ</b></div> <p><i>Vicia nipponica</i> Matsum.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 1988年に松田町で採集されたのみ(佐々木, 2000)。『神植誌18』の調査でも見出されなかった。</p> <p>【生育環境・生態】 林縁や草原に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 松田◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・標本: 松田町 1988.6.25 城川四郎 KPM-NA0109594</p> <p>【文献等】 佐々木あや子, 2000. ヨツバハギ、神奈川県に分布を確認。FK, (49): 564.</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>ヒナノキンチャク</b></div> <p><i>Polygala tatarinowii</i> Regel</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類							
<p>【判定理由】 1 調査区の 1 個の 3 次メッシュで確認された。1982年に秦野市、山北町、1983年に大井町で採集された。いずれの産地も最近の確認はなく、これらの産地では消滅したものと考えられる。『神植誌18』の調査では秦野市のみで確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 日当たりの良い原野や崩壊地に生える一年草</p> <p>【現状】 秦野市の産地では草地に 100 個体以上が生育している(神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2016)。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 大山△・秦野-3●・秦野-5△・二宮△・山北-1○・大井○</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、自然遷移</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 緑地として保存されている</p> <p>【文献等】 神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2016. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—改訂増補第1版. 57 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木.</p> <p>〈写真あり〉: 口絵4)</p>								

バラ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>チョウセンキンミズヒキ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Agrimonia coreana</i> Nakai			1995 減少種 G
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類

**【判定理由】**  
『神植誌88』で神奈川県新産として箱根が、『神植誌01』の調査で湯河原町や、東京都との境に位置する陣馬山周辺が報告されたが、その後、箱根や湯河原のものはハコネキンミズヒキであることが明らかになった(支倉, 2009; 角田ほか, 2015)。  
陣馬山の東京都側や隣接した八王子市城山では古くから知られ、城山は本州で最初に本種が自生することが確認された場所であり(渡嘉敷, 1958)、佐竹ほか(1982)の写真も東京都陣馬山で撮影されているが、現状では 1 調査区 1 か所の確認にとどまることから、絶滅危惧 I A 類とした。

**【生育環境・生態】**  
草原に生える多年草

**【現状】**  
個体数は極めて少ない。

**【国内分布】**  
北海道(西南部)、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
藤野-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、草地減少

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

**【文献等】**  
渡嘉敷裕, 1958. 恩方植物雑記-7-. 野草, 24(5): 4-5; 支倉千賀子, 2009. 箱根町仙石原周辺のキンミズヒキ属の植物について. FK, (68): 828; 角田起宏・堀 揺平・加藤淳太郎・芹沢俊介, 2015. キンミズヒキ類の核DNA量. シデコブシ, 3(1): 17-26.; 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. xi+318 pp.+264 pls. 平凡社, 東京.

バラ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ハコネキンミズヒキ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Agrimonia noguchii</i> Seriz. subsp. <i>hakonensis</i> Seriz.			1995 —
		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
『神植誌01』で、チョウセンキンミズヒキとキンミズヒキの中間的な形質があるとして箱根産のチョウセンキンミズヒキとした標本が、本種であることが確認された。このほかに湯河原でも採集されたが、現状では 2 調査区の 4 か所での確認にとどまり、絶滅危惧 I B 類とした。

**【生育環境・生態】**  
草原に生える多年草

**【現状】**  
保護区域内では多数の株が現存するが、それ以外の確認調査地点ではイノシシによる掘り返しによる株の損傷や矮小化が進んでいる。

**【国内分布】**  
箱根～日金山、愛鷹山、朝霧高原

**【県内分布】**  
箱根-1◎・箱根-2●・箱根-4◎・箱根-5●・湯河原-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、草地減少

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園

◀写真あり: 口絵4

バラ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ザイフリボク</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Amelanchier asiatica</i> (Siebold & Zucc.) Endl. ex Walp.			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
小仏山地の山麓部の一部と中津山地にわずかな記録があるにすぎないため、『神RDB06』では絶滅危惧種 I A 類とされた。今回の調査により両地域の調査区の 9 個の 3次メッシュにおいて生育が確認され、個体数も一定数あることが判明した。判定基準では絶滅危惧 II 類に相当するが、9 個の 3次メッシュは隣接するものが多いことを考慮して絶滅危惧 I B 類とした。

**【生育環境・生態】**  
平地～山地の林縁などに生える落葉小高木

**【現状】**  
林道や中山間地の道路沿いの斜面林などで発見されることが多いが、開花期以外は目立ちにくいため分布を把握しにくい。しかし、いずれの確認地点も個体数はまばらで少なく、道路管理によって伐採される可能性もあり、安定した生育環境とは言い難い。

**【国内分布】**  
本州(岩手県以南)、四国、九州

**【県内分布】**  
相模湖●・藤野-1◎・藤野-2●・愛川●・清川-3●・秦野-5◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 一部の産地は国定公園や県立自然公園

絶滅危惧 I B 類				
<b>ヤブザクラ</b>	<i>Cerasus hisauchiana</i> (Koidz. ex Hisauti) H.Ohba	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
			1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
川崎市、横浜市には現在きわめて稀であり、丹沢の山麓、県央の丘陵地に散見されるが少なく、今回、5 調査区での確認にとどまり、『神植誌88』との比較で調査区単位で 50% 減少したことから、絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
丘陵から低山地に生える落葉小高木。マメザクラとエンドヒガンとの雑種起源と推定される。

【現状】  
山麓や丘陵地の土地改変の大きい環境に生育していることが多く、減少傾向にある。

【国内分布】  
本州(東京都、山梨県、千葉県)

【県内分布】  
緑◎・多摩●・麻生●・相模原-1◎・相模原-2◎・相模原-3◎・相模原-4◎・城山●・津久井-5◎・相模湖◎・藤野-1◎・海老名●・厚木-1◎・厚木-2◎・厚木-4●・厚木-5△・愛川◎・伊勢原-2◎・秦野-5◎・藤沢-3◎・茅ヶ崎-1◎

【存続を脅かす要因】  
土地造成

準絶滅危惧				
<b>エドヒガン</b>	<i>Cerasus itosakura</i> (Siebold) Masam. & Suzuki	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
小仏山地と東丹沢のほか、相模川の段丘沿いに上流から相模原市中央区付近まで分布が点在している。特に小仏山地では山麓部から林道沿いなどで多くの地点で確認された。今回の調査では 3 調査区の 11 個の 3 次メッシュで確認された。しかし、それぞれの分布地では個体数は少なく、分布も局在していることから準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
低山の林内に生える落葉高木

【現状】  
慎重な同定を要するため、個体数の正確な把握が難しい状況にある。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
栄○・葉山○・相模原-1◎・城山●・津久井-3◎・津久井-4◎・相模湖○・藤野-1●・藤野-2●・清川-3△・藤沢-3△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
ソメイヨシノは本種とオオシマザクラが関与して誕生したとされ、特に他の種や品種と混同されやすく、注意深い同定を要する。

絶滅危惧 I B 類				
<b>シロバナノヘビイチゴ</b>	<i>Fragaria nipponica</i> Makino	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢に分布。『箱根目58』に二子山の記録があり標本も残されているが、その後、箱根では採集されていない。今回、丹沢の 2 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認されたのみであることから絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の林縁、草地、岩礫地などに生える夏緑性多年草

【現状】  
確認された調査区では、丹沢の高標高地の登山道沿いなどに生育するが少ない。

【国内分布】  
北海道、本州、九州(屋久島)

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2△・秦野-1○・山北-1●・山北-4○・箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・標本:箱根下二子山 1961.5.28 田代道彌 KPM-NA0154311.

バラ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>オオダイコンソウ</b></p> <p><i>Geum aleppicum</i> Jacq.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌88』では箱根と丹沢のブナ帯の記録のみであったが、『神植誌01』の調査で鎌倉市、横浜市、相模原市等の低地で採集された標本が見出された。今回は4調査区の4個の3次メッシュで確認された。今回初めて取り上げられたこと、近縁のダイコンソウが多産し、区別点を意識していないと発見しにくいことから、判定基準よりもランクを下げ、絶滅危惧Ⅱ類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の草原や向陽の地に生える多年草</p> <p>【現状】 シカによる被食の影響を受けやすく、個体数も多くないため生育環境は安定していない。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州(中北部)</p> <p>【県内分布】 南△・栄●・相模原-2○・城山◎・愛川●・秦野-3○・山北-1◎・山北-2○・山北-3△・箱根-1●・箱根-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 シカ影響</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>								

バラ科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>リンボク</b></p> <p><i>Laurocerasus spinulosa</i> (Siebold &amp; Zucc.) C.K.Schneid.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 湯河原の1調査区1か所のみ見られ、『神植目33』、増島・石渡(1950)に記録のある逗子では近年確認されていないことから、絶滅危惧ⅠA類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の山地に生える常緑小高木</p> <p>【現状】 環境に大きな変化はない。</p>	<p>【国内分布】 本州(福島県、福井県以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 湯河原-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園</p> <p>【文献等】 増島弘行・石渡治一, 1950. 三浦半島植物誌. 85 pp. 横須賀市郷土文化研究室, 横須賀.</p>								

バラ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>シウリザクラ</b></p> <p><i>Padus ssiori</i> (F.Schmidt) C.K.Schneid.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅種 A	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅種 A							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 丹沢のブナ帯に限られる。『神RDB06』では堂平に338個体、蛭ヶ岳北方の地蔵平に54個体から絶滅危惧ⅠB類とされたが、今回は、3調査区5調査地点で確認され、個体数が比較的多く、減少していないことから絶滅危惧Ⅱ類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える落葉高木</p> <p>【現状】 両産地とも林床植生はシカの採食により衰退している。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州(中部以北)</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・清川-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、害虫発生</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園、植生保護柵</p>								

絶滅危惧Ⅱ類			
ヒメヘビイチゴ <i>Potentilla centigrana</i> Maxim.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根に分布が知られ、2013年に相模原市緑区で見出された。それ以降も小仏山地で複数の調査地点で確認されたが、個体数は少ない。3調査区の6個の3次メッシュで確認されたため絶滅危惧Ⅱ類とした。

【生育環境・生態】  
山地に生える多年草

【現状】  
箱根と小仏山地の林内や林道上で確認されているが少ない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
相模湖●・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5◎

【存続を脅かす要因】  
登山道整備、治山工事

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園、県立自然公園

【文献等】  
秋山幸也, 2013. 相模湖のヒメヘビイチゴ. FK, (76): 909-910.

絶滅危惧Ⅱ類			
ミツモトソウ <i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
今回、10調査区で確認されたが、確認調査区が40%以上減少したことから絶滅危惧Ⅱ類とした。

【生育環境・生態】  
山地のやや湿った谷沿いや草地に生える多年草

【現状】  
箱根や丹沢、小仏山地に分布するが、シカによる被食や草地の森林化などにより減少傾向にある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1○・津久井-2●・津久井-3◎・津久井-4●・相模湖●・藤野-1●・座間△・清川-1●・清川-3△・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4◎・南足柄-1○・山北-1●・山北-2●・山北-3○・山北-4◎・山北-5○・山北-6△・山北-7○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-6●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園、国定公園、県立自然公園

絶滅危惧Ⅱ類			
ヒロハノカワサイコ <i>Potentilla niponica</i> Th.Wolf	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
相模川の河川敷では比較的よく確認されるほか、三浦では海岸の風衝草地にも生育している。『神RDB06』では12調査区のうち50%(6調査区)で失われたことから絶滅危惧ⅠB類とされた。今回、6調査区で確認されたが、『神植誌88』で記録された6調査区のうち4調査区では再確認できなかったことから絶滅危惧Ⅱ類とした。

【生育環境・生態】  
河川敷、明るい草原、芝地、海岸の風衝草地などに生える多年草

【現状】  
相模川では生育に適した砂礫質の丈の低い草が減少している。一方で、客土した造成地などの日当たりの良い場所に生育している例もあるが、そうした場所は植生遷移や開発により立地が失われる可能性も高い。

【国内分布】  
北海道、本州(北部、中部)

【県内分布】  
鶴見△・中◎・旭△・瀬谷○・横須賀-1△・鎌倉-1△・三浦●・城ヶ島○・相模原-1●・相模原-2◎・相模原-3●・城山△・津久井-3△・大和◎・座間◎・綾瀬◎・海老名●・厚木-2●・秦野-5●・藤沢-3△・寒川○・平塚-1○

【存続を脅かす要因】  
河川開発、草地減少、自然遷移

バラ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ツルキジムシロ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Potentilla stolonifera</i> Lehm. ex Ledeb.		環境省	2020
		絶滅危惧 I B 類	絶滅危惧種 E
		—	—

**【判定理由】**  
古くは『神植目33』『神植誌58』『宮代目録』にも記録され、現在は箱根と西丹沢のブナ帯の尾根沿いで、ツクバスケ等が生える岩場の多い林縁や明るい林床にのみ知られている。3 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認され、絶滅危惧 I B 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の草地や岩地などの明るい所に生える多年草

**【現状】**  
『神RDB06』から変化なし。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
南足柄-1●・山北-1●・箱根-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園

◀写真あり: 口絵4

バラ科

準絶滅危惧			
<b>クオイチゴ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Rubus mesogaesus</i> Focke ex Diels		環境省	2020
		—	—

**【判定理由】**  
今回の調査では 6 調査区で確認された。調査区単位の減少は 30%未満ではあるが、減少傾向にあるため準絶滅危惧とした。『箱根目58』には小田原、宮ノ下の記録があるが、最近の調査では箱根の標本は確認されていないため、他種の誤認の可能性もある。

**【生育環境・生態】**  
山地のブナ帯の林縁やガレ場に生える夏緑性低木

**【現状】**  
丹沢山地の高標高地の林縁やガレ場などに生育するが、シカに採食されている可能性があり、減少傾向にある。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1●・津久井-2●・津久井-2○・津久井-3●・津久井-4△・清川-1●・山北-1●・山北-2○・山北-3●・山北-5○

**【存続を脅かす要因】**  
岩場崩壊、シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国定公園

バラ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヒメバライチゴ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Rubus minusculus</i> H.Lév. & Vaniot		環境省	2020
		絶滅危惧 I B 類	希少種
		—	—

**【判定理由】**  
湯河原の 1 調査区の 1 か所でのみ知られ、個体数は多いとされてきたが、近年、個体数の減少が著しいことから絶滅危惧 I A 類とした。

**【生育環境・生態】**  
林縁や疎林などの陽光地～半陽光地に生える低木

**【現状】**  
唯一の生育地では周辺の樹木が成長して環境が悪化し、個体数は減少傾向にあり、ほとんど開花していない。

**【国内分布】**  
本州(房総半島以西の太平洋側)、四国、九州

**【県内分布】**  
湯河原-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、自然遷移

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I B 類			
サナギイチゴ <i>Rubus pungens</i> Cambess.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	希少種
	環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神植誌01』の調査では、丹沢の三国峠で採られたただけであったため、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では、清川村煤ヶ谷でも採集され、2 調査区の 2 か所での確認となったことから、絶滅危惧 I B 類とした。

【生育環境・生態】  
夏緑樹林の林縁などに生える夏緑性小低木

【現状】  
いずれの生育地も干渉を受けやすい場所にあり、個体数は少ない。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
清川-3●・山北-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

準絶滅危惧			
ミヤマニガイチゴ <i>Rubus subcrataegifolius</i> (H.Lév. & Vaniot) H.Lév.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『丹沢目録61』では原小屋～風巻、幽神を産地にあげており、『神植誌88』では丹沢の蛭ヶ岳で記録されたが詳しい検討が必要とされた。『神植誌01』では県内の標本を検討し、丹沢のブナ帯のガレ場に生育するものが本種に相当すると判断した。確認調査区は 4 調査区と少ないが、高標高地に生育し比較的安定した個体数を維持していることから、準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯のガレ場に生える低木

【現状】  
シカの被食が見られず、個体数は多い。

【国内分布】  
本州(近畿以北)

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2○・藤野-1●・秦野-1●・南足柄-1○・山北-3●・山北-4○

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

絶滅危惧 II 類			
ナンキンナナカマド <i>Sorbus gracilis</i> (Siebold & Zucc.) K.Koch	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢と箱根のブナ帯に生育するが、今回は 5 調査区での確認にとどまり、『神植誌88』との比較では調査区単位で約 50% 減少となった。シカによる被食の可能性があり、減少傾向にあるが、丹沢の高標高域での調査不足を考慮して、絶滅危惧 II 類とした。

【生育環境・生態】  
ブナ帯に生える低木

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2○・厚木-4○・清川-1○・清川-3○・秦野-1○・南足柄-1●・山北-1●・山北-2○・山北-3○・山北-4○・山北-5○・松田○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5○

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

準絶滅危惧

ハコネグミ

*Elaeagnus matsunoana* Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

9 調査区の 18 個の 3 次メッシュで確認された。フォッサマグナ要素の植物で、富士、箱根、伊豆地方に分布が限られ、県内では箱根、丹沢のブナ帯に生育する。『神RDB06』では絶滅危惧Ⅱ類と判定されていた。確認された地点は増えたが、自生地の状況は大きくは変わっておらず、産地が限られているため準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

山地に生える落葉低木

【現状】

—

【国内分布】

本州(富士、箱根、伊豆)

【県内分布】

小田原-4◎・南足柄-1●・山北-1●・山北-4●・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

山北町は分布の北限にあたる。  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

クロウメモドキ科

絶滅

ミヤマクマヤナギ

*Berchemia pauciflora* Maxim.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	—

【判定理由】

丹沢で採集された標本が残されているが、『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも発見されなかった。

【生育環境・生態】

山地の岩場に生えるつる性の低木

【現状】

—

【国内分布】

本州(関東、山梨県、長野県南部)

【県内分布】

津久井-1△・津久井-2△・清川-2△

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

・標本: 丹沢蛭ヶ岳 1960.7.7 城川四郎 YCM-V013042; 津久井町蛭ヶ岳 1956.7.24 城川四郎 KPM-NA0102094; 清川村落合 1956.8.1 逸見 操 YCM-V013041.

クロウメモドキ科

準絶滅危惧

ヨコグラノキ

*Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
	1995	希少種
環境省	2020	—

【判定理由】

6 調査区の 18 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では絶滅危惧ⅠB類と判定されていたが、『神植誌18』の調査では道志川北岸にも分布が確認された。産地が丹沢山地の北面～東面に限られていることから準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

山地に生える落葉小高木

【現状】

丹沢では中津川、早戸川、神ノ川流域に生育地があり、各箇所ともに小集団を形成している。

【国内分布】

本州(岩手県以南)、四国、九州

【県内分布】

津久井-1●・津久井-3●・津久井-4●・藤野-2●・清川-2●・秦野-3●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国定公園

絶滅危惧 I B 類			
<b>ネコノチチ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 D
<i>Rhamnella franguloides</i> (Maxim.) Weberb.		環境省	2020 —
【判定理由】 『神RDB06』では、個体数は 50 株未満と推定され絶滅危惧 I A 類と判定されていた。 今回、3 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認されたため絶滅危惧 I B 類と判定した。	【国内分布】 本州(神奈川県、近畿以西)、四国、九州	【県内分布】 南●・港南●・戸塚●	
【生育環境・生態】 丘陵の斜面や川岸に生える落葉高木	【存続を脅かす要因】 土地造成、産地局限		
【現状】 市街地の小規模な緑地に点在している。			

絶滅危惧 II 類			
<b>クロカンバ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Rhamnus costata</i> Maxim.		環境省	2020 —
【判定理由】 4 調査区の 6 個の 3 次メッシュで確認された。	【国内分布】 本州、四国、九州	【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・津久井-3○・山北-2●・山北-3△・山北-1●	
【生育環境・生態】 山地の岩石地に生える落葉低木	【存続を脅かす要因】 産地局限	【特記事項】 ・保護の現状: 丹沢の産地は国定公園内	
【現状】 丹沢山から三国山まで、標高 1,200m 以上に分布している。			

絶滅危惧 I A 類			
<b>クロツバラ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 —
<i>Rhamnus davurica</i> Pall. var. <i>nipponica</i> Makino		環境省	2020 —
【判定理由】 『神植誌18』の調査では確認できなかった。『神植誌88』および『神植誌01』の調査では 4 調査区の 6 か所で採集されていた。横浜の産地は開発等により失われ 1999 年以後の標本はない。藤沢市、相模原市などからも 1995 年以後の確認がない。しかし、木本植物であるため、県下でまだ現存している可能性があり絶滅危惧 I A 類と判定した。	【国内分布】 本州(中部以北)	【県内分布】 旭△・緑◎・青葉△・相模原-4○・津久井-5△・藤野-1○・藤沢-1○	
【生育環境・生態】 低地や山地の斜面や水辺などに生える落葉低木	【存続を脅かす要因】 土地造成		
【現状】 —			

イラクサ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>トキホコリ</b></p> <p><i>Elatostema densiflorum</i> Franch. &amp; Sav. ex Maxim.</p> <p>【判定理由】 『神RDB06』では3調査区に250株未満から絶滅危惧ⅠB類とされた。今回は5調査区の8個の3次メッシュで確認されたが、城山と津久井-5は隣接地で、実質4調査区と考えられ、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が限定的で、生育地内の個体数も少ない点が本種の脆弱性である。</p> <p>【生育環境・生態】 路傍の湿った日陰に生える一年草</p> <p>【現状】 川崎市、相模原市、鎌倉市で現存が確認されており、横浜市、綾瀬市では過去の標本記録があるが現状は不明。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(宮城県～静岡県、兵庫県)</p> <p>【県内分布】 多摩●・鎌倉-1●・鎌倉-2◎・城山●・津久井-5●・相模湖●・綾瀬◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種E	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅危惧種E							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							

イラクサ科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>ミヤマイラクサ</b></p> <p><i>Laportea macrostachya</i> (Maxim.) Ohwi</p> <p>【判定理由】 県内では1999年に相模原市緑区(城山)の1か所で初めて記録された。分布が局在し、個体数が限られる点で脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の樹林内や林縁に生える夏緑の多年草</p> <p>【現状】 唯一の自生地は、宅地造成により消滅した可能性が高い。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 城山◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	—							
環境省	2020	—							

イラクサ科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>サンショウソウ</b></p> <p><i>Pellionia minima</i> Makino</p> <p>【判定理由】 県内では2015年に小田原市の1か所で初めて記録された。本種の分布の東端にあたる。分布が局在し、個体数が限られる点で脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 湿り気のある照葉樹林の林床に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 小田原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

イラクサ科

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
ミヤマミズ <i>Pilea petiolaris</i> (Siebold & Zucc.) Blume			1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
ラベルに湯河原と書かれた 1958年の標本が見つかるが、以降の記録はない。なお、湯河原町に近接した静岡県熱海市の日金山登山道には現在も本種の生育が確認されており、標本はこの生育地のものであった可能性がある。

【生育環境・生態】  
樹林内の湿ったところに生える夏緑の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
湯河原-1△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:湯河原町 1958.8.4 西尾和子 KPM-NA0003505.

イラクサ科

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ツルマオ <i>Pouzolzia hirta</i> (Blume) Blume ex Hassk.			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では平塚市と小田原市の 2 か所に 10 株未満から絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では 3 調査区の 3 か所で確認され、絶滅危惧 I B 類と判定された。分布が限定的で、発見された個体数も少ない点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
暖地の樹林内に生えるつる状の多年草

【現状】  
従来は静岡県が北限とされていた植物で、本県では 2000 年に小田原市で、2001年に平塚市で採集され、近年も小田原市の 2000年の記録地周辺で追加採集されている。ただし、定着して安定して生育している状況にはない。

【国内分布】  
本州(関東南部、紀伊半島南部、中国地方)、九州、琉球

【県内分布】  
平塚-1●・小田原-1●・小田原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

イラクサ科

絶滅		神奈川県	2006	消息不明種
ホソバイラクサ <i>Urtica angustifolia</i> Fisch. ex Hornem.			1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1918年、1920年に採集された箱根山の標本が残されているが、以降の記録はない。

【生育環境・生態】  
山地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:相模箱根山元箱根 1918.11.4 久内清孝 TI; 相模箱根 1920 牧野富太郎 s.n. MAK119389.

ブナ科

情報不足									
<p><b>ツブラジイ</b></p> <p><i>Castanopsis cuspidata</i> (Thunb.) Schottky</p> <p>【判定理由】 『神植誌18』では参考種とされ、小田原市で確認された標本については、枝・葉・幹の形質はツブラジイのようだが、殻斗の形状からツブラジイと断定できなかつたとしている。このため、情報不足と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 主として内陸の丘陵地に生える常緑高木。自生地以外でも庭園樹、生垣として植栽されることが多い。</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 南◎・港北◎・鎌倉-1△・鎌倉-2●・逗子△・厚木-2◎・茅ヶ崎-1△・茅ヶ崎-2△・大磯◎・小田原-1◎・小田原-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 上記調査区の標本記録があるが、判定理由にあるようにツブラジイと断定できない、もしくは栽培・逸出か自生かについて判断がつかっていない。</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

ブナ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>イチイガシ</b></p> <p><i>Quercus gilva</i> Blume</p> <p>【判定理由】 2 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認された。県内では清川村や南足柄市などに稀に分布。高木種であることから過去に確認された地点でも現存していると考えられるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える常緑高木</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東地方以南部以西の太平洋側)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 愛川◎・清川-3●・小田原-2◎・南足柄-2△・南足柄-3●・山北-8△・松田○</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

ブナ科

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>ウバメガシ</b></p> <p><i>Quercus phillyreoides</i> A.Gray</p> <p>【判定理由】 現存するのは横須賀市の 1 調査区の 1 個の 3 次メッシュのみ。三浦半島の海岸近くのもの自生だが、県内の丘陵地で見られるものは逸出と考えられる。城ヶ島の群落は消滅した(原ほか, 2004)。</p> <p>【生育環境・生態】 暖地の海岸近くに生える常緑小高木</p> <p>【現状】 横須賀市の産地の推定個体数は 50~100 株程度(原ほか, 2004)。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-4●・城ヶ島●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 上記以外の県内分布は植栽起源のものと考えられる。横須賀市の産地は分布の北限。</p> <p>【文献等】 原 正利・磯谷達宏・内山慶之・大森雄治, 2004. 分布北限となる三浦半島小田和湾のウバメガシ林. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, 8: 25-30.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							

情報不足		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>タニガワハンノキ</b>			1995	—
<i>Alnus hirsuta</i> Turcz. ex Rupr. var. <i>microphylla</i> (Nakai) Tatew.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 県内では丹沢西部の山梨県境で採集された標本があり、『神植誌01』ではタニガワハンノキと認め、『神RDB06』では個体数 100 株未満であることから絶滅危惧 I B 類とされた。しかし、これらは果実がない標本であるため、『神植誌18』では同定を保留としている。果実のついた明らかな標本記録が待たれる。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の川岸や溪畔に生える落葉高木</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州(岐阜県以北)</p> <p>【県内分布】 山北-1〇・山北-4〇</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p>		

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>ヤハズハンノキ</b>			1995	絶滅種 A
<i>Alnus matsumurae</i> Callier		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『丹沢目録61』で分類地理学上注目すべき種とし写真が掲載されている。標本は確認されていなかったが、逢沢(2003)により森林総合研究所多摩森林科学園標本室(TFA)で1954～1956年に丹沢山および姫次で採集された標本が確認された。しかし、『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも発見されなかった。</p> <p>【生育環境・生態】 主として日本海側多雪地の深山疎開地や崩壊地などに生える落葉小高木</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州(福井県～山形県の主に日本海側)</p> <p>【県内分布】 津久井-1△・山北-3△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本:丹沢山 1954.8.13 林弥栄 TFA; 風巻～原小屋 1954.8.13 林 弥栄 TFA.</p> <p>【文献等】 逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961):丹沢山塊の植物調査報告」の標本について. FK, (55): 673-683.</p>		

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ヤエガワカンバ</b>			1995	希少種
<i>Betula dahurica</i> Pall.		環境省	2020	準絶滅危惧
<p>【判定理由】 『神植誌88』の調査時に旧藤野町(現、相模原市緑区)で採集されたのみ。個体数は採集時に 10 株未満と確認されている。その後の再確認はされていないが、大きな環境の変化はないこと、県境付近の東京都側に成木が確認されていることから現存するものと思われる。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える落葉高木</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州(中部以北)</p> <p>【県内分布】 藤野-1〇</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:県立自然公園</p>		

絶滅危惧 I B 類

ダケカンバ

*Betula ermanii* Cham.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

3 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。県内では丹沢のブナ帯に稀である。

【生育環境・生態】

亜高山帯に(北海道では低地から)生える落葉高木

【現状】

ブナ帯の風衝低木林内(『神植誌18』)、崩壊地周辺(田村, 2012)などに見られる。

【国内分布】

北海道、本州(中部以北)、四国

【県内分布】

津久井-2●・清川-1●・大山●・秦野-1◎・山北-3◎・山北-6△・松田○

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国定公園

【文献等】

田村 淳, 2012. 神奈川県産樹木 4 種の分布落穂拾い. FK, (74): 884-886.

ウリ科

準絶滅危惧

ゴキヅル

*Actinostemma tenerum* Griff.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

13 調査区で確認され、新たに記録された調査区もあり、減少率も判定基準外である。『神RDB06』では 8 調査区の 50% (4 調査区) で失われたことから絶滅危惧 I B 類と判定されるなど、近年、急激に減少していた時期もあるため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】

河川敷など水辺の草原に生えるつる性の一年草

【現状】

『神RDB06』では、「多摩川では生育地が増えている」とされたが、その後、相模川でも生育地が増えている。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見○・川崎△・高津◎・多摩●・三浦●・相模原-1●・城山●・相模湖●・座間●・海老名●・厚木-5●・藤沢-2◎・藤沢-3◎・茅ヶ崎-2●・寒川●・平塚-1○・平塚-2●・小田原-2●・小田原-3●

【存続を脅かす要因】

河川開発、自然災害

ニシキギ科

絶滅危惧 I B 類

ウメバチソウ

*Parnassia palustris* L. var. *palustris*

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 H
環境省	2020	—

【判定理由】

4 調査区で確認され、採集地数は 6 か所であるため、判定基準からは、絶滅危惧 II 類と判定されるが、調査区数が 63.6% 減少したため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

湿地や湿った草地に生える多年草

【現状】

丹沢主稜線や箱根外輪山の産地は健在であるが、山麓や低地の産地は大部分が失われた。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見△・青葉△・戸塚△・栄△・多摩△・横須賀-4△・逗子△・津久井-1○・津久井-2○・藤野-1△・清川-1△・秦野-1●・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4◎・南足柄-1○・山北-2○・山北-3△・山北-7○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5△・箱根-6●・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】

自然遷移、草地開発

【特記事項】

・保護の現状: 県西のものは国立公園、国定公園、県立自然公園内

絶滅危惧 I B 類				
<b>コミヤマカタバミ</b>		神奈川県	2006 1995	絶滅危惧 I B 類 —
<i>Oxalis acetosella</i> L.		環境省	2020	—
【判定理由】 今回の調査では 1 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認された。	【国内分布】 北海道、本州(中国地方を除く)、四国、九州	【県内分布】 津久井-1○・津久井-2○・山北-3●	【存続を脅かす要因】 産地局限	【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園特別保護地区
【生育環境・生態】 ブナ帯の樹林内に生える小型の多年草。カントウミヤマカタバミとは根茎が肥大しないこと、小葉の先が円形なことが異なる。	【現状】 丹沢の同角山稜、神ノ川源流域、早戸川源流域の湿った斜面や林床に生える。小型の植物のため、シカの影響は少ないと思われる。			

## オトギリソウ科

絶滅危惧 I B 類				
<b>ハマオトギリ</b>		神奈川県	2006 1995	— —
<i>Hypericum erectum</i> Thunb. var. <i>arenicolum</i> Kigawa, nom. nud.		環境省	2020	—
【判定理由】 今回の調査では三浦半島の 1 調査区の 2 か所で確認された。	【国内分布】 本州(南関東)	【県内分布】 横須賀-4◎・三浦●	【存続を脅かす要因】 海岸開発、産地局限	【特記事項】 未記載種
【生育環境・生態】 海岸の風衝草地に生える多年草。オトギリソウの海岸に分化した変種で、茎は叢生し、葉は卵形で幅広い。	【現状】 横須賀市にも現存すると思われるが、いずれの産地も個体数が少なく、危険な状況と思われる。			

## オトギリソウ科

絶滅				
<b>アゼオトギリ</b>		神奈川県	2006 1995	絶滅 絶滅種 B
<i>Hypericum oliganthum</i> Franch. & Sav.		環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
【判定理由】 かつては鶴見川の氾濫原などに生育していたと思われるが、現在は見られない。2005年に都筑区茅ヶ崎町都筑中央公園で採集されたものは、持ち込まれたものの可能性がある。	【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州	【県内分布】 鶴見△・港北△・栄△・鎌倉-1△	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 ・標本: 横浜市綱島 1960.7.28 宮代周輔 YCB041595; 横浜鶴見 1951.8 宮代周輔 YCB041639; 横浜栄(本郷) 1939.8.7 宮代周輔 YCB041622; 鎌倉市北鎌倉 1949.8.3 宮代周輔 YCB011942; 都筑区茅ヶ崎町都筑中央公園 2005.8.29 和田・野津 YCB428617.
【生育環境・生態】 湿地やその周辺に生える多年草。	【現状】 —			

絶滅危惧 I B 類

ミズオトギリ

*Triadenum japonicum* (Blome) Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	—

【判定理由】

箱根仙石原湿原が県内唯一の現存する生育地である。1 調査区の 1 か所での確認であるが、個体数は多く保護の現状も考え、判定基準より 1 ランク下げて、『神RDB06』と同様の判定とした。

【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

【現状】

仙石原湿原の天然記念物指定地付近に多く、湿生花園の実験区にも見られる。湿原内に繁茂しているヨシを刈ると個体数が増える。かつては川崎市登戸周辺や横浜市旭区上白根などにもあった。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

旭△・多摩△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地区、天然記念物指定地  
 ・標本: 川崎市登戸 1951.8.26 山家義人 KPM-NA0041567; 横浜市上白根 1952.8.24 出口長男 KPM-NA0080029.

スミレ科

絶滅危惧 I A 類

エゾノタチツボスミレ

*Viola acuminata* Ledeb.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

確認された調査区はないが、過去に記録された西丹沢の生育地は健在だと考え、採集地数を 1 か所とし、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】

草地や明るい落葉広葉樹林内に生える多年草

【現状】

山梨県側は草地、神奈川県側は落葉広葉樹の2次林に生育する。

【国内分布】

北海道、本州(中部以北)

【県内分布】

相模湖△・清川-2△・山北-1◎・山北-4△

【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

【特記事項】

もともと分布の南限域のものである。  
 ・保護の現状: 国立公園  
 ・標本: 丹沢札掛の一の沢考証林 1962.5.20 大谷 茂 YCB13421; 小仏峠 1962.6 竹内 亮 MAK25997; 西丹沢水の木 1962.5.21 吉川代之助 HCM040772.

【文献等】

吉川代乃助, 1962. 西丹沢にエゾノタチツボスミレを採る. 植物採集ニュース, (2): 6

〈写真あり: 口絵4〉

スミレ科

絶滅危惧 II 類

エゾアオイスミレ

*Viola collina* Besser

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	希少種
環境省	2020	—

【判定理由】

『神RDB06』では、絶滅危惧 I B 類と判定されたが、5 調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるために減少率も判定基準外である。しかし、各生育地の個体数が少ないため、絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】

草地や落葉広葉樹林内に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州(中部・関東以北)

【県内分布】

津久井-1●・津久井-2●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●

【存続を脅かす要因】

自然遷移、産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

スマレ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
サクラスミレ <i>Viola hirtipes</i> S.Moore			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では、絶滅危惧ⅠB類と判定されたが、5調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるために減少率も判定基準外である。しかし、採集地数は4か所(調査区の境界に位置する採集地がある)と少ないため、絶滅危惧Ⅱ類を判定した。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い草地や林縁に生える多年草

【現状】  
遷移が進んで林床が暗くなり、衰退したところが多い。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2●・津久井-3△・津久井-5●・藤野-1○・藤野-2●・山北-5○・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

スマレ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	—
フモトスミレ <i>Viola sieboldii</i> Maxim.			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
3調査区で確認され、採集地数は3か所であり、判定基準に従えば、絶滅危惧ⅠB類に判定されるが、過去の記録地は多く、現状が未確認であるが、現存する生育地も多いと考え、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の樹林内および林縁、時に草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
小田原-4◎・箱根-1◎・箱根-2●・箱根-4◎・箱根-5◎・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
保護の現状: 国立公園、県立自然公園

スマレ科

絶滅危惧ⅠA類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
ゲンジスミレ <i>Viola variegata</i> Fisch. var. <i>nipponica</i> Makino			1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1調査区で確認され、採集地数も1か所であるため、絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
疎林や草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国

【県内分布】  
津久井-3●・藤野-1○

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神植誌88』で記録された陣馬山の産地の現状は不明である。  
・保護の現状: 県立自然公園

スミレ科

絶滅危惧 I B 類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">シハイスミレ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Viola violacea</i> Makino var. <i>violacea</i></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	消息不明種	1995	消息不明種	環境省	2020	—
神奈川県	2006		消息不明種						
	1995	消息不明種							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では消息不明種とされていたが、生田緑地で記録されていたマキノスミレが『神植誌18』で本種に同定変更された。また、『神植誌01』でも触れられていないが、生田緑地ではもともとシハイスミレとされる標本も採集されていた(吉田ほか, 1994)。1 調査区で確認され、採集地数は 1 か所であるが、生育地は公園内で管理が継続されているとともに、分散しているため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 落葉広葉樹林内や林縁、崩壊斜面にも生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 生田緑地では局所的ではあるが、よく笹刈された傾斜地の一部に見られる(吉田ほか, 1994)。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(近畿地方以西が中心)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 多摩●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【文献等】</b> 吉田多美枝・科野有紀・種子植物班, 1994. 川崎市生田緑地の種子植物目録. 川崎市自然環境調査報告 III, pp.99-118. 川崎市教育委員会, 川崎.</p>								

スミレ科

絶滅危惧 I A 類									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">マキノスミレ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Viola violacea</i> Makino var. <i>makinoi</i> (H.Boissieu) Hiyama ex F.Maek.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 確認された調査区はないが、過去に記録された藤野町の生育地は、個体数が少ないながらも現存すると考え、採集地数を 1 か所とし、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 樹林内や林縁、道端の砂地の斜面などに生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(おもに日本海側)</p> <p><b>【県内分布】</b> 藤野-1○・藤野-2○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> 『神RDB06』では、藤野-1、藤野-2に†マーク(1995年以後確認のない地域メッシュ)を付しているが、現存すると判断した。なお、生田緑地のものは、『神植誌18』でシハイスミレに同定変更された。 ・保護の現状: 県立自然公園</p>								

スミレ科

準絶滅危惧									
<p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ヒカゲスミレ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Viola yezoensis</i> Maxim.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 9 調査区で確認されたが、調査区の減少率が 50%であるため、判定基準からは絶滅危惧 II 類と判定されるが、個体数が多い生育地もあるため、準絶滅危惧と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 丘陵地の雑木林やスギ植林の林床に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 緑○・都筑○・鎌倉-2○・逗子○・相模原-2○・相模原-3○・相模原-4●・城山●・津久井-3○・津久井-4●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・大和●・海老名○・愛川○・清川-3○・秦野-5●・平塚-1○・大磯○・小田原-1○・小田原-3△・山北-4○・中井○・松田○・湯河原-1○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、土地造成</p>								

絶滅危惧 I B 類									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">オオタチヤナギ</p> <p style="margin: 0;"><i>Salix pierotii</i> Miq.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では 2 調査区の 3 個の 3 次メッシュで確認された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 河川敷などに生える高木。ジャヤナギに似た種で雌雄株があり、葉は葉身の中央部がもっとも幅広い。</p> <p><b>【現状】</b> 今回の調査で境川遊水地で発見され、その後、支流の和泉川でも見つかった。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(関東南部以西)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 戸塚●・泉●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、河川敷利用</p>								

絶滅危惧 I A 類									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">ミヤマヤナギ</p> <p style="margin: 0;"><i>Salix reinii</i> Franch. &amp; Sav. ex Seemen</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では 1 調査区の 1 か所で確認されたのみ。シカの影響もあり、過去に記録された産地の状況も悪く、再確認できなかった。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 標高 1,000m 以上の山地の裸地、砂礫地、岩石地に生える落葉低木。葉は楕円形で波状の鋸歯があり、下面は粉白、乾いて黒変する。</p> <p><b>【現状】</b> 山梨県境の三国峠～切通峠、丹沢三ノ塔山、丹沢山などに知られていたが、今回の調査では丹沢山の塩水川上流で採集されたが、他の産地では確認できなかった。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北)</p> <p><b>【県内分布】</b> 清川-2●・秦野-1○・山北-1○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園および国定公園 ・標本: 足柄上郡山北町三国峠～切通峠 1987.5.25 高橋秀男 KPM-NA1030796; 秦野市三の塔(尾根) 1982.9.22 浜口哲一 HCM012133; 愛甲郡清川村本谷川 1967.7.5 大場達之 KPM-NA0019163.</p>								

絶滅危惧 I B 類									
<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin: 0;">オオキツネヤナギ</p> <p style="margin: 0;"><i>Salix vulpinoides</i> Koidz.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では 2 調査区の 2 か所のみで確認された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 低山地や丘陵に生える低木。葉形はバッコヤナギに似るが、下面帯白で直毛のみがある。</p> <p><b>【現状】</b> 個々の産地の状況は不明であるが、『神植誌88』との比較では調査区単位で 80% 減少しており、かなり厳しい状況と思われる。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部以北の日本海側に多い)</p> <p><b>【県内分布】</b> 港南○・旭○・緑○・青葉○・都筑○・瀬谷○・麻生●・津久井-4○・津久井-5○・相模湖●・藤野-1○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 土地造成、市街化、自然遷移</p>								

トウダイグサ科

絶滅				
<b>ノウルシ</b>		神奈川県	2006	絶滅
			1995	絶滅種 B
<i>Euphorbia adenochlora</i> C.Morren & Decne.		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
横浜市港北区樽町で1981年に採集された後、県内では確認されていない。

【生育環境・生態】  
河岸などの湿った草地に生える多年草。花期には苞葉が黄色に色づく。イワタイゲキとは茎の上部で栄養枝を分枝し、葉は薄く側脈が見え、下面に軟毛があることで区別できる。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・港北○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:横浜市港北区樽町 1981.4.18 川合友理枝 KPM-NA1003674; 横浜鶴見 1957.4.5 宮代周輔 YCB021317ほか; 相州箱根山 S.Tamaki TI.

トウダイグサ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>イワタイゲキ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	絶滅種 A
<i>Euphorbia jolkinii</i> Boiss.		環境省	2020	—

【判定理由】  
現存するのは1調査区の1か所のみ。

【生育環境・生態】  
海岸の岩場に生える多年草。花期には苞葉が黄色に色づく。ノウルシとは栄養枝を分枝せず、葉は厚く側脈が見えず、両面ともに無毛な点が異なる。

【現状】  
三浦半島では1968年以後は確認されていない。

【国内分布】  
本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
三浦△・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
伊豆半島には多い。  
・保護の現状: 県立自然公園  
・標本: 三浦市毘沙門 1968.6.15 高橋秀男 KPM-NA0092671.

トウダイグサ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>センダイタイゲキ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Euphorbia sendaica</i> Makino		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
2013年に県内分布が確認された。現存するのは1調査区の1か所のみ。

【生育環境・生態】  
丘陵から低山地の湿った林床や草地に生える多年草。ナツトウダイに似るが、上部葉腋から無花枝を分枝し、総苞の腺体は半月形である。

【現状】  
2005年頃から存在は知られていたが、2013年に開花し、本種であることが確認された。現在100株以上が確認されているが、根茎を伸ばして繁殖するので同一クローンの可能性がある。

【国内分布】  
本州(岩手県～山梨県の太平洋側)

【県内分布】  
大和●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 水源地として許可なく立入ることのできない柵内に生育  
〈📷写真あり: 口絵4〉

絶滅			
<b>マツバニンジン</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 —
<i>Linum stelleroides</i> Planch.		環境省	2020 絶滅危惧 I A 類
【判定理由】 県内で採集された古い標本は残されているが、最近の記録はない。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 鶴見△・津久井-2△・大磯△・山北-3△	【存続を脅かす要因】 —
【生育環境・生態】 山地の草原に生える無毛の一年草。花は淡紫色で径約1cm、萼片の縁に黒い腺点がある。	【特記事項】 『神植誌18』の横浜市金沢区の分布点は誤認。 ・標本: 生見尾(現在の横浜市鶴見区) 1912.10. 宮代周輔 YCB041021; 大磯 1913.8 宮代周輔 YCB111125; 塔ヶ岳 1948.8.16 出口長男 KPM-NA0080999, KPM-NA0081000; 丹沢 1953.10.9 大場達之 KPM-NA0015279.	【現状】 —	

## フウロソウ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>タチフウロ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 減少種 G
<i>Geranium krameri</i> Franch. & Sav.		環境省	2020 —
【判定理由】 箱根や丹沢などの山麓部、多摩丘陵の一部などに局地的に分布するが少なく、植生遷移により変化しやすい草地に生育することから減少傾向にある。今回、確認は2調査区の2か所にとどまった。調査区単位でも80%弱の減少が見られる。	【国内分布】 本州、四国、九州	【県内分布】 保土ヶ谷△・旭△・港北△・緑●・麻生○・鎌倉-1△・相模原-4△・津久井-1△・藤野-1○・厚木-1△・伊勢原-2○・山北-1○・山北-8○・箱根-5△・湯河原-2●	【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成
【生育環境・生態】 丘陵地から山地の草地に生える多年草	【現状】 草地の管理がされなくなり、植生遷移が進み生育環境が悪化しているところが多い。		

## フウロソウ科

絶滅危惧 II 類			
<b>ミツバフウロ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 絶滅危惧種 D
<i>Geranium wilfordii</i> Maxim.		環境省	2020 —
【判定理由】 小仏山麓など相模原緑区の2調査区で確認され、近年、これらの調査区内では新たに複数(8か所)の調査地点で確認されていることから、絶滅危惧 II 類とした。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 城山○・相模湖●・藤野-1●	【存続を脅かす要因】 産地局限、自然遷移
【生育環境・生態】 山地の草地に生える多年草	【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園	【現状】 山麓や丘陵地の比較的標高の低い場所で新たに見出されているが、個体数は多くない。また、植生遷移により変化しやすい立地であるため、安定しているとは言えない。	

ミソハギ科

準絶滅危惧									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ミズマツバ</div> <p><i>Rotala mexicana</i> Cham. &amp; Schtdl.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p>【判定理由】 『神RDB06』では 27 調査区のうち 12 調査区(44%)で失われたため絶滅危惧Ⅱ類とされた。今回は 17 調査区で確認されたが、以下のような懸念があり準絶滅危惧とした。生育地は県央の沖積地を中心に広く点在する。おそらく除草剤耐性が低いことと、乾田化、湛水時期の変化のため長期的に減少傾向にあり、やや稀である。近年では水田の消失によりさらなる減少が懸念される。</p> <p>【生育環境・生態】 水田や湿地に生える一年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(中部以南)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 緑◎・都筑◎・戸塚◎・多摩●・麻生●・相模原-1●・相模原-2●・相模原-3○・城山●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1○・座間◎・綾瀬◎・海老名●・厚木-1●・厚木-5○・愛川●・清川-3◎・伊勢原-1○・秦野-2●・藤沢-1●・藤沢-2◎・茅ヶ崎-1◎・茅ヶ崎-2○・寒川●・平塚-2●・小田原-2●・小田原-3●・南足柄-1◎・南足柄-3●・山北-7◎・中井◎・大井○</p> <p>【存続を脅かす要因】 水田の畑地化、土地造成</p>								

ミソハギ科

絶滅									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ミズキカシグサ</div> <p><i>Rotala rosea</i> (Poir.) C.D.K.Cook ex H.Hara</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 C</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 C	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 C							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p>【判定理由】 水田やその周辺に生える植物。古い文献では県内の複数の地名が挙げられているが、1905年に横浜市で採集された標本が残されているのみである。</p> <p>【生育環境・生態】 水田周囲の湿地や廃水田などに生える一年草</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 旭△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本:都筑郡白根(現在の横浜市旭区) 1905.9. 牧野富太郎 MAK121146.</p>								

ミソハギ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒシ</div> <p><i>Trapa japonica</i> Flerow</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神RDB06』では 4 か所の池のうち 3 か所で失われたことから絶滅危惧ⅠA類とされた。今回は再発見と新産地をあわせて 8 調査区で確認された。生育地が限定的な点に脆弱性があることを考慮して絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 池沼に生える浮遊性の一年草</p> <p>【現状】 県内では、古くから沿海地の広範囲で散発的に標本が採集されてきた。現在生育が確認されているうち、1970年代以前から継続して標本が確認されている産地は大磯町だけである。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・金沢△・港北●・戸塚△・麻生●・横須賀-3○・横須賀-5●・鎌倉-1△・逗子△・厚木-5●・平塚-1●・大磯●・二宮△・小田原-1●・小田原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼清掃、産地局限</p>								

アカバナ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>ウシタキシソウ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Circaea cordata</i> Royle</div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td style="width: 10%;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td>1995</td> <td>絶滅危惧種D</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td>—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅危惧種D							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌88』では県内からは採集されなかったが、その後、3調査区で発見され、『神RDB06』では個体数が50株未満から絶滅危惧ⅠB類とされた。今回は7調査区で確認されたが、個体数が少なく、分布が局在し、生育地が限定的な点に脆弱性があることから絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の湿った樹林内に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県内では相模原市と愛川町の小仏山地と丹沢山地東端部のみ分布する。1964年の箱根山の標本が知られているが、箱根地域では同標本以外に記録も生育も確認されていない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 城山●・津久井-3●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・愛川●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 県立自然公園 ・標本: 箱根 1964.7.28 J.Sato TFA.</p>								

アカバナ科

絶滅危惧ⅠB類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>ヒメアカバナ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Epilobium fauriei</i> H.Lév.</div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td style="width: 10%;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td>1995</td> <td>希少種</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td>—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	希少種	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	希少種							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では2調査区の2か所で確認された。分布が局在し、生育地が限定的な点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の崩壊地や溪流沿いの砂礫地などに生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県内では丹沢山地のみに分布し、主稜線上のガレ場周辺に限って生育が見られる。古くは箱根駒ヶ岳や明神ヶ岳で採集された標本が残されているが、『神植誌88』以後は確認されていない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北)</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2●・津久井-3○・清川-1○・山北-3●・箱根-4△・箱根-6△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、治山工事</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園特別保護地区 ・標本: 箱根明神ヶ岳ガラン沢 1928.6.13 澤田武太郎 KPM-NA0051935(ほか); 箱根駒ヶ岳 1929.7.29 澤田武太郎 KPM-NA0051948(ほか).</p>								

アカバナ科

絶滅危惧ⅠA類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>オオアカバナ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Epilobium hirsutum</i> L.</div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%;">神奈川県</td> <td style="width: 10%;">2006</td> <td style="width: 10%;">—</td> </tr> <tr> <td>1995</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>環境省</td> <td>2020</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><b>【判定理由】</b> 県内では記録がなかったが、2019年に横浜市の1調査区の1か所で初めて発見された。分布が局在し、生育地が限定的かつ個体数が少ない点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 河畔などの湿り気のある明るい草地に生育する。</p> <p><b>【現状】</b> 横浜市の休耕田に発生したのが見つかった。立地から人為的にもたらされたものではなく、偶発的に生じたものと考えられる。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部以北)</p> <p><b>【県内分布】</b> 瀬谷●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p>								

アカバナ科

絶滅危惧Ⅱ類										
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">トダイアカバナ</div> <p><i>Epilobium platystigmatosum</i> C.B.Rob.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	希少種	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類	
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類							
	1995	希少種								
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類								
<p>【判定理由】 『神RDB06』では2調査区50株未満から絶滅危惧ⅠA類とされた。今回の調査では5調査区の6か所で確認されたため絶滅危惧Ⅱ類にランクを下げた。分布が局在し、生育地が限定的かつ個体数が少ない点に脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の崩壊地や川原などに生える多年草</p> <p>【現状】 本県は本種の東限にあたり、県内では丹沢山地の源流域に散発的に見られるが稀。箱根では記録がなかったが、最近、明神ヶ岳の南面と北西面の林道建設地で採集された。</p>	<p>【国内分布】 本州(神奈川県以西)、四国</p> <p>【県内分布】 津久井-2△・津久井-3◎・津久井-4●・愛川●・清川-2○・南足柄-1●・山北-3◎・山北-6●・箱根-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、治山工事</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>									

アカバナ科

絶滅危惧ⅠA類										
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ミズユキノシタ</div> <p><i>Ludwigia ovalis</i> Miq.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—	
神奈川県	2006		絶滅							
	1995	絶滅種 B								
環境省	2020	—								
<p>【判定理由】 県内では絶滅とされてきたが、2010年に葉山町の1か所で発見され現存している。分布が局在し、個体数が少ない点に脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 谷戸田やため池の縁などの水位変動のある湿地に生える多年草</p> <p>【現状】 県内では古い文献記録で横浜市、平塚市、厚木市、茅ヶ崎市、鎌倉市の産地が挙げられているが、横浜市本牧三溪園以外では標本は確認されていなかった。三溪園のものは移入の可能性が指摘されている。2010年に葉山町で発見され現存している。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 中○・葉山●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>									

アカバナ科

絶滅危惧Ⅱ類										
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ミズキンバイ</div> <p><i>Ludwigia peploides</i> (Kunth) P.H.Raven subsp. <i>stipulacea</i> (Ohwi) P.H.Raven</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類	
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類							
	1995	絶滅危惧種 D								
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類								
<p>【判定理由】 『神RDB06』では3調査区にあり、減少が著しいことから絶滅危惧ⅠB類とされた。今回の調査では6調査区で確認されたことから1ランク下げ、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が局在し、生育地が限定的である点に脆弱性がある。</p> <p>【生育環境・生態】 河川や湖沼の岸边付近に群生する抽水生の多年草</p> <p>【現状】 県内では1950年の鎌倉市産の標本が最も古い記録で、現在は境川水系の中下流部で確認されている。2000年以降に海老名市と横須賀市でも記録されているが、現状は不明である。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 戸塚●・栄●・泉●・横須賀-4●・鎌倉-1◎・三浦○・海老名●・藤沢-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、河川開発</p>									

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
ヒトツバカエデ	<i>Acer distylum</i> Siebold & Zucc.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区の 1 個の 3 次メッシュで確認され、西丹沢のブナ帯に分布しているのみである。採集地点数が 3 か所あるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地のブナ帯に生える落葉高木

【現状】  
『神RDB06』から変化なし。

【国内分布】  
本州(東北～近畿)

【県内分布】  
津久井-1△・山北-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
コウシンテツカエデ	<i>Acer nipponicum</i> H.Hara subsp. <i>orientale</i> T.Yamaz. var. <i>koshinense</i> T.Yamaz.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では個体数が約 30 本だったことから絶滅危惧 I A 類と判定されたが、今回は 2 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認されたことから絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
温帯の山地に生える落葉高木。広義テツカエデが 2 亜種 4 変種に分けられた、東日本亜種の 2 変種のうち、フォッサ・マグナ地域に分布する変種で、葉の下面主脈上に灰白色の軟毛が疎らに生えるもの。

【現状】  
丹沢に 3 か所の生育地があり、合計で約 30 個体確認されている(神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012)。

【国内分布】  
本州(中部以南、長野、山梨、静岡、埼玉、神奈川)

【県内分布】  
津久井-2●・津久井-4●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神RDB06』では広義テツカエデとして記載。  
・保護の現状: 国定公園

【文献等】  
神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—. 51 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木。

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold & Zucc.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 D
		環境省	2020	—

【判定理由】  
4 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。これまで三浦半島の天神島が唯一の自生地で、日本列島の分布の北限とされていたが、2003年に川崎市で自生のものが発見され(河濟, 2004)、『神植誌18』では三浦市でも確認された。

【生育環境・生態】  
海岸に生える落葉低木

【現状】  
多摩川河口は、満潮時に海水につかる汀線付近の砂地に生えており、河川の浚渫などが行われなければ問題は無い。天神島は、天然記念物として保護されているので、生育地が攪乱されることはない。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州

【県内分布】  
川崎●・横須賀-1●・横須賀-4●・三浦●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神植誌18』の湯河原町のは、漂着か植栽由来か不明であるため、今回の集計からは除いた。  
・保護の現状: 天神島は天然記念物

【文献等】  
河濟英子, 2004. 北限のハマボウ. FK, (57): 707-708.

◀写真あり: 口絵4

## 絶滅危惧ⅠA類

## ラセンソウ

*Triumfetta japonica* Makino

神奈川県	2006	情報不足
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

## 【判定理由】

1 調査区の 1 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では、井上ほか(1991)の調査で箱根湯本で記録されたが、標本は採集されておらず、偶発的なものと考えられ、情報不足としていた。『神植誌18』の調査で川崎市で採集されたことから絶滅危惧ⅠA類と判定した。

## 【生育環境・生態】

路傍や荒地に生える一年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州(関東以西)、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

麻生●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【文献等】

井上香世子・中村和義・高橋 勉, 1991. 須雲川流域の植物相. 箱根線. No. 391~No. 447 地域環境事前調査報告書, 41-125. 東京電力, 東京.

## ジンチョウゲ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## コガンピ

*Diplomorpha ganpi* (Siebold & Zucc.) Nakai

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では 8 調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位約 40%減少した。

## 【生育環境・生態】

草原に生える落葉小低木。葉は枝にらせん状にやや密につけ、花は白色～淡紅色。

## 【現状】

防火帯などの草地が放置され、自然遷移が進んで失われた所が多い。

## 【国内分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州

## 【県内分布】

鶴見△・南○・保土ヶ谷△・栄△・多摩△・横須賀-4○・鎌倉-1△・三浦●・津久井-4●・相模湖●・厚木-1○・愛川○・清川-1△・伊勢原-1○・大山△・秦野-1●・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4△・秦野-5△・大磯△・二宮△・小田原-1○・南足柄-1○・南足柄-2●・山北-3△・箱根-1△・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1○・湯河原-2●

## 【存続を脅かす要因】

自然遷移、草地開発

## 【特記事項】

・保護の現状:一部の産地は国立公園、国定公園内

## ジンチョウゲ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## サクラガンピ

*Diplomorpha pauciflora* (Franch. & Sav. ex Makino) Nakai

神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

6 調査区で確認され、調査区単位での減少はないが、全国的には箱根から伊豆半島の狭い範囲に分布し、個体数もそれほど多くないため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

山地の岩場や岩がちな乾いた林縁に生える落葉低木。花は7~8月に咲き、円錐花序に淡黄緑色花を疎らにつける。

## 【現状】

湯河原から東周りに箱根外輪山の明神ヶ岳付近まで林縁や林道法面などに点々と生育が見られる。

## 【国内分布】

本州(伊豆、箱根)

## 【県内分布】

小田原-1●・小田原-2○・小田原-4●・南足柄-2△・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1●・湯河原-2●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

## 【特記事項】

和紙の原料にされた。  
・保護の現状:国立公園、県立自然公園

アブラナ科

絶滅				
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">ハクサンハタザオ</p> <p><i>Arabidopsis halleri</i> (L.) O' Kane &amp; Al-Shehbaz subsp. <i>gemmifera</i> (Matsum.) O' Kane &amp; Al-Shehbaz</p>	<p>神奈川県</p>	<p>2006</p> <p>1995</p>	<p>絶滅</p> <p>絶滅種 A</p>	
	<p>環境省</p>	<p>2020</p>	<p>—</p>	

**【判定理由】**  
山野に生育する繊弱な植物。県内では1961年に横須賀市の丘陵地で採集された標本が残されているが、それ以外に生育は確認されておらず記録もない。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国(剣山)、九州(宮崎県)

**【県内分布】**  
横須賀-1△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本:大楠山 1961.5.3 大谷 茂 YCM-V009960.

**【文献等】**  
大谷 茂, 1962. 三浦半島植物雑記(その3). 横博研報, (7): 44-54, pl. 5-6.

アブラナ科

絶滅危惧 I B 類				
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">ミヤマハタザオ</p> <p><i>Arabidopsis kamchatica</i> (Fisch. ex DC.) K.Shimizu &amp; Kudoh subsp. <i>kamchatica</i></p>	<p>神奈川県</p>	<p>2006</p> <p>1995</p>	<p>絶滅危惧 I B 類</p> <p>希少種</p>	
	<p>環境省</p>	<p>2020</p>	<p>—</p>	

**【判定理由】**  
今回の調査では2調査区の3か所で確認された。分布が局在し、生育地が限定的である点に脆弱性がある。

**【生育環境・生態】**  
山地の崩壊地、砂礫地、芝地に生える多年草

**【現状】**  
県内ではごく稀に分布し、丹沢山地の尾根上や源流部に見られる。開成町の酒匂川河原で採集された標本があるが、上流からの種子供給によって偶発的に生じたものと考えられる。

**【国内分布】**  
北海道、本州(中部以北)

**【県内分布】**  
清川-3△・山北-1●・山北-6◎・開成●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、治山工事

**【特記事項】**  
・保護の現状:国立公園、国定公園

アブラナ科

絶滅				
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">フジハタザオ</p> <p><i>Arabis serrata</i> Franch. &amp; Sav. var. <i>serrata</i></p>	<p>神奈川県</p>	<p>2006</p> <p>1995</p>	<p>—</p> <p>—</p>	
	<p>環境省</p>	<p>2020</p>	<p>—</p>	

**【判定理由】**  
県内では1936年と1971年に箱根で採集された標本が見つかっている。

**【生育環境・生態】**  
シコクハタザオの変種で、富士山の砂礫地に生育するとされる型である。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
富士山

**【県内分布】**  
箱根-6△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本:箱根町明神ヶ嶽 1936.6.2 澤田武太郎 KPM-NA0220590; 足柄下郡箱根町明神岳 1971.5.17 田代道彌 KPM-NA0153097.

アブラナ科

絶滅			
<b>ハマハタザオ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Arabis stelleri</i> DC. var. <i>japonica</i> (A.Gray) F.Schmidt		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
1988年に三浦市で採集された標本を最後に記録はない。

【生育環境・生態】  
海岸の砂地に生える多年草

【現状】  
古くから文献の記録があり、三浦市、横須賀市、鎌倉市、江ノ島、大磯町の標本が残されているほか、『神RDB95』に1965年に平塚で撮影された写真がある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-3△・鎌倉-1△・三浦◎・江ノ島△・大磯△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:Yenoshima 1877.4 Dickins s.n. P05349526, 05349528; 大磯千畳敷 1906.8. 真板敏美 ACM-PL031221; 相模三浦郡千駄ヶ崎 1929.5.5 靱山泰一 TI; 鎌倉市七里が浜 1960.6.5 間瀬美保子 YCM-V000996; 三浦 1988.6.16 渡辺則利 SCM009022.

アブラナ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>コンロンソウ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 減少種 G
<i>Cardamine leucantha</i> (Tausch) O.E.Schulz		<b>環境省</b>	2020 —

【判定理由】  
『神RDB06』では2調査区に50株未満から絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では3調査区の3か所で確認されたことからランクが下がった。分布が局在し、個体数も限定的な点で脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
山野の湿り気のある林床などに生える多年草

【現状】  
県内では稀で、『神植誌33』『神植目33』『神植誌58』『宮代目録』などの古い文献にも記録がない。『横植誌68』に緑区寺山町の記録があるが、標本は確認されていない。1997年に海老名市で採集されて以降、横浜市、大和市、葉山町で記録がある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
栄●・葉山●・大和●・海老名◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

アブラナ科

絶滅			
<b>ハナハタザオ</b>		<b>神奈川県</b>	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
<i>Dontostemon dentatus</i> (Bunge) Ledeb.		<b>環境省</b>	2020 絶滅危惧 I A 類

【判定理由】  
県内では相模湾岸の沿海地で採集された数点の古い標本が確認されている。1951年に現在の藤沢市または茅ヶ崎市にあたる一帯で採集された標本を最後の記録として、以降の生育は確認されていない。

【生育環境・生態】  
山野の水はけの良い草地に生える越年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(福島県～奈良県)

【県内分布】  
茅ヶ崎-1△・平塚-3△・二宮△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:相模平塚 1895.8.4 牧野富太郎 MAK120114-120125; 相模 梅沢驛辺(二宮町山西付近と思われる) 1884.6.15 櫻井半三郎 TNS6242; 高座郡小出村(現在の茅ヶ崎市もしくは藤沢市) 1951.4.28 宮代周輔 YCB106639, 106640.

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
ミヤマツチトリモチ			1995	減少種 G
		<i>Balanophora nipponica</i> Makino		環境省

【判定理由】  
3 調査区で確認され、採集地数は 3 か所であり、絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
夏緑広葉樹の根に寄生する多年草

【現状】  
『神植誌88』との比較で、調査区単位で減少はしていないことになるが、記録されなくなった産地もある。

【国内分布】  
本州(岩手県・秋田県以南)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1◎・厚木-4◎・清川-1●・秦野-4○・山北-1●・山北-2●・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
不明

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

◀写真あり: 口絵4

## ビャクダン科

絶滅危惧 II 類		神奈川県	2006	—
ツクバネ			1995	—
		<i>Buckleya lanceolata</i> (Siebold & Zucc.) Miq.		環境省

【判定理由】  
今回の調査では 4 調査区の 7 か所で確認された。分布が局在し、個体数が限定的な点が脆弱性である。

【生育環境・生態】  
土壌の浅い乾燥した尾根などに稀に見られる低木

【現状】  
小仏山地と丹沢山地に分布する。

【国内分布】  
本州、四国

【県内分布】  
津久井-3●・津久井-4●・藤野-2●・清川-2●・清川-3△・山北-5○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

## オオバヤドリギ科

準絶滅危惧		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
マツグミ			1995	減少種 G
		<i>Taxillus kaempferi</i> (DC.) Danser		環境省

【判定理由】  
『神RDB06』では 4 調査区に個体数が 250 未満から絶滅危惧 I B 類とされた。今回の調査では 12 調査区で確認され、判定基準外となるが、生育環境が特殊で寄主に依存する点が脆弱性があるため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
モミヤツガに寄生する半寄生性の常緑性木本

【現状】  
丹沢山地のモミヤツガのほか、河畔に植栽されたクロマツや、台地上に残存するモミなどでも記録がある。大和市のものは 2003年に寄主のモミが伐採され消滅した。開成町のものは 2020年に寄主のクロマツが剪定され著しく減少した。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
城山●・津久井-3△・津久井-5●・相模湖●・大和◎・厚木-3●・愛川●・清川-1●・清川-2●・清川-3●・伊勢原-1●・秦野-4●・小田原-2●・開成●

【存続を脅かす要因】  
土地造成、着生木枯死

タデ科

絶滅			
<b>クリンユキフデ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 B
<i>Bistorta suffulta</i> (Maxim.) H.Gross		環境省	2020 —

【判定理由】  
県内で採集された古い標本は残されているが、最近の記録はない。

【生育環境・生態】  
山地の日蔭に生える多年草。根生葉は広卵形で長い柄があり、花序は茎頂と葉腋につく。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
清川-2△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
基準産地の一つは箱根。  
・標本:清川村中津川 1953.5.31 大場達之 KPM-NA0015381.

タデ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>オオツルイタドリ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 —
<i>Fallopia dentatoalata</i> (F.Schmidt) Holub		環境省	2020 —

【判定理由】  
4調査区の10個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』では1調査区に50株未満と推定され、絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回の調査で新たな産地が見つかりランクが下がった。

【生育環境・生態】  
林縁や荒地に生えるつる性の一年草。花は葉腋や葉腋から伸びた短い総状花序につき、果実の基部は翼になって柄との境界が不明。

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
津久井-3◎・津久井-4●・藤野-1●・藤野-2●・愛川◎・清川-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

タデ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>ナガバノヤノネグサ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠA類
			1995 —
<i>Persicaria brevichreata</i> (Makino) Ohki		環境省	2020 —

【判定理由】  
1998年に相模原市緑区(旧城山町)小倉山で採集された。その後の記録がないが、まだ周辺に現存の可能性があるので絶滅危惧ⅠA類とした。

【生育環境・生態】  
湿った樹林内や林縁に生える一年草。他の近縁種とは托葉鞘の筒部が短く、筒部と同長の縁毛が生えることで区別する。

【現状】  
小倉山は採石場として崩され、森林もかなり伐採されている。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
都筑△・城山◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林伐採、採石場

【特記事項】  
・標本:城山町小倉山 1998.6.28 小崎昭則-11350 KPM-NA0110788; 横浜市川和 1967.11.15 宮代周輔 YCB017099ほか。

絶滅危惧 I A 類			
<b>ヒメタデ</b>	<i>Persicaria erectminor</i> (Makino) Nakai	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 減少種 G
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類
<p>【判定理由】 1980年代から1990年代に4調査区で採集されているが、その後の記録がない。今後、再発見される可能性があるために絶滅危惧 I A 類とした。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える一年草。県内で確認されているものは、水田や湿った畑地などの攪乱を受ける場所に生え、5～6月に開花する狭義ヒメタデである。河川敷や湖岸の湿地に生え秋に開花するアオヒメタデの型は見つかっていない。</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 秦野-5〇・平塚-2〇・小田原-2〇・小田原-3〇</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、土地造成</p> <p>【特記事項】 ・標本：平塚市ふじみ野 1980.5.28 山口育子 HCM013256；秦野市鶴巻 1981.6.22 HCM013513；小田原市小竹 1997.6.24 和田美乃・工藤晴子・奥村陽子 KPM-NA0113681；小田原市坊所 1983.5.15 高橋秀男 KPM-NA1001364.</p>	

絶滅			
<b>ヤナギヌカボ</b>	<i>Persicaria foliosa</i> (H.Lindb.) Kitag. var. <i>paludicola</i> (Makino) H.Hara	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
		環境省	2020 絶滅危惧 II 類
<p>【判定理由】 1911年に横浜で採集された記録があるが、その後、県内では確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える一年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 保土ヶ谷△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本：武蔵三ツ沢池畔(横浜市保土ヶ谷区) 1911.9.24 牧野富太郎 MAK13682.</p>	

絶滅			
<b>ナガバノウナギツカミ</b>	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 B
		環境省	2020 準絶滅危惧
<p>【判定理由】 横浜で採集された古い標本があるが、その後、県内では確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える一年草</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 旭△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本：横浜市旭区上白根大池 1952.9.13 出口長男 KPM-NA0080967；横浜 1918.9.4 S.Tamaki TI.</p>	

絶滅			
<b>サデクサ</b>	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 C
		環境省	2020 —
【判定理由】	横浜や茅ヶ崎で採集された古い標本があるが、その後、県内では確認されていない。	【国内分布】	本州、四国、九州
【生育環境・生態】	湿地に生える一年草	【県内分布】	鶴見△・茅ヶ崎-2△
【現状】	—	【存続を脅かす要因】	—
		【特記事項】	・標本: 茅ヶ崎 1915 牧野富太郎 MAK14977; 相模茅ヶ崎 1914.10.11 久内清孝 TI; 横浜鶴見 1913.5.20 宮代周輔 YCB018156.

絶滅			
<b>コミゾソバ</b>	<i>Persicaria mikawana</i> Hanai & Seriz.	神奈川県	2006 —
			1995 —
		環境省	2020 —
【判定理由】	箱根仙石原で採集された古い標本が残されているが、その後、県内からは記録されていない。	【国内分布】	本州(福島県～近畿地方)
【生育環境・生態】	湿地に生える一年草	【県内分布】	箱根-1△
【現状】	—	【存続を脅かす要因】	—
		【特記事項】	花井・芹沢(2008)により次の標本がコミゾソバとされた。 ・標本: 箱根仙石原 1951.9.6 水島正美 1599 TI.
		【文献等】	花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類, シデコブシ, 1 (1): 3-26.

絶滅			
<b>ホソバノウナギツカミ</b>	<i>Persicaria praetermissa</i> (Hook.f.) H.Hara	神奈川県	2006 消息不明種
			1995 消息不明種
		環境省	2020 —
【判定理由】	これまで消息不明種とされてきたが、今回の調査で横浜市鶴見区で採集された標本が確認された。	【国内分布】	本州(関東以西)、四国、九州、琉球
【生育環境・生態】	湿地に生える一年草	【県内分布】	鶴見△
【現状】	—	【存続を脅かす要因】	—
		【特記事項】	・標本: 鶴見(生見尾) 1921.5.20 宮代周輔 YCB018028.

絶滅									
<p><b>ヌカボタデ</b></p> <p><i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種 B							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p>【判定理由】                      逗子で採集された古い標本があるが、その後、県内では確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】                      湿地に生える一年草</p> <p>【現状】                      —</p>	<p>【国内分布】                      本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】                      逗子△</p> <p>【存続を脅かす要因】                      —</p> <p>【特記事項】                      ・標本: 相州逗子 1918.9.22 S.S TI.</p>								

絶滅危惧ⅠA類									
<p><b>ヒカゲミゾソバ</b></p> <p><i>Persicaria thunbergii</i> (Siebold &amp; Zucc.) H.Gross var. <i>coreana</i> (H.Lév.) Nakai</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】                      今回の調査では1調査区の1か所でのみ現存が確認された。</p> <p>【生育環境・生態】                      湿った樹林内に生える一年草。植物体は小型であり倒伏せず、夏から開花する。葉の中央裂片の先は著しく尖る。</p> <p>【現状】                      箱根仙石原の湧水のある湿生林に点在する。1992年に元箱根の坊ヶ沢(箱根-4)で採集された標本(KPM-NA1104934)が本種と同定されているが、現地では再確認されていない。</p>	<p>【国内分布】                      本州(神奈川県以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】                      箱根-1●・箱根-4◎</p> <p>【存続を脅かす要因】                      産地局限</p> <p>【特記事項】                      ・花井・芹沢(2008)により次の標本がヒカゲミゾソバとされた。                      ・標本: 箱根町仙石原 1998.7.22 勝山ほか KPM-NA0109726。                      ・保護の現状: 国立公園</p> <p>【文献等】                      花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ, 1(1): 3-26.</p>								

絶滅									
<p><b>ホソバイヌタデ</b></p> <p><i>Persicaria trigonocarpa</i> (Makino) Nakai</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	準絶滅危惧
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	準絶滅危惧							
<p>【判定理由】                      県内で採集された標本が残されているが、1983年に相模原市新昭和橋付近の相模川河川敷で採集されたのを最後に再確認されていない。</p> <p>【生育環境・生態】                      河川敷などの水湿地に生える一年草。イヌタデに似るが、葉はやや細く、葉の下面や花被に盤状の腺点がある。</p> <p>【現状】                      —</p>	<p>【国内分布】                      本州(近畿地方以東)</p> <p>【県内分布】                      相模原-2○・藤沢-3△・大磯△</p> <p>【存続を脅かす要因】                      —</p> <p>【特記事項】                      ・標本: 相模原市新昭和橋 1983.10.22 早川亮太 KPM-NA1001428; 相模片瀬片瀬川畔 1931.10.11 靱山泰一 TI; 大磯 1939.10.15 宮代周輔 YCB119487 ほか。</p>								

タデ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>オオネバリタデ</b></p> <p><i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H.Gross var. <i>robusta</i> (Makino) Hiyaama</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 3 調査区の 3 か所で確認された。『神植誌88』や『神植誌01』では多くの調査区で確認されており、攪乱環境に生える植物のため、調査区単位の再確認が不十分だったと考えられ、判定基準よりも 1 ランク下げて判定した。調査区単位の減少は『神植誌88』との比較で約 40%である。</p> <p>【生育環境・生態】 河川敷や山地の荒地に生える一年草。ネバリタデより枝分かれせず、葉の毛は短く、茎は節付近にのみ粗毛がある。</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・高津●・麻生●・津久井-3○・藤野-1○・清川-3○・平塚-1●・南足柄-1○・山北-6△・山北-7○・松田○・箱根-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成</p>								

タデ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>アキノミチヤナギ</b></p> <p><i>Polygonum polyneuron</i> Franch. &amp; Sav.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 今回の調査では川崎区と三浦市の 2 調査区の 5 か所で確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、ミチヤナギとの区別が難しいため、三浦半島の内湾で見逃された可能性があり、1 ランク下げて判定した。調査区単位の減少は『神植誌88』との比較で約 30%である。</p> <p>【生育環境・生態】 河口や内湾などの塩湿地に生える一年草。ミチヤナギに似るがやや大型で直立し、葉の先は尖り、乾くと褐色に変色する。</p> <p>【現状】 現存する調査区は少ないが、多摩川河口や三浦市の内湾塩湿地には個体数が多い。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 金沢△・川崎●・横須賀-4○・横須賀-5△・鎌倉-1△・三浦●</p> <p>【存続を脅かす要因】 河口浚渫、海岸開発</p>								

タデ科

絶滅危惧ⅠB類									
<p><b>マダイオウ</b></p> <p><i>Rumex madaio</i> Makino</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神RDB06』では絶滅とされていたが、今回の調査では新たに秦野市と小田原市の 2 調査区の 2 か所で現存が確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 河川敷や湿地などに生える多年草。果実を包む内花被の縁には細鋸歯があり、こぶ状の突起がないことで他のギンギシ属から区別できる。</p> <p>【現状】 1980年代には清川村宮ヶ瀬にあったが、ダムの建設で失われた。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 清川-2○・秦野-4●・小田原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成</p> <p>【特記事項】 ・標本：清川村宮ヶ瀬 1987.6.21 高橋秀男 KPM-NA1034015; 山北町 1932 牧野富太郎 MAK19077; 小田原市府川 2014.5.26 伊藤晁逸 KPM-NA0299040; 秦野市柳川 2016.5.28 金井和子 HCM102487.</p>								

絶滅危惧 I A 類			
<b>ニセコガネギンギン</b>		神奈川県	2006 — 1995 —
<i>Rumex trisetifer</i> Stokes		環境省	2020 情報不足
【判定理由】 1997年～1998年にかけて藤沢市の2か所で採集された。その後の状況は不明であるが、周辺に再度発生する可能性がある。本種は関東平野に自然分布があり、野鳥などにより運ばれた可能性がある。	【国内分布】 本州(関東地方)、四国(高知県)	【県内分布】 藤沢-2◎	
【生育環境・生態】 河岸などの湿地に生える多年草。果実を包む内花被片の刺は1対のみが大きくて長い。	【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成	【特記事項】 『神植誌01』では帰化によるコガネギンギンとされてきたが、次の標本が本種と同定された。 ・標本:藤沢市高倉 1997.11.3 松本文人 HCM086204; 藤沢市西俣野 1998.10.10 根本 平 HCM081290。	
【現状】 —			

## モウセンゴケ科

絶滅			
<b>イシモチソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅 1995 絶滅種 A
<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi		環境省	2020 準絶滅危惧
【判定理由】 1963年ごろまで箱根町に産したとされるが、標本は残されていない。また、横須賀市田浦とラベルに書かれた1957年の標本が残されているが、同産地は文献にも一切記録がなく、野生のものか不明。どちらにしても、これら以降、記録がないため、絶滅と判定した。	【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州	【県内分布】 —	
【生育環境・生態】 日当りの良い砂質の酸性湿地に生える多年生の食虫植物	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 文献記録と標本記録が一致せず、県内での自然分布については、さらに検証が必要であるが、『神植誌18』での扱いに従い、ここでは『神RDB06』同様に絶滅とした。	
【現状】 —			

## モウセンゴケ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>モウセンゴケ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類 1995 絶滅危惧種 E
<i>Drosera rotundifolia</i> L.		環境省	2020 —
【判定理由】 県内では箱根町の1調査区の1生育地でのみ現存が確認されている。分布と生育地が局在している点で脆弱性があるが、『神RDB06』では個体数250未満から絶滅危惧 I B 類とされた。状況は大きく変わっていないので、前回の判定を踏襲した。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州	【県内分布】 箱根-1●	
【生育環境・生態】 日当りの良い酸性湿地に生える多年生の食虫植物	【存続を脅かす要因】 自然遷移、産地局限	【特記事項】 『神植誌58』には箱根(湖尻、大沢)、『箱根目58』には仙石原と海の平、原(1936)には宇西山(現在の川崎市多摩区)の文献記録がある。 ・保護の現状:国立公園特別保護地区、天然記念物指定地	
【現状】 仙石原湿原では天然記念物指定地やその周辺の草の生えていないところに点々と見られる。	【文献等】 原 松次, 1936. 武州向丘村植物誌. 45+5 pp. 山本浩然館, 東京。		

ナデシコ科

<b>情報不足</b>									
<b>タチハコベ</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><i>Arenaria trinervia</i> L.</p> <p>【判定理由】 『神植誌18』には横浜市鶴見区で採集された標本があることが報告されているが、未確認であるため、情報不足と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 夏緑広葉樹林の林床や林縁、周辺の岩礫地に生える一年草</p> <p>【現状】 現存はしていない。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 標本の同定も含め、再確認が必要である。</p>								

ナデシコ科

<b>絶滅危惧Ⅱ類</b>									
<b>ワチガイソウ</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax</p> <p>【判定理由】 6 調査区で確認され、調査区単位の減少は『神植誌88』との比較で 40%あり、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 落葉広葉樹林の林床に生える小型の多年草</p> <p>【現状】 県内では丹沢の標高 1,200m以上の樹林内や樹上などに多いが、稜線の森林衰退やシカの影響を受けていると思われる。</p>	<p>【国内分布】 本州(福島県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2◎・清川-1●・清川-3◎・秦野-1●・秦野-2△・山北-1●・山北-2●・山北-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 シカ影響、森林衰退</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園</p>								

ナデシコ科

<b>絶滅危惧ⅠB類</b>									
<b>ワダソウ</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><i>Pseudostellaria heterophylla</i> (Miq.) Pax</p> <p>【判定理由】 3 調査区で確認され、採集地数は 3 か所であるため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 明るい落葉広葉樹林内や草地に生える小型の多年草</p> <p>【現状】 開発圧の強い多摩丘陵や相模原周辺に多いため土地造成により失われるケースが多い。</p>	<p>【国内分布】 本州(中部以北)、九州(北部)</p> <p>【県内分布】 旭○・緑●・青葉○・瀬谷○・相模原-2○・相模原-3◎・相模原-4●・相模湖◎・大和●・座間○</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、自然遷移</p> <p>〈📷写真あり: 口絵4〉</p>								

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>フシグロセンノウ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
<i>Silene miqueliana</i> (Rohrb.) H. Ohashi & H. Nakai			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
9 調査区で確認されたが、調査区の減少率が 64.0%であるため、判定基準からは絶滅危惧ⅠB 類と判定されるが、採集地数は多く、各地に散在するので、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地の溪畔林や草原に生える多年草

**【現状】**  
横浜市など、県東部の産地では近年、確認されていない。

**【国内分布】**  
本州(関東地方以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見△・中○・保土ヶ谷○・旭△・緑○・栄△・麻生○・横須賀-1○・相模原-3△・城山○・津久井-2○・津久井-4○・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・大和●・厚木-2○・厚木-4○・愛川○・清川-2◎・清川-3△・伊勢原-1◎・大山△・秦野-1○・秦野-2●・秦野-3●・秦野-4●・南足柄-2◎・山北-1○・山北-4○・山北-6●・山北-7○・松田●・箱根-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成

**【特記事項】**  
・保護の現状:一部は国定公園や県立自然公園

絶滅危惧ⅠA 類				
<b>ウシオツメクサ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
<i>Spergularia marina</i> (L.) Griseb.			1995	—
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
『神植誌88』では帰化植物のウシオハナツメクサと誤認されていた。『神植誌01』で本種であることが明らかにされたが、『神RDB06』では取り扱われなかった。1 調査区で確認され、採集地数は 1 か所であるため、絶滅危惧ⅠA 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
塩湿地に生える一年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見●・金沢◎・川崎◎・三浦△・真鶴△

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、海岸開発

**【特記事項】**  
在来のもものとして扱ったが、『神植誌18』には、「過去の記録も含め、本来の自生地に残存していたものと、帰化(あるいは国内帰化植物)のものが混在している可能性がある。」とされている。なお、ここに示した真鶴の生育地は、採集された標本の位置情報が不十分で、『神植誌18』の分布図には示されていない。

準絶滅危惧				
<b>ヤナギイノコヅチ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	準絶滅危惧
<i>Achyranthes longifolia</i> (Makino) Makino			1995	減少種 G
		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では 7 調査区の 11 個の 3 次メッシュで確認され、調査区単位の減少もみられない。しかし、県内では市街化の著しい地域を中心に分布しているため、準絶滅危惧として見守ることとした。

**【生育環境・生態】**  
林縁や樹林内に生える多年草。葉は披針形で先が長く尖り、小苞葉の付属体は小さい。

**【現状】**  
県内の産地は宅地造成の著しい相模原台地の南部に集中しているが、市街地周辺の小さな緑地にも生育している。

**【国内分布】**  
本州(関東地方以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
緑△・都筑●・相模原-1◎・相模原-2●・相模原-4●・大和●・座間●・厚木-2◎・愛川●・小田原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成

ヒユ科

絶滅危惧Ⅱ類							
<b>ホソバハマアカザ</b>		<b>神奈川県</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2006</td><td>—</td></tr><tr><td>1995</td><td>—</td></tr></table>	2006	—	1995	—
2006	—						
1995	—						
<i>Atriplex patens</i> (Litv.) Ijima		<b>環境省</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2020</td><td>—</td></tr></table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
今回の調査では4調査区の7か所で確認された。

**【生育環境・生態】**  
塩湿地に生える一年草。アカザ属の植物に似ているが、2枚の苞は果時に肥大して果実を包む。

**【現状】**  
多摩川河口や三浦半島市の内湾塩湿地に生育する。1950年頃までは相模川河口や真鶴にもあった。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
鶴見△・西△・金沢◎・川崎●・横須賀-1●・横須賀-4●・横須賀-5△・鎌倉-1◎・三浦●・平塚-3△・真鶴△

**【存続を脅かす要因】**  
河口浚渫、海岸開発

**【特記事項】**  
・標本: 平塚 1921.6 宮代周輔 YCB132099; 真鶴 1950.10.28 宮代周輔 YCB127783~127785.

ヒユ科

絶滅							
<b>ハマアカザ</b>		<b>神奈川県</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2006</td><td>絶滅</td></tr><tr><td>1995</td><td>—</td></tr></table>	2006	絶滅	1995	—
2006	絶滅						
1995	—						
<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.		<b>環境省</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2020</td><td>—</td></tr></table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
東京湾沿岸、三浦半島、鎌倉周辺などで採集された古い標本が残されているが、1970年以後に確認された記録はない。

**【生育環境・生態】**  
海岸に生える一年草。葉は三角状披針形で下方の葉は基部がほこ形に張り出す。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州

**【県内分布】**  
西△・横須賀-2△・横須賀-4△・三浦△・藤沢-3△・江ノ島△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本: 相模鎌倉 1956.8.26 Y.Asai TNS283145; 横浜平沼 1893.10.2 牧野富太郎 MAK41310; 藤沢市鶴沼 1960.5.30 西尾和子 KPM-NA0003363; 江ノ島 1935 牧野富太郎 MAK97327; 横須賀天神島 1955.11.20 水島正美 MAK2489; 横須賀市観音崎 1968.9.5 小坂橋八千代 YCM-V008871; 三浦市剣崎 1961.7.2 吉川代之介 HCM043926.

ヒユ科

絶滅危惧ⅠA類							
<b>カワラアカザ</b>		<b>神奈川県</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2006</td><td>絶滅危惧ⅠA類</td></tr><tr><td>1995</td><td>減少種 H</td></tr></table>	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	減少種 H
2006	絶滅危惧ⅠA類						
1995	減少種 H						
<i>Chenopodium acuminatum</i> Willd. var. <i>vachelii</i> (Hook. & Arn.) Moq.		<b>環境省</b>	<table border="1" style="font-size: small;"><tr><td>2020</td><td>—</td></tr></table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
相模川の河川敷に生育環境は残されているが、今回の調査では確認することができなかった。今後、発見される可能性があるため絶滅危惧ⅠA類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
川原に生える一年草。海岸に生えるマルバアカザの変種で、葉が披針形で花序が貧弱なことで区別される。ホソバアカザと紛れることがあるが、本種やマルバアカザの花序の中軸には透明な円柱状の毛がある。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
横須賀-4○・逗子△・相模原-2△・座間○・海老名○・愛川◎・茅ヶ崎-2△・平塚-2◎・大磯◎・真鶴△

**【存続を脅かす要因】**  
河川開発

ヒユ科

絶滅危惧 I A 類			
<b>イワアカザ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 —
<i>Chenopodium gracilispicum</i> H.W.Kung		環境省	2020 絶滅危惧 I A 類
<p>【判定理由】 『神植誌01』の調査で相模原市緑区(旧藤野町)で採集されたが、今回の調査では確認できなかった。まだ、再発見の可能性があるので絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 石灰岩地などに生える一年草。葉は卵形または三角状卵形で質薄く鮮緑色。</p> <p>【現状】 生育地の現状に大きな変化はないが再発見できない。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国</p> <p>【県内分布】 藤野-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 『神植誌01』や『神RDB06』ではミドリアカザと誤認していた。 ・標本:藤野町篠原 1996.6.23 小久保恭子 KPM-NA0118637; 同 福留正明 KPM-NA0110590.</p>		

ヒユ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>ハママツナ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 減少種 G
<i>Suaeda maritima</i> (L.) Dumort. subsp. <i>asiatica</i> H.Hara		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 今回の調査では 2 調査区の 3 個の 3次メッシュで確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 塩湿地に生える一年草。葉は円棒状で先端が刺状に尖らない。</p> <p>【現状】 三浦半島の内湾の塩湿地に生育。『神植誌58』などの文献には横浜、久里浜、下浦、松輪、天神島、鎌倉、茅ヶ崎が産地としてあげられており、かつては東京湾沿岸から三浦半島にかけて広く分布していたことがうかがえる。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 横須賀-4●・三浦●</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:天神島は横須賀市自然教育園として保護されている。</p>		

アジサイ科

準絶滅危惧			
<b>ウメウツギ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 II 類
			1995 希少種
<i>Deutzia uniflora</i> Shirai		環境省	2020 絶滅危惧 II 類
<p>【判定理由】 8 調査区の 14 個の 3次メッシュで確認された。『神RDB06』では、8 調査区に 1,000 株未満だったため絶滅危惧 II 類と判定されたが、『神植誌18』の調査で新たな産地が確認されたものの依然として個体数は少ないため準絶滅危惧と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 溪谷や尾根上の岩場に生える落葉低木</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 関東山地、山梨県、静岡県、神奈川県の一部</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2◎・津久井-4●・清川-1●・清川-2●・秦野-3●・山北-2◎・山北-3●・山北-5●・山北-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:国定公園</p>		

絶滅危惧 I A 類

ノジトラノオ

*Lysimachia barystachys* Bunge

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 H
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】

1 調査区で確認され、採集地数は 1 か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】

湿った草原に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州(関東以西)、九州(北部)

【県内分布】

相模原-1●・相模原-2◎・相模原-4◎・大和○

【存続を脅かす要因】

土地造成、産地局限、自然遷移

絶滅危惧 II 類

ヌマトラノオ

*Lysimachia fortunei* Maxim.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

10 調査区で記録されたが、調査区の減少率が 37.5% であるため、絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】

湿った草原に生える多年草

【現状】

県東部では減少している。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見○・神奈川◎・港南△・保土ヶ谷○・旭△・港北●・緑◎・青葉○・戸塚●・栄●・多摩●・麻生●・横須賀-5○・相模原-4△・大和●・座間○・海老名○・伊勢原-2○・藤沢-2●・藤沢-3○・茅ヶ崎-1◎・平塚-1○・箱根-1●・箱根-2◎・箱根-4●・箱根-5●

【存続を脅かす要因】

自然遷移、土地造成

絶滅

サワトラノオ

*Lysimachia leucantha* Miq.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

【判定理由】

箱根で採集された標本が確認されたが、その後の記録もなく、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州、九州

【県内分布】

—

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

『神植誌18』などにも掲載されていないが、『箱根目58』に「二子山, 仙石原」の記録があり、田中(2021)により下の標本が確認された。

・標本: 箱根 Kazuo Izawa MBK0048213.

【文献等】

田中徳久, 2021. 2018-2020年に見出した神奈川県 の地域植物相の重要な記録となる標本. 神自資, (42): 143-147.

絶滅危惧Ⅱ類				
クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R.Knuth	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
7 調査区で確認され、調査区は減少率していないが、現存する採集地数は多くはなく、県内の湿生環境も減少しているため、特に絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
湿った草原に生える多年草

【現状】  
県東部では減少している。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
保土ヶ谷△・旭●・港北△・緑○・戸塚●・栄●・多摩△・座間●・海老名○・藤沢-1◎・茅ヶ崎-1◎・南足柄-1●・山北-7◎・箱根-1●・箱根-4◎・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
湿地開発

絶滅				
タイムンタチバナ	<i>Myrsine seguinii</i> H.Lév.	神奈川県	2006	絶滅
			1995	絶滅種 B
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌58』に逗子神武寺の記録があり、真鶴岬で採集された標本も残されているが、これまでの調査では標本は採集されていない。確認された調査区がないため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
照葉樹林内に生える常緑小高木

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
真鶴△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:真鶴町真鶴岬 1950.1.10 石川洋右 KPM-NA0016393.

絶滅危惧ⅠA類				
クリンソウ	<i>Primula japonica</i> A.Gray	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	絶滅危惧種 D
		環境省	2020	—

【判定理由】  
確認された調査区はないが、過去に記録された箱根の生育地は現存すると考え、採集地数を1か所とし、絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
山間の湿地に生える多年草

【現状】  
『神RDB06』では、「沢沿いの湿地で、樹林内のギャップに小集団があるが、しだいに周囲の樹木が繁茂して暗くなり、最近では開花を見ない。」とあるが、現状は不明である。

【国内分布】  
北海道、本州、四国

【県内分布】  
箱根-5◎

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、産地局限、過剰採取

【特記事項】  
過去に記録された箱根の産地は現存すると判断したが、現状の確認が必要である。  
・保護の現状:国立公園

サクラソウ科

絶滅危惧Ⅱ類											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>コイワザクラ</b></td> </tr> <tr> <td><i>Primula reinii</i> Franch. &amp; Sav. var. <i>reinii</i></td> </tr> </table> <p>【判定理由】 7 調査区で確認され、調査区の減少率も 12.5%、3次メッシュの減少率も 12.5%と判定基準外であるが、花が美しいため、盗掘による減少が懸念され、箱根では、登山道から観察できる場所は消失したため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の岩場やそれに続く草地に生える多年草</p> <p>【現状】 『神RDB06』から変化なし。</p>	<b>コイワザクラ</b>	<i>Primula reinii</i> Franch. & Sav. var. <i>reinii</i>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、奈良県中部)</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・清川-2○・秦野-1●・秦野-2△・南足柄-1○・南足柄-2△・山北-2●・山北-3●・箱根-1○・箱根-4●・箱根-6●</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園特別保護地区、国定公園特別保護地区</p> <p>〈📷写真あり: 口絵5〉</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
<b>コイワザクラ</b>											
<i>Primula reinii</i> Franch. & Sav. var. <i>reinii</i>											
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類									
	1995	—									
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類									

サクラソウ科

絶滅											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>サクラソウ</b></td> </tr> <tr> <td><i>Primula sieboldii</i> E.Morren</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 『神RDB06』では、文献記録のみと判断し、消息不明種としたが、その後、鶴見区で1913年に採集された標本が確認された。ここでは『神植誌18』同様、鶴見区で採集された標本を自生個体を採集したと考え、絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 草原に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<b>サクラソウ</b>	<i>Primula sieboldii</i> E.Morren	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">消息不明種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 北海道、本州、四国</p> <p>【県内分布】 鶴見△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 古くから栽培される種で、文献記録や残された標本について、自生品であるかの検証が必要である。朝日新聞の横浜版の1976年5月13日付に厚木市に産すること、同22日付に港北区に産することが報じられている(横浜さくらそう会の三宅修次氏情報提供)。 ・標本: 横浜鶴見(生見尾) 1913.4.18 宮代周輔 YCB038256.</p>	神奈川県	2006	消息不明種	1995	絶滅種 B	環境省	2020	準絶滅危惧
<b>サクラソウ</b>											
<i>Primula sieboldii</i> E.Morren											
神奈川県	2006	消息不明種									
	1995	絶滅種 B									
環境省	2020	準絶滅危惧									

ツバキ科

絶滅危惧ⅠB類											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"><b>ナツツバキ</b></td> </tr> <tr> <td><i>Stewartia pseudocamellia</i> Maxim.</td> </tr> </table> <p>【判定理由】 3 調査区の 4 個の 3次メッシュで確認された。『丹沢目録61』に丹沢山地での文献記録があるが、『神植誌88』の調査では発見されず、丹沢の分布は疑問視されていたが、1999年に西丹沢で数個体、2003年に北丹沢(逢沢, 2003)で 2 個体が確認された。県内では丹沢の主稜線北面から甲相国境尾根にかけて稀に見られる。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える落葉高木</p> <p>【現状】 シカに樹皮剥ぎされた個体が多い。</p>	<b>ナツツバキ</b>	<i>Stewartia pseudocamellia</i> Maxim.	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(福島県、新潟県以南)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・山北-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、シカ影響</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園</p> <p>【文献等】 逢沢峰昭, 2003. 丹沢山塊のナツツバキの分布. FK, (56): 697-698.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	—	環境省	2020	—
<b>ナツツバキ</b>											
<i>Stewartia pseudocamellia</i> Maxim.											
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類									
	1995	—									
環境省	2020	—									

絶滅危惧 I A 類			
<b>ベニドウダン</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
<i>Enkianthus cernuus</i> (Siebold & Zucc.) Makino			1995 絶滅危惧種 D
		環境省	2020 —

【判定理由】  
1 調査区の 1 個の 3 次メッシュで確認された。過去に箱根町で複数箇所を確認されているが、『神植誌18』の調査の標本記録は 1 か所でのみであった。

【生育環境・生態】  
樹林内の岩角地や林縁に生える落葉低木

【現状】  
箱根-5 では『神RDB06』から変化なしだが、箱根-2 の現状は不明である。

【国内分布】  
本州(関東地方、中部地方南部、福井県、近畿地方、中国地方の瀬戸内海側)、四国、九州

【県内分布】  
箱根-2◎・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、過剰採取

【特記事項】  
『神植誌18』の平塚市での標本記録は植栽である可能性が高いため、集計から除いた。  
『神RDB95』では別名の子チブドウダンとして記載。  
・保護の現状: 国立公園

準絶滅危惧			
<b>シャクジョウソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Hypopitys monotropa</i> Crantz			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神RDB06』では 1995 年以後の記録が 2 調査区で確認されたが、地域メッシュ単位で 80% 減少であったことから絶滅危惧 I A 類と判定された。『神植誌18』の調査では 19 調査区 23 個の 3 次メッシュで確認されたが、量的には少ないため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の樹林内に生える腐生の多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
戸塚○・麻生●・横須賀-2◎・鎌倉-2●・逗子●・相模原-1△・相模原-2△・相模原-3△・城山●・津久井-1●・津久井-2●・津久井-3●・津久井-4●・津久井-5●・相模湖△・藤野-1●・藤野-2○・座間○・厚木-4◎・愛川●・清川-2●・秦野-4◎・平塚-1●・大磯◎・南足柄-1●・南足柄-2●・南足柄-3◎・山北-1●・山北-4●・山北-6●・大井○・松田◎・箱根-2●・真鶴△

【存続を脅かす要因】  
土地造成

絶滅危惧 II 類			
<b>マルバノイチヤクソウ</b>		神奈川県	2006 —
<i>Pyrola nephrophylla</i> (Andres) Andres			1995 —
		環境省	2020 —

【判定理由】  
6 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。県内では丹沢、箱根、小仏のブナ帯に分布するが、あまり多くはない。3 次メッシュ数の減少率は 50% であるが、採集地数は 8 か所あるため絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の落葉樹林内に生える多年草

【現状】  
丹沢や箱根では標高の高いところの樹林内でみられる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2●・相模湖●・藤野-1○・厚木-4◎・清川-1●・清川-2●・大山◎・南足柄-1○・南足柄-2●・山北-3◎・山北-6○・箱根-1◎・箱根-2◎・箱根-4△・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

ツツジ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒトツバイチャクソウ</div> <p><i>Pyrola subaphylla</i> Maxim.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 3 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。県内では丹沢などの標高の高い所に多く、『神植誌18』の調査では愛甲郡清川村、相模原市で採集されている。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 樹林内に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(東北、中部地方、神奈川県)、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-2●・藤野-2●・清川-2●・秦野-4○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> 以前はイチヤクソウの変種とされていたが、現在は独立種とされている。 ・保護の現状: 丹沢の産地は国定公園内</p>								

ツツジ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">サツキ</div> <p><i>Rhododendron indicum</i> (L.) Sweet</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 3 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。かつては相模川、道志川、中津川に広く産していたがダム建設で次々と生育地は狭められ、『神植誌18』の調査では、相模原市で確認されたのみである。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 溪岸の岩場に生える常緑低木</p> <p><b>【現状】</b> 平常時は流水の影響をまったく受けないが、洪水時には冠水するような所で、平常水位から 0.5~4m 程度上部の岩隙に生える。『神植誌18』の調査では清川村では確認されなかった。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(福島県南部、関東西南部~近畿、山口県)、九州、屋久島</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-3●・津久井-4○・津久井-5○・相模湖●・藤野-2●・愛川○・清川-2○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、ダム建設</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 相模川の産地は県立自然公園、道志川は特になし</p>								

ツツジ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒカゲツツジ</div> <p><i>Rhododendron keiskei</i> Miq. var. <i>keiskei</i></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類						
	1995	絶滅危惧種 D							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 1 調査区の 1 か所で確認された。おおよそ 2 個の 3 次メッシュの範囲に生育し、個体数も多いため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 岩場に生える常緑低木</p> <p><b>【現状】</b> 人の近づけないような岩場に見られる。1 か所の生育地で合計で 50~100 個体があった(神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012)。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(関東地方以西)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 山北-6●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 過剰採取、産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園</p> <p><b>【文献等】</b> 神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—. 51 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木.</p>								

ツツジ科

絶滅												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px;"><b>レンゲツツジ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Rhododendron molle</i> (Blume) G.Don subsp. <i>japonicum</i> (A.Gray) K.Kron</div> <p>【判定理由】 『神植目33』『神植誌58』に箱根、津久井、『宮代目録』に箱根、津久井(佐野川)、登戸など、原(1936)にも記録が見られ、かつては箱根や旧津久井町(現、相模原市緑区)に点在していたように推察できるが、証拠となる標本は津久井町で採集されたものだけである。 『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも確認されなかった。</p> <p>【生育環境・生態】 草原や疎林内に生える落葉低木</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 B	環境省	2020	—	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 津久井-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 丹沢姫次 1959.6.8 城川四郎 KPM-NA1015006.</p> <p>【文献等】 原 松次, 1936. 武州向丘村植物誌. 45+5pp. 山本浩然館, 東京.</p>		
神奈川県	2006		絶滅									
	1995	絶滅種 B										
環境省	2020	—										

ツツジ科

絶滅危惧 I B 類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px;"><b>ムラサキツリガネツツジ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Rhododendron multiflorum</i> (Maxim.) Craven var. <i>purpureum</i> (Makino) Craven</div> <p>【判定理由】 4 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。箱根、丹沢に分布する。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の岩場に生える落葉低木。小花柄や萼に腺毛がないものをハコネツリガネツツジ form. <i>bicolor</i> (Makino) T.Yamaz. といい、箱根にみられる大部分はこのタイプである。丹沢には小花柄や萼に腺毛のあるムラサキツリガネツツジ型が多い。</p> <p>【現状】 丹沢の生育地は北向きの湿潤な岩場で、4 か所に約 60 個体を確認。ニホンジカの採食圧はなく、個体群としては安定した状態にある。森林衰退の直接の影響は受けていないが、生育環境の変化には注意を要する(勝山・田村・田中, 2007)。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	絶滅危惧 II 類	<p>【国内分布】 本州(山梨県、静岡県、神奈川県)</p> <p>【県内分布】 津久井-1●・津久井-2●・南足柄-1◎・山北-3●・箱根-3△・箱根-4◎・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園特別保護地区</p> <p>【文献等】 勝山輝男・田村 淳・田中徳久, 2007. 丹沢の維管束植物相, 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書 pp. 89-94. 平岡環境科学研究所, 神奈川県.</p>		
神奈川県	2006		絶滅危惧 I B 類									
	1995	絶滅危惧種 E										
環境省	2020	絶滅危惧 II 類										

ツツジ科

絶滅危惧 I A 類												
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px;"><b>コバノミツバツツジ</b></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"><i>Rhododendron reticulatum</i> D.Don ex G.Don</div> <p>【判定理由】 1 調査区の 2 個の 3 次メッシュで確認されたが、隣接するメッシュでとられており産地としては 1 か所である。1991年に箱根弁天山の須雲川側斜面で確認された(井上ほか, 1991)が、標本採集されなかったため、『神植誌01』では消息不明種とされた。2005年に旧藤野町(現、相模原市緑区)で発見された(勝山, 2006)。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生える落葉低木</p> <p>【現状】 高さ 2m ほどの低木林に散在する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—	<p>【国内分布】 本州(神奈川県、長野県南部、静岡県西部以西)、四国、九州(大分県東部、福岡県北部および対馬)</p> <p>【県内分布】 藤野-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【文献等】 井上香世子・中村和義・高橋 勉, 1992. 須雲川流域の植物相. 箱根線No.391~No.447地域環境事前調査委託報告書, 41-125. 東京電力, 東京; 勝山輝男, 2006. コバノミツバツツジが藤野で採集された. FK, (61): 758.</p>		
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類									
	1995	絶滅危惧種 D										
環境省	2020	—										

ツツジ科

絶滅											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>オオヤマツツジ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Rhododendron transiens</i> Nakai</td> </tr> </table>	<b>オオヤマツツジ</b>	<i>Rhododendron transiens</i> Nakai	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種 A	環境省	2020	—
<b>オオヤマツツジ</b>											
<i>Rhododendron transiens</i> Nakai											
神奈川県	2006	絶滅									
	1995	絶滅種 A									
環境省	2020	—									
<p>【判定理由】 『神植目33』では横浜市内の記録があるが、これについては『横植誌68』は疑問としている。『神植誌01』の標本調査で旧相模湖町(現、相模原市緑区)と真鶴産の標本が見出され、『神RDB06』では絶滅とされた。標本調査では1940年代～50年代に相模湖町と真鶴町で採集した標本が見出されたが、最近の確認はない。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の日当たりの良い斜面に生える半常緑低木</p> <p>【現状】 —</p>	<p>【国内分布】 本州(埼玉県、栃木県、など関東平野周辺や静岡県)</p> <p>【県内分布】 相模湖△・真鶴△</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 『神植誌18』に、2010年に相模原市で採集された標本があるが自生のものかはっきりしないとある。 ・標本: 相州真鶴岬入口 1949.5.2 原 寛 TI; 相模津久井郡与瀬町見浜 1959.5.26 水島正美 MAK24461.</p>										

ツツジ科

絶滅危惧Ⅱ類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>ハコネコメツツジ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Rhododendron tsusiophyllum</i> Sugim.</td> </tr> </table>	<b>ハコネコメツツジ</b>	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i> Sugim.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	希少種	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
<b>ハコネコメツツジ</b>											
<i>Rhododendron tsusiophyllum</i> Sugim.											
神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類									
	1995	希少種									
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類									
<p>【判定理由】 6 調査区の 7 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では箱根と丹沢の標高 1,000m 以上の風衝地岩場に生え、総個体数は 1,000 株未満と推定され、定量的要件 D より絶滅危惧Ⅱ類と判定された。当時と状況は変わっていないため、今回も絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の風衝地岩場に生える半常緑低木</p> <p>【現状】 『神RDB06』から変化なし。</p>	<p>【国内分布】 北は秩父山地から南は御蔵島まで</p> <p>【県内分布】 津久井-1○・津久井-2●・秦野-1●・南足柄-1◎・山北-2●・山北-3●・松田○・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 過剰採取</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p> <p>〈📷写真あり: 口絵5〉</p>										

ツツジ科

絶滅危惧ⅠA類											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #333; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>シャシャンボ</b></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"><i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb.</td> </tr> </table>	<b>シャシャンボ</b>	<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%; text-align: center;">神奈川県</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種 D	環境省	2020	—
<b>シャシャンボ</b>											
<i>Vaccinium bracteatum</i> Thunb.											
神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類									
	1995	絶滅危惧種 D									
環境省	2020	—									
<p>【判定理由】 1 調査区 1 個の 3 次メッシュで確認された。伊豆半島や房総半島は個体数が多いが、県内では三浦半島南部の 1 か所で見出されたのみである。</p> <p>【生育環境・生態】 林縁に生える常緑低木</p> <p>【現状】 発見当時から変化なし。</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方南部、中部地方南部、石川県、近畿地方以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 三浦●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>										

絶滅			
コウスノキ <i>Vaccinium hirtum</i> Thunb.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 『神植目33』『神植誌58』『宮代目録』に塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳の記録があるが、標本は確認されていない。基準産地は箱根となっており、Thunbergの標本がコウスノキであることは小泉(1941)が報告し、その標本が勝山ほか(2013)により再確認された。しかし、『神植誌88』以後の調査でも採集されていないため、絶滅と判定した。		<b>【国内分布】</b> 北海道、本州(岩手県～近畿地方の主に太平洋側)、四国	
<b>【生育環境・生態】</b> 林縁や日当たりの良い岩地に生える落葉低木		<b>【県内分布】</b> —	
<b>【現状】</b> —		<b>【存続を脅かす要因】</b> —	
		<b>【特記事項】</b> 基準産地は箱根だが、Thunberg(1784)には箱根のほか、京都～江戸間の記述もあり、この標本が箱根で採集されたかどうかは不明である。	
		<b>【文献等】</b> 小泉源一, 1941. <i>Vaccinium hirtum</i> Thunb. 植物分類地理, 10: 220; 勝山輝男・田中徳久・大西 亘, 2013, ツェンペリーの日本植物誌に記録された箱根産植物. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (42): 35-62; Thunberg, C.P., 1784. Flora Japonica. 418 pp. Lipsiae.	

準絶滅危惧			
ナツハゼ <i>Vaccinium oldhamii</i> Miq.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 7 調査区の 17 個の 3次メッシュで確認された。『神RDB06』では調査区単位での減少により絶滅危惧Ⅱ類とされたが、『神植誌18』の調査では相模原市内に新たな産地が見つかった。しかし、川崎市や横浜市では減少しており、横浜市では 1995年以降確認されていない。このため、準絶滅危惧と判定した。		<b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州	
<b>【生育環境・生態】</b> 山地の日当たりのよい酸性土に生える落葉低木		<b>【県内分布】</b> 鶴見△・旭○・青葉○・多摩●・麻生●・城山●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●	
<b>【現状】</b> —		<b>【存続を脅かす要因】</b> 土地造成	

絶滅			
オオバノヨツバムグラ <i>Galium kamtschaticum</i> Steller ex Roem. & Schult. var. <i>acutifolium</i> H.Hara	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 A
	環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 1960年代に丹沢で採集された古い標本が残されているが、その後の調査では確認されていない。		<b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国	
<b>【生育環境・生態】</b> おもに亜高山の針葉樹林内に生える多年草。葉は4輪生し、楕円形で円頭突端、3脈が目立つ。		<b>【県内分布】</b> 清川-2△	
<b>【現状】</b> 丹沢のものは札掛一の沢考証林で採集されたもので、モミ林として保護されているが、林床はシカの影響で貧弱になっている。		<b>【存続を脅かす要因】</b> —	
		<b>【特記事項】</b> 丹沢の記録は大谷(1963)により報告されている。下の鶴見の標本は本種の生育環境から考えて自然分布とは思えない。 ・標本: 東丹沢札掛一の沢考証林 1962.5.20 YCM; 横浜市鶴見 1913.6 宮代周輔 YCB026420.	
		<b>【文献等】</b> 大谷 茂, 1963. 神奈川県産植物の報告(その4). 横博研報, (8): 96-102.	

アカネ科

絶滅危惧Ⅱ類		
<b>ヤブムグラ</b>	神奈川県	2006 絶滅危惧Ⅱ類
<i>Galium niewerthii</i> Franch. & Sav.		1995 減少種 G
	環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

**【判定理由】**  
10 調査区に現存し、調査区単位での減少はみられず、今回の判定基準では選外となる。しかし、全国的には市街化の著しい首都圏にのみ分布し、県内の産地はきわめて貴重なものであり、個体数も全国レベルでは多いとはいえないので絶滅危惧Ⅱ類に判定した。

**【生育環境・生態】**  
丘陵の樹林内に生える多年草。葉は4～5輪生し、茎、葉、果実などに逆刺はない。

**【現状】**  
横浜市北西部から藤沢市にかけての丘陵地のスギ植林内などに点々と見られる。

**【国内分布】**  
本州(東京都、神奈川県、千葉県)

**【県内分布】**  
保土ヶ谷◎・旭●・港北△・緑●・青葉●・都筑○・戸塚●・瀬谷●・多摩●・麻生●・津久井-5○・大和◎・藤沢-1●・藤沢-2●・茅ヶ崎-1●

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成、産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 市民の森などで緑地は保存されているが、種としては特に何もされていない。

アカネ科

絶滅危惧ⅠB類		
<b>ウスユキムグラ</b>	神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
<i>Galium shikokianum</i> Nakai		1995 絶滅危惧種 D
	環境省	2020 —

**【判定理由】**  
今回の調査では箱根の2 調査区の2 個の3次メッシュで確認された。

**【生育環境・生態】**  
山地の林縁や疎林内に生える多年草。草姿はヨツバムグラに似ているが、6～7月に径 2.5mmの白色漏斗状花を疎らにつけ、果実は無毛。

**【現状】**  
箱根駒ヶ岳～神山、二子山、三国山の明るい樹林内や林縁に点々と見られる。

**【国内分布】**  
本州(関東地方南部以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
箱根-2●・箱根-4●・箱根-5◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区

アカネ科

絶滅		
<b>ハナムグラ</b>	神奈川県	2006 絶滅
<i>Galium tokyoense</i> Makino		1995 絶滅種 B
	環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

**【判定理由】**  
『神植誌58』に記録があり、『宮代目録』には横浜、鎌倉、茅ヶ崎、平塚、の産地があげられ、1960年代に横浜市で採集された古い標本も残されているが、その後の調査では確認されていない。

**【生育環境・生態】**  
河川敷などの湿った草地に生える多年草。葉は4～6輪生し、茎や葉に逆刺があり、花序はやや密で白色の小さな花を多数つける。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州(関東地方、中部地方)

**【県内分布】**  
港北△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本: 横浜市港北区榎 1961.2 宮代周輔 YCB000582.

アカネ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
<b>ホソバノヨツバムグラ</b>			1995	減少種 G
<i>Galium trifidum</i> L. subsp. <i>columbianum</i> (Rydb.) Hulten		環境省	2020	—

【判定理由】  
箱根にのみ現存し、3調査区の4個の3次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、仙石原湿原とその周辺部には多産するので、1ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草。茎には逆刺があり、花は白色、果実は平滑。

【現状】  
箱根では仙石原湿原内には広く多産し、お玉ヶ池、精進池、芦川の小湿地などに少数が見られる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4○・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、仙石原は特別保護地区や天然記念物。  
・標本: 横浜市旭区桐ヶ作大池 1952.11.14 出口長男 KPM-NA0680380。

アカネ科

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
<b>イナモリソウ</b>			1995	絶滅危惧種 D
<i>Pseudopyxis depressa</i> Miq.		環境省	2020	—

【判定理由】  
4調査区の7か所で確認された。『神RDB06』では総個体数250株未満から絶滅危惧ⅠB類とされたが、今回の判定基準ではランクが下がった。

【生育環境・生態】  
山地樹林内の陰地に生える多年草。上部の2対の葉は接近して輪生葉に見え、花は紅紫色。

【現状】  
東丹沢山麓から小仏山地にかけて分布する。

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
城山●・津久井-5●・相模湖●・厚木-4○・清川-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

アカネ科

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
<b>オオキヌタソウ</b>			1995	減少種 G
<i>Rubia chinensis</i> Regel & Maack		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では2調査区の2か所で確認された。『神RDB06』では総個体数が50株未満と推定されたことから絶滅危惧ⅠA類とされたが、今回の判定基準では1ランク下がった。

【生育環境・生態】  
山地林内に生える多年草。アカネに似た葉をつけるが、茎は直立し、逆刺はない。

【現状】  
丹沢ではシカの採食圧により林床植生が衰退している。箱根では外輪山の風衝低木林内などに点在する。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
清川-1●・清川-2△・伊勢原-1△・大山△・秦野-3○・山北-6△・箱根-1●・箱根-2○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、国立公園、植生保護柵

## 絶滅危惧ⅠB類

## カギカズラ

*Uncaria rhynchophylla* (Miq.) Miq.

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
	1995	希少種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では2調査区の2か所で確認された。

## 【生育環境・生態】

シイ・カシ帯の樹林内や林縁に生える常緑のつる性木本。葉腋に短枝が変化した湾曲した鉤刺がある。

## 【現状】

生育地の現状に大きな変化はなく、周辺では幼木も観察される。

## 【国内分布】

本州(房総半島南部以西)、四国、九州

## 【県内分布】

湯河原-1●・湯河原-2●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 県立自然公園

## リンドウ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## コケリンドウ

*Gentiana squarrosa* Ledeb.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

15調査区で確認され、判定基準では選外となるが、いずれの産地でも個体数は少なく、丘陵部の調査区に限れば50%以上減少していると思われ、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

海岸から山地まで、芝地や湿った砂礫地などに生える越年草。根生葉はロゼット状で茎は基部で分枝し、萼片は先が反り返る。

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

保土ケ谷●・金沢◎・港北△・青葉●・戸塚△・栄○・瀬谷○・多摩◎・麻生●・横須賀-2△・三浦●・城ヶ島●・相模原-2◎・城山●・津久井-1◎・津久井-2◎・津久井-3△・藤野-1○・大和◎・座間○・厚木-3●・厚木-4●・大山△・秦野-1●・秦野-3●・秦野-4●・秦野-5●・茅ヶ崎-1△・茅ヶ崎-2△・寒川△・大磯△・小田原-3△・南足柄-3○・山北-3●・山北-6△・箱根-1●・箱根-2○・箱根-4◎・箱根-5△・箱根-6●・湯河原-1◎

## 【存続を脅かす要因】

自然遷移、土地造成

## リンドウ科

## 絶滅危惧Ⅱ類

## ハナイカリ

*Halenia corniculata* (L.) Cornaz

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

丹沢山地の4調査区の5か所で確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、今回の調査では丹沢の高標高地での調査が不十分であったこと、シカの影響をあまり受けていないことから1ランク下げて判定した。

## 【生育環境・生態】

山地の草原に生える越年草。花は淡黄色の4弁花で花冠裂片の基部に距がある。

## 【現状】

県内では丹沢の標高1,200m以上の風衝地のミヤマクマザサの間に点々と見られる。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

相模原-4○・津久井-1●・津久井-2●・清川-1●・秦野-1●・山北-1○・山北-3◎

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、シカ影響

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園特別保護地区

絶滅危惧 I B 類												
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ホソバツルリンドウ</div> <p><i>Pterygocalyx volubilis</i> Maxim.</p> <p>【判定理由】 丹沢山地の 2 調査区の 3 か所で確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 山地に生えるつる性の一年草。ツルリンドウに似るが、萼や花弁は4裂し、果実はさく果。</p> <p>【現状】 丹沢のブナ帯のガレ場や林縁に点々と見られるが、発生地は安定していない。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国</p> <p>【県内分布】 津久井-1△・津久井-3●・清川-1○・山北-1●・山北-3○・山北-6◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、治山工事</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	希少種	環境省	2020	絶滅危惧 II 類		
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類										
	1995	希少種										
環境省	2020	絶滅危惧 II 類										

絶滅危惧 I B 類												
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ムラサキセンブリ</div> <p><i>Swertia pseudochinensis</i> H.Hara</p> <p>【判定理由】 2 調査区の 2 か所で確認された。『神RDB06』では個体数が 50 株未満と推定され絶滅危惧 I A 類とされたが、山北町でも確認されたことから、今回の判定基準では絶滅危惧 I B 類にランクが下がった。</p> <p>【生育環境・生態】 山野の草地に生える一年～越年草。葉は広披針形で漸尖頭。花冠は紫色。</p> <p>【現状】 三浦市の産地は年々周囲の藪が深くなり、生育適地が狭くなりつつある。</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 逗子△・三浦●・山北-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、自然遷移、産地局限</p> <p>【特記事項】 ・標本: 三浦市 1980.11.20 鈴木一喜 YCM-V014496; 神武寺 1953.10.10 宮代周輔 YCB107038; 山北 2005.10.21 村上雄秀 KPM-NA0125387.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">準絶滅危惧</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	準絶滅危惧		
神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類										
	1995	絶滅危惧種 E										
環境省	2020	準絶滅危惧										

絶滅危惧 I B 類												
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">イヌセンブリ</div> <p><i>Swertia tosaensis</i> Makino</p> <p>【判定理由】 2 調査区の 2 個の 3次メッシュで現存が確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 山野の湿地に生える1～越年草。葉は広披針形で鋭頭または鈍頭。花冠は白色で紫色の筋があり、蜜腺溝の縁の毛はセンブリよりも長い。</p> <p>【現状】 仙石原ではススキ草原内の湿った半裸地に生育し、アリノトウグサ、アシタカマツムシソウ、ヒメシオンなどが同所に生える。横浜市の産地は緑地として保存され、管理者により生育環境が維持されている。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 栄●・川崎△・箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、自然遷移</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 箱根仙石原は国立公園特別保護地区内 ・標本: 川崎市 1957.11.2 YCM-V014463.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	絶滅危惧 II 類		
神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類										
	1995	絶滅危惧種 E										
環境省	2020	絶滅危惧 II 類										

マチン科

絶滅			
ヒメナエ <i>Mitrasacme indica</i> Wight	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
【判定理由】 県内では、文献上の記録も、採集された標本も知られていなかったが、過去に採集された標本が確認されたため、新たに絶滅と判定した。	【国内分布】 本州、四国、九州、琉球		
【生育環境・生態】 湿地に生える一年草	【県内分布】 藤沢-3△		
【現状】 —	【存続を脅かす要因】 —		
	【特記事項】 ・標本：藤沢(鶴沼) 1921.8 宮代周輔 YCB110421.		

マチン科

絶滅危惧Ⅱ類			
アイナエ <i>Mitrasacme pygmaea</i> R.Br.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—
【判定理由】 5 調査区で確認され、新たな生育地が見出されていることもあり、減少率も判定基準外であるが、採集地数が6か所と少ないため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。	【国内分布】 本州、四国、九州、琉球		
【生育環境・生態】 湿地に生える一年草	【県内分布】 鶴見○・南◎・都筑○・麻生●・逗子◎・城山●・津久井-4●・津久井-5●・大和◎・厚木-1△・箱根-2●・箱根-5△		
【現状】 —	【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成		
	【特記事項】 『神植誌18』によると、一部は国内帰化の可能性がある。		

キョウチクトウ科

絶滅			
チョウジソウ <i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. & Schult.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 A
	環境省	2020	準絶滅危惧
【判定理由】 確認された調査区がないため、絶滅と判定した。	【国内分布】 北海道、本州、四国、九州		
【生育環境・生態】 川岸や湿地に生える多年草	【県内分布】 栄△・鎌倉-1△		
【現状】 —	【存続を脅かす要因】 —		
	【特記事項】 植栽と思われる標本が採集されているが、下記の標本は自生と考えても良いと判断した。 ・標本：Yokoska 1866-1874 Savatier-836 P03521656；横浜栄(本郷) 1951.5.5 宮代周輔 YCB046728；相模国鎌倉郡大船付近 1915.7.3 鈴木茂一 OIS.		

絶滅危惧 I A 類				
<b>サカキカズラ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	—
<i>Anodendron affine</i> (Hook. & Arn.) Druce		環境省	2020	—
【判定理由】 1 調査区で確認され、採集地数は 1 か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。	【国内分布】 本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球	【県内分布】 横須賀-1●	【存続を脅かす要因】 産地局限	
【生育環境・生態】 常緑のつる性木本				
【現状】 横須賀市猿島に数株があるのみである。				

絶滅危惧 II 類				
<b>コイケマ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Cynanchum wilfordii</i> (Maxim.) Hemsl.		環境省	2020	—
【判定理由】 9 調査区で確認されたが、調査区の減少率が 35.7%であるため、絶滅危惧 II 類と判定した。	【国内分布】 本州、四国、九州	【県内分布】 鶴見△・中○・金沢◎・鎌倉-1○・鎌倉-2○・逗子△・相模原-1◎・城山●・相模湖●・藤野-1◎・藤野-2●・厚木-3●・厚木-4●・厚木-5●・愛川○・伊勢原-1●・伊勢原-2◎・伊勢原-3●・秦野-2◎・茅ヶ崎-1△・平塚-1◎・大磯◎・二宮○・小田原-3●・中井○・大井○・松田◎	【存続を脅かす要因】 草地開発、自然遷移、土地造成	
【生育環境・生態】 林縁や明るい草地に生えるつる植物				
【現状】 —				

絶滅危惧 I B 類				
<b>シタキシソウ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Jasminanthes mucronata</i> (Blanco) W.D.Stevens & P.T.Li		環境省	2020	—
【判定理由】 県内では、文献上の記録も、採集された標本も知られていなかったが、2 調査区で確認され、採集地数が 2 か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。	【国内分布】 本州(千葉県以西の太平洋側)、四国、九州、琉球	【県内分布】 葉山●・三浦●	【存続を脅かす要因】 産地局限、海岸開発	
【生育環境・生態】 海岸近くの山林内や林縁に生えるつる性の木本				
【現状】 —	【特記事項】 県内ではこれまで記録がなかったが、『神植誌18』の調査で新たに確認された。			

## 情報不足

## クサタチバナ

*Vincetoxicum acuminatum* Decne.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	準絶滅危惧

## 【判定理由】

文献上の記録があり、『神RDB95』や『神RDB06』では絶滅種とされたが、いまだ標本は確認されておらず、『神植誌18』などでは、「山梨県の大月市周辺には現在も多数生育しており、今後、隣接地の津久井等で確認される可能性はあると思う」とし、参考種とされているため、それに従い、情報不足と判定した。

## 【生育環境・生態】

明るい樹林内に生える多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州(関東、中部、近畿)

## 【県内分布】

不明

## 【存続を脅かす要因】

—

## 絶滅危惧 I B 類

## フナバラソウ

*Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren & Decne.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	減少種 G
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

## 【判定理由】

『神RDB06』では、1986年以降には採集記録がなく、採集地を何度か訪れたが再確認できず、絶滅が危惧されるため、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、現存が確認された。2調査区で確認され、採集地数が2か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

明るい林内や草地などに生える多年草

## 【現状】

箱根ではススキに埋もれるように生育している。ススキ草原や湿原を維持するための管理が行われており、ボランティアにより見守られている。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

相模原-2△・津久井-5●・厚木-1△・清川-3△・箱根-1●・湯河原-2○

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

文献上の記録からは、かつては県内に広く分布していたものと思われる。

・保護の現状:箱根は国立公園特別保護地区内

## 絶滅危惧 I B 類

## コカモメヅル

*Vincetoxicum floribundum* (Miq.) Franch. & Sav.

神奈川県	2006	消息不明種
	1995	消息不明種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神RDB06』では、消息不明種とされたが、『神植誌18』の調査で標本が採集された。2調査区で確認され、採集地数は2か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

明るい湿性草地に生えるつる性の多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

津久井-5●・清川-2●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

## 【特記事項】

・保護の現状:一部の産地は国立公園

絶滅危惧ⅠA類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
ツルガシワ <i>Vincetoxicum macrophyllum</i> Siebold & Zucc. var. <i>nikoense</i> Maxim.			1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
確認された調査区はないが、過去に記録された西丹沢の大棚の頭の生育地は現存すると考え、採集地数を1か所とし、絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える多年草

【現状】  
『神RDB06』から変化なし。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
山北-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
スズサイコ <i>Vincetoxicum pycnostelma</i> Kitag.			1995	—
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では、絶滅危惧ⅠB類と判定されたが、14調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるために減少率も判定基準外である。しかし、生育立地である草地環境は、県内では壊滅的な状況にもあるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
明るいやや乾いた草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球(久米島)

【県内分布】  
保土ヶ谷△・旭△・緑●・都筑●・栄○・多摩○・麻生○・横須賀-1●・鎌倉-1△・鎌倉-2△・城山●・津久井-5○・藤野-1●・藤野-2◎・厚木-1●・愛川●・清川-3△・秦野-5○・平塚-1◎・大磯●・山北-5●・箱根-1●・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
草地開発、自然遷移、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 一部は国立公園や県立自然公園

〈📷写真あり: 口絵5〉

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
サワルリソウ <i>Ancistrocarya japonica</i> Maxim.			1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では調査区が29%減少したことから絶滅危惧Ⅱ類とされた。今回の調査では4調査区の4か所の確認にとどまり、判定基準では絶滅危惧ⅠB類になるが、『神植誌88』との比較で調査区単位の減少がみられなかったことから、前回同様に絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が限定的で、個体数が少ない点が脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
樹林内に生える多年草

【現状】  
丹沢と箱根に分布しているが少ない。箱根では2000年以降に確認されておらず、近年ではシカによる採食の影響も懸念される。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-4◎・清川-1●・清川-2●・南足柄-3○・山北-1◎・山北-2◎・山北-4●・山北-6△・山北-7●・箱根-1◎・箱根-4◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林衰退

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

ムラサキ科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">スナビキソウ</div> <p><i>Heliotropium japonicum</i> A.Gray</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 現存するのは三浦市の1調査区の4か所に限られ、調査区単位で80%の減少があることから絶滅危惧 I A 類と判定した。生育地が局在しており、個体数も限られる点に脆弱性がある。特に海岸整備や海岸侵食による消失が懸念される。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 適度に攪乱のある砂浜や砂礫の海浜の前面に生える海岸の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 古い標本では、茅ヶ崎市、藤沢市、葉山町、横須賀市、三浦市に記録があるが、現在は三浦市の一部を除き、生育は確認されていない。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 横須賀-4○・葉山△・三浦●・藤沢-3○・江ノ島○・茅ヶ崎-2○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、踏みつけ、海岸開発</p> <p>☒写真あり: 口絵5)</p>								

ムラサキ科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ムラサキ</div> <p><i>Lithospermum murasaki</i> Siebold</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I B 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 I B 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	絶滅危惧 I B 類							
<p><b>【判定理由】</b> 文献によると、かつては丹沢や箱根の草原に点在し、山麓や丘陵地にもあったとされるが、1988年に相模原市で採集された標本を最後に以降の生育は確認されていない。今回は絶滅危惧 I A 類と判定したが、事実上絶滅したものと考えられる。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地の草原に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1△・津久井-5○・藤野-1△・藤野-2○・清川-3△・秦野-2△・秦野-4△・茅ヶ崎-2○・南足柄-1○・山北-1○・山北-2△・山北-7△・箱根-6△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、管理放棄、産地局限、過剰採取</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本: 津久井郡藤野町石老山 1988.5.26 浜中義治 KPM-NA1100097.</p>								

ムラサキ科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ルリソウ</div> <p><i>Nihon krameri</i> (Franch. &amp; Sav.) A.Otero, Jim.Mejías, Valcárcel &amp; P.Vargas</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区の1か所のみで確認され、調査区単位で80%減少した。分布が局在し、生育環境の変化が継続している点に脆弱性がある。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 明るい落葉広葉樹林内に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 県内では横浜市北部の丘陵地と丹沢山地の東部低山地に分布し、明るい落葉樹林内に生育する。近年は減少傾向にあり、2000年以降に確認されたのは横浜市の1か所のみである。樹木の積極的管理がなされなくなることによって、樹木の成長や大木の枯死に伴う林床の光環境が変化し、生育に適した環境が失われつつあることが懸念される。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北)</p> <p><b>【県内分布】</b> 保土ヶ谷△・旭△・緑●・青葉△・瀬谷○・津久井-4○・大和○・清川-2○</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 土地造成、産地局限</p> <p>☒写真あり: 口絵5)</p>								

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
ミズタバコ	<i>Trigonotis brevipes</i> (Maxim.) Maxim. ex Hemsl.	神奈川県	1995	希少種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では4調査区の5個の3次メッシュで確認されたが、箱根地域では安定して生育が確認され、調査区単位の減少が見られなかったことから1ランク下げ、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が限定的で、個体数が少ない点、シカの採食による影響が懸念される点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
山地の溪畔の湿った林床に生える多年草

【現状】  
箱根と丹沢山地の大周りに分布する。近年ではシカによる採食の影響も懸念される。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
相模湖△・伊勢原-1○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4△・箱根-5●・湯河原-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

## ヒルガオ科

絶滅		神奈川県	2006	—
マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	絶滅危惧ⅠA類

【判定理由】  
かつて畑作物に害を及ぼす雑草として全国に知られたが、現在はほとんど見られない希な植物となった。県内でも鶴見区などで古い記録があるものの、これ以降記録はないことから絶滅と判断した。

【生育環境・生態】  
畑地の作物に寄生するつる性一年草

【現状】  
近年の確認記録はない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鶴見△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
山梨県では現在も少数が現存する。  
・標本: 横浜市 1939.9 宮代周輔 YCB040527; 鶴見区 1956.9 宮代周輔 YCB020524.

## ナス科

準絶滅危惧		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
ヤマホオズキ	<i>Archiphysalis chamaesarachoides</i> (Makino) Kuang	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

【判定理由】  
『神RDB06』では葉山、逗子、横須賀、山北、城山の5調査区で1,000株未満と推定されて絶滅危惧Ⅱ類と判定された。今回の調査では小仏山地～東丹沢山麓にかけて新しい産地が見つかり、11調査区で確認されたため、準絶滅危惧とした。

【生育環境・生態】  
湿った樹林内に生える多年草。全体に軟弱で無毛。果実を包む萼は稜が肥厚し、そこに刺状の突起がある。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(千葉県以西)、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-1○・逗子●・葉山●・三浦○・相模原-2●・城山●・津久井-5●・相模湖●・藤野-2●・厚木-1●・厚木-3●・愛川●・清川-3●・山北-8○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、森林伐採

【特記事項】  
・保護の現状: 一部の産地は国定公園や県立自然公園内

## 絶滅危惧Ⅱ類

## アオホオズキ

*Physalistrum japonicum* (Franch. & Sav.) Honda

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

今回の調査では9調査区で確認され、『神植誌88』との比較で、調査区単位約40%の減少があり、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

湿った樹林内に生える多年草。果実を包む萼は果実に密着し、刺状の突起は目立たない。

## 【現状】

丹沢ではシカの影響で林床植物が衰退しているが、箱根でもしだいにシカの影響が強くなり、本種の生育環境は悪化しつつある。

## 【国内分布】

本州(関東地方南部～紀伊半島)

## 【県内分布】

津久井-1◎・津久井-2○・津久井-3●・清川-1●・清川-2△・大山○・秦野-1●・南足柄-2○・山北-1○・山北-2●・山北-3◎・山北-5●・山北-6○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5●・箱根-6◎・湯河原-1◎

## 【存続を脅かす要因】

シカ影響、森林伐採

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園または国定公園

## 準絶滅危惧

## ハシリドコロ

*Scopolia japonica* Maxim.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では小仏山地から丹沢北麓にかけて新しい産地が見つかり4調査区の5か所で確認された。判定基準では絶滅危惧Ⅱ類であるが、秦野-3も現存の可能性が高く、調査区単位での減少はないので準絶滅危惧と判定した。

## 【生育環境・生態】

湿った樹林内に生える多年草。横にはった太い地下茎がある。4～5月に長さ2cmくらいの暗紫色の鐘形花をつける。

## 【現状】

有毒植物でシカの影響を受けないために増加傾向と思われる。

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

津久井-3●・津久井-4●・藤野-1●・清川-2●・秦野-3◎

## 【存続を脅かす要因】

森林伐採

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

## 絶滅危惧Ⅱ類

## ミヤマアオダモ

*Fraxinus apertisquamifera* H.Hara

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	希少種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

5調査区の7個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』では、個体数は50個体未満と推定され、定量的要件Dより絶滅危惧ⅠA類と判定された。『神植誌18』の調査では新たな産地が見つかったため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯に生える落葉小高木

## 【現状】

丹沢では5か所程度の生育地があり、合計で50個体以上はであると報告されている(田村, 2007)。

## 【国内分布】

本州(中部)、四国

## 【県内分布】

津久井-1●・津久井-2●・清川-1●・山北-2●・山北-3●

## 【存続を脅かす要因】

シカ影響、産地局限

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園(一部は特別保護地区内)、植生保護柵

## 【文献等】

田村 淳, 2007. 神奈川県絶滅危惧ⅠA類のミヤマアオダモの分布. FK, (64): 790-791.

準絶滅危惧									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>ミウライボタ</b></div> <p><i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne. var. <i>epile</i> Ohwi</p> <p>【判定理由】 4 調査区の 5 個の 3 次メッシュで確認された。『神植誌18』の調査の採集地点数は 5 か所であるが、ミウライボタは近縁種と形質が連続的であり、採集にあたって近縁種と区別されず採集地点数が少なくなったと考えられるため、準絶滅危惧と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 低地の丘陵に生える低木</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 神奈川県、千葉県</p> <p>【県内分布】 鶴見○・西○・南○・磯子●・金沢○・横須賀-1●・横須賀-5○・鎌倉-1○・鎌倉-2○・逗子○・葉山●・三浦●</p> <p>【存続を脅かす要因】 不明</p> <p>【特記事項】 生態的なデータの蓄積も不十分である。</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

オオバコ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>サワトウガラシ</b></div> <p><i>Deinostema violaceum</i> (Maxim.) T.Yamaz.</p> <p>【判定理由】 『神RDB06』では 1985 年以後 20 年再発見できなかったことから絶滅とされたが、その後の調査で 7 調査区で確認された。調査区単位での減少はないので、判定基準では選外となるが、絶滅種の再発見でもあり、安定した生育状況とはいえないので絶滅危惧Ⅱ類として残した。</p> <p>【生育環境・生態】 水田や湿地に生える小型の一年草。葉は対生し、線状披針形で1主脈が顕著、花冠は紅紫色で長さ 5～6mm。</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 旭○・麻生○・城山○・相模湖●・愛川●・小田原-2●・小田原-3●・南足柄-1●・南足柄-3●・大井●</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、水田の畑地化</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

オオバコ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<div style="background-color: #f2f2f2; padding: 2px;"><b>シソクサ</b></div> <p><i>Limnophila aromatica</i> (Lam.) Merr.</p> <p>【判定理由】 今回の調査では 4 調査区の 7 個の 3 次メッシュで確認された。『神RDB06』では藤沢市など 2 調査区で 250 株未満と推定され、絶滅危惧ⅠB類とされたが、今回の調査では南足柄市などで新産地も見つかり 1 ランク下がった。</p> <p>【生育環境・生態】 水田に生える一年草。葉に腺点があり、シソの香りがする。</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 鶴見△・南△・旭○・緑●・高津△・多摩△・逗子△・相模原-2○・藤沢-1●・藤沢-2●・南足柄-3●</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、水田の畑地化</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

準絶滅危惧

キクモ

*Limnophila sessiliflora* (Vahl) Blume

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

13 調査区で現存が確認され、判定基準では選外となるが、横浜市北部や川崎市では『神植誌88』以後の確認がない調査区が多くあるので準絶滅危惧と判定して今後注視したい。

【生育環境・生態】

水田に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球

【県内分布】

鶴見△・保土ヶ谷△・旭○・港北△・緑○・青葉○・都筑○・戸塚●・瀬谷○・高津△・多摩△・麻生○・逗子●・葉山○・相模原-1○・相模原-2○・相模原-4△・城山○・座間○・海老名●・厚木-5●・伊勢原-2○・伊勢原-3○・秦野-5●・藤沢-1○・藤沢-2●・藤沢-3△・茅ヶ崎-1●・茅ヶ崎-2●・平塚-2●・小田原-2●・小田原-3●・大井●・開成●

【存続を脅かす要因】

土地造成、水田の畑地化

絶滅危惧 I B 類

ウンラン

*Linaria japonica* Miq.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

【判定理由】

『神植目33』や『神植誌58』には掲載されているが、具体的な産地は示されていない。『神植誌88』では湘南海岸で採集されたものはハマニンニクの植栽に伴って持ち込まれた可能性が高いとされたが、その根拠は示されていない。

1989年に三浦市で自生と思われるものが採集され、『神RDB95』では三浦市のものに限って絶滅危惧種、『神RDB06』では絶滅危惧 I A 類とされた。『神植誌01』や『神植誌18』ではウンランは自生種とされた。ここでは暫定的に湘南海岸のものも自生として、2 調査区の 5 か所で現存確認から絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】

海岸の砂地に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州(千葉県以北の太平洋沿岸、日本海沿岸、瀬戸内海)

【県内分布】

三浦○・藤沢-3○・茅ヶ崎-2●・平塚-3●・二宮○

【存続を脅かす要因】

産地局限、海岸浸食、踏みつけ

【特記事項】

・標本: 三浦市和田 1989.7.22 山内好孝 YCM-V066281.

絶滅危惧 II 類

トウオオバコ

*Plantago japonica* Franch. & Sav.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

今回の調査では 7 調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位 45%減少した。

【生育環境・生態】

海岸付近の草地や河川敷に生える多年草。オオバコよりも大型で高さ 50cm~1mになる。

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

鶴見○・西○・中△・南△・金沢△・川崎●・横須賀-2●・横須賀-3○・横須賀-4●・横須賀-5●・鎌倉-1○・葉山△・三浦●・城ヶ島●・江ノ島●・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2△・寒川○

【存続を脅かす要因】

海岸開発、海岸浸食、踏みつけ

絶滅危惧Ⅱ類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">イヌノフグリ</div> <p><i>Veronica polita</i> Fr. subsp. <i>lilacina</i> (T.Yamaz.) T.Yamaz.</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では調査区単位で70%減少していたため絶滅危惧ⅠB類とされた。今回の調査では10調査区で現存が確認されたため、ランクを下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 道端、草地、石垣などに生える越年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類	<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州、琉球</p> <p><b>【県内分布】</b> 保土ヶ谷△・金沢●・多摩△・麻生●・横須賀-1○・横須賀-2○・横須賀-4○・横須賀-5●・鎌倉-1○・鎌倉-2○・三浦●・城ヶ島●・相模原-4●・藤野-2○・大和●・座間○・海老名●・伊勢原-2●・二宮●・小田原-2○・山北-8○・中井○・松田○・真鶴△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 不明</p>	
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類								
	1995	—									
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類									

絶滅危惧ⅠA類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメトラノオ</div> <p><i>Veronica rotunda</i> Nakai var. <i>petiolata</i> (Nakai) Albach</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では3調査区で現存が確認され総個体数1,000株未満と推定され絶滅危惧Ⅱ類とされた。今回の調査で現存が確認されたのは1調査区の1個の3次メッシュに限られ、絶滅危惧ⅠA類に判定された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 草地や林縁に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> 仙石原湿原では安定して生育が見られるが、西丹沢の切通峠～高指山はシカの影響で消滅した可能性がある。かつては丘陵地の草地にも稀にみられた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類	1995	減少種 G	環境省	2020	—	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部地方、関東地方)</p> <p><b>【県内分布】</b> 旭△・麻生○・相模原-2△・山北-1○・山北-6△・箱根-1●・箱根-4△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、シカ影響、自然遷移</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園 ・標本: 横浜市旭区上川井 1953.8.18 出口長男 KPM-NA0080580; 川崎市麻生区黒川 1996.9.16 広沢 毅 KMM-SP103005.</p>	
神奈川県	2006		絶滅危惧Ⅱ類								
	1995	減少種 G									
環境省	2020	—									

絶滅危惧ⅠA類											
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">クガイソウ</div> <p><i>Veronicastrum japonicum</i> (Nakai) T.Yamaz.</p> <p><b>【判定理由】</b> 1調査区の1か所にのみに現存する。1985年まで丹沢山～蛭ヶ岳の尾根に分布していたが、シカの採食圧によって絶滅したと判断されていたが、2005年に植生保護柵内で復活が確認された。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 草原や林縁に生える多年草。葉は4～6枚が輪生し、茎頂の細長い総状花序に青紫色花を多数つける。シカに好まれ、最初に食べられてしまう。</p> <p><b>【現状】</b> 植生保護柵内にあり、周囲は腰あたりまでの草本や低木が密生している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種 A</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅種 A	環境省	2020	—	<p><b>【国内分布】</b> 本州</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1○・津久井-2●・箱根-5△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、シカ影響</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵</p> <p>📷写真あり: 口絵5)</p>	
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類								
	1995	絶滅種 A									
環境省	2020	—									

ゴマノハグサ科

絶滅危惧 I A 類		
<b>ゴマノハグサ</b>	神奈川県	2006 2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.		1995 —
	環境省	2020 絶滅危惧 II 類

**【判定理由】**  
1999年に大和市の1調査区で確認され、その場所は宅地造成により消滅した。その後、2013年に相模原の保存緑地内で2株が発見され、数年生育が確認されたが、現在は見られなくなった。1調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
草地や林縁に生える多年草

**【現状】**  
近年確認されていない調査区も多く、現状は不明。

**【国内分布】**  
本州、九州

**【県内分布】**  
鶴見△・旭△・港北○・青葉△・多摩◎・麻生◎・相模原-4●・大和◎・厚木-4△・藤沢-3○・湯河原-1○

**【存続を脅かす要因】**  
土地造成

ゴマノハグサ科

絶滅危惧 II 類		
<b>ヒナノウスツボ</b>	神奈川県	2006 —
<i>Scrophularia duplicatoserrata</i> (Miq.) Makino		1995 —
	環境省	2020 —

**【判定理由】**  
5調査区で記録されたが、調査区の減少率が44.4%のため、絶滅危惧 II 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の林床に生える多年草。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州(関東地方以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-2◎・藤野-1●・大山○・秦野-1○・山北-1○・山北-2○・山北-3△・山北-5◎・山北-6○・松田◎・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5△・箱根-6●・真鶴●・湯河原-1◎・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

ゴマノハグサ科

絶滅危惧 I B 類		
<b>サツキヒナノウスツボ</b>	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
<i>Scrophularia musashiensis</i> Bonati var. <i>musashiensis</i>		1995 絶滅危惧種 D
	環境省	2020 —

**【判定理由】**  
『神RDB06』では、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、新たに記録された生育地もある。2調査区で確認され、採集地数は2か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
沢沿いの湿った樹林内に生える多年草

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州(秩父～奥多摩の山地、栃木県、伊吹山地、福井県)

**【県内分布】**  
相模湖●・藤野-1●

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>イヌタヌキモ</b>			1995	減少種 H
<i>Utricularia australis</i> R.Br.		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
今回の調査時には2調査区の2か所で記録されたことから絶滅危惧 I B 類となった。分布と生育地が局在している点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
池や沼などの浅い水中に生える多年草

【現状】  
古い記録でタヌキモとされたものの多くは本種とされる。近年の記録のうち、愛川町のものは厚木市生育地からの移植由来とされる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
戸塚△・多摩△・麻生○・城山●・厚木-1●・藤沢-2◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移、土地造成

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>ミミカキグサ</b>			1995	絶滅種 A
<i>Utricularia bifida</i> L.		環境省	2020	—

【判定理由】  
藤沢市鶴沼にあったが1932年にはすでに絶滅(久内, 1932)、『神植誌58』には箱根・鶴沼(絶滅)の記録があり、箱根産の該当標本と思われるものが残されている。その後の確認はない。

【生育環境・生態】  
湿地の泥上に生える一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
藤沢-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 藤沢市鶴沼 1916.10.1 久内清孝 YCB604133; 箱根 1913.7.4 東京器械標本株式会社 ACM-PL022179.

【文献等】  
久内清孝, 1932. 亡ビ行ク湘南ノ鶴沼片瀬ヲ弔ウ. 植研, 8: 73.

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>ホザキノミミカキグサ</b>			1995	絶滅種 A
<i>Utricularia caerulea</i> L.		環境省	2020	—

【判定理由】  
藤沢市に古い記録(久内, 1932)があるが、1932年にはすでに絶滅したと記している。ただし、1942年の同地の標本が現在確認できる唯一かつ最後の標本記録である。

【生育環境・生態】  
湿地の泥上に生える一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
藤沢-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 藤沢市鶴沼 1942.7 宮代周輔 YCB112265ほか

【文献等】  
久内清孝, 1932. 亡ビ行ク湘南ノ鶴沼片瀬ヲ弔ウ. 植研, 8: 73.

絶滅危惧 I B 類

タヌキモ

*Utricularia japonica* Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

2 調査区の 2 か所で確認されたため絶滅危惧 I B 類に判定された。ただし、そのうちの 1 か所は持ち込まれた可能性があり、確実に自生といえるのは相模原市の 1 か所に限られる。分布と生育地が局在している点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

池や沼の浅い水中に生える多年草

【現状】

横浜市、二宮町でも近年の記録があるがこれらは過去に発見されていない産地で、持ち込まれた可能性が高いとされる。

【国内分布】

北海道、本州

【県内分布】

鶴見●・相模湖●・二宮◎

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

日本でタヌキモと同定されてきたものの多くはイヌタヌキモで、タヌキモの生育地の方が少ないという。県内の文献記録も標本が残されていないものは、どちらか判定できない。

絶滅危惧 I A 類

ムラサキミミカキグサ

*Utricularia uliginosa* Vahl

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】

1 調査区 1 か所にのみ現存し、個体数も少ない。分布と生育地が局在し、保全管理のもとで維持されている状況に脆弱性がある。

【生育環境・生態】

湿地の泥上に生える一年草

【現状】

箱根町仙石原に県内唯一の生育地が現存する。古くは藤沢市にも生育があったとされるが、1932年の報告(久内, 1932)ですでに絶滅したと記されている。

【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

【県内分布】

箱根-1◎

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地区

【文献等】

久内清孝, 1932. 亡ビ行ク湘南ノ鶴沼片瀬ヲ弔ウ. 植研, 8: 73.

絶滅

カイジンドウ

*Ajuga ciliata* Bunge var. *villosior* A.Gray ex Nakai

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 B
環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】

確認された調査区がないため、絶滅と判定した。県内では『神植目33』で横浜、橘樹、都筑、金沢、高座(大沢)、伊勢原、『神植誌58』で横浜、伊勢原、箱根等で記録があり、1924~1953年に横浜市の鶴見区、旭区で採集されているがそれ以降確認されておらず、生育地からすると現存している可能性は無いと考えられる。

【生育環境・生態】

山地のやや乾いた明るい林床に生える多年草

【現状】

—

【国内分布】

北海道、本州、九州

【県内分布】

鶴見△・旭△

【存続を脅かす要因】

—

【特記事項】

・標本: 横浜市鶴見区二ツ池 1948.5.5 米田定弘 KPM-NA0080711; 横浜市旭区川島町 1924.4.24 下山アイ KPM-NA0080712; 横浜市旭区上川井 1953.4.26 出口長男 KPM-NA0080718; 横浜市旭区川島町 1952.6. 内田光雄 KPM-NA0100935.

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
ヒイラギソウ <i>Ajuga incisa</i> Maxim.			1995	消息不明種
		環境省	2020	絶滅危惧 I B 類

【判定理由】  
『神RDB95』では消息不明種であったが、1935年の厚木産標本が確認されたことから『神RDB06』では絶滅と判定された。今回も確認された調査区がないため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の樹陰に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東、中部)

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:厚木 1935.7 採集者不明 NUH155.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ツルカコソウ <i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe & Tatew.			1995	絶滅危惧種 F
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神植目33』に横浜、津久井、金沢、高座(橋本、相原)、松田、『神植誌58』に横浜、津久井等と多くの産地記録があり、かつては県内に広く分布していたものと思われる。1980年代までは鎌倉市、藤沢市、平塚市、相模原市などで採集されていたが、その後は1999年に相模原市、2001年に横浜市瀬谷区で採集されただけである。今回の調査期間内には1調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い草原に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道(色丹島)、本州

【県内分布】  
鶴見△・旭△・瀬谷●・鎌倉-1○・相模原-2◎・藤沢-1○・藤沢-2○・平塚-1○

【存続を脅かす要因】  
土地造成、産地局限

準絶滅危惧		神奈川県	2006	—
ジャコウソウ <i>Chelonopsis moschata</i> Miq.			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
7調査区で確認され、新たな生育地が見出されていることもあり、減少率も判定基準外であるが、近年確認されていない生育地もあるため、準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
ブナ帯の湿った林内や林縁に生える多年草。

【現状】  
小仏山地では新産地が多数報告されたが、丹沢ではシカの影響により植生保護柵の外では開花株はほとんど見られなくなっている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1○・津久井-2●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・清川-1●・秦野-2◎・秦野-4●・山北-2○・山北-3●・山北-4◎・山北-6△・山北-7○・松田◎

【存続を脅かす要因】  
シカ影響、森林衰退

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園、県立自然公園、植生保護柵

シソ科

絶滅			
<b>アシタカジャコウソウ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Chelonopsis yagiharana</i> Hisauti & Matsuno		環境省	2020
【判定理由】 『箱根目58』に産地記載なしに登載され、金時山産の標本が残されている。また、箱根の湿生花園に植栽されているアシタカジャコウソウは金時山の南足柄側のものであるといわれる。その後、確認された調査区がないため、絶滅と判定した。	【国内分布】 本州(静岡県、山梨県)	【県内分布】 箱根-1△	絶滅
【生育環境・生態】 ブナ帯の山地樹林内に生える多年草	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 ・標本:箱根金時山 1921.8.22 Sawada TL.	—
【現状】 —			

シソ科

絶滅危惧 I B 類			
<b>シマクサギ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Clerodendrum izuinsulae</i> K.Inoue, M.Haseg. & Shiro Kobay.		環境省	2020
【判定理由】 『神RDB06』では三浦市と城ヶ島の2か所に個体数250未満から絶滅危惧 I B 類とされた。今回も2調査区で確認され、採集地数は5か所ほどであるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。	【国内分布】 伊豆諸島、三浦半島、伊豆半島須崎	【県内分布】 三浦●・城ヶ島●	絶滅危惧 I B 類
【生育環境・生態】 海岸近くの林縁に生える落葉小高木。クサギに似るが雄しべが短く、各部の毛も少ない。	【存続を脅かす要因】 産地局限		—
【現状】 『神RDB06』から変化なし。			—

シソ科

情報不足			
<b>ミヤマトウバナ</b>		神奈川県	2006 1995
<i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) H.Hara var. <i>sachalinense</i> (F.Schmidt) T.Yamaz. & Murata		環境省	2020
【判定理由】 『神RDB06』では、『神植誌01』で、北丹沢と箱根で採集された小さい個体が標本調査時に見出されたが、個体数や生育環境などの情報がないため、情報不足と判定された。その後、『神植誌18』では、これらの標本はイヌトウバナに同定変更されたが、ミヤマトウバナに似たものが採集された標本の中に散見されるとされているため、ここでも引き続き情報不足と判定した。	【国内分布】 北海道、本州(北部～中部)	【県内分布】 —	情報不足 消息不明種
【生育環境・生態】 山地樹林内に生える多年草	【存続を脅かす要因】 —	【特記事項】 類似種の標本も含めた再検討と、野外における実態調査が必要である。	—
【現状】 —			

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
<b>タカクマヒキオコシ</b>			1995	希少種
<i>Isodon shikokianus</i> (Makino) H.Hara var. <i>intermedius</i> (Kudō) Murata		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 『神RDB06』では、箱根仙石原に1,000株未満から絶滅危惧 II 類と判定された。3 調査区で確認され、採集地数は3 か所であるため、今回の判定基準では絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湿った樹林内や林縁に生える多年草</p> <p>【現状】 仙石原では変化なし。その他、2 調査区の2 か所で新たに確認されたが、いずれも個体数は少ない。</p>	<p>【国内分布】 本州(福島県以南の太平洋側)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 小田原-4●・箱根-1●・箱根-4●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、仙石原は特別保護地区</p>			

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>カメバヒキオコシ</b>			1995	絶滅危惧種 D
<i>Isodon umbrosus</i> (Maxim.) H.Hara var. <i>leucanthus</i> (Murai) K.Asano		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査期間には採集されなかったが、過去に記録された和田峠周辺の生育地は健在である。採集地数を1 か所とし、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯山地の樹林内や林縁に生える多年草</p> <p>【現状】 2019年に生育を確認している。</p>	<p>【国内分布】 本州(東北南部～中部東北部)</p> <p>【県内分布】 藤野-1◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園</p>			

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>キセワタ</b>			1995	—
<i>Leonurus macranthus</i> Maxim.		環境省	2020	絶滅危惧 II 類
<p>【判定理由】 4 調査区で確認され、採集地数は6 か所であるが、調査区の減少率が83.3%と高かったため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 草地に生える多年草</p> <p>【現状】 調査区単位の減少は『神RDB06』では67%であったが、今回は83.3%に悪化した。かつては丘陵の里草地などにも見られたが、最近では県西の山地で茅場が消失し、かなりの生育地が失われた。</p>	<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 南△・保土ヶ谷△・旭○・緑○・多摩△・横須賀-4△・鎌倉-1△・逗子◎・相模原-4△・津久井-3△・津久井-5●・相模湖●・藤野-1◎・藤野-2◎・座間○・厚木-1●・清川-1△・清川-3◎・伊勢原-1◎・伊勢原-2◎・伊勢原-3◎・秦野-1○・秦野-2●・秦野-3○・茅ヶ崎-1○・平塚-1◎・大磯○・二宮◎・小田原-1◎・小田原-2◎・南足柄-1◎・山北-1○・山北-6△・山北-8○・中井○・大井○・松田○・箱根-5△・湯河原-2◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、管理放棄</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県西部の山地は国立公園、国定公園、県立自然公園になっているが、丘陵地では特に保護されていない。</p>			

## 絶滅危惧 I B 類

## マネキグサ

*Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	準絶滅危惧

## 【判定理由】

3 調査区で確認され、採集地数は 4 か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

谷沿いの湿った樹林内や林縁に生える多年草

## 【現状】

『神RDB06』から変化なし。

## 【国内分布】

本州(埼玉県・神奈川県以西)、四国、九州

## 【県内分布】

横須賀-1●・横須賀-4◎・逗子●・葉山●・三浦◎

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、土地造成

## 【特記事項】

三浦半島の限られた地域に分布する。

◀写真あり: 口絵5▶

## 絶滅

## シロネ

*Lycopus lucidus* Turcz. ex Benth.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 B
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神植目33』『神植誌58』では産地を記載せずに掲載され、1940-1966年に採集された標本が残されている。その後、確認された調査区はないため、絶滅と判定した。

## 【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

鶴見△・港南△・港北△・横須賀-1△・三浦△・相模原-2△・平塚-3△・箱根-5△

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

・標本: 横浜鶴見(駒岡) 1952.9.23 宮代周輔 YCB012806  
ほか; 横浜港北(樽) 1957.9.26 宮代周輔 YCB012551ほか;  
横浜市南区日野~野庭~平戸 1956.8.5 長谷川義人  
YCM-V037514; 横須賀市阿部倉町 1966.7.21 小坂橋八千代  
YCM-V015234; 三浦市毘沙門 1961.6.4 西山清治  
YCM-V048748; 平塚(柳島) 1940.9.22 宮代周輔  
YCB117190; 麻溝村当麻 1934.8.23 金井茂 SCM021805;  
箱根町畑宿 1964.5.5 西山清治 YCM-V049337.

## 絶滅危惧 I B 類

## エゾシロネ

*Lycopus uniflorus* Michx.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	希少種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

2 調査区で確認され、採集地数は 2 か所であるため絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

## 【現状】

箱根仙石原(箱根-1)では変化なし。芦之湯(箱根-4)には 1980年代まで湿地が残されていたが、埋め立てられて湿性植物の大半が失われた。『神植誌18』調査で採集されたものは、排水の悪い立地にわずかに生き残ったもので、安定して生育できるとは思われない。

## 【国内分布】

北海道、本州、九州

## 【県内分布】

箱根-1●・箱根-4●

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【特記事項】

『神RDB06』では、「芦の湯の湿地は大半が埋め立てられ駐車場になったので、消滅したと思われる」とされたが、芦之湯では2010年、2016年に標本が採集されている。  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧Ⅱ類			
ラショウモンカズラ <i>Meehania urticifolia</i> (Miq.) Makino	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
4 調査区で確認され、採集地数は 8 か所であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地樹林内に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
港北●・津久井-3△・相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・清川-2○

【存続を脅かす要因】  
自然遷移

【特記事項】  
現地の状況や自生品であることの確認などが必要であるが、『神植誌18』刊行後、横浜市港北区で写真が撮影されている(田中, 2019)。

【文献等】  
田中徳久, 2019. 横浜のラショウモンカズラ. FK, (87): 1029-1030.

絶滅			
ヒメハッカ <i>Mentha japonica</i> (Miq.) Makino	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神植目33』『箱根目58』『神植誌58』『宮代目録』などの記録があり、横浜や相模原市で採集された標本があるが、その後の記録はない。確認された調査区がないため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
相模原-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:Yokohama 1904.9.14 K.Hisauchi TL.; 相模原市鹿沼台 1956.9.2 桐生 亮 SCM002379.

絶滅危惧Ⅱ類			
ヤマジソ <i>Mosla japonica</i> (Benth. ex Oliv.) Maxim.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
		1995	—
	環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神植誌88』が記録した表丹沢二ノ塔、箱根明神ヶ岳、湯河原幕山の 3 か所で再確認ができなかったため、『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類とされた。  
今回の調査では 7 調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるため減少率も判定基準外である。見分け方のポイントや生育環境の周知による成果であるが、生育地は不安定な立地であり個体数も多くないため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地～丘陵地の日当たりの良い裸地に生える一年草

【現状】  
冬季の凍結融解のために多年草が生育しにくい砂礫裸地に生え、小型の植物のため発見しにくい。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
相模原-4●・秦野-1●・秦野-3●・秦野-5△・南足柄-1●・南足柄-2△・山北-1●・箱根-2●・箱根-6●・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状:国立公園、国定公園

シソ科

絶滅危惧ⅠA類			
<b>ミズネコノオ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 B
<i>Pogostemon stellatus</i> (Lour.) Kuntze		環境省	2020 準絶滅危惧
<p>【判定理由】 『神植目33』は横浜、戸塚(汲沢)、『神植誌58』は横浜、鎌倉、平塚等を産地としてあげ、戸塚や平塚で採集された標本が残されているが、『神植誌88』『神植誌01』の調査では自生ものは発見されず、『神RDB06』では絶滅と判定された。今回の調査では、1 調査区で確認され、採集地数は1 か所であるため、絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯の沖積地～丘陵の水田や低湿地に生える一年草</p> <p>【現状】 南足柄市は現存する唯一の産地で、狩川沿いの水田に発生したもの。1991年に横浜市西区で採集された標本は、『神植誌01』や『神RDB06』には、「これらは土砂などとともに移入された国内帰化と考えられている」とある。</p>	<p>【国内分布】 本州(茨城県以西)、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 西◎・戸塚△・茅ヶ崎-2△・南足柄-3●・平塚-3△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・標本:横浜市西区浅間町1丁目 1991.9.20 吉川アサ子 KPM-NA1104148; 戸塚 1914.10. 松野重太郎 ACM-PL030023; 相模平塚 1905.9 牧野富太郎 MAK36025; 平塚 1950 宮代周輔 YCB117539ほか; 相模茅ヶ崎 1915 牧野富太郎 MAK38646.</p>		

シソ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ミヤマタムラソウ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Salvia lutescens</i> (Koidz.) Koidz. var. <i>crenata</i> (Makino) Murata		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 2 調査区で確認され、採集地数は2 か所であり、判定基準に従えば、絶滅危惧ⅠB類に判定されるが、古くに記録された生育地も大きな環境変化は受けておらず、現存すると考え、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の樹林内や林縁に生える多年草。ナツノタムラソウに似るが、頂小葉が広卵形で鈍頭または円頭、花冠は淡青色。</p> <p>【現状】 箱根金時山では金時神社からの沢沿いの登山道や外輪山尾根上に多く見られる。</p>	<p>【国内分布】 本州(埼玉県、神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県、福井県)</p> <p>【県内分布】 伊勢原-1△・小田原-1◎・山北-4●・山北-6○・箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:国立公園、国定公園、県立自然公園</p>		

シソ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ダンドタムラソウ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 希少種
<i>Salvia lutescens</i> (Koidz.) Koidz. var. <i>stolonifera</i> G.Nakai		環境省	2020 —
<p>【判定理由】 箱根から湯河原にかけての3 調査区の6 個の3次メッシュで確認され、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯～ブナ帯下部の山地樹林内に生える多年草</p> <p>【現状】 県内では分布域は狭いが、箱根西側外輪山の湖尻峠以南、芦ノ湖西岸、湯河原の千歳川・藤木川・新崎川の上流域では、樹林内の登山道沿いに多産する。</p>	<p>【国内分布】 本州(愛知県、静岡県、神奈川県)</p> <p>【県内分布】 小田原-4○・箱根-2●・湯河原-1●・湯河原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状:一部は国立公園や県立自然公園</p>		

絶滅危惧Ⅱ類			
ヒメナミキ <i>Scutellaria dependens</i> Maxim.	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
		1995	減少種 G
	環境省	2020	—

【判定理由】  
6 調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるために減少率も判定基準外であるが、失われた生育地もあり、個体数の減少や生育環境も悪化しているため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
明るい湿地に生える多年草

【現状】  
箱根では仙石原や駒ヶ岳山頂などに安定して生育するが、低地では生育環境の明るい湿地の減少が著しい。

【国内分布】  
北海道、本州、九州

【県内分布】  
旭△・相模原-1◎・相模原-3△・相模原-4△・海老名○・厚木-4●・寒川●・平塚-2●・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園

絶滅危惧ⅠB類			
シソバツナミソウ <i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz. var. <i>laeteviolacea</i>	神奈川県	2006	消息不明種
		1995	消息不明種
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では、消息不明種とされたが、『神植誌18』の調査で標本が採集された。3 調査区で確認され、採集地数が3 か所であるため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地のやや陰湿な林床に生える多年草。茎には上向きの軟毛のみが生えることでトウゴクシソバツナミと区別できる。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(福島県以西)、四国、九州

【県内分布】  
大和●・清川-2●・箱根-6●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
過去の文献記録のみがあり、『神植誌01』では参考種とされ、『神RDB06』では消息不明種とされたが、『神植誌18』の調査で標本が採集された。

絶滅危惧ⅠB類			
トウゴクシソバツナミ <i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz. var. <i>abbreviata</i> (H.Hara) H.Hara	神奈川県	2006	消息不明種
		1995	消息不明種
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では、消息不明種とされたが、『神植誌18』の調査で標本が採集された。4 調査区で確認され、採集地数が5 か所であるため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地に生える多年草。茎の開出毛は上に曲がった毛や直毛が多く、下に曲がる毛や短毛が混じることでシソバツナミと区別できる。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(福島県～中部地方)

【県内分布】  
津久井-2●・津久井-4●・清川-2●・秦野-4●

【存続を脅かす要因】  
産地極限

【特記事項】  
過去の文献記録のみがあり、『神植誌01』では参考種とされ、『神RDB06』では消息不明種とされたが、『神植誌18』の調査で標本が採集された。

〈📷写真あり: 口絵5〉

## 絶滅危惧Ⅱ類

## カリガネソウ

*Tripora divaricata* (Maxim.) P.D.Cantino

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	絶滅危惧種 D
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神RDB06』では葉山町、逗子市、三浦市の産地はいずれも10株未満の小集団で総個体数50株未満から絶滅危惧ⅠA類とされた。4調査区で確認され、採集地数は6か所であるため、今回の基準では絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

金沢△・横須賀-3△・鎌倉-1△・逗子◎・葉山●・三浦●・相模原-1●・大和●・大山△

## 【生育環境・生態】

山麓原野に生える多年草

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【現状】

—

## ハマウツボ科

## 絶滅

## ゴマクサ

*Centranthera cochinchinensis* (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

## 【判定理由】

『神植誌58』には藤沢市(片瀬)の海岸付近の湿地に産したが、開発によって絶滅したとあり、標本も残されている。その後、確認された調査区がないため、絶滅と判定した。

## 【国内分布】

本州(関東以西)、四国、九州、琉球

## 【県内分布】

藤沢-3△

## 【生育環境・生態】

湿地に生える多年草

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【現状】

—

## 【特記事項】

・標本:藤沢(鵠沼) 1921.8 宮代周輔 YCB108289.

## ハマウツボ科

## 絶滅危惧ⅠA類

## イズゴメグサ

*Euphrasia insignis* Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) T.Yamaz. var. *idzuensis* (Takeda) T.Yamaz.

神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
	1995	希少種
環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

## 【判定理由】

確認された調査区はないが、過去に記録された箱根の生育地は現存すると考え、採集地数を1か所とし、絶滅危惧ⅠA類と判定した。

## 【国内分布】

本州(東海、伊豆半島)

## 【県内分布】

箱根-5◎・湯河原-1◎

## 【生育環境・生態】

草原に生える一年草

## 【存続を脅かす要因】

産地局限

## 【現状】

2000年に箱根町のゴルフ場内で採集されたが、その後の調査は行われていない。

## 【特記事項】

・保護の現状:国立公園  
・標本:奥湯河原自然公園 1962.10.3 城川四郎 KPM-NA1021698; 箱根町 2000.6.20 高橋秀男・今村義郎 KPM-NA0119119.

ハマウツボ科

絶滅危惧 I A 類			
タチコゴメグサ <i>Euphrasia maximowiczii</i> Wettst.	神奈川県	2006	—
		1995	—
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB06』では、記録された調査区数も減少率も判定基準外であった。今回の調査では1調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。なお、調査区の減少率も66.7%で、著しく減少した。

【生育環境・生態】  
日当たりの良い草地に生える多年草

【現状】  
丹沢、箱根の両山地の風衝草原で確認されていたが、『神植誌18』では1か所で採集されたのみである。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
保土ヶ谷△・津久井-1◎・津久井-2△・藤野-1△・伊勢原-1△・秦野-1○・秦野-4△・南足柄-2△・山北-3△・山北-6△・箱根-5△・箱根-6●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

ハマウツボ科

絶滅			
ママコナ <i>Melampyrum roseum</i> Maxim.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌58』に箱根、塔ノ岳、『丹沢目録61』に塔ノ岳、幽神、世附を記録し、Savatier が箱根で採集した標本が、パリ自然史博物館に残されている。その後、確認されていないため、絶滅と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の乾いた林内に生える半寄生の一年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道(南部)、本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
これまで文献上の記録のほか、鎌倉で採集された栽培品を採集した可能性のある標本が知られていたが(田中・高橋, 2007)、箱根で採集された標本が確認された(田中ほか, 2015)。

【文献等】  
田中徳久・高橋秀男, 2007. 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物. 神自誌資, (28): 29-38; 田中徳久・大西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァチェが採集した植物標本に残る神奈川県絶滅植物. 神自誌資, (36): 11-20.

ハマウツボ科

絶滅危惧 I A 類			
クチナシグサ <i>Monochasma sheareri</i> (S.Moore) Maxim. ex Franch. & Sav.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
1調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定される。

【生育環境・生態】  
乾いた落葉樹林内や土手に生える半寄生の越年草

【現状】  
住宅地の土手の芝地に生え、今のところ安定している。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・二宮●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・標本: 鶴見 1959.9 宮代周輔 YCB047379.

【文献等】  
山本絢子, 1996. 二宮のクチナシグサ. FK, (43): 474.

ハマウツボ科

絶滅			
<b>ハマウツボ</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅危惧種 E
<i>Orobanche coerulescens</i> Stephan ex Willd.		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
1992年に平塚市で採集されたが、その場所は堤防工事で失われた。その後、確認された調査区がないため、絶滅と判定した。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【生育環境・生態】  
海岸や川原の砂地に生え、ヨモギ類に寄生する多年草。

【県内分布】  
鎌倉-1△・平塚-2◎

【現状】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
『神植誌18』では絶滅としながら、分布図には三浦市の産地が示されている。該当標本を再確認したところ、ヤセウツボであったので、ここでは分布から除いた。  
なお、真鶴の記録は松浦(1976)による記録であり、証拠標本は確認していない。ちなみに、山地型をオカウツボform. *nipponica* (Makino) Kitam.といい、おもにオトコヨモギに寄生する。

【文献等】  
松浦正郎, 1976. 真鶴半島の植物. 小田原市郷土文化館研究報告, (12): 1-34.

ハマウツボ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>シオガマギク</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>oppositifolia</i> (Miq.) T.Yamaz.		環境省	2020 —

【判定理由】  
9 調査区から確認されたが、調査区の減少率が 47.1%であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【国内分布】  
北海道(中部以南)、本州、四国、九州

【生育環境・生態】  
山地の草地に生える多年草。

【県内分布】  
鶴見△・瀬谷○・相模原-2△・相模原-3△・津久井-1◎・津久井-2●・津久井-3○・津久井-5○・藤野-1○・清川-1●・大山△・秦野-1●・秦野-4◎・秦野-5△・大磯△・南足柄-1●・南足柄-2△・山北-1●・山北-2○・山北-3●・山北-4○・山北-7○・松田○・箱根-1●・箱根-4◎・箱根-5△・箱根-6●・湯河原-1○・湯河原-2●

【現状】  
丹沢や箱根には産地が多かったことから、しばしば見かけますが、草地の減少やシカの影響などで減少傾向にある。

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
ここで示した大磯の産地は、位置情報が不足で、『神植誌18』の分布図には示されていない。

ハマウツボ科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ヒキヨモギ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Siphonostegia chinensis</i> Benth. ex Hook. & Arn.		環境省	2020 —

【判定理由】  
6 調査区で確認され、調査区の減少率が 45.5%であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【生育環境・生態】  
降水量の少ない地域の低山の乾いた草地に生える一年草

【県内分布】  
鶴見○・旭△・緑◎・栄◎・横須賀-4○・逗子△・三浦●・相模原-3○・相模原-4◎・藤野-1○・藤野-2●・海老名○・厚木-1○・厚木-2●・清川-2○・秦野-4△・茅ヶ崎-1●・大磯△・二宮△・小田原-1◎・大井●・湯河原-1●・湯河原-2○

【現状】  
—

【存続を脅かす要因】  
自然遷移

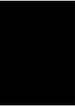
絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>オオヒキヨモギ</b></div> <p><i>Siphonostegia laeta</i> S.Moore</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							
<p><b>【判定理由】</b> 県内では、文献上の記録も、採集された標本も知られていなかったが、2009年に相模原市の1調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 降水量の少ない地域の低山の乾いた草地に生える一年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 関東、中京、近畿、中国、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 城山●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、産地局限</p>								

モチノキ科

絶滅危惧 I A 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>フウリンウメモドキ</b></div> <p><i>Ilex geniculata</i> Maxim.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">希少種</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	希少種	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	希少種							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 1 調査区の1個の3次メッシュで確認された。『神植誌88』の調査時(1982年)に南足柄市で採集されたのみで、『神植誌01』および『神植誌18』の調査で標本記録はなかったが、同じ場所で生育は確認されている。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 山地に生える落葉低木</p> <p><b>【現状】</b> 南足柄市では岩の多い急斜面の低木林に生育。2020年に付近で斜面崩壊が起こっており、その影響が心配される。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(東北地方南部の太平洋側から中国地方)、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 南足柄-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、岩場崩壊</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園特別保護地区</p>								

キキョウ科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px;"><b>フクシマシャジン</b></div> <p><i>Adenophora divaricata</i> Franch. &amp; Sav.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では、1995以後には採集記録がなく、絶滅が危惧されるため、絶滅危惧 I A 類と判定されたが、現存が確認された。2 調査区で確認され、採集地数は2か所であるため、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 丘陵地～山地にかけての明るい樹林内や草地に生える多年草</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州(中部以北)、四国</p> <p><b>【県内分布】</b> 津久井-1○・津久井-2△・津久井-3○・津久井-5●・相模湖●・藤野-1○・山北-6△・箱根-5△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、自然遷移、土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> 『神植誌88』の調査では相模原市などで採集されており、山北町で採集された古い標本もあり、かつては県北部に広く分布していたと思われる。 ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園</p>								



キキョウ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>ハマシヤジン</b> <i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.) A.DC. var. <i>glabra</i> (Makino) Kōta &amp; S. Matsumoto</p> <p>【判定理由】 『神RDB06』では、絶滅危惧ⅠB類と判定されたが、4調査区で確認され、採集地数は7か所であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 海岸の風衝草地に生える多年草。ツリガネニンジンの海岸型の変種で葉が厚く光沢がある。</p> <p>【現状】 『神RDB06』から変化なし。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 東京都(伊豆諸島)、千葉県、神奈川県、静岡県(伊豆半島)</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●・横須賀-4●・三浦●・城ヶ島●</p> <p>【存続を脅かす要因】 海岸開発、踏みつけ</p> <p>【特記事項】 ツリガネニンジンの海岸型で、マルバノハマシヤジンも含めた。</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類	1995	絶滅危惧種D	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠB類						
	1995	絶滅危惧種D							
環境省	2020	—							

キキョウ科

絶滅									
<p><b>シデシヤジン</b> <i>Asyneuma japonicum</i> (Miq.) Briq.</p> <p>【判定理由】 『箱根目58』に箱根、『横植誌68』に横浜市旭区二俣川、中尾、東希望ヶ丘、今宿に記録があり、『横植誌68』では口絵にカラー写真も載っている。その後の調査で、確認された調査区がないため、絶滅と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 丘陵地～山地のやや湿り気が多い草原や林縁、土手、畦に生える多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅種B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、九州</p> <p>【県内分布】 —</p> <p>【存続を脅かす要因】 —</p> <p>【特記事項】 ・標本: 横浜 1967 宮代周輔 YCB43498.</p>	神奈川県	2006	絶滅	1995	絶滅種B	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	絶滅種B							
環境省	2020	—							

キキョウ科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p><b>ツルギキョウ</b> <i>Codonopsis javanica</i> (Blume) Hook.f. &amp; Thomson subsp. <i>japonica</i> (Makino) Lammers</p> <p>【判定理由】 1994年に横須賀市で発見され、1か所の産地に50株未満から、『神RDB06』では絶滅危惧ⅠA類と判定された。今回は4調査区で確認され、採集地数は8か所であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。西山(1996)により神奈川県新産として、横須賀市に産することが報告されて以降、生育地が複数確認され、本判定とした。</p> <p>【生育環境・生態】 山地～丘陵地に生えるつる性の多年草</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州(関東以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 横須賀-1●・横須賀-2●・横須賀-4●・横須賀-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【文献等】 西山清治, 1996. 神奈川県新産の植物、ツルギキョウとヤマアイ. FK, (42): 453.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i> (Rupr. & Maxim.) Hemsl.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 F
		環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
『神RDB06』では、調査区単位で75%が失われ、個体数が50株未満と推定され、絶滅危惧ⅠA類と判定された。今回は5調査区で確認され、新たに記録された調査区もあるため減少率も判定基準外である。しかし、失われた生育地もあり、個体数の減少や生育環境も悪化している生育地もあるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
丘陵地～山地の林床や林縁に生えるつる性多年草

【現状】  
陣馬山では安定して生育が確認されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
保土ヶ谷△・港北△・青葉●・麻生◎・相模原-2△・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1 調査区で確認され、採集地数は1か所であるため、判定基準では絶滅危惧ⅠA類となるが、生育地には多数が生育するため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
丘陵地～山地の湿原に生える多年草

【現状】  
仙石原湿原は安定して生育している。横浜市上白根『横植誌68』や川崎市登戸(帝国女子医学薬学専門学校, 1932)の文献記録があり、前者は標本も残されている。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園特別保護地区  
・標本: 横浜市旭区上白根 1952.8.24 出口長男 KPM-NA0079463ほか

【文献等】  
帝国女子医学薬学専門学校, 1932. 武蔵登戸付近植物目録. 63+17 pp. 帝国女子医学薬学専門学校, 東京。

〈写真あり: 口絵6〉

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i> (Jacq.) A.DC.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 F
		環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
『神RDB06』では調査区単位で80%減少し、個体数も50株未満から、絶滅危惧ⅠA類と判定された。今回は新たに記録された生育地もあり、2調査区で確認され、採集地数は3か所であるため、絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
山野の明るい草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、奄美

【県内分布】  
西△・港北△・青葉○・瀬谷○・鎌倉-1△・逗子△・三浦△・相模原-1△・津久井-5●・藤野-1◎・藤野-2●・清川-2◎・茅ヶ崎-2△・大磯△

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、草地開発、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状: 県西産地のものは県立自然公園

## 絶滅危惧Ⅱ類

## ヒナギキョウ

*Wahlenbergia marginata* (Thunb.) A.DC.

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

4 調査区で確認され、採集地数は 6 か所であるため、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

## 【生育環境・生態】

海岸や河原の荒地に生える多年草。道ばたや土手、造成地など人為的に攪乱された環境にも生える。

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球、小笠原

## 【県内分布】

西◎・横須賀-1●・横須賀-3●・鎌倉-1●・逗子◎・相模原-2◎・津久井-5●・茅ヶ崎-2△・大磯△・湯河原-2○

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

ここで示した大磯の産地は、位置情報が不十分で、『神植誌18』の分布図には示されていない。

## ミツガシワ科

## 絶滅

## ミツガシワ

*Menyanthes trifoliata* L.

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	—

## 【判定理由】

『神植目33』と『神植誌58』は登戸を産地にあげているが証拠標本はない。その後の調査でも確認されていないため絶滅と判定した。

## 【生育環境・生態】

湿原や沼などに生える多年草

## 【現状】

横浜市の三溪園をはじめ公園等で生育しているものがあるがいずれも植栽と考えられる。

## 【国内分布】

北海道、本州、九州

## 【県内分布】

—

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

『神植誌18』では文献のみの記録であるが、絶滅と扱った。次の標本があるが、自生かどうかなど、確認する必要がある。ここでは『神RDB06』同様、絶滅とした。  
・標本: 太田村下平間(神奈川県伊勢原市) 1904.8. 鈴木善造 ACM-PL030317.

## ミツガシワ科

## 絶滅

## ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) Kuntze

神奈川県	2006	絶滅
	1995	絶滅種 A
環境省	2020	準絶滅危惧

## 【判定理由】

『神植目33』は川崎と厚木、『神植誌58』は稀(産地記載なし)とあるが、証拠標本は確認されていない。その後の調査でも確認はないため、絶滅と判定した。

## 【生育環境・生態】

池や沼に生える多年生の水草

## 【現状】

—

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

—

## 【存続を脅かす要因】

—

## 【特記事項】

文献記録のみで標本は確認されておらず、絶滅と判定するには情報不足であるが、『神植誌18』の扱いに従い、『神RDB06』の判定を踏襲した。

絶滅			
アサザ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 B
		環境省	2020 準絶滅危惧

【判定理由】  
『神植目33』は登戸と平塚、『神植誌58』は稀(産地記載なし)とあるが、標本は確認されていない。その後の調査でも、自生と思われるものは採集されていない。

【生育環境・生態】  
池や沼に生える多年生の水草

【現状】  
季節的な水位変動があり、また風で波が生じるような湖沼が本種の自生環境である。近年、川崎市と秦野市で標本が採集されているがいずれも植栽と考えられる。また、公園の池やビオトープに生育しているものがあるが、いずれも植栽と考えられる。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
文献記録のみで標本は確認されておらず、絶滅と判定するには情報不足であるが、『神植誌18』の扱いに従い、『神RDB06』の判定を踏襲した。

キク科

絶滅危惧 I B 類			
ヤマノギリソウ	<i>Achillea alpina</i> L. subsp. <i>alpina</i> var. <i>discoidea</i> (Regel) Kitam.	神奈川県	2006 絶滅危惧 I A 類
			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 —

【判定理由】  
『神RDB06』の調査時には再確認ができなかったため絶滅危惧 I A 類とされたが、今回の調査では箱根仙石原と西丹沢の 2 調査区の 2 か所で再確認され、ランクが一つ下がった。

【生育環境・生態】  
山地草原に生える多年草。ノギリソウの山地性の変種で、葉は羽状深裂し、中肋と翼はあわせて幅 1 mm 程度。

【現状】  
山地でも草地の管理が行われなくなり、草地に低木が侵入するなど、草原性の植物の環境は悪化している。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
津久井-1○・津久井-2△・清川-1△・秦野-1△・山北-1●  
●・山北-3△・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移

【特記事項】  
『神RDB95』ではノギリソウの一部として判定された。  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

キク科

絶滅危惧 I B 類			
ノギリソウ	<i>Achillea alpina</i> L. subsp. <i>alpina</i> var. <i>longiligulata</i> H.Hara	神奈川県	2006 絶滅危惧 I B 類
			1995 絶滅危惧種 E
		環境省	2020 —

【判定理由】  
今回の調査では三浦半島の 1 調査区の 2 か所で確認された。

【生育環境・生態】  
海岸近くの草原に生える多年草。葉は羽状に中裂し、中肋と翼はあわせて幅 3~5mm ある。

【現状】  
沿海地の草地はアズマネザサ、ヨモギ、セイタカアワダチソウなどが繁茂し、ノギリソウが生育できる環境は激減した。

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
中△・横須賀-2○・横須賀-4○・鎌倉-1△・逗子△・三浦●  
●・平塚-1◎・大磯○・小田原-3△

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

キク科

絶滅危惧Ⅱ類				
ヌマダイコン	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
3 調査区の 4 か所で確認された。判定基準では絶滅危惧 I B 類となるが、オカダイコンとの区別が難しいため、1ランク下げて判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の水路沿いや湿地などに生える多年草。葉は卵状長楕円形で鋸歯は細かく、瘦果の表面はざらつくことで近縁のオカダイコンから区別される。

【現状】  
オカダイコンよりも明るい湿地を好む。オカダイコンは湿った樹林内に生え個体数も多い。

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
栄△・横須賀-1◎・鎌倉-1◎・鎌倉-2●・三浦●・平塚-1◎・大磯●・小田原-3△・真鶴◎

【存続を脅かす要因】  
土地造成

キク科

絶滅				
テイショウソウ	<i>Ainsliaea cordifolia</i> Franch. & Sav. var. <i>cordifolia</i>	神奈川県	2006	絶滅
			1995	消息不明種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1960年代に丹沢で採集された古い標本が残されているが、その後の調査では確認されていない。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯からブナ帯下部のモミ林やスダジイ林などの下に生える多年草。モミジハグマに似るが、葉は長楕円形で心脚、葉柄は葉身よりも短い。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(千葉県以西～近畿地方南部)、四国

【県内分布】  
山北-6△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
箱根では静岡県側の山中城址にみられるが、神奈川県側の記録はない。  
・標本: 山北町蛭ヶ岳から熊木沢～西沢 1962.9.24 小粥康治 YCM-V017020.

キク科

絶滅危惧Ⅱ類				
ヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. & Hook.f. var. <i>margaritacea</i>	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では 5 調査区で再確認されたが、これは『神植誌88』との比較で調査区単位 85%の減少になり、判定基準では絶滅危惧 I A 類に相当する。しかし、本種は県内の山地に広く普通に分布する種であり、暫定的に絶滅危惧Ⅱ類と判定した。継続して状況を把握する必要がある。

【生育環境・生態】  
川原、崩壊地、林道路傍などに生える多年草。茎はほとんど分枝せず、葉は幅 1cm以上になる。

【現状】  
丹沢山地中央部で減少が著しく、シカの影響の可能性はある。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
西◎・港南◎・旭△・港北△・緑◎・栄◎・川崎◎・逗子◎・相模原-1●・相模原-2◎・相模原-3◎・津久井-1◎・津久井-2●・津久井-3●・津久井-4◎・津久井-5◎・相模湖◎・藤野-1●・藤野-2◎・海老名◎・厚木-1◎・愛川◎・清川-1◎・清川-2◎・清川-3◎・伊勢原-1◎・伊勢原-3◎・秦野-1◎・秦野-2◎・秦野-3◎・秦野-4◎・秦野-5◎・小田原-1◎・南足柄-1△・山北-1◎・山北-2◎・山北-4◎・山北-5◎・山北-6◎・山北-7●・山北-8◎・大井◎・松田◎・箱根-1△・箱根-2◎・箱根-5△・箱根-6◎・湯河原-1◎

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>カワラハハコ</b>	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. & Hook.f. var. <i>yedoensis</i> (Franch. & Sav.) Ohwi	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では相模川や酒匂川沿いの8調査区で再確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位50%程度の減少になり、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
川原に生える多年草。ヤマハハコの変種で茎は下部で多く分枝し、葉が幅1.5~2mmと狭い。

【現状】  
河川中流域の礫河原に生える植物は全体的に減少傾向にある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見○・神奈川○・横須賀-3◎・相模原-1●・相模原-2◎・城山●・大和○・座間●・海老名●・厚木-2◎・愛川●・清川-2△・清川-3◎・秦野-4△・藤沢-3◎・茅ヶ崎-2◎・寒川○・小田原-3○・山北-3△・山北-6△・山北-7◎・山北-8●・大井●・松田○・開成●・真鶴○・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】  
河川敷利用

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ヤハズハハコ</b>	<i>Anaphalis sinica</i> Hance var. <i>sinica</i>	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では丹沢の8調査区で再確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位40%程度の減少があった。

【生育環境・生態】  
岩場や崩壊地に生える多年草。ヤマハハコやウスユキソウに似るが、葉の基部は茎に流れる。

【現状】  
県内では丹沢の高標高地にのみ産し、稜線の岩場や崩壊地、溪谷の岩上などに生える。

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1●・津久井-2●・津久井-4●・厚木-4○・愛川○・清川-1●・清川-2○・清川-3◎・伊勢原-1◎・大山○・秦野-1●・秦野-2◎・秦野-3●・山北-3●・山北-6●・松田◎

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状:国定公園

絶滅危惧ⅠB類				
<b>ユキヨモギ</b>	<i>Artemisia momiyamae</i> Kitam.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
			1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類

【判定理由】  
3調査区の5個の3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】  
海岸の崖や砂地に生える多年草。葉の両面や頭花には白色のクモ毛が密生し、全体が白色に見える。

【現状】  
江ノ島から逗子にかけては海岸に道路が走り、砂浜側は人の踏圧が強く、生育地は海岸と道路の間や道路の山側の法面などに狭められている。また、攪乱環境ではヨモギとの交雑個体(イナムラヨモギ)が増加している。

【国内分布】  
本州(三浦半島、伊豆半島)、伊豆諸島

【県内分布】  
金沢◎・鎌倉-1●・逗子○・葉山●・三浦◎・藤沢-3●

【存続を脅かす要因】  
海岸開発、踏みつけ、遺伝子汚染

【特記事項】  
基準産地は鎌倉市稲村ヶ崎

キク科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ヒメシオン</div> <p><i>Aster fastigiatus</i> Fisch.</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では箱根仙石原以外では1995年以後の確認がなく、調査区単位で80%以上減少したことから絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では箱根-5と中井で再発見され、3調査区の5個の3次メッシュで確認され、1ランク下がった。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 湿った自然的な草地に生える多年草。頭花は密な散房状につき、同属の他種と比べて小さく、径7~9mm。</p> <p><b>【現状】</b> かつては県央から県東部の丘陵地にも見られたが、そのほとんどが消滅した。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 鶴見△・保土ヶ谷△・旭△・緑△・青葉△・戸塚△・瀬谷○・麻生○・横須賀-1△・横須賀-5○・藤野-1△・厚木-1○・厚木-4○・愛川○・伊勢原-1△・秦野-5○・藤沢-2△・藤沢-3△・茅ヶ崎-1△・茅ヶ崎-2△・寒川△・平塚-1△・平塚-3○・小田原-3△・中井●・箱根-1●・箱根-5●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:箱根仙石原は国立公園特別保護地区</p> <p>〈📷写真あり:口絵6〉</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	—							
環境省	2020	—							

キク科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">カワラノギク</div> <p><i>Aster kantoensis</i> Kitam.</p> <p><b>【判定理由】</b> 『神RDB06』では開花株は50株未満と推定され絶滅危惧 I A 類とされた。今回の調査では7調査区の11個の3次メッシュで確認されたが、これは保全活動の成果と考えられ、1ランク下げるに止め、絶滅危惧 I B 類に判定した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 河川中流の砂礫地に生える越年草または1回結実性の多年草</p> <p><b>【現状】</b> 相模川本流では相模原市上大島から寒川あたりまで、中津川では馬渡橋から下流に見られる。多摩川や酒匂川にも記録があるが現在はない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 栃木県(鬼怒川)、東京都(多摩川)、神奈川県(相模川)、静岡県</p> <p><b>【県内分布】</b> 相模原-1●・相模原-2○・城山●・座間○・海老名●・厚木-2●・厚木-5○・愛川●・清川-3○・寒川●・平塚-1●・山北-6△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、治山工事、河川敷利用</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状:種子を採取し、栽培増殖の試みは行われているが、生育地を改善するような対策はとられていない。</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	減少種 G	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							

キク科

絶滅危惧 I B 類									
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">サワシロギク</div> <p><i>Aster rugulosus</i> Maxim. var. <i>rugulosus</i></p> <p><b>【判定理由】</b> 箱根仙石原湿原の1調査区の1個の3次メッシュにのみ現存する。『神RDB06』では個体数が多いので、絶滅危惧 II 類と判定されたが、生育地が1か所に限られるので絶滅危惧 I B 類に判定を修正した。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 湿原に生える多年草。葉は披針形で花時に根生葉がある。舌状花は8個前後で、白色から次第に紅色を帯びる。</p> <p><b>【現状】</b> 多摩丘陵の産地は1990年頃を最後に失われた。現在、安定して生育するのは箱根仙石原湿原のみ。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 旭○・緑△・多摩△・箱根-1●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限</p> <p><b>【特記事項】</b> 基準産地は横浜 ・保護の現状:国立公園特別保護地区 ・標本:川崎市多摩区登戸 1951.8.26 大場達之 KPM-NA0017467; 横浜市旭区上白根町 1952.9 出口長男 KPM-NA0079190~4; 横浜市旭区川井宿町 1989.9.23 勝山輝男 KPM-NA1102292.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 II 類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>アキワギク</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Aster sugimotoi</i> Kitam.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では1調査区の1か所で確認されたのみであるが、シロヨメナ類の分類は難しく、調査が十分に行えたかどうか疑問があるため、暫定的に絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 尾根筋の乾いた斜面や岩場に生える多年草。シロヨメナに似るが、茎の葉は卵形で明らかな柄がある。</p> <p>【現状】 —</p>		<p>【国内分布】 本州(千葉県～静岡県)</p> <p>【県内分布】 栄◎・逗子◎・厚木-4●・秦野-4◎</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p>		

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ヨメナ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Aster yomena</i> (Kitam.) Honda var. <i>yomena</i>		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では4調査区の4個の3次メッシュで確認された。判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、カントウヨメナとの区別が難しく、調査不足と考えられるため1ランク下げた絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 水田畦や湿地に生える多年草。ヨメナ類は瘦果の冠毛が痕跡的であるが、本種の冠毛は長さ0.5mmある。</p> <p>【現状】 神奈川県はカントウヨメナの分布域であり、ヨメナは稀にしか見られない。</p>		<p>【国内分布】 本州(中部地方以西)、四国、九州</p> <p>【県内分布】 鶴見△・栄○・横須賀-1△・横須賀-2○・鎌倉-2○・逗子△・三浦○・城山△・愛川●・秦野-5△・平塚-1○・大磯●・小田原-1●・箱根-5●</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成</p>		

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ヒレアザミ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Carduus crispus</i> L.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 3調査区の6個の3次メッシュで確認され、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。『神植誌88』との比較では、調査区単位で60%減少した。</p> <p>【生育環境・生態】 畑地、路傍、土手などに生える越年草。冠毛は剛毛状で、アザミ属のように羽毛状ではない。</p> <p>【現状】 今回の調査では県北方面でのみ確認され、県東部の丘陵地や台地では採集されなかった。</p>		<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 旭◎・緑◎・戸塚◎・麻生◎・相模原-3◎・津久井-3○・藤野-1●・藤野-2●・愛川●・伊勢原-2◎・藤沢-2◎・平塚-1○・二宮◎・山北-4○・山北-5○・山北-6○・山北-7○</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 県立自然公園</p>		

キク科

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>ホソバガンクビソウ</b>	2006	—	
	1995	—	
<i>Carpesium divaricatum</i> Siebold & Zucc. var. <i>abrotanoides</i> (Koidz.) H.Koyama	環境省	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では8調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位50%の減少がみられた。判定基準では絶滅危惧ⅠB類とも考えられるが、丹沢の高標高地では『神植誌01』で確認された調査区での再確認が不十分だったので、1ランク下げ絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の樹林内の路傍や林縁に生える多年草

**【現状】**  
丹沢の高標高地での再確認が少なく、調査不足も考えられるが、シカの影響も否定できず、今後、注視する必要がある。

**【国内分布】**  
本州、四国、九州

**【県内分布】**  
津久井-1○・藤野-1●・伊勢原-1○・大山○・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3○・秦野-4○・南足柄-2○・山北-1○・山北-2○・山北-3●・山北-4○・山北-7○・松田○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-4●・箱根-5●・湯河原-1●・湯河原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
シカ影響、森林伐採

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

キク科

絶滅危惧ⅠB類			
<b>ノッポロガンクビソウ</b>	2006	—	
	1995	—	
<i>Carpesium divaricatum</i> Siebold & Zucc. var. <i>matsuei</i> (Tatew. & Kitam.) Kitam.	環境省	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では小仏山地の1調査区の5個の3次メッシュで確認された。

**【生育環境・生態】**  
ブナ帯の林縁に生える多年草。キバナガンクビソウに似るが、全体に大型で基部の葉は卵心形、総苞片はすべて同長または2列に見える。

**【現状】**  
『神植誌88』では西丹沢や箱根三国山で採集されているが、これらの産地では再確認できなかつた。シカの影響が懸念される。

**【国内分布】**  
北海道、本州(近畿地方以北)

**【県内分布】**  
藤野-1●・山北-4○・山北-5○・箱根-2○

**【存続を脅かす要因】**  
シカ影響、森林伐採

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

キク科

絶滅危惧ⅠB類			
<b>オオガンクビソウ</b>	2006	絶滅危惧ⅠA類	
	1995	絶滅危惧種 E	
<i>Carpesium macrocephalum</i> Franch. & Sav.	環境省	2020	—

**【判定理由】**  
今回の調査では小仏山地の2調査区の5個の3次メッシュで確認された。『神RDB06』では3調査区の3か所に50株未満と推定され、絶滅危惧ⅠA類と判定されたが、今回の判定基準では1ランク下がった。

**【生育環境・生態】**  
山地樹林内に生える多年草。頭花は径25~35mmあり、大型の葉状の苞葉がある。

**【現状】**  
1996年に西丹沢菰釣山、1955年に南足柄市道了尊、1957年に相模原市緑区(旧城山町)で採集されているが、いずれも再確認できなかつた。

**【国内分布】**  
北海道、本州(中部以北)

**【県内分布】**  
城山△・相模湖●・藤野-1●・南足柄-2△・山北-1◎

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限、森林伐採

**【特記事項】**  
・保護の現状: 県立自然公園

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> (Maxim.) Matsum.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
2006年に小仏山地の1か所で記録されたが、その後確認されていない。

【生育環境・生態】  
草地や林縁に生える多年草。花時に根生葉はなく、頭花は上向きに咲き、総苞は碗形～広鐘形で大型。根茎はヤマゴボウとして食用にされる。

【現状】  
生育する草地は、いずれ樹陰になると消滅の恐れがある。

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
藤野-1●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

◀写真あり: 口絵6▶

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ハマアザミ	<i>Cirsium maritimum</i> Makino	神奈川県	1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌88』の調査で横須賀市長浜や荒崎で採集されたが、その後、確認されていない。県内からの絶滅が懸念される。

【生育環境・生態】  
海岸に生える多年草。花時に根生葉があり、葉は肉質で厚く光沢があり、頭花は上向きに咲く。

【現状】  
荒崎では生育環境は残されているが、1986年以後は確認ができない。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
横須賀-4○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、海岸開発、踏みつけ

【特記事項】  
・標本: 横須賀市長浜海岸 1986.10.4 山内好孝 YCM-V016459; 横須賀市荒崎 1985.10.20 浜中義治 YCM-V016460.

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	—
タカアザミ	<i>Cirsium pendulum</i> Fisch. ex DC.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では低地から丘陵地に広く分布する種であるが、今回の調査では4調査区の5個の3次メッシュで確認されたにすぎず、絶滅危惧 I B 類と判定した。『神植誌88』との比較でも調査区単位 80%ほどの減少がみられた。

【生育環境・生態】  
原野、河川敷、造成地等に生える二年草。頭花が下向きに咲くのが特徴。

【現状】  
タカアザミが好む攪乱地や湿地、裸地等が減少し、遷移が進行したことが影響して減少傾向にある。

【国内分布】  
北海道、本州

【県内分布】  
緑○・青葉○・都筑○・麻生○・横須賀-4○・鎌倉-1△・逗子●・相模原-1●・相模原-2○・相模原-3○・相模原-4○・城山●・大和○・座間○・綾瀬○・海老名○・愛川○・伊勢原-1○・伊勢原-2○・秦野-3○・藤沢-1●・藤沢-2○・藤沢-3○・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2○・寒川○・平塚-1○・平塚-2○・大磯○・二宮○・中井○

【存続を脅かす要因】  
自然遷移

キク科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">シドキヤマアザミ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Cirsium shidokimontanum</i> Kadota</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌18』調査で県内分布が明らかになり、2 調査区の 6 個の 3次メッシュで確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 水湿地に生える多年草。頭花は中型でタイアザミに似るが、総苞は円筒形で総苞片は 11～12列。</p> <p>【現状】 相模原市と横浜市泉区の段丘崖の湧水湿地に生育する。</p>	<p>【国内分布】 本州(東北地方南部、関東地方、長野県)</p> <p>【県内分布】 泉●・相模原-2●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、土地造成</p> <p>【特記事項】 福島県東白川郡古殿町の四時川流域で採集された標本に基づいて 2002年に新種記載された。</p>								

キク科

絶滅危惧ⅠA類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">キセルアザミ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Cirsium sieboldii</i> Miq.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">減少種 G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	減少種 G	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	減少種 G							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 県内では箱根仙石原の 1 調査区の 1 個の 3次メッシュで確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える多年草。根生葉は花期にも生存し、頭花は大きく単生し下を向いて咲く。</p> <p>【現状】 仙石原湿原には安定して生育している。</p>	<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 箱根-1●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園特別保護地区</p> <p>〈📷写真あり: 口絵6〉</p>								

キク科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">ハチオウジアザミ</p> <p style="font-size: 0.8em;"><i>Cirsium tamastoloniferum</i> Kadota</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p>【判定理由】 『神植誌18』調査で県内分布が明らかになり、3 調査区の 6 個の 3次メッシュで確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 水湿地に生える多年草。タイアザミに似るが、頭花はやや小型で総苞は狭筒形、総苞片は 11～12列。</p> <p>【現状】 相模原市や綾瀬市などの湧水湿地に生育する。</p>	<p>【国内分布】 本州(関東地方南部)</p> <p>【県内分布】 栄●・相模原-2●・綾瀬●</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、土地造成</p> <p>【特記事項】 本種は『神植誌01』における綾瀬市の湿地性タイアザミがきっかけとなり、2012年に八王子市のものに基づいて新種記載された。</p>								

絶滅危惧Ⅱ類				
ワダン	<i>Crepidiastrum platyphyllum</i> (Franch. & Sav.) Kitam.	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では3調査区の6か所で確認された。

【生育環境・生態】  
海岸の岩場や風衝草地に生える亜低木。キャベツのような肉厚で大型の葉をもち、10月頃に黄色の頭花をつける。

【現状】  
今回の調査では『神植誌01』で記録された鎌倉や葉山では採集されず、生育地が狭まっている可能性がある。

【国内分布】  
本州(千葉県～神奈川県にかけての海岸と伊豆七島)

【県内分布】  
横須賀-3○・横須賀-4●・横須賀-5△・鎌倉-1◎・葉山◎・三浦●・城ヶ島●

【存続を脅かす要因】  
海岸開発

絶滅				
クサヤツデ	<i>Diaspananthus uniflorus</i> (Sch.Bip.) Kitam.	神奈川県	2006	絶滅
			1995	絶滅種 A
		環境省	2020	—

【判定理由】  
1959年の記録以後は再確認することができない。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯の湿った林や、日陰の林縁などに生える

【現状】  
以前に標本が採集された山北町世附明神峠付近は再三調査したが本種は見つかっていない。

【国内分布】  
本州(神奈川県以西)、四国、九州

【県内分布】  
山北-4△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:足柄上郡三保村 1954.10.16 林 弥栄 TNS110581; 山北町 1959.10.15 林 弥栄 TNS142230.

絶滅危惧ⅠA類				
アズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i> A.Gray subsp. <i>thunbergii</i>	神奈川県	2006	絶滅
			1995	絶滅危惧種 F
		環境省	2020	—

【判定理由】  
丹沢や箱根で1970年以前に採集された古い標本は多数残されているが、長い間再発見されることがなかった。『神植誌18』の調査で箱根の2調査区の2か所で確認された。いずれも個体数が少ないので1ランク厳しく絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地のシバ草原に生える多年草。根生葉は花時にあり、茎頂に径3cmほどの頭花をつけ、舌状花は淡紫色。

【現状】  
丹沢では1965年の表尾根二ノ塔や大山大で採集された後、確認されていない。箱根では登山道の脇に生え、踏み付けの脅威にさらされている。

【国内分布】  
本州(中部以北)

【県内分布】  
清川-2△・大山△・秦野-1△・秦野-2△・南足柄-2△・山北-3△・箱根-1●・箱根-4△・箱根-5△・箱根-6●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、踏みつけ

【特記事項】  
個体数が少ないので、箱根の2調査区の中の1か所では標本を作成していない。静岡県側であるが、十国峠のケーブルカー沿いには以前より安定して多数が生育している。  
・保護の現状:国立公園

〈写真あり:口絵6〉

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
イズハハコ	<i>Eschenbachia japonica</i> (Thunb.) J.Kost.	神奈川県	1995	絶滅危惧種 F
		環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】  
1982年の湯河原町のを最後に県内では確認されていない。

【生育環境・生態】  
沿海地の乾いた岩の崖や道路の切通しなどに生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球

【県内分布】  
鎌倉-1△・小田原-1△・箱根-5△・湯河原-1○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:湯河原町 1982.8.18 採集者不明 KPM-NA1029805; 箱根町塔ノ沢 1947.7.13 出口長男 KPM-NA007930; 小田原市風祭 1961.9.17 田代道彌 KPM-NA0153865; 鎌倉山ノ内 1960.5.23 宮代周輔 YCB112360 ほか。

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神植誌18』の調査では8調査区で採集されているが、これらは植栽起源の逸出と考えられ、1960年代以後に自然分布と思われるものは採集されていない。

【生育環境・生態】  
河川下流域の肥沃な草原に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東地方以西)、四国、九州

【県内分布】  
港北△・鎌倉-1△・平塚-3△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本(自然分布と思われるもの):横浜市港北区樽町 1957.9.2 宮代周輔 YCB6621ほか; 平塚市馬入川堤 1952.10.22 守矢淳一 HCM061907; 鎌倉市鶴沼 1911.11.5 久内清孝 YCB604035。

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	—
サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i> DC. var. <i>lindleyanum</i>	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では7調査区で確認されたが、『神植誌88』との比較で調査区単位 80%減少した。丘陵から山地に広く分布する種なので、1ランク下げて絶滅危惧ⅠB類と判定した。

【生育環境・生態】  
湿った明るい草原に生える多年草。葉はほとんど無柄で鈍頭、3行脈が明らか。

【現状】  
全県的に草地の自然遷移が進み失われた所が多い。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見○・旭◎・港北△・緑●・青葉○・都筑●・戸塚△・栄◎・瀬谷◎・多摩△・麻生○・横須賀-5◎・鎌倉-1○・相模原-4○・城山△・津久井-2△・津久井-3○・津久井-5◎・藤野-1○・藤野-2○・厚木-3○・厚木-5○・愛川●・伊勢原-1○・伊勢原-2○・伊勢原-3○・秦野-2○・秦野-3○・秦野-5○・藤沢-2○・茅ヶ崎-1○・茅ヶ崎-2○・平塚-1○・大磯○・二宮○・南足柄-1◎・山北-1○・中井○・松田○・箱根-1●・箱根-2○・箱根-4△・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

【特記事項】  
・保護の現状:一部の産地は国立公園

キク科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ハマサワヒヨドリ</b>			1995	—
<i>Eupatorium lindleyanum</i> DC. var. <i>yasushii</i> Tuyama		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
今回の調査では三浦半島の1調査区の1か所で確認されたのみ。

【生育環境・生態】  
海岸の草地に生える多年草。サワヒヨドリの海岸型変種で、葉に5行脈があり、茎や葉の下面脈上に開出した長い毛があることで区別される。

【現状】  
三浦半島の限られた海岸にのみ現存する。

【国内分布】  
本州(関東南部)、伊豆諸島

【県内分布】  
三浦●・大磯△

【存続を脅かす要因】  
産地局限

キク科

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>ヤナギタンポポ</b>			1995	絶滅危惧種 D
<i>Hieracium umbellatum</i> L.		環境省	2020	—

【判定理由】  
1984年に山北町世附の山梨県境の草原で確認されたが、それ以来確認されていない。

【生育環境・生態】  
山地の草原や林縁に生える多年草。草姿はコウゾリナに似るが、茎や葉に硬い剛毛はない。

【現状】  
現在、山梨県境の三国峠～高指山にかけての草原はシカの影響が激しく、本種の再発見は難しいと思われる。

【国内分布】  
北海道、本州、四国

【県内分布】  
津久井-2△・山北-1○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園  
・標本: 山北町 1984.9.23 勝山輝男 KPM-NA1078545; 丹沢蛭ヶ岳～原小屋～姫次～青根 1962.9.24 小粥康治 YCM-V025892.

キク科

準絶滅危惧		神奈川県	2006	—
<b>オグルマ</b>			1995	—
<i>Inula japonica</i> Thunb.		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では15調査区で確認され、調査区単位では30%弱の減少がみられた。判定基準では選外となるが、全体的に減少傾向にあるので準絶滅危惧と判定した。

【生育環境・生態】  
湿った草地に生える多年草。カセンソウに似るが、葉は硬く下面に開出する毛がある。

【現状】  
ときに水田畦に生えることもある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
鶴見△・南△・港南●・保土ヶ谷△・金沢○・港北△・瀬谷○・多摩○・麻生○・横須賀-1●・横須賀-3△・横須賀-4○・鎌倉-2△・逗子△・葉山●・相模湖△・藤野-1○・海老名○・厚木-1●・厚木-5○・伊勢原-1○・伊勢原-2●・伊勢原-3●・秦野-4●・秦野-5●・藤沢-3●・茅ヶ崎-2○・平塚-1○・平塚-2●・平塚-3●・大磯●・二宮○・小田原-2○・小田原-3●・山北-1○・山北-4○・山北-6△・中井●・松田○・箱根-1●

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

キク科

絶滅危惧Ⅱ類									
<p style="text-align: center;"><b>カセンソウ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 今回の調査では10調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位30%以上の減少がみられた。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 草原に生える多年草。オグルマに似るが、葉は軟らかく下面には上向きの伏毛がある。</p> <p><b>【現状】</b> かつては山地の茅場や丘陵地の土手などに多かったが、多くの場所で管理不足から自然遷移が進み減少が著しい。箱根仙石原や陣馬山では安定して生育している。</p>	<p><b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 保土ヶ谷△・港北△・緑◎・青葉○・栄△・高津△・多摩△・麻生◎・横須賀-1△・鎌倉-1△・相模原-1○・相模原-4○・津久井-1○・津久井-2○・津久井-3◎・津久井-4△・津久井-5●・相模湖○・藤野-1○・藤野-2●・大和◎・厚木-1●・厚木-5○・伊勢原-2●・秦野-1△・秦野-2○・秦野-4△・秦野-5◎・茅ヶ崎-1△・平塚-1◎・大磯△・二宮◎・小田原-3△・南足柄-1◎・南足柄-2●・山北-1○・山北-3△・開成●・箱根-1●・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1○・湯河原-2●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、土地造成</p> <p><b>【特記事項】</b> ・保護の現状：一部は国立公園、国定公園、県立自然公園</p>								

キク科

絶滅危惧ⅠA類									
<p style="text-align: center;"><b>タカサゴソウ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Ixeris chinensis</i> (Thunb.) Nakai subsp. <i>strigosa</i> (H.Lév. &amp; Vaniot) Kitam.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006		絶滅危惧ⅠA類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類							
<p><b>【判定理由】</b> 県内では小田原市、秦野市、山北町、清川村、相模原市緑区(旧藤野町)などの丘陵～山地に点々と分布していたが、『神植誌88』の藤野町での記録を最後に近年では生育が確認されていない。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 日当たりの良い草原に生える多年草。葉は青緑色で根生葉が多く、羽状に浅裂し、頭花は淡紫色。</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 南△・戸塚△・藤野-2○・清川-2△・秦野-4△・秦野-5△・小田原-3△・山北-7△</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、自然遷移</p> <p><b>【特記事項】</b> ・標本：山北町大野山 1951.6.24 伊達健夫 YCB423917；清川村中津溪谷 1953.5.31 大場達之 KPM-NA0016552；小田原市橘町 1958.4.27 西尾和子 KPM-NA0001026；秦野市堀山 1958.6.19 桐生 亮 SCM002877；藤野町日向 1982.5.2 森 茂弥 KPM-NA1078621；藤野町篠原 1986.5.5 高橋秀男 KPM-NA1078622。</p>								

キク科

準絶滅危惧									
<p style="text-align: center;"><b>ノニガナ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Ixeris polycephala</i> Cass.</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	神奈川県	2006	絶滅	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅						
	1995	—							
環境省	2020	—							
<p><b>【判定理由】</b> 『神植誌88』や『神植誌01』の調査で横浜市西区、綾瀬市、相模原市麻溝台で採集されていたが、それらの産地が失われたことが確認され、『神RDB06』では県内では絶滅と判定された。今回の調査では相模原市を中心に9調査区で確認された。短期間に急増したものであるため、準絶滅危惧に止め、推移を見守ることになった。</p> <p><b>【生育環境・生態】</b> 畦道や土手などに生える越年草。葉の基部が矢じり型になって茎を抱く。</p> <p><b>【現状】</b> —</p>	<p><b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州</p> <p><b>【県内分布】</b> 西◎・中●・旭△・港北●・麻生●・相模原-1●・相模原-3●・相模原-4○・津久井-5●・相模湖●・綾瀬○・海老名●・愛川●</p> <p><b>【存続を脅かす要因】</b> 不明</p>								

絶滅危惧Ⅱ類				
ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i> (L.) A.Gray	神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では5調査区で再確認され、調査区単位の減少は認められなかった。しかし、隣接する調査区のため、3次メッシュ単位では4個の3次メッシュで確認されたにすぎないので絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
海岸砂浜に生える多年草。葉が肉厚で掌状に3~5裂する。

【現状】  
湘南海岸では海岸侵食により砂浜が縮小している。海岸に入る人も多く、踏みつけられることも多い。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
横須賀-1△・横須賀-4○・鎌倉-1△・三浦●・藤沢-3●・茅ヶ崎-2●・平塚-3●・大磯●・二宮△

【存続を脅かす要因】  
踏みつけ、海岸開発、海岸浸食

絶滅危惧Ⅱ類				
カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i> (Makino) Kitam.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
			1995	—
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
『神RDB06』では調査区単位で50%以上減少したことから絶滅危惧ⅠB類とされた。今回の調査では8調査区で再確認され、『神植誌88』との比較では調査区単位で約30%減少となり、1ランク下げられた。

【生育環境・生態】  
河原の礫地に生える多年草。根生葉は線状披針形で全縁またはわずかに歯牙がある。

【現状】  
堰堤やダムによる河原の安定によってほかの高茎草本が侵入し、時々攪乱され裸地となるような礫地を好むカワラニガナは減少傾向にある。

【国内分布】  
本州(中部地方以北)

【県内分布】  
中◎・高津●・相模原-1●・相模原-2◎・相模原-3●・城山●・津久井-3●・津久井-5◎・藤野-2●・座間○・海老名●・厚木-1○・厚木-2◎・愛川●・秦野-4○・寒川○・平塚-2○・山北-3△・山北-5△・山北-6◎・山北-8△・松田○

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、河川敷利用

絶滅危惧ⅠA類				
ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i> (Nakai) Kitam.	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	絶滅危惧ⅠA類

【判定理由】  
今回の調査では葉山と逗子の2調査区の3か所で再確認されたが、いずれの産地も個体数が少ないので、前回同様に絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯~ブナ帯の半日陰の林縁に生える多年草。根生葉は長い柄があり、葉身は卵状長楕円形で灰緑色。

【現状】  
1981年に真鶴町で採集されたが、その後確認されていない。小田原市や大磯町で採集された古い標本も残されている。

【国内分布】  
本州中部

【県内分布】  
逗子●・葉山●・大磯△・小田原-3△・真鶴○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、自然遷移

【特記事項】  
・標本: 真鶴岬 1958.5.24 吉川代之助 HCM043847; 真鶴町 1981.5.20 秋山守 KPM-NA1104942; 小田原市橋町 1958.5.22 西尾和子 KPM-NA0006922; 大磯 1912.5 採集者不明 ACM-PL030311.

〈写真あり: 口絵6〉

## 絶滅危惧 I A 類

## オタカラコウ

*Ligularia fischeri* (Ledeb.) Turcz.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
	1995	希少種
環境省	2020	—

## 【判定理由】

箱根神山が生育地として知られていたが、『神植誌18』の調査では標本が採集されていない。1998年には開花株は数株、2011年には開花しない小さな株が残存しているにすぎないことが報告されている(大西・勝山, 2011)。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯～シラビソ帯の湿地、湧水地などに生える多年草。根生葉の葉身は円心形、舌状花は5～9個。

## 【現状】

樹林内のギャップに群落を作っていたが、上層の樹木が成長するにつれて減少した。

## 【国内分布】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内分布】

箱根-4○

## 【存続を脅かす要因】

産地局限、自然遷移

## 【特記事項】

・保護の現状: 国立公園特別保護地区

## 【文献等】

大西 亘・勝山輝男, 2011. 箱根神山のオタカラコウ消滅寸前?. FK, (73): 881.

## 絶滅危惧 I B 類

## メタカラコウ

*Ligularia stenocephala* (Maxim.) Matsum. & Koidz.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	—
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では小仏山地と丹沢の3調査区の9個の3次メッシュで確認されたが、いずれの産地でも個体数が少ないため、1ランク上げて絶滅危惧 I B 類と判定した。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯、稀にシイ・カシ帯の沢筋の樹林内に生える多年草。根生葉の葉身は3角状心形～3角状ほこ形、舌状花は1～3個。

## 【現状】

東丹沢の宮ヶ瀬周辺と小仏山地に点在する。基準産地は箱根であるが、箱根には現存しない。

## 【国内分布】

本州、四国、九州

## 【県内分布】

相模湖●・藤野-1●・清川-2●・清川-3◎

## 【存続を脅かす要因】

河川開発、森林伐採

## 【特記事項】

・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

## 絶滅危惧 I B 類

## オオモジガサ

*Miricacalia makinoana* (Yatabe) Kitam.

神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

## 【判定理由】

今回の調査では丹沢の4調査区の5個の3次メッシュで確認された。

## 【生育環境・生態】

ブナ帯の湿った樹林内に生える多年草。下方の葉は楕円形につき、葉身は掌状に9～11中裂し、頭花は黄色の筒状花のみからなる。

## 【現状】

尾根筋のブナ林ではシカの採食圧により林床植生が衰退し、本種も植生保護柵内でしか見られない。沢筋の急傾斜地にはシカが入り込めないため、ヤグルマソウなどとともによく開花している。

## 【国内分布】

本州(福島県以南)、四国、九州

## 【県内分布】

津久井-1●・津久井-2●・清川-1△・大山○・秦野-3●・山北-2○・山北-3●・山北-6◎

## 【存続を脅かす要因】

シカ影響

## 【特記事項】

丹沢では尾根筋の平坦地のブナ林に特徴的に現れ、オオモジガサ-ブナ群集の標微種にされた。

・保護の現状: 国定公園特別保護地区、植生保護柵

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
<b>オオニガナ</b>	<i>Nabalus tanakae</i> Franch. & Sav. ex Y.Tanaka & Ono		1995	絶滅種 B
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では『神植誌58』に横浜・登戸の記録があり、登戸や箱根で採集された標本が残されている。1979年の川崎市多摩区で採集された標本を最後に近年の記録はない。

【生育環境・生態】  
湿地に生える多年草。走出枝を出し、高さ1m位になり、葉は3角形で切れ込みがあり、翼のある柄をもつ。

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(近畿地方以北)

【県内分布】  
多摩○

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 相州箱根 1924.10.19 久内清孝 TI; 武州登戸 1936.10.17 西原礼之助 TNS72802; 川崎市多摩区生田緑地 1979.10.15 吉田 KMM-SP001761.

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
<b>カニコウモリ</b>	<i>Parasenecio adenostyloides</i> (Franch. & Sav. ex Maxim.) H.Koyama		1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では確認されなかったが、今後、発見の可能性があるため絶滅危惧 I A 類とした。

【生育環境・生態】  
おもに肥沃で適湿なシラビソ林の林床に生える多年草。下方の葉は5角形状腎形で、葉柄基部は茎を完全には取り巻かない。

【現状】  
蛭ヶ岳の海拔 1,510m 付近のウラジロモミとブナの混交林で記録されているが、最近シカの採食圧により林床植生が衰退。県内では他に津久井町青根の報告がある(長谷川・小崎, 1990)。

【国内分布】  
本州(近畿以北)、四国

【県内分布】  
山北-3△

【存続を脅かす要因】  
シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園特別保護地区  
・標本: 丹沢蛭ヶ岳 1962.9.23 大場達之 KPM-NA0014396.

【文献等】  
長谷川義人・小崎昭則, 1990. 県北津久井の植物. FK, (28): 274.

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
<b>イズカニコウモリ</b>	<i>Parasenecio amagiensis</i> (Kitam.) H.Koyama		1995	希少種
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
今回の調査では 1 調査区の 2 か所で確認された。

【生育環境・生態】  
ブナ帯下部の腐植の多い林の下に生える多年草。葉柄の基部は茎を抱いて鞘状、葉身は腎円形で基部は心形、縁には粗い鋸歯がある。

【現状】  
湯河原町では落葉広葉樹林内に点々と群落があるが、開花することは少ない。最近シカが侵入してきており、その影響が心配される。

【国内分布】  
本州(伊豆半島～箱根南部)

【県内分布】  
小田原-4○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、森林伐採、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 県立自然公園

キク科

絶滅危惧 I B 類				
<b>ウスゲタマブキ</b>		<b>神奈川県</b>	<b>2006</b>	—
<i>Parasenecio farfarifolius</i> (Siebold & Zucc.) H.Koyama var. <i>farfarifolius</i>			<b>1995</b>	—
		<b>環境省</b>	<b>2020</b>	—

**【判定理由】**  
 今回の調査では2調査区の2か所で確認されたにすぎない。『神植誌88』との比較でも調査区単位で75%減少している。

**【生育環境・生態】**  
 シイ・カシ帯上部とブナ帯下部の樹林内に生える多年草。葉は3角状心形で葉腋にむかごがつく。

**【現状】**  
 陰湿な樹林内に生え、スギ植林内にも見られる。

**【国内分布】**  
 本州(関東地方以西)、四国、九州

**【県内分布】**  
 藤野-1●・厚木-4●・清川-2○・伊勢原-1○・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3○・南足柄-1○・南足柄-2○・山北-1△・山北-4○・山北-8○

**【存続を脅かす要因】**  
 産地局限、森林伐採、シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

キク科

絶滅危惧 I A 類				
<b>モミジタマブキ</b>		<b>神奈川県</b>	<b>2006</b>	—
<i>Parasenecio farfarifolius</i> (Siebold & Zucc.) H.Koyama var. <i>acerinus</i> (Makino) H.Koyama			<b>1995</b>	—
		<b>環境省</b>	<b>2020</b>	—

**【判定理由】**  
 南足柄市の1か所に知られるが、1983年以後の記録がない。生育環境に変化はないので、再確認される可能性がある。

**【生育環境・生態】**  
 シイ・カシ帯上部とブナ帯下部の樹林内に生える多年草。ウスゲタマブキの変種で、葉は縁が不整に深く切れ込む。

**【現状】**  
 道了尊のスギ林内に生え、生育環境は維持されているが、今後シカの影響が心配される。

**【国内分布】**  
 本州(神奈川県以西、紀伊半島)、四国、九州

**【県内分布】**  
 南足柄-2○

**【存続を脅かす要因】**  
 産地局限、森林伐採、シカ影響

キク科

絶滅危惧 II 類				
<b>コウモリソウ</b>		<b>神奈川県</b>	<b>2006</b>	—
<i>Parasenecio maximowiczianus</i> (Nakai & F.Maek. ex H.Hara) H.Koyama var. <i>maximowiczianus</i>			<b>1995</b>	—
		<b>環境省</b>	<b>2020</b>	—

**【判定理由】**  
 今回の調査では7調査区で確認され、調査区単位で15~20%減少している。各産地の個体数も少なくなっており、実際にはもう少し危険な状態と思われ、絶滅危惧II類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
 ブナ帯上部とシラビソ帯の肥沃な樹林内に生える多年草

**【現状】**  
 丹沢ではシカの影響で植生保護柵の外ではほとんど観察できなくなった。箱根でも生育地でシカが増加しており、急減する可能性がある。

**【国内分布】**  
 本州中部

**【県内分布】**  
 旭△・津久井-1●・津久井-2●・津久井-3●・清川-1○・清川-3○・大山○・秦野-1○・山北-1●・山北-2○・山北-3●・箱根-1●・箱根-2○・箱根-4●

**【存続を脅かす要因】**  
 シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、植生保護柵  
 ・標本: 旭区上川井町 1952.11.14 出口長男 KPM-NA0079124.

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ヤマタイミンガサ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Parasenecio yatabei</i> (Matsum. & Koidz.) H.Koyama		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では2調査区の2か所の確認であるが、丹沢の高所での植生保護柵内の調査が不十分だったので、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 ブナ帯の肥沃な林床に生える。県内ではオオモミジガサーブナ群集によく結び付いている。下方の葉は長い葉柄があり、その基部は茎を抱いて鞘状、葉身は円心形で掌状に9～11中裂する。</p> <p>【現状】 シカの影響で植生保護柵の外ではほとんど見られなくなっている。</p>		<p>【国内分布】 本州(宮城県以南)、四国</p> <p>【県内分布】 津久井-1○・津久井-2●・清川-1○・秦野-1○・山北-1●・山北-2○・山北-3○・山北-4○</p> <p>【存続を脅かす要因】 シカ影響</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園、植生保護柵</p>		

絶滅危惧ⅠB類				
<b>アカシコウゾリナ</b>		神奈川県	2006	—
			1995	—
<i>Picris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov var. <i>akaishiensis</i> Kitam.		環境省	2020	—
<p>【判定理由】 今回の調査では1調査区の2か所で確認された。</p> <p>【生育環境・生態】 山地の川原や崩壊地に生えるコウゾリナの変種で、葉や花が小型で総苞に剛毛が少ない。</p> <p>【現状】 丹沢のガレ場や上流域の河原などのシカの影響を受けやすい環境に生える。</p>		<p>【国内分布】 本州(赤石山脈から富士山周辺)</p> <p>【県内分布】 津久井-3●・藤野-1○・清川-1○・清川-2○・山北-3○・山北-5○・山北-6○</p> <p>【存続を脅かす要因】 不明</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国定公園</p>		

絶滅危惧ⅠA類				
<b>アキノハハコグサ</b>		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	—
<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard & B.L.Burtt		環境省	2020	絶滅危惧ⅠB類
<p>【判定理由】 今回の調査では県北の2調査区の2か所で確認された。今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB類となるが、調査区単位でも75%の減少が見られ、各産地の個体数も少ないので1ランク上げて絶滅危惧ⅠA類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カン帯の痩せた草地や裸地に生える越年草。先駆植物で、特に関東ロームを削ったところに現れる。</p> <p>【現状】 不安定な立地に生育する植物で、他の草が繁茂すると失われてしまう。</p>		<p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 保土ケ谷○・緑○・青葉△・鎌倉-1△・相模原-2○・城山○・津久井-3○・相模湖●・藤野-1△・藤野-2●・大和○・厚木-2○・厚木-3○・愛川○・大山△・秦野-2○・秦野-5△・小田原-3△・山北-3△・山北-5△・山北-6○・中井○</p> <p>【存続を脅かす要因】 土地造成、自然遷移</p>		

キク科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ミヤコアザミ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧Ⅱ類
			1995	—
<i>Saussurea maximowiczii</i> Herder		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
 今回の調査では5調査区で確認され、『神植誌88』との比較では3次メッシュ数で40%程度の減少があり、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。

**【生育環境・生態】**  
 草地に生える多年草。葉は披針形～長楕円形で羽状に深裂し、総苞片に付属体がない。

**【現状】**  
 県内では箱根周辺には比較的多く見られるが、ほかでは稀。茅場の減少に伴い、産地が少なくなっている。かつては丘陵地にも稀に見られた。

**【国内分布】**  
 本州、四国、九州

**【県内分布】**  
 磯子△・緑△・青葉○・戸塚◎・秦野-1△・秦野-2◎・秦野-4●・平塚-1◎・南足柄-2△・山北-3△・箱根-1●・箱根-2●・箱根-5●・箱根-6○・湯河原-1○・湯河原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
 自然遷移、シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国立公園

キク科

絶滅危惧ⅠA類				
<b>ヒメヒゴタイ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	絶滅危惧ⅠA類
			1995	—
<i>Saussurea pulchella</i> (Fisch. ex Hornem.) Fisch.		<b>環境省</b>	2020	絶滅危惧Ⅱ類

**【判定理由】**  
 『神植誌88』の調査では県西山地の5調査区で記録されたが、いずれの調査区でもその後の確認がない。まだ、再確認の可能性はあるので絶滅危惧ⅠA類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
 草原に生える越年草。総苞片に乾膜質で紅色の付属体があるのが特徴。

**【現状】**  
 —

**【国内分布】**  
 北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
 津久井-1△・津久井-2△・津久井-3△・清川-1△・秦野-1△・秦野-2○・秦野-3△・秦野-4△・南足柄-1○・山北-1○・山北-8○・松田○・箱根-2△

**【存続を脅かす要因】**  
 自然遷移、シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国立公園、国定公園

キク科

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>キントキヒゴタイ</b>		<b>神奈川県</b>	2006	—
			1995	—
<i>Saussurea sawadae</i> Kitam.		<b>環境省</b>	2020	—

**【判定理由】**  
 今回の調査では8調査区で確認されたが、調査区単位で47%の減少があり、絶滅危惧Ⅱ類と判定された。

**【生育環境・生態】**  
 シイ・カシ帯上部からブナ帯下部の草地に生える多年草。総苞片は7～8列、先は鈍く尖り、反曲または斜上する。葉のバイオリン状の湾入はあつたりなかつたりする。

**【現状】**  
 箱根ではまだ個体数は多いが、草地の遷移が進むと次第に減少する。

**【国内分布】**  
 箱根、丹沢(甲相国境尾根の高指山～三国山～不老山、高松山、表尾根、大山)、中津山地、富士山の東～南麓

**【県内分布】**  
 清川-3◎・伊勢原-1◎・伊勢原-3●・大山◎・秦野-1○・秦野-2◎・秦野-3●・秦野-4○・平塚-1◎・南足柄-1●・南足柄-2△・山北-1●・山北-4○・山北-8◎・松田○・箱根-1●・箱根-2◎・箱根-4△・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1●・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
 自然遷移、シカ影響

**【特記事項】**  
 ・保護の現状: 国立公園、国定公園

絶滅危惧Ⅱ類		神奈川県	2006	絶滅危惧Ⅱ類
タカオヒゴタイ	<i>Saussurea sinuatooides</i> Nakai		1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では5調査区で確認され、調査区単位の減少はみられなかった。これは小仏山地で詳細な調査が行われて産地が増えたため、多摩丘陵の産地は2調査区とも失われたため、これを考慮して絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【生育環境・生態】  
草地や明るい落葉広葉樹林内に生える多年草。総苞片は7~9列、先は鋭く尖り、水平に開出する。葉にはバイオリン状の湾入がある。

【現状】  
小仏山地ではまだ個体数は多いが、草地の遷移が進むと次第に減少する。

【国内分布】  
奥多摩、秩父、小仏山地、多摩丘陵、三つ峠、甲府盆地を囲む山地

【県内分布】  
緑○・青葉○・相模原-4●・城山●・津久井-5●・相模湖●・藤野-1●・海老名◎・秦野-1△

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

【特記事項】  
・保護の現状：一部は県立自然公園

絶滅危惧ⅠA類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠA類
セイタカトウヒレン	<i>Saussurea tanakae</i> Franch. & Sav. ex Maxim.		1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では小仏山地の1調査区の1か所で確認されたのみ。

【生育環境・生態】  
草地や林縁に生える多年草。葉は3角状卵形で葉柄は広い翼になって茎に沿下し、総苞片は8~9列、3角形で圧着する。

【現状】  
山梨県境の三国峠~切通峠では2009年に写真撮影されている(神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012)。箱根では1960年代以後記録がない。

【国内分布】  
本州(関東~中部、岡山県)

【県内分布】  
津久井-1△・津久井-2△・津久井-3△・相模湖●・藤野-1○・秦野-3△・山北-1◎・箱根-4△

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状：国立公園、県立自然公園

【文献等】  
神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—, 51 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木。

絶滅危惧ⅠB類		神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim.		1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
今回の調査では9調査区で確認され、『神植誌88』との比較で調査区単位50%以上の減少があり、絶滅危惧ⅠB類と判定された。

【生育環境・生態】  
丘陵~山地の草地や林縁に生える多年草。葉は卵形で縁が3~7中裂する。

【現状】  
県内では丘陵から山地まで広く分布するが、良好な草地は減少し、産地も少なくなっている。

【国内分布】  
本州、九州

【県内分布】  
保土ケ谷△・緑△・横須賀-1●・鎌倉-1△・逗子●・三浦◎・城山◎・津久井-1△・津久井-2△・津久井-3△・津久井-5●・相模湖△・藤野-1●・厚木-1○・愛川○・清川-3○・伊勢原-1○・伊勢原-3○・秦野-1△・秦野-4○・秦野-5○・平塚-1●・大磯●・二宮○・小田原-3○・南足柄-1○・山北-1●・山北-3△・山北-6△・山北-8◎・中井◎・大井△・松田◎・箱根-4△・箱根-5●・箱根-6○・湯河原-1○・湯河原-2●

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状：一部は国立公園、国定公園、県立自然公園

キク科

絶滅危惧Ⅱ類							
<p style="text-align: center;"><b>ハンゴンソウ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Senecio cannabifolius</i> Less.</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2006</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1995</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2006	—	1995	—
2006	—						
1995	—						
		環境省	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2020</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
今回の調査では8調査区で確認されたが、『神植誌88』との比較で調査区単位60%の減少があった。判定基準では絶滅危惧ⅠB類であるが、丹沢山地の調査区では調査不足が考えられ、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類に判定した。

**【生育環境・生態】**  
主としてブナ帯の湿った草原や林縁に生える大型の多年草。葉は羽状に3~5深裂する。

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
北海道、本州(中部以北)

**【県内分布】**  
津久井-1○・津久井-3●・津久井-4◎・相模湖△・藤野-1●・清川-2◎・伊勢原-1◎・秦野-1○・秦野-3○・小田原-1○・南足柄-1●・山北-1○・山北-2○・山北-4◎・山北-5○・山北-6○・山北-7○・山北-8○・松田●・箱根-1○・箱根-2●・箱根-4○・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1○・湯河原-2●

**【存続を脅かす要因】**  
自然遷移、シカ影響

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園、県立自然公園

キク科

準絶滅危惧							
<p style="text-align: center;"><b>キオン</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Senecio nemorensis</i> L.</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2006</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1995</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2006	—	1995	—
2006	—						
1995	—						
		環境省	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2020</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
今回の調査では9調査区で確認されたが、『神植誌88』との比較で調査区単位40%の減少があった。判定基準では絶滅危惧Ⅱ類であるが、箱根では個体数が多いこと、丹沢山地の調査区では調査不足が考えられることから、1ランク下げて準絶滅危惧とした。

**【生育環境・生態】**  
草地に生える多年草。林縁や伐採跡地などにも多い。葉は長楕円形で分裂しない。

**【現状】**  
シカが好まないため、シカの影響の初期には増えることがある。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
相模原-2△・津久井-1●・津久井-2●・津久井-3●・津久井-4○・津久井-5○・厚木-4◎・清川-1●・清川-2◎・伊勢原-1◎・大山◎・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3●・山北-1●・山北-2○・山北-3●・山北-5○・山北-6◎・松田○・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5△

**【存続を脅かす要因】**  
自然遷移

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園、国定公園

キク科

絶滅危惧ⅠB類							
<p style="text-align: center;"><b>ハマアキノキリンソウ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Solidago virgaurea</i> L. subsp. <i>leiocarpa</i> (Benth.) Hultén var. <i>ovata</i> Honda</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2006</td><td style="text-align: center;">絶滅危惧ⅠA類</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1995</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2006	絶滅危惧ⅠA類	1995	—
2006	絶滅危惧ⅠA類						
1995	—						
		環境省	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">2020</td><td style="text-align: center;">—</td></tr> </table>	2020	—		
2020	—						

**【判定理由】**  
今回の調査では1調査区の2か所で確認された。『神RDB06』では三浦半島と大磯に50株未満と推定され絶滅危惧ⅠA類とされた。状況に変化はないと思われるが、今回の判定基準では絶滅危惧ⅠB類となった。

**【生育環境・生態】**  
海岸の草地に生える多年草。アキノキリンソウに比べて小型で葉は茎の中部にかたまってつく。

**【現状】**  
三浦半島のほか、江ノ島、大磯、真鶴、湯河原などにも記録があるが、今回の調査では確認できなかった。

**【国内分布】**  
房総半島、三浦半島、江ノ島、大磯、真鶴半島、伊豆半島

**【県内分布】**  
横須賀-4○・三浦●・江ノ島△・大磯◎・真鶴△・湯河原-2○

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

絶滅危惧Ⅱ類				
<b>ハチジョウナ</b>		神奈川県	2006	—
<i>Sonchus brachyotus</i> DC.			1995	—
		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 今回の調査では4調査区の6個の3次メッシュで確認された。	<b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州			
<b>【生育環境・生態】</b> 海岸に生える多年草。ノゲンに似るが、走出枝があり、頭花は大きく径3~3.5cmある。	<b>【県内分布】</b> 鶴見△・金沢◎・港北△・青葉◎・瀬谷◎・川崎◎・横須賀-1◎・横須賀-2◎・横須賀-4●・横須賀-5◎・逗子△・葉山◎・三浦●・城ヶ島●・綾瀬◎・秦野-5△・真鶴●			
<b>【現状】</b> 県内では川崎市や横浜市の沿岸の埋め立て地、三浦半島の海岸砂浜などに見られる。稀に内陸で採集されることもある。	<b>【存続を脅かす要因】</b> 海岸開発、土地造成			

絶滅危惧ⅠB類				
<b>ハバヤマボクチ</b>		神奈川県	2006	—
<i>Synurus excelsus</i> (Makino) Kitam.			1995	—
		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 今回の調査では箱根~湯河原の5調査区で確認されたが、『神植誌88』との比較で調査区単位70%減少しており、絶滅危惧ⅠB類と判定された。	<b>【国内分布】</b> 本州、四国、九州			
<b>【生育環境・生態】</b> ススキ草原や明るい雑木林に生える大型の多年草。オヤマボクチより低いところに分布し、葉は3角状で基部がほこ型に横に張り出す。	<b>【県内分布】</b> 鶴見△・旭△・港北○・緑◎・青葉◎・麻生○・鎌倉-1△・相模原-4○・城山△・津久井-3○・相模湖◎・藤野-1○・藤野-2△・厚木-1○・秦野-2○・秦野-3△・秦野-4○・小田原-1○・南足柄-1○・南足柄-2○・山北-1○・山北-3△・山北-7△・松田◎・箱根-1●・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1●・湯河原-2●			
<b>【現状】</b> 箱根仙石原などでは健在であるが、丘陵地では消滅した所が多い。	<b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、土地造成			
	<b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園			

絶滅危惧ⅠA類				
<b>エゾタンポポ</b>		神奈川県	2006	—
<i>Taraxacum venustum</i> H.Koidz. subsp. <i>venustum</i>			1995	—
		環境省	2020	—
<b>【判定理由】</b> 今回の調査では1調査区の1か所で確認されたのみ。	<b>【国内分布】</b> 北海道、本州(中部以北)			
<b>【生育環境・生態】</b> 草地に生える多年草。カントウタンポポによく似るが、総苞外片は短くて内片の半長以下、その先端は肥厚するだけで小突起がない。	<b>【県内分布】</b> 清川-1◎・清川-2●・大山◎・秦野-1○・山北-1○・山北-3○・箱根-6△			
<b>【現状】</b> 丹沢の塔ノ岳、不動ノ峯、姫次、犬越路、高指山等の崩壊地と風衝草原に少数が生育するにすぎないと思われる。	<b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限			
	<b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国定公園			

キク科

絶滅危惧 I B 類									
<p><b>コウリンカ</b></p> <p><i>Tephrosieris flammea</i> (Turcz ex DC.) Holub subsp. <i>glabrifolia</i> (Cufod.) B.Nord.</p> <p>【判定理由】 今回の調査では丹沢の1調査区の2個の3次メッシュで確認されたのみ。『神RDB06』では調査区単位で80%以上減少したことから絶滅危惧 I A 類とされたが、今回の判定基準では1ランク下がった。</p> <p>【生育環境・生態】 シイ・カシ帯上部～ブナ帯の自然なススキ草原に生える多年草。花は橙黄色で舌状花が反り返る。</p> <p>【現状】 丹沢表尾根の草地には安定して生育している。箱根では『神植誌88』調査時に明神ヶ岳や矢倉岳で採集されているが、その後の確認がない。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 II 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州</p> <p>【県内分布】 津久井-1○・津久井-2○・清川-1△・秦野-1●・秦野-2△・秦野-3△・南足柄-1○・松田○・箱根-1△・箱根-4△・箱根-6○・湯河原-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移</p> <p>【特記事項】 ・保護の現状: 国立公園、国定公園</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	—	環境省	2020	絶滅危惧 II 類
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	—							
環境省	2020	絶滅危惧 II 類							

キク科

絶滅危惧 I B 類									
<p><b>オカオグルマ</b></p> <p><i>Tephrosieris integrifolia</i> (L.) Holub subsp. <i>kirilowii</i> (Turcz. ex DC.) B.Nord.</p> <p>【判定理由】 今回の調査では8調査区で確認されたが、『神植誌88』との比較で調査区単位では60%、3次メッシュ数では約70%減少し、絶滅危惧 I B 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 草地に生える多年草。サワオグルマに似るが、根生葉は長さ7～11cm、頭花は3～9個。</p> <p>【現状】 丘陵や山麓の土手などに生えるが、生育に適した場所がしだいに減少している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 旭△・港北△・緑○・青葉○・麻生○・相模原-2△・藤野-2●・厚木-1○・厚木-4●・厚木-5○・愛川○・清川-2○・清川-3●・伊勢原-1○・伊勢原-2△・秦野-2○・秦野-3●・秦野-5●・平塚-1○・平塚-2○・大磯○・小田原-2○・南足柄-1●・南足柄-3●・山北-6○・山北-7△・中井○・松田○・箱根-1●・箱根-2△・湯河原-2○</p> <p>【存続を脅かす要因】 自然遷移、土地造成</p> <p>〈📷写真あり: 口絵6〉</p>	神奈川県	2006	—	1995	—	環境省	2020	—
神奈川県	2006		—						
	1995	—							
環境省	2020	—							

キク科

絶滅危惧 I A 類									
<p><b>サワオグルマ</b></p> <p><i>Tephrosieris pierotii</i> (Miq.) Holub</p> <p>【判定理由】 1992年に相模原市田名、1999年に塩田で採集されたが、その後、両産地ともに再確認ができない。まだ、再発見の可能性があり、絶滅危惧 I A 類と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湿地に生える多年草。日本海側では水田畦、千葉県でも放棄水田に生えたことがある。オカオグルマに似るが、根生葉は長さ12～25cmあり、頭花は6～10個がつく。</p> <p>【現状】 —</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I A 類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧種 E</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 本州、四国、九州、琉球</p> <p>【県内分布】 港北△・多摩△・相模原-1○・茅ヶ崎-1△</p> <p>【存続を脅かす要因】 産地局限、土地造成</p> <p>【特記事項】 ・標本: 川崎市多摩区登戸 1951.5.6 KPM-NA0019617; 相模原市田名 1992.5.17 宮崎 卓 KPM-NA1104528; 相模原市塩田 1999.5.12 岩瀬理恵 SCM013129.</p>	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類	1995	絶滅危惧種 E	環境省	2020	—
神奈川県	2006		絶滅危惧 I A 類						
	1995	絶滅危惧種 E							
環境省	2020	—							

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i> (Jacq.) Schur	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
今回の調査では多摩川河口と横浜市金沢区の2調査区の2か所で確認された。『神RDB06』では同じ2か所に1,000株未満があると推定され、絶滅危惧II類と判定されたが、両産地とも個体数が減少している。

【生育環境・生態】  
海岸の塩湿地に生える一年～越年草。やや肥沃なところを好む。葉は披針形で質厚く無毛。頭花は青紫色で径約2cm、冠毛は花後に総苞より長く伸びる。

【現状】  
三浦半島の毘沙門湾では1980年代まで生育していたが、その後、確認できなくなった。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
金沢●・川崎●・横須賀-3△・三浦○

【存続を脅かす要因】  
産地局限、河口浚渫、海岸開発

【特記事項】  
・保護の現状:横浜市金沢区では公園および野鳥観察園として保護されている。  
・標本:横須賀市久里浜 1958.11.1 大谷 茂 YCM-V000921; 三浦市毘沙門 1983.11.2 高橋秀男 KPM-NA1028324。

〈写真あり:口絵6〉

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L. subsp. <i>sibiricum</i> (Patrin ex Widder) Greuter	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
今回の調査では2調査区の2か所で確認された。

【生育環境・生態】  
沿海地の湿った荒地に生える一年草。ユーラシア原産で日本には古くに帰化したともいわれる。オオオナモミに似るが、果包は小さく(長さ8~14mm)、黄緑色~灰褐色に熟す。

【現状】  
かなり自然的な環境に見られ、干上がった溜池の底に群生することがある。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州、琉球

【県内分布】  
保土ヶ谷△・港北△・戸塚△・瀬谷●・横須賀-3△・横須賀-4◎・鎌倉-1△・逗子△・三浦○・城ヶ島●・箱根-5△

【存続を脅かす要因】  
不明

【特記事項】  
・標本:鎌倉市七里が浜 1913.8. 宮代周輔 YCB112915; 横浜市港北区綱島 1956.10.14 宮代周輔 YCB008333; 横須賀市天神島 1999.4.14 大森雄治 YCM-V032931; 横浜市瀬谷区 2003.6.19 松本雅人 KPM-NA0208165。

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> Siebold & Zucc.	神奈川県	1995	消息不明種
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植目33』『神植誌58』に丹沢や箱根の記録があったが『神植誌88』では確認できず、『神RDB95』では消息不明種にされていた。『神植誌01』の調査で南足柄市で確認された。その後、1950年代に丹沢で採集された標本が森林総研多摩森林科学園(TFA)に残されているのが見出された(逢沢, 2003)。『神植誌18』の調査での標本記録はなかった。

【生育環境・生態】  
ブナ帯~シラビソ帯に生える落葉小低木

【現状】  
不明。近年は未確認。

【国内分布】  
本州(福島県以南)、四国、九州(屋久島まで)

【県内分布】  
南足柄-1◎

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
『神RDB95』『神RDB06』では品種名のミヤマシグレとして記載。  
・保護の現状:国立公園特別保護地区

【文献等】  
逢沢峰昭, 2003. 「林ほか(1961):丹沢山塊の植物調査報告」の標本について. FK, (55): 673-683.

絶滅危惧 I B 類

コツクバネウツギ

*Abelia serrata* Siebold & Zucc. var. *serrata*

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

1 調査区の 2 か所で確認された。『神植誌18』の調査で、相模原市で初めて確認された。

【生育環境・生態】

丘陵地や岩場に生える落葉低木

【現状】

落葉広葉樹林内に生育する。

【国内分布】

本州(静岡県中部、長野県南部、福井県以西)、四国、九州(屋久島まで)

【県内分布】

藤野-2●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

『神植誌18』では、「県新産となるが、自然分布かどうか今後の調査を要する」と記している。

絶滅危惧 II 類

ベニバナノツクバネウツギ

*Abelia spathulata* Siebold & Zucc. var. *sanguinea* Makino

神奈川県	2006	—
	1995	—
環境省	2020	—

【判定理由】

5 調査区の 5 個の 3次メッシュで確認された。採集地数は 5 か所であり、調査区数が 37.5%減少したため絶滅危惧 II 類と判定した。

【生育環境・生態】

山地に生える落葉低木

【現状】

箱根、丹沢ともに安定して見られる。

【国内分布】

本州(関東地方～中部地方)

【県内分布】

津久井-1○・津久井-2●・清川-1○・南足柄-1○・山北-2○・山北-3●・箱根-1●・箱根-4●・箱根-5●

【存続を脅かす要因】

産地局限

【特記事項】

・保護の現状: 国立公園、国定公園

絶滅危惧 II 類

ナベナ

*Dipsacus japonicus* Miq.

神奈川県	2006	絶滅危惧 II 類
	1995	絶滅危惧種 E
環境省	2020	—

【判定理由】

4 調査区の 7 個の 3次メッシュで確認された。

【生育環境・生態】

山地の草地や林縁に生える越年草

【現状】

最近茅場の減少や新しい伐採地がないために減少傾向にある。『神植誌88』および『神植誌01』の調査では丹沢や箱根周辺の 6 調査区で採集された。このうち旧津久井町(現、相模原市緑区)は道路拡張工事で消滅、秦野では 1995年以後の再確認がない。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

津久井-3◎・相模湖●・清川-3●・秦野-2○・秦野-3△・南足柄-1◎・山北-3△・山北-4△・山北-7●・箱根-5●・湯河原-1◎・湯河原-2◎

【存続を脅かす要因】

自然遷移、産地局限

【特記事項】

神奈川県自然環境保全センター研究連携課(2012)によると、丹沢の 2 か所の生育地のうち、1 か所は道路法面下に生育していたことから、緑化資材とともに外から持ち込まれた可能性も指摘されている。

・保護の現状: 国定公園、県立自然公園

【文献等】

神奈川県自然環境保全センター研究連携課, 2012. 丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—. 51 pp. 神奈川県自然環境保全センター, 厚木.

絶滅			
<b>ニッコウヒョウタンボク</b>		神奈川県	2006 絶滅
			1995 絶滅種 A
<i>Lonicera mochidzukiana</i> Makino var. <i>mochidzukiana</i>		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
1960年に旧津久井町(現、相模原市緑区)で採られた古い標本があるが、その後は確認されていない。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える落葉低木

**【現状】**  
—

**【国内分布】**  
本州(関東～近畿)

**【県内分布】**  
津久井-1△

**【存続を脅かす要因】**  
—

**【特記事項】**  
・標本: 津久井町青根小屋戸沢 1960.6.5 城川四郎 YCM-V015968.

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>コウゲイスカグラ</b>		神奈川県	2006 —
			1995 —
<i>Lonicera ramosissima</i> Franch. & Sav. ex Maxim. var. <i>ramosissima</i>		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
3 調査区の 4 個の 3 次メッシュで確認された。県内では丹沢と箱根のブナ帯の風衝低木林に生育しており、『神植誌18』の調査で標本を十分に採集できなかったと考えられる。このような調査状況を考慮し、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
山地に生える落葉低木

**【現状】**  
箱根、丹沢ともに安定して見られる。

**【国内分布】**  
本州、四国

**【県内分布】**  
津久井-1●・津久井-2●・清川-1◎・山北-3◎・箱根-1△・箱根-4●・箱根-5△

**【存続を脅かす要因】**  
産地局限

**【特記事項】**  
・保護の現状: 国立公園・国定公園

絶滅危惧Ⅱ類			
<b>マツムシソウ</b>		神奈川県	2006 絶滅危惧ⅠB類
			1995 減少種 H
<i>Scabiosa japonica</i> Miq. var. <i>japonica</i>		環境省	2020 —

**【判定理由】**  
『神RDB06』ではソナレマツムシソウを含めて、調査区単位で 78% 減少したことから絶滅危惧ⅠB類とされたが、『神植誌18』の調査ではソナレマツムシソウも含め 9 調査区で確認され、調査区単位での減少も見られなかった。しかし、かつては丘陵地にも広く分布していたが、草地の減少に伴い消滅した産地も多く、各産地ともに個体数が少なく、不安定な立地に生育することを考慮し、ソナレマツムシソウと併せて 1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

**【生育環境・生態】**  
草地や芝地に生える越年草

**【現状】**  
全県的に草地が減少している。

**【国内分布】**  
北海道、本州、四国、九州

**【県内分布】**  
南△・保土ヶ谷△・旭△・緑△・栄△・麻生△・横須賀-1△・横須賀-4○・横須賀-5△・鎌倉-1△・鎌倉-2△・逗子△・三浦●・城ヶ島△・津久井-2△・秦野-1○・秦野-2○・秦野-3◎・秦野-4△・秦野-5△・寒川◎・大磯△・二宮◎・南足柄-1●・南足柄-2●・山北-1●・山北-3△・山北-6△・中井△・大井○・箱根-1●・箱根-2●・箱根-5●・箱根-6●・湯河原-1●・湯河原-2◎

**【存続を脅かす要因】**  
草地開発、自然遷移、土地造成

**【特記事項】**  
古い標本では、マツムシソウとソナレマツムシソウを区別できないものがあり、過去の分布状態が把握できないこと、両者の区別や生態についても検討の余地があることから、ここでは両者を合わせた判定とした。  
・保護の現状: 県西部のものは自然公園域にある。

絶滅			
カノコソウ <i>Valeriana fauriei</i> Briq.	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 B
	環境省	2020	—

【判定理由】  
『横植誌68』に元石川(横浜市青葉区)で撮影された写真が掲載されており、『箱根目58』に箱根畑宿の記録があるが、標本は確認されていない。『神植誌88』『神植誌01』『神植誌18』のいずれの調査でも確認されなかった。

【生育環境・生態】  
山地の草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
—

【存続を脅かす要因】  
—

ウコギ科

絶滅危惧 I A 類			
タカノツメ <i>Evodiopanax innovans</i> (Siebold & Zucc.) Nakai	神奈川県	2006	絶滅
		1995	絶滅種 A
	環境省	2020	—

【判定理由】  
相模原市の1調査区の1生育地のみで確認された。分布と生育地が局在している点に脆弱性がある。

【生育環境・生態】  
シイ・カシ帯～ブナ帯の山地に生える落葉高木

【現状】  
『神植目33』『神植誌58』に鳥屋・三国山、『丹沢目録61』に大山・丹沢山・長者舎の記録があり、1962年の標本が唯一の記録であった。長らく生育は確認されていなかったが、2013年に相模原市で発見された。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
津久井-1△・相模湖●

【存続を脅かす要因】  
産地局限

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園、県立自然公園  
・標本: 津久井町蛭ヶ岳1962.9.24 小粥康治 YCM-V013847.

セリ科

絶滅危惧 I A 類			
アマニュウ <i>Angelica edulis</i> Miyabe ex Y.Yabe	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
		1995	希少種
	環境省	2020	—

【判定理由】  
近年、県内唯一の生育地で、シカによる採食により生育が確認できなくなった。分布と生育地が局在し脆弱性があった上に、シカによる採食が生存に致命的な影響を与えた状況にある。すでに絶滅した可能性があるが、県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【生育環境・生態】  
シラビソ帯の林床や林縁に生える多年草。標高の低い丹沢ではブナ帯の林縁に生える。

【現状】  
県内では丹沢山地の1か所のみ分布する。1960年代から集団が確認されていたが、シカによる採食により開花株が消失し、2008年には少数の株のみ見られる状況になり、2016年には生育が確認できなくなった。

【国内分布】  
北海道、本州(中部以北)

【県内分布】  
津久井-1○・山北-2●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響、温暖化

【特記事項】  
・保護の現状: 国定公園

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ハナビゼリ	<i>Angelica inaequalis</i> Maxim.	神奈川県	1995	絶滅種 B
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神RDB95』では絶滅種とされていたが、『神植誌01』調査時に箱根町と相模原市で発見され、総個体数 50 株未満から絶滅危惧 I A 類とされた。今回は 4 調査区の 8 か所で確認されたが、分布が限定的で、個体数が少ない点が脆弱性があることから、1ランク厳しく絶滅危惧 I B 類と判定した。

【生育環境・生態】  
山地の樹林内に生える多年草

【現状】  
箱根と小仏山地で生育が確認されている。小仏山地では近年も継続して確認されているが、箱根では 2005 年以降の確認がなく、シカによる採食の影響も懸念される。

【国内分布】  
本州(関東以西)、四国、九州

【県内分布】  
相模湖●・藤野-1●・藤野-2●・愛川○・清川-1△・箱根-5●

【存続を脅かす要因】  
産地局限、シカ影響

【特記事項】  
・保護の現状: 国立公園、県立自然公園

絶滅		神奈川県	2006	絶滅
エキサイゼリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i> Makino	神奈川県	1995	消息不明種
		環境省	2020	準絶滅危惧

【判定理由】  
低地の氾濫原などの湿地に生育する植物で、県内では 1967 年に横浜市で採集された唯一の記録となる標本が残されている。その後の調査では発見されていない。

【生育環境・生態】  
低地の川岸や畦などの湿地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州(関東、愛知県)

【県内分布】  
港北△

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本: 横浜市港北区樽 1967.5.2 宮代周輔 YCB0114811ほか

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ミシマサイコ	<i>Bupleurum falcatum</i> L.	神奈川県	1995	—
		環境省	2020	絶滅危惧 II 類

【判定理由】  
『神RDB06』では『神植誌88』および『神植誌01』で確認された 11 調査区のうち三浦市を除く 90% の調査区で失われたことから絶滅危惧 I A 類とされた。今回は三浦市も含めてすべての調査区で再発見できなかった。生育環境の消失により、生育地が局在し、個体数も限られている点に脆弱性がある。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【生育環境・生態】  
山野の日当たりの良い草地に生える多年草

【現状】  
—

【国内分布】  
本州、四国、九州

【県内分布】  
南△・青葉△・栄○・多摩△・横須賀-4○・鎌倉-1△・鎌倉-2△・三浦○・相模原-2○・津久井-2○・津久井-5○・厚木-1○・伊勢原-1△・秦野-1△・秦野-4△・秦野-5○・大磯△・南足柄-1○・南足柄-2△・山北-1○・山北-8○・松田△・箱根-1△・箱根-5△・箱根-6○・湯河原-1○・湯河原-2○

【存続を脅かす要因】  
自然遷移、土地造成

【特記事項】  
県内ではかつては丘陵から山地にかけての日当たりの良い草地に普通に見られ、薬用として採取された。

セリ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>ホタルサイコ</b>	<i>Bupleurum longiradiatum</i> Turcz. var. <i>breviradiatum</i> F.Schmidt	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
『神植誌88』の調査時には県央北部を中心に分布していた。1981年の秋に各地で記録されて以降、生育及び標本が確認されていない。すでに絶滅した可能性があるが、県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
旭△・緑○・青葉△・麻生○・逗子△・相模原-2△・座間○・厚木-3○・愛川○

【生育環境・生態】  
丘陵地の明るい林内や草地に生える多年草

【存続を脅かす要因】  
土地造成、自然遷移

【現状】  
—

セリ科

絶滅				
<b>ドクゼリ</b>	<i>Cicuta virosa</i> L.	神奈川県	2006	—
			1995	—
		環境省	2020	—

【判定理由】  
Hiroe & Constance (1958) は Yokohama (1862 Maximowicz NY) の標本を引用するが、『神植誌88』『神植誌01』の調査では発見されず、ほかの文献記録もないため『神RDB06』では取り上げられなかった。県内では横浜市で採集された、1862年、1936年の2点の標本記録があるのみで、その後の調査でも確認されていない。

【国内分布】  
北海道、本州、四国、九州

【県内分布】  
戸塚△

【生育環境・生態】  
水辺や湿地に生える多年草

【存続を脅かす要因】  
—

【特記事項】  
・標本:横浜市柏尾 1936.8.6 宮代周輔 YCB011850.

【現状】  
—

【文献等】  
Hiroe, M. & L. Constance, 1958. Umbelliferae of Japan. *University of California publications in botany*, **30**(1): 1-144.

セリ科

絶滅危惧 I A 類				
<b>セリモドキ</b>	<i>Dystaenia ibukiensis</i> (Y.Yabe) Kitag.	神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
			1995	絶滅危惧種 E
		環境省	2020	—

【判定理由】  
県内では横浜市西部の丘陵から大和市にかけて分布し、今回の調査では2調査区の3か所で確認された。分布が局在し、生育地が限定的で、個体数もごく限られている点で脆弱性があり、1ランク厳しく判定した。県内の植物のうちでも最も絶滅が危惧される種の一つである。

【国内分布】  
本州(滋賀県以北の主として日本海側)

【県内分布】  
保土ケ谷○・旭●・緑○・大和●

【生育環境・生態】  
落葉樹広葉樹林内に生える多年草

【存続を脅かす要因】  
土地造成、産地局限

【現状】  
横浜市と大和市で生育が確認されている。

絶滅危惧 I B 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I B 類
イブキボウフウ		神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—
<i>Libanotis coreana</i> (H.Wolff) Kitag. var. <i>coreana</i>				
<b>【判定理由】</b> 今回の調査では3調査区の14個の3次メッシュで確認された。3次メッシュ数では判定外となるが、調査区数では62.5%減少したので絶滅危惧 I B 類と判定した。分布と生育地が局在し、個体数も限られる点、近年急速に減少傾向にある点に脆弱性がある。		<b>【国内分布】</b> 北海道、本州(近畿以東)		
<b>【生育環境・生態】</b> 草地や疎林内に生える多年草		<b>【県内分布】</b> 港南△・金沢◎・港北△・戸塚○・栄◎・横須賀-1△・横須賀-4○・横須賀-5△・鎌倉-1△・逗子△・三浦●・城ヶ島○・城山○・津久井-3△・相模湖○・藤野-1●・藤野-2●・江ノ島△・茅ヶ崎-1△		
<b>【現状】</b> 小仏山地周辺と三浦半島周辺に局在する。生育環境は海岸背後の斜面から丘陵地の林縁、山地のシイ・カシ帯の沢などさまざまな環境に見られるが個体数は少ない。分布域の中で近年の標本記録は限られているが、減少の実体、その要因は不明である。		<b>【存続を脅かす要因】</b> 自然遷移、草地開発、土地造成		

絶滅危惧 II 類		神奈川県	2006	—
イワセントウソウ		神奈川県	1995	—
		環境省	2020	—
<i>Pternopetalum tanakae</i> (Franch. & Sav.) Hand.-Mazz.				
<b>【判定理由】</b> 今回は4調査区の4か所で確認された。調査区単位の減少は20%程度なので、丹沢の高標高域での調査不足が影響したと考え、1ランク下げて絶滅危惧 II 類と判定した。分布が局在し、生育地が限定的な点、シカによる採食の懸念が継続して存在する点で脆弱性がある。		<b>【国内分布】</b> 本州(岩手県以南)、四国、九州		
<b>【生育環境・生態】</b> ブナ帯の林床に見られる繊細な草本		<b>【県内分布】</b> 津久井-1●・津久井-2●・津久井-4◎・清川-1◎・清川-3◎・山北-1●・山北-3○・箱根-4●		
<b>【現状】</b> 県内では丹沢と箱根に分布する。いずれも近年も記録があるが、丹沢では1980年代以降に個体数が減少しており、シカによる採食の影響と考えられることから、近年シカが増加している箱根での影響も懸念される。		<b>【存続を脅かす要因】</b> シカ影響、森林衰退		
		<b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園、国定公園		

絶滅危惧 I A 類		神奈川県	2006	絶滅危惧 I A 類
ムカゴニンジン		神奈川県	1995	減少種 G
		環境省	2020	—
<i>Sium ninsi</i> L.				
<b>【判定理由】</b> 今回の調査期間内には採集されていないが、箱根の1調査区の1か所のみ現存する。分布と生育地が局在し、個体数が限られている上に、シカによる採食の懸念が継続して存在している点に脆弱性がある。		<b>【国内分布】</b> 北海道、本州、四国、九州		
<b>【生育環境・生態】</b> 水湿地に生える多年草		<b>【県内分布】</b> 旭△・多摩△・箱根-2◎		
<b>【現状】</b> 県内では箱根町に生育が確認されているが、個体数は10株未満で、近年のシカ増大の影響が懸念される。過去には横浜市、川崎市でも標本が得られているが、いずれの産地も消失した。		<b>【存続を脅かす要因】</b> 産地局限、シカ影響		
		<b>【特記事項】</b> ・保護の現状: 国立公園 ・標本: 川崎市多摩区登戸 1951.8.26 大場達之 KPM-NA0023191; 横浜市旭区桐ヶ作大池 1952.9.14 出口長男 KPM-NA0079528.		

セリ科

絶滅			
ヌマゼリ	神奈川県	2006	絶滅
		1995	—
<i>Sium suave</i> Walter var. <i>nipponicum</i> (Maxim.) H.Hara		環境省	2020 絶滅危惧Ⅱ類
【判定理由】	【国内分布】		
県内では清川村の1915年の標本が残されているのみである。『神植目33』『宮代目録』が多摩区登戸を記録するが、標本は確認されていない。	北海道、本州、四国、九州		
【生育環境・生態】	【県内分布】		
水湿地に生える多年草	—		
【現状】	【存続を脅かす要因】		
—	—		
	【特記事項】		
	『神RDB06』では別名のサワゼリとして記載。 ・標本：相模国愛甲郡丹沢山御料林 1915.8.10 鈴木茂一 OIS.		

セリ科

絶滅危惧Ⅱ類			
ヒカゲミツバ	神奈川県	2006	絶滅危惧ⅠB類
		1995	希少種
<i>Spuriopimpinella koreana</i> (Y.Yabe) Kitag.		環境省	2020 —
【判定理由】	【国内分布】		
丹沢の3調査区の4か所で確認された。丹沢の高標高域での調査不足が影響したと考え、1ランク下げて絶滅危惧Ⅱ類と判定した。分布が局在し、シカによる採食の懸念が継続して存在している点に脆弱性がある。	本州(関東以西)、四国、九州		
【生育環境・生態】	【県内分布】		
草地や明るい樹林内に生える多年草	城山△・津久井-1●・津久井-2●・津久井-3△・津久井-4○・清川-1●・山北-3◎		
【現状】	【存続を脅かす要因】		
県内では丹沢山地にのみ分布し、稜線付近に生育している。植生保護柵の内外で生育がみられ、柵の外側ではシカに採食されても開花結実している個体がある。ミヤマクマザサの密生に守られてかろうじて生育しているものもある。	産地局限、シカ影響		
	【特記事項】		
	・保護の現状：国定公園特別保護地区		